

令和4年度

F D活動報告書

埼玉学園大学F D委員会

令和4年度FD活動報告書の作成に寄せて

埼玉学園大学FD委員会では、今後のFD活動の活性化のための基礎資料を整え、「FD活動報告書」を平成28年度以降取りまとめている。

本報告書は、令和4年度のFD活動について記載するとともに、研修会の資料及び学生の授業アンケートに基づく授業改善書を収録している。FD活動は、授業能力の向上を大きな目標の一つとしており、研究成果を授業に反映させるだけでなく、社会に貢献できる人材の育成、新しい社会問題に対応した大学教育の開発が重要な課題となっている。

令和4年度は、第一回の研修会においては「メディア科目群の概要と課題・展望」、第二回の研修会においては「渋沢栄一と研究教育活動-渋沢研究の学際的特質と大学教育-」についての報告を受け、検討を行った。

これらの資料に授業改善書を加えたFD活動報告書は、膨大なものとなるが、本学のFD活動の記録として保存し、今後のFD活動に活かしていきたい。

FD委員長 西山 智則

目 次

1	F D委員会	
	(1) F D委員会の構成	1
	(2) F D委員会の開催日及び議題	1
2	教員の研修会	
	授業に関する研修会	2
3	学生による授業アンケート	
	実施期間	2
4	令和4年度授業改善書	
	授業改善書	2
	専任教員 人間学部	
	人間文化学科	3
	心理学科	20
	子ども発達学科	38
	専任教員 経済経営学部	
	経済経営学科	61
	非常勤講師 人間学部	81
	非常勤講師 経済経営学部	133
<資料>		
	資料 No. 01	第1回授業に関する研修会
	資料 No. 02	第2回授業に関する研修会
	資料 No. 03-1~2	学生による授業アンケート(春期)
	資料 No. 04-1~2	学生による授業アンケート(秋期)
	資料 No. 05	令和5年度活動計画

1. FD委員会

(1) FD委員会の構成

- ・西山 智則 (人間文化学科教授、委員長)
- ・伊藤 栄晃 (人間文化学科教授)
- ・佐々木 美恵 (心理学科准教授)
- ・伊里 綾子 (心理学科講師)
- ・山本 幸正 (子ども発達学科教授)
- ・杉浦 浩美 (子ども発達学科准教授)
- ・藤野 好美 (子ども発達学科准教授)
- ・伊藤 孝 (経済経営学科教授)
- ・文 智彦 (経済経営学科教授)

(2) FD委員会の開催日及び議題

	開催日	議 題
1	令和4年6月8日(水)	【報告事項】 (1) 令和2年度FD活動報告書について (2) その他
2	令和4年9月7日(水)	【審議事項】 (1) 第1回授業に関する研修会について (2) その他
3	令和5年1月11日(水)	【審議事項】 (1) 第2回授業に関する研修会について (2) その他
4	令和5年3月1日(水)	【審議事項】 (1) 令和4年度FD活動について (2) その他

2. 教員の研修会

(1) 授業に関する研修会

① 第1回【資料 No. 1】

日 時：令和4年10月19日(水) 15:30～16:30

場 所：405 教室

発表者：岡田 正樹（人間学部人間文化学科講師）

テーマ：「メディア科目群の概要と課題・展望」

参加者：専任教員

② 第2回【資料 No. 2】

日 時：令和5年2月15日(水) 15:30～16:30

場 所：405 教室

発表者：大江 清一（経済経営学部経済経営学科准教授）

テーマ：「渋沢栄一と研究教育活動-渋沢研究の学際的特質と大学教育-」

参加者：専任教員

3. 学生による授業アンケート

実施期間

① 春期【資料 No. 3-1～2】

令和4年07月04日(月)～07月15日(金)

② 秋期【資料 No. 4-1～2】

令和4年12月05日(月)～12月16日(金)

4. 令和4年度授業改善書

授業改善書

授業アンケートを実施し、各教員に授業改善書の作成(1科目以上)を依頼している。
提出された改善書は以下の通り。

① 春期：144 科目

② 秋期：130 科目

専任教員

人間学部

人間文化学科

科目名	日本史学入門
担当者	福島良一

科目名	日本史概説
担当者	福島良一

授業の概要

本講義は、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにする。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義する。

授業の概要

本授業では近代日本の歴史を取り上げ、主に日本政治の歩みを概説的に講義する。特に、江戸封建体制から近代国家へと転換する時代潮流にあって、日本はどのように国内体制を構築し近代政治を展開したのか、そして対外的には国際社会のなかで日本はどのような行動をしたのか、という点に着目をしていく。それにより、近代日本の内政と外交の実相を理解し、日本の近代化の特質を考えていきたい。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目はすべて4点台となっており、全体的に高評価をいただいた。本講義は全学共通科目ということもあり、また特に今回は時間割の関係で、日本史を専門としない学科の学生の履修が大多数を占めていた（人間文化学科の履修者は全体の約10%）。その点で、受講者の授業内容への興味と理解度に心配があったが、結果としては予想を上回る好意的評価をもらうこととなった。「学生による主な意見」でも「日本史に疎かったのでダメになった」「内容が面白かった」といった意見をいただくことができた。

ただ、「学習態度への学生自身の評価」において、「質問や発言をしましたか」という評価点が3.02と低かったことは、授業方法改善のための課題として残ることとなった。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目はほぼ4点台となっており、全体的に高評価をいただいた。しかし授業内容の分量を問う項目のみが3.89点となっており、4点を下回る結果となった。シラバスの授業計画で割り振った各回の授業内容の量がやや多かったことが原因である可能性が高い。授業内容を消化するために、時間に追われる感で授業を行っていたことは確かにあった。学生のなかには授業についていくのに苦労した者もいたかもしれない。

また、このように授業展開に時間的余裕がなかったことは、学生への問いかけが少なくなる原因となり、授業を一方通行的なものにしたことは否めない。このことが、「学習態度への学生自身の評価」において、「質問や発言をしましたか」という評価点が2.70点と低くなったことにつながっていると思われる。

学生の授業満足度

本講義への「学生の授業満足度」の評価点は4点を超えていることから、授業に対する学生の関心を喚起し、理解を深めさせることが一定程度できたものと考えている。

学生の授業満足度

本授業への「学生の授業満足度」の評価点は4点を超えていることから、授業に対する学生の関心を喚起し、理解を深めさせることが一定程度できたものと考えている。

授業改善の課題と方策

評価項目中、評価点が低迷した「学習態度への学生自身の評価」における「質問や発言をしましたか」の評価向上の方策として、授業内での学生への問いかけを増やし、学生の発言を引き出ししていくことを一層心がけていきたい。

授業改善の課題と方策

もう少し時間的余裕をもって授業を行えるよう、毎回の授業内容の分量を適度に調整していく。そのことにより、授業における学生への問いかけを増やし、学生の発言を引き出すことを一層心がけていきたい。

その他

その他

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤 栄晃

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤 栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことによるどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取り組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①予習復習（授業外学習）の実施ならびに②授業内での質問や発問の実施の2項目のポイントが他の項目に比して明らかに低く、ここに課題があるといえる。特に②項目は、今期も依然として2ポイント台と低迷しており、特にしっかりとした取り組みが必要である。

学生の授業満足度

授業満足度の二つの項目は、ともに4ポイント近くを得ており、受講者の満足度はおおむね良好との印象を受ける。ただいずれも平均値には及ばず、とくに1の授業内容の有益性如何の評価が低めだったのに注意したい。今後は、これらのポイントに特に注目してその改善に注力したい。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、次期授業についても、基本的な授業コンセプトはこのまま維持しつつコンテンツの充実をめぐるのが良いと思われる。また上記「授業の問題点」で指摘した①・②の2点については、オンライン授業での双方向の授業スタイルを全学共通科目でどのように確立するかという問題への取り組みが必要であると考え。そのためにはやはり、授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込むことが肝要である。その上で、①への対応として、各回授業の中で次回授業内容の骨子の紹介を行い予習の便を図るとともに、前回授業内容を大まかに振り返ることで、理解の定着を図りたい。さらに重要な②への対応として、授業内に質問時間を意識的に設けると同時に、授業時間外にも研究室などで可能な限り質問への対応を今後も心掛ける。

その他

とくに昨年来のコロナ禍の中で受講生にはやや負担とも思われるが、この授業では1回の必須のレポート課題を実施している。このような難しい状況の中でも、受講生合計126の80%近い100名がレポートの期限内提出に応じてくれた。彼らの積極的な取り組みと払われた努力とを多量とした。また、結果として提出できた受講者のほとんどが合格できているという実績からすれば、その学習効果は明らかであり、今後も工夫を加えながらレポート課題は継続してゆきたい。

授業の概要

西洋世界における歴史叙述・歴史観・歴史研究の発展を、古代ギリシア「歴史叙述の父」ヘロドトスから始めて今日のエマニュエル・トッドに至る道のりを踏まえながら講述する。とくに西洋の歴史学の父レオポルト・フォン・ランケをもって、彼以前の「歴史叙述の時代」と彼以後の「歴史学/歴史研究の時代」との分水嶺とし、講義も前半と後半とに分ける。西洋の様々な歴史事実にも折々触れながら、各時代の歴史著述家や歴史研究者が何を求めていたかを分かり易く説明する。

授業の問題点

受講者自身の「授業態度の評価」では、① 質問や発言機会が少なかったという指摘が目立つ。また授業内容については講義で用いる② テキストや資料の適切性への疑問が多かった。そして授業方法については③ その内容のボリュームについての指摘が多かった。

学生の授業満足度

概ね受講者の満足度は高かったと評価する。ただし二つの質問項目とも平均値を下回っており、改善の余地が残されていることは明らかである。

授業改善の課題と方策

本講義は全学共通科目であり、受講生には西洋史について様々な予備知識を持ち自らのテーマで自発的に学習を進める者がいる一方で、自分の専攻ではなくあまり興味関心を持って予備知識も十分ではない者も含まれており、全員の満足を得ることはなかなか難しいところではある。しかし上記3点については、改善点は明らかである。まず①については、双方向型の授業づくりを工夫する必要がある。これまでも受講者への発問や質問を受け入れる時間を授業内に設けるようになってきたが、それらをさらに追及するとともに、個別に質問できる場を例えば teams 上に設定するなどの試みを実施したい。②についても、teams の活用を通して、資料のオンライン配布を徹底したい。そして③については、授業内容を今一度精査しボリュームのコンパクト化を図りたいと思う。

その他

授業の予習・復習など授業外学習の確保のため、オンラインのさらなる活用を心掛けたと思う。

授業改善書

科目名	英語 I (月曜日 1 時間目)
担当者	熊田 和典

授業の概要

主に心理学科の1年生を対象とした必修科目の英語 I である。キャンパスライフで使う英語の表現を学ぶことによって、大学にて英語を学ぶための英語の基礎力を養成する科目である。授業は語学の授業であるため、できるだけ多くの学生にあてて、発言してもらって、双方向の授業を目指している。

授業の問題点

今回の「授業改善書」では私が今期担当した教科の中で最も授業アンケートの数値が低かったものを選んだ。授業アンケートの項目ほぼすべてにわたって、アンケート結果が平均値よりも少し低かった。特に結果が芳しくなかったのが、授業への興味・関心の項目、授業の方法や資料の分かりやすさ、授業の満足度の項目である。

学生の授業満足度

授業アンケートの項目の中で、特に、授業満足度に関する2項目(授業の内容との関連の満足度と、満足度そのものの項目)が平均値に比べてやや低かった。

授業改善の課題と方策

授業で教科書を使って教える際に、時折、学生に英語の学習に興味・関心を持ってもらうために工夫を凝らしているが、授業アンケートでの学生のコメントに、日常で使える会話表現や単語の意味などを説明した工夫が評価されていた。

しかしながら、受講生の中には英語が苦手な学生が少なからずいることから、さらに学習意欲が湧くような工夫をする必要があると感じている。他の英語のクラスと比べて、このクラスでは、テキストに基礎的な文法学習が多めにあることから、しっかりと学習すれば、英語の実力が明らかに向上する反面、その文法学習は英語が苦手な人にとっては負担となり、学習意欲を削ぐことになってしまう。まさに諸刃の剣である。この点が一番教えていて難しい点である。

今まで以上に学生に立場に立って、わかりやすく、学習意欲が湧くような工夫を行っていききたい。そうすれば、授業アンケートの各項目の評価が高くなり、学生の満足度も高くなっていくと信じている。

その他

授業改善書

科目名	英語 II (月曜日 1 限)
担当者	熊田 和典

授業の概要

この英語 II は、1年生の必修科目の英語の授業である。これまでの英語の力を文法、会話、読解などの側面から総合的に再強化して、大学でこれから英語を学ぶ基盤となる英語力を養うことを目指している。

授業の問題点

今期私が受け持った授業アンケートの中で、最も結果が芳しくなかったのがこの科目である。授業アンケートの特定の項目というよりは、むしろ総じて各項目若干、他の科目よりも数値が低いというのが問題である。

学生からは「全体的にスムーズかつわかりやすい授業だったと思う。」という意見がある一方で、「分からない学生がいたときにその学生を結構責めてくる。その学生に長く時間を使いすぎているせいで進みが遅い。」という意見も頂いた。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、平均よりもやや下回っていた。

授業改善の課題と方策

上記の「授業の問題点」で記したように、授業アンケートの各項目若干、他の科目よりも数値が低いことから、全体的にひとつひとつ見直して丁寧に授業を進めていくことが必要だと感じている。特に、授業アンケートの項目の中では「毎回の授業は適切な内容や量でしたか。」と「授業を円滑に進めるための配慮はなされていたか。」のふたつの項目が最も低いことから、もう少し進度を上げてよいのではないかと考えている。

一方で、進度を上げることには、負の側面もあるため気をつけなければならない。上述したように、ある学生からは「全体的にスムーズかつわかりやすい授業だったと思う。」という意見を頂いたが、わかりやすい授業をするためには、ある程度説明に時間を要する。英語を不得手とする学生も少なからずいるため、このリスクに留意して教えていきたい。

他方で、別の学生からは「分からない学生がいたときにその学生を結構責めてくる。その学生に長く時間を使いすぎているせいで進みが遅い。」という意見も頂いた。おそらくこの学生は英語が得意だと思う。同じクラスに英語を得意とする学生と不得手とする学生が混在しているため、両者を満足する授業を行うのはなかなか難しいものである。

私は、授業中には、英語の学習を促す目的から、間違った答えを言う学生だけでなく、正しい答えを言う学生にも、さらに質問をすることになっている。理由としては、ここ数年、インターネット上の翻訳サイトの性能が上がったため、どうも学生の中には、予習として、意味のわからない単語を辞書を引いて調べずに、そのサイトを利用して教科書の英文を翻訳してくる者がいると思われるからである。最近、授業中に当たると、完璧な和訳をするのだが、その英文中の個々の単語を尋ねると、わからない学生が増えている。また、当たると毎回「わかりません。」と返答する学生もいるのも確かだ。そのような学生には、せめて英文中の単語の意味でも尋ねてみることにしている。その後、全体の解釈ができそうであれば、そこで和訳に再度挑戦してもらっている。こうして自分で英語を解釈できた経験を得ると、英語学習への自信につながると考えている。

しかし、このようなコメントを頂いたのも確かであるため、今後、学生の応対と授業の進度は配慮していきたいと思っている。

その他

科目名	英語 I (心理学科)
担当者	現影秀昭

授業の概要

キャンパスライブで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の構造を目指します。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、大学生の日常生活を舞台にした会話、文章の理解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用力を高めます。

授業の問題点

心理学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 3.87 ポイントでした(平均点は 4.38)。授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 4.13 ポイントでした(平均点は 4.43)。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 4.13 ポイントでした(平均点は 4.38)。

学生の授業満足度

全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 4.15 ポイントでした(平均点は 4.35)。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.29 でした(平均点は 4.37)。また授業を円滑に進めるための配慮はなされていたかというアンケート項目についての回答は 4.16 でした(平均点は 4.35)。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習(予習や復習)などをしましたかという問いかけにたいして 3.38 ポイントでした(平均点は 3.76)。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.50 ポイントでした(平均点は 4.42)。毎回、映像と音声のリスニングテストをし、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらおうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思っています。90 分の授業を適切・有効に使うため、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思っています。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが、学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。学生からは「授業がわかりやすく聞きやすい、英語の文法が苦手だったのがだんだんわかるようになってきました」という意見も頂きました。

科目名	英語 II (人間文化学科)
担当者	現影秀昭

授業の概要

人間学部の学生がどの領域においても必要とするリベラルアーツの基本を平易な英語で理解することにより、それぞれの専攻する分野で必要となるより高いレベルの英語に進むための基本を養成する。基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学びながら教養を深め、多様な分野に関心を持てるようにする。

授業の問題点

人間文化学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 4.08 ポイントでした。授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 4.33 ポイントでした。授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては 4.08 ポイントでした。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 4.50 ポイントでした。

学生の授業満足度

対面授業のときに学生からは「オンラインの課題で前回の復習ができるので、頭に入りやすいと感じます」「授業とオンラインで何度も繰り返しやることで、単語を覚えられて身に付いてきているなど感じました」という意見もあり、全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 4.31 ポイントでした。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.44 でした。またノートやメモ等をとりましたかというアンケート項目についての回答は 4.50 でした。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習、たとえば、予習や復習などをしましたかという問いかけにたいして 3.18 ポイントでした。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.58 ポイントでした。毎回英和辞書を使う機会を設け、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらおうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思っています。毎回の授業は適切な内容や量でしたかという問いかけにたいしては 4.47 ポイントでした。これについては、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思っています。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが、学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。最後の課題プリントの問題数に対して時間をもう少しとる必要を感じました。

科目名	英語 I (人間学部)
担当者	西山智則

授業の概要

基本的な英語を『英語で学ぶリベラル・アーツ』という教科書を使って学習する。人間文化学科の学生がどの領域においても必要とする、リベラル・アーツの基本を平易な英語で理解することにより、それぞれの専攻する分野で必要となるより高いレベルの英語に進むための基本を養成する。英文の読解、リスニング、会話の学習を通して基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学ぶと同時に、世界の様々な文化や歴史に関する教養を深め、多様な分野に関心をもてるように指導する。

授業の問題点

出席や課題などの提出率は、4.69 と平均を上回り、全体的に大きな問題はなかったように思える。提出物と小テストと定期テストを評価の基準としたが、テストを受けた学生の多くが合格できた。しかし英語は学力差が大きく生じる科目であり、学生の「課題が英語が苦手な人には難しすぎた」という意見が提出されていた。出席していたが、テストの点数が良くなく、不合格の学生も少数だがでてしまった。最初から英語が苦手な学生をどうサポートして、いかに学習意欲をあげるかが課題である。一方で「毎回の授業の内容が少し多い為、自主的に単語を調べる習慣がついたので自分的にも良い授業だと思います」という学生のコメントもあった。またコロナ感染の危険から、学生が英語を発音する機会が少なくなったため授業が単調だったことを反省し、今後は学生の興味をひく授業を展開したい。

学生の授業満足度

満足度は4.15 と平均の4.35 を下回ってしまった。英語という科目の性質上、高校時などの授業開始前からすでに得意な学生と苦手とする学生に分かれてしまっており、今期は不得意な学生が多かった。苦手な学生に向けて初歩から説明をし、スピードを合わせたため、得意な学生には少し簡単すぎたのかもしれない。

授業改善の課題と方策

英語においては高校までの習得状況にかなり差がでてきてしまい、本学では苦手な学生も少なくない。初歩的で丁寧な説明をすることで、そうした学生をケアしていきたい。またその一方で、英語の基礎的な習得ができている学生には、教科書の英文や問題は単純で単調だろう。学生の満足度をあげるためには、教科書のテーマを教員なりにアレンジして、文化や歴史などの領域に話を広げ、いかにして英語以外の点でも授業に興味をもたすかという工夫が必要だと考えた。教科書のテーマも「英語で学ぶリベラル・アーツ」であるために、英文に関する映画や歴史の話や資料を盛り込んだ結果、「先生の専門である映画などの作品を交えた話がとても興味を惹かれて面白かった」という意見があったのは良かった。英語力のある学生には、別途教材を与え、自宅での自発的学習を促す意欲向上につながる工夫をしてゆくべきだと考える。

その他

科目名	英語圏文学講読 (近現代)
担当者	西山智則

授業の概要

アメリカ作家エドガー・アラン・ポーを中心として、英語圏のゴシック小説の傑作を分析する。その映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し、「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫ると共に、文学を通じた他者理解を目指して講義する。

授業の問題点

原文の英語ではなく、日本語の翻訳を使いながら、アメリカ文学を中心に英語圏文学の傑作を読み解く授業を行った。しかしながら、翻訳であっても現在の大学生にとって少々難しかった作品もあったのは残念である。ときに映像化された作品を使うことは、理解の助けになったと考える。また、月曜の五時間目のせい、31名と受講者が多少少なかったように思う。自主的な発言が少なかった。

学生の授業満足度

エドガー・アラン・ポーを中心として英語圏の19世紀から20世紀前半の小説を取りあげ、当時の時代性を考察し、その文学がいかに現代までテーマや社会性や構造において、つながっているかを分析してゆくという授業内容であった。授業アンケートにおいて、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目は4.59、「テキストなどの資料は適切でしたか」の項目は4.65、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の項目は4.65、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目は4.65、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目は4.65、と平均よりも高いものが多く、コメントカードを見ても手ごたえがあったように思う。レポートには独創的な視点から文学の歴史的、文化的背景を読み解けた優れたものも多数存在したのは、大変喜ばしいことだと考える。文学を単なる教養ではなく、歴史的かつ文化的無意識を表現した資料として読み解くことは、異文化理解の上でも重要であり、読書への動機づけになったと判断する。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」の項目は2.88 と著しく低かったため、学生にもっと発言の機会を与えるべきだったと反省をしている。その他の項目は平均よりも高かったものが多かった。学生が自発的に読書に向かうような動機づけを果したいが、学生の活字離れの問題もあり、なかなか難しい課題である。そのためには、動機づけの第一歩として、映画やアニメなどのサブカルチャーを導入口として利用し、古典的な文学が形を変えていかに現代に継承されているかを実感させたい。また、レポートやコメントカードを見ると大変優秀な学生もいるので、その能力を伸ばすために、さらに詳細な添削をしてゆきたい。

その他

今後も文学を現代にも通じる重要なものとして講義していきたい。また、学生のコメントにもあったが、時事問題と文学を絡めて講義したために、シラバス通りに進まず、学生が楽しみにしていたテーマを講義できなかったことを反省する。

授業改善書

科目名	生徒・進路指導論 (小)
担当者	布村育子

授業の概要

小学校教諭になるための、必修科目である。生徒・進路指導の理念、児童の「問題」に対応できる知識と態度の涵養、児童を理解するための基礎知識の習得が、この授業の目標である。

授業の問題点

学生に自分の学校体験を相対化してほしいのだが、難しい。毎回のコメントや課題を出すのが、きちんと書く学生に限られてしまい、良いコメントを紹介するときに、いつも同じ学生の文章が選ばれてしまう。

学生の授業満足度

平均点はクリアできたが、「何を学んだのか」という点が、曖昧になっているように思う。アンケートに回答する学生が少ないのは、授業への参加意欲が低いのが理由かもしれない。

授業改善の課題と方策

毎回の授業で短いコメントや課題の提出を義務づけた。この学生のコメントを次の授業で活かす方法が課題である。限られた学生だけのコメントを紹介するのではなく、全員が一度は掲載される資料づくりをした方がよいかもしれない。「何を学んだのか」を曖昧にしないために、参考文献を多く紹介し、授業内容を深められるようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	教育社会学 (中高)
担当者	布村育子

授業の概要

教職課程 (中高) の必修科目である。教育を社会制度との関係から理解する授業である。学生にはプリントを配布し、パワーポイントを使用しながら説明した。今期は3年生と4年生が同時に履修した。

授業の問題点

教育社会学の方法論を伝えるのに苦勞をした。

学生の授業満足度

4年時での必修科目であるにもかかわらず、出席率が高く真面目に授業を受けていた。初めて触れる考え方等に、面白さを感じる学生もいたが、自分の価値観を相対化できない学生にとっては、辛い時間になったと思う。授業アンケートを見る限りにおいては、すべて平均点以上であり、よい結果が出ていると思う。

授業改善の課題と方策

パワーポイントで、イラストなどを用いて概念を説明したが、文章を読んでイメージするといったことも必要であると思う。

その他

科目名	日本史特論（近世以前）
担当者	湯浅 吉美

科目名	日本史資料講読（古代・中世）／古文書学
担当者	湯浅 吉美

授業の概要
世界の統計や年鑑の類を見ると、ほぼ例外なく日本は仏教国ということになっており、日本の歴史やさまざまな文化も仏教を抜きにしては語れない。精神面でも物質的にも、多くの物事が「仏教」を構成要素にもっている。しかし実際には、そのことはほとんど理解されていないといえる。己を知ることもないまま、異文化の理解を唱えることなど軽佻浮薄ではあるまいか。まずは「日本」を知るべし。その一端あるいは導入として、伝来より平安後期に至るまでの日本仏教史を講義する。

授業の概要
* 方法と目標が類同であり、アンケート結果もほぼ同傾向だったので、2科目まとめて記述する。両科目の相違点は以下のとおり。 日本史資料講読（古代・中世）：訓読・活字化された資料を読む。教職課程「教科に関する科目」に列しているため、主に高校日本史に登場する題材を扱う。 古文書学：文書原本の写真版を用い、翻刻と訓読とを参照しつつ読解する。

授業の問題点
問題点は3つ指摘できる。 ① 「学習態度」のうち「質問や発言をしたか」が低い (2.67)。 ② 「学習態度」のうち「授業外学習をしたか」が低い (3.50)。 ③ 「授業方法」のうち「方法や資料はわかりやすかったか」が低い (3.83)。

授業の問題点
* 「授業外学習をしましたか」が低い (3.52/3.58)。語学や国語の古典に近い性質の科目ゆえ、このポイントが低いのは問題だと考える。 * 「質問や発言をしましたか」が低い (2.83/2.84)。履修者の積極性を見る意味では低いのは問題だが、例年と同じ程度。単純に高ければよいともいえまい。講義科目で質問がやたら多いのは、わかりづらい／納得できない、という批判の真もある。

学生の授業満足度
Ⅲ授業満足度の2項目はともに4.08なので、相応に満足してくれたものと考えられる。その他の授業内容や授業方法についても、概ね4ポイント台前半となっているから、履修者諸君の満足度は、低いものではなかったと理解してよいと思う。

学生の授業満足度
両科目とも履修者諸君はそこそこ熱心に見受けられた。実際、「授業について評価」の各項目いずれも4ポイント以上なのは、担当者として大いに慶ばしく思う。数値的には満足度90%前後、これはそれなりに嬉しいことである。もともと、母集団20名前後でこのような数字を云々したところで、さしたる意味もあるまいが…。

授業改善の課題と方策
今年度が最後（定年）なので、残念ながら改善する機会はないのだが…。 【問題点①について】 もっぱら講義となったが、人数は多くない（出席20名内外）から、もう少し双方向的な形をとるべきであったかもしれない。ただ、話したいことが盛りだくさんで、ついつい一方通行になりがちなのだが、どの話柄もなかなか削りにくい。 【問題点②について】 内容的に予習は難しいと思うが、一方で復習は、ノートを見返すだけでもよいので励行してほしい。その一助として、参考文献を提示するよう留意する。その際、問題のある文献をあえて紹介することも、「自ら考える」ために有効かと思う。 【問題点③について】 教科書は使わず、プリントも配らなかったので、やはり教科書を使うべきであったかと考えている。しかし価格的に手頃で、安心できる教科書・概説書は皆無に等しいことが悩ましい。また本音をいうと、朗々たる語りを聴きつつ耳でノートをとる「大時代的な講義」に徹してみたかった、との想いもあったのである。なお今年度の新機軸として、事前に私の講義ノートそのものをTeamsにアップしたが、賛否の反応はわからない。

授業改善の課題と方策
* 授業外学習（予習・復習）の励行促進 とにもかくにも、シラバスおよび初回授業で指示しているとおりの予習・復習を励行してほしい。要するに、【予習】題材を前もって眺めておく、【復習】教科書とノートを読み返す、と言っているだけなのだから、何ら難しいことを求めてはいない。それすらしないのは履修者側の怠慢に過ぎないから、担当者として改善する余地はないのだが、それでは身も蓋もないので、何か方策を出さねばなるまい。やはり、毎年予告しながら実行できなかった「指名して読ませる・答えさせる」を実践することが有効だと思う。立ち往生する姿を見るに忍びないけれども、後任者は心を鬼にして敢行されたい。 * ノートをとることの督励 両科目とも4.4~4.5くらいだが、この値は受容できない。こちらの見るところでは2ポイント台に止まるはず。課報員の養成所ではノートをとることを禁ずると仄聞するけれども、大学の講義でそんな無茶な話はない。この課題もまた、当方が何か策を練る底のものではないが、強いて方策をとらば、頻繁に確認の小テストを実施すること、（教養演習で）ノート・テイキングを鍛練すること、などが想定される。 アンケートから窺われる課題は、必ずしも当方だけが方策を講ずべきものではなく、むしろ履修者諸君の意識向上に俟つところが大きいようだ。「学ぶ」にあらず、「単位を取る」に終始しているかと感じられ、残念でならない。毎年、そして今年も、素点には呆然としたが、非常識かつ奇態な珍答が陸続と出現し、採点は存外愉快であった。

その他
毎回の授業の録音も Teams にアップしておいたが、おそらく無用であった。

その他
資料講読で、「真後ろに板書すると見にくい」との自由記述があった。これは実際、仰せのとおりなので、改善せねばならない。とはいえ、それを実践する機会是最早ないのだが…。

科目名	日本文学特論（古典）
担当者	穴井潤

授業の概要

新古今時代の歌人を中心に中世和歌について講義する。一二世紀（1100年代）ごろからは、文芸性の高い作品が多く詠まれるようになるため、中世和歌を読むためにはいくつかの約束ごとを理解する必要がある。

授業の前半（第2～5回）では、そうした約束ごとの説明を行う。後半（第6～14回）では、覚えておくべき有名な歌人について概説し、その作品を見ていく。

授業の問題点

「授業時の板書が少ない」という問題点をピアレビューにおいて指摘された。授業構成をもう少し緩やかにして、各回の授業での説明時間を増やすようにしたい。

また、「定家の話をもっと聞きたかった」という意見がアンケートに記されていた。上記の内容と関わって、歌人の人数を絞り、一人ひとりの説明についても時間を増やすことを検討する。

学生の授業満足度

昨年度に比して、満足度がやや下がった。レポートに任意で感想を記してもらったところ、大変満足したと詳細に記入してくれる学生がいる一方で、全く授業内容を理解していない学生も多く、二極化してしまった。

上位層の関心に答えることができたことは達成といえるが、広く学生の興味をひく授業を行うことが次年度以降の課題といえる。

授業改善の課題と方策

個別の問題点と方策については上述した通りなので、全体について述べる。

課題としては、学生に課したレポートの成績が二極化した点が挙げられる。この授業は三年次以降を対象としているため、やや難易度の高い課題を設定したところ、歯が立たない学生が続出した。授業内容を総合したものであり、卒業論文に必要なスキルを意識した課題設定だったため、達成してほしかった。方策としては、課題のレベル自体は落とさずに、調査方法について丁寧に説明を加えることで対処したい。

その他

特記事項なし

科目名	日本文学講読（古典）Ⅱ
担当者	穴井潤

授業の概要

平安～鎌倉時代への移行期を生きた女性の作品『建礼門院右京大夫集』についての講義である。激動の時代に翻弄された女性が自分の人生を作品化したもので、そこに記される輝かしかつた過去や絶望の日々は読む者を圧倒する力を持っている。過去の出来事を選んで残すということは、忘れることができない、記さずにはいられなかった思い出が集められているということである。

この授業では、順を追って読解することで、彼女の「残そうとした人生」をたどることを企図する。特に「建礼門院右京大夫」という呼び名は彼女が主体的に選んだ名であり、なぜその名を残したのか、そこにはいかなる思いがこめられているのか、に注意する。

授業の問題点

- ・私家集という、ややマイナーなジャンルを扱ったため、理解度に差が出た。
- ・時代背景を理解しているか否かで、理解度に差が出た。

学生の授業満足度

授業評価については全体的に平均以上であり、授業満足度は低くないと思われる。ただし、「問題点」に記したように、学生によって理解度に差が出てしまった。

各回の終わりにコメントペーパーを記入してもらい、次回冒頭に返答するという形式を取っていたが、概ね好評であったといえる。これには理解度の差を少しでも埋めるための処方という意図も存する。

筆記試験に授業の感想を記入する欄を設けたところ、授業内容に共感する意見が散見された。

授業改善の課題と方策

授業内容については、現状大きな修正をする必要を感じていない。「問題点」に記した理解度の差については「日本文学講読（古典）Ⅰ」を受講してもらうことを勧めることで対応したい（前年度はⅡ→Ⅰの順に履修し、理解度が増したという意見もあった）。

授業の前半（特に2～3回）に、時代背景や作品ジャンルの説明回を設けているので、もう少し手厚く説明する、あるいは説明回を一回分増すことによって理解度を上昇させることを検討している。

その他

アンケートに「確認問題の解答を示してほしい」との意見が記されていたが、それはこちらの教育的意図によるものなので、修正するつもりはない。

科目名	教育心理学
担当者	太田絵梨子

科目名	人間心理調査法
担当者	太田絵梨子

授業の概要

人間の学習と発達のプロセスについて理解を深め、教育心理学の理論と教育場面での実践を結びつけて考えることを目的とする。授業では、学習の原理に関する諸理論、個別や集団場面での指導法、子どもの発達の様相などを中心に講義する。また、受講生同士での話し合いの場を設け、教育心理学を生かした実践の具体例を考えたり、実践場面における諸問題について教育心理学的な視点から分析することを促す。

授業の問題点

授業アンケートの結果によると、「Q1 出席や課題提出等はしましたか」の得点が4.50(平均4.59)であり、平均点をやや下回っていた。原因としては、開講時間が1限であったことや、課題提出方法をTeams経由に限定したことによる影響などが考えられる。Teamsの使い方に慣れていない学生も少なくなかったため、そうした学生への丁寧なフォローが必要と思われる。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果によると、「Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の得点が4.71(平均4.35)であり、学生の授業満足度は比較的高い方であったと思われる。特に「Q1 授業内容に興味や関心を持ちましたか」、「Q5 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」といった項目の得点が高いことから、学生にとって興味が引かれる、見通しの持ちやすい授業が展開できていたと考えられる。また、昨年度からの改善点として、指定の教科書を用いた予習を促したことにより、「Q2 授業外学習(予習や復習など)をしましたか」の得点も向上した。さらに、毎回の授業後に記述してもらった振り返りの中から疑問点を取り上げ、次時の授業冒頭にフィードバックをすることで、学生からの質問にも対応することができた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度もA・Bグループに分かれて交互に対面授業を実施した。本年度は、対面授業の様子を録画した上でオンデマンド視聴できるようにしたことで、遠隔でも対面と同等の学習ができるよう工夫した。しかし、授業内容の特性上、学校現場の授業ビデオを上映する場面や、授業法を実際に体験してみる場面などが多くあったが、そうしたものはオンデマンドではカットせざるを得なかった点が課題として残される。

次年度以降もグループ分けが続くようであれば、上述したようなビデオ上映や体験活動は両グループで平等に実施するようにするなどの方策が必要と思われる。

その他

授業の概要

本講義では、人間の「こころ」の仕組みを明らかにするための方法論について解説する。講師から解説するだけでなく、受講者自身にも実際に手を動かしてもらいながら、実験や調査の方法を体得してもらうことを目指す。卒業研究などで心理学的なアプローチから研究してみたい人や、心理学の研究法に興味のある人の受講を歓迎する。

授業の問題点

今年度から新しく開講された科目であったため、学生がどこでつまづくのかを事前に想定することが難しかった。その結果、予定よりも進捗が遅くなってしまい、シラバスに記載していた内容を全て扱うことができなかった。

学生の授業満足度

学生の授業アンケートでは、ほとんどの項目で平均点を下回っており、決して満足度が高いとは言えない結果となった。特に得点の低かった項目は、「テキストなどの資料は適切でしたか(4.00)」「授業の方法や資料はわかりやすかったですか(4.00)」であり、いずれも授業中に配布した資料の質に関連するものだった。今学期の授業では、講師からの説明を極力少なくして、なるべく学生自身による活動に時間を割くようにしたが、学生によっては理解が追いつかず、分かりにくいと感じていた様子だった。

授業改善の課題と方策

学生の活動を意味あるものにするためにも、講師からの説明をより丁寧にわかりやすく改善する必要がある。特に、心理学の研究法については前提知識のない学生がほとんどであるため、活動に取り組む上で必要な情報の取捨選択が課題となる。

その他

授業改善書

科目名	ポップカルチャー論
担当者	岡田正樹

授業の概要

ポピュラー音楽、ファッション、アニメ、ネット動画文化などを主な対象として、20世紀後半以降のポップカルチャーの諸相をメディアやジェンダーなどさまざまな視点から考えるという内容であった。

授業の問題点

アンケートを見ると出席や課題提出 (Q1)、授業外学習の状況 (Q2)、質問や発言 (Q3)の各項目の自己評価があまり高くない。

学生の授業満足度

授業に対する評価はすべて平均を上回っており、満足感を得られた学生が多かったものとする。

授業改善の課題と方策

課題に関して、当初はメール提出にしていたが、途中から Microsoft Forms での提出に変更した。メールでも提出状況が特に悪かったわけではないが、Forms への変更後、提出状況がより良くなり、学生からも Forms のほうが扱いやすいとのコメントがあった。今後も提出しやすいツールを活用していく。
 授業外学習については、関連する映像作品や音楽作品の視聴も含めて、より積極的に促していきたい。
 比較的大人数での講義形式であり、かつ新型コロナウイルスの問題もあるため、授業中の口頭での意見や質問は特に求めていなかった。人数や状況次第では次年度以降、より積極的な発言を求めたい。ただし今年度に関しても、コメントシートを通しての質問や意見は多く寄せられた。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	メディア文化論
担当者	岡田正樹

授業の概要

「メディアの不透明性」という考え方を軸に、メディアと私たちの関わりについて、音楽、ファッション、映画などを対象としながら講義をおこなった。対面授業時には毎回映像や音声を資料として用いた。

授業の問題点

AB グループに分かれたため、シラバスに記載した内容を多少変更せざるを得なかった。例えばオンライン課題では映像や音楽の視聴が困難であり、映像を必要とするテーマを主題的に取り扱うことがやや難しくなった。対処法として、ウェブで視聴可能な動画はリンクを設置して誘導する工夫をおこなった。

学生の授業満足度

「III 授業満足度について」はともに平均を上回っており、授業の満足度は上々であったと考えられる。

授業改善の課題と方策

アンケートでは学習態度の欄「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」が平均を下回っている。
 しかし授業時のコメントカード等を見ると、授業外に本講義で扱った事例等を視聴しそれに対する意見を述べていた学生は少なくない。
 本講義で扱うのは日常生活のなかで触れるポップカルチャーやサブカルチャーと呼ばれる事象が多く、それらを視聴し、見解を述べるのが学生にとっては授業外「学習」として認識されていない可能性も考えられる。これについては次年度以降、この分野で扱う対象の性質とその学問的な重要性をより詳しく説明することで解決したい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	日本語学（概論）
担当者	高山林太郎

授業の概要

言語学的な観点から日本語学の基礎を学ぶ。音声学から記号論まで。

授業の問題点

「リスニングの時のスピードが早く、頭で少し考える間もないのもう少しゆっくりして欲しい。課題もだいたい難しい」という声があった。喋るのが速いかも。ただ、リスニングに該当するような部分はそれほど多くなく、通常の講義がほとんどである。課題の内容は配付資料に書いてあることをそのまま聞くだけのものがほとんどなので非常に易しいと自分では思っているし、解答が分からない場合は空欄で提出することも許している。これ以上易しくはできないのではないかと考えられる。

学生の授業満足度

平均を大きく下回っている訳ではないので、悪くはないのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業としては数年実施してきてほぼ完成しているので、特に改善点は見当たらない。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	高山林太郎

授業の概要

作文の授業。

授業の問題点

春期の「日本語の運用」はビジネス文書の書き方を、秋期の「文章作成法」はアカデミックライティングを学ぶ。前年度の経験を踏まえて、授業中に実施するワークシートおよび講義と、課題として提出して添削を受ける作文とを、完全に分離することで上手く機能した。授業中のワークシートや講義は、それぞれに相応しい内容で実施した。作文は、春期はテーマ・文体自由とし、秋期は「何かを論ずること」という縛りだけ追加することで、漢字やテニヲハのミスを個別に指摘できた。従って問題点は特に無い。

学生の授業満足度

平均を上回っており授業満足度は高い。「やった分だけ評価に返ってくるのは素晴らしいシステムだと思う」、「将来に役に立ちそうなことばかりで凄くためになった」、「先生がいつも誤りのある文字や文章があると直してくれるのでとてもいいと思う。また、毎回テーマごとに詳しく説明してくれるので分かりやすい」などの声があった。

授業改善の課題と方策

特に無し。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語・日本事情 I
担当者	高山林太郎

授業の概要

留学生対象のクラス（全 4 回の第 1 回）。人間文化学科に所属する 5 人の教員が「日本語・日本事情」をテーマに、それぞれの専門分野（古典文学、メディア、言語、近現代史、古代・中世史）に即して留学生向けに講義する。

授業の問題点

特に無し。

学生の授業満足度

留学生対象のクラスであるため履修者はそれほど多くなかったが、履修者が 1 名でも開講される科目である。履修者は全員、授業に満足しているとみられる。

授業改善の課題と方策

特に無し。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語の文法
担当者	高山林太郎

授業の概要

学校文法の復習をしながら最新の言語学的知見に基づいた日本語教育文法などの視点を対面授業で口頭や板書を用いて紹介していく。

授業の問題点

「説明が丁寧で分かりやすかった」、「品詞の意味を改めて覚えることができた」、「プリントなので分かりやすかった」という声がある一方、「映像があった方がより分かりやすい。口頭でも理解はできるが、より理解を深めるにはあった方がよかった」という声もあった。まだ 2 年目なので、学校文法のプリント以外の部分で何を話すか、何を板書するかということは現場で逐一考えながら選んでいる側面があり、教材としてプリント化ないしパワポ化するには至っていない。文書化は今後の課題であるが、話すべき内容は脳内に存在するので授業の実施に支障がある訳ではない。

学生の授業満足度

平均点を大きく下回っている訳ではないので概ね良かったのではないかと。

授業改善の課題と方策

前は「次回以降はやり方が分かっているのでスムーズに行くと思われる。課題の出しせ方については、より分散した方式を採用すべきである」と書いた。実際スムーズに行った。課題の提出は最終回だけでなく、毎回へと分散できたが、それでも最終回の提出者が多かった。

その他

なし。

授業改善書

科目名	文章作成法（月 4）
担当者	高山林太郎

授業の概要	アカデミックライティングの授業。ワークシートと作文を課す。
授業の問題点	とくになし。
学生の授業満足度	平均点 4.37 に対して本授業は 4.52 だった。これは高評価である。
授業改善の課題と方策	とくになし。 おおむね当初の予想通りの進行で最後まで実施できた。 授業中のワークシートの課し方の段取りについては更に洗練の余地がある。 課題の自由作文は、これまで分量に制限を設けていなかったが、今後については、自身の忙しさなどに鑑みて、一人当たりの分量制限を設ける可能性はある。
その他	とくになし。

授業改善書

科目名	文章作成法（月 5）
担当者	高山林太郎

授業の概要	アカデミックライティングの授業。ワークシートと作文を課す。
授業の問題点	とくになし。
学生の授業満足度	平均点 4.37 に対して本授業は 4.55 だった。これは高評価である。
授業改善の課題と方策	とくになし。 おおむね当初の予想通りの進行で最後まで実施できた。 授業中のワークシートの課し方の段取りについては更に洗練の余地がある。 課題の自由作文は、これまで分量に制限を設けていなかったが、今後については、自身の忙しさなどに鑑みて、一人当たりの分量制限を設ける可能性はある。
その他	とくになし。

授業改善書

科目名	日本語学（各論）
担当者	高山林太郎

授業の概要

日本語を主な題材として、社会言語学、対照言語学にも触れつつ、歴史言語学・比較言語学を中心に学ぶ。

授業の問題点

とくになし。

学生の授業満足度

平均点 4.37 に対して本授業は 4.19 だった。よくはないが、悪くもない、それなりの満足度に達していると考え。

授業改善の課題と方策

とくになし。
 コロナ禍に関して言えば、A、B グループ分けが無くなって 15 回フルに授業できるようになれば、教えられる量が正常化する。音声を扱うため、対面授業でなければ意味がない。従って隔週で出席してもらっていても、両グループに対して同じ授業を実施している。そうすると必然的に、教えられる量が半減することになるが、やむを得ない。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	日本文学入門
担当者	柴田勝二

授業の概要

詩、劇、物語の三つのジャンルについて、日本文学の代表的な作品を取り上げ、主に日本文化を特徴付ける「重ね」という観点から概説した。当初は古典から近現代までの作品に眼を配る予定であったが、コロナ禍によるクラスの AB 分けにより、授業内容が半減し、ほとんど古典文学だけに焦点化することになった。劇については能と人形浄瑠璃、歌舞伎の DVD を用い、テキストだけでなく立体的に作品を把握できるようにした。

授業の問題点

クラスが AB に分けられ、分量的にほぼ半分の内容になったために、近現代の表現にほとんど言及できなかったのが残念であった。最後に古典と近代をつなぐ作家として川端康成を取り上げたが、駆け足で話すことになり、川端文学の本質を十分に話すことができなかった。

学生の授業満足度

得るところがあったかと、授業に満足できたかという問いに対する回答がともに 4.0 前後と普通であったが、もう少し高くてもよかったと思われる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の影響で上記のように授業の分量が半減したために、講義する内容が古典に限定されることになった。近現代に限定してもよかったが、日本文化の一環としての日本文学の特徴を明らかにするという趣旨から、古典に比重がかかることになった。後期の授業ではなるべくスムーズに話を進めていきたい。ただ学生の声に、早口であるとの指摘があったので、そうならないように気をつけたい。

その他

科目名	教養演習 I
担当者	柴田勝二

科目名	日本文学入門
担当者	柴田勝二

授業の概要

大学生の「教養力」を基本的に国語力と日本に関する基礎的な知識と位置づけ、日本の文化、社会、言語及び現代の社会状況に関する書籍、テキストの一部を読み、読解力を高めると同時に内容把握を通して〈日本〉に対する認識を高めさせた。合わせて論理的な文章を構築するための「反論想定型エッセイ」を数度書かせ、また日本の宗教風土を知るために、それをモチーフとする映画「もののけ姫」を鑑賞させた。

授業の問題点

「教養演習」という授業のコンセプトが学生に十分伝わっていなかったのか、色々な主題内容の文章を読まされることに、学生側にとまどいがあったようである。そのためか主体的な意見を述べる学生は皆無で、積極的な授業参加が見られなかった。

学生の授業満足度

他の授業と比べて、満足度が 3.58 と低かったようである。ただ授業で得るところがあったかという質問への回答は 4.17 と普通だったので、なぜ満足度が低かったのかやや了解しかねた。おそらく前項に記したように、授業で色々な素材を取り上げることへのとまどいがあり、また一定時間で内容を理解することの難しさがあったように思われる。

授業改善の課題と方策

授業の方針はとくに間違っていないと思われるので、後期の「教養演習Ⅱ」も「読む力」と「書く力」を高めつつ、〈日本〉や〈現代〉に対する教養をつけさせるという形で進めていくつもりである。ただテキストの内容が多岐にわたり、学生の理解が追いつかないところがあるので、進度をやや遅くして、学生がテキストの内容を十分把握できるように仕向けたいと考えている。

その他

授業の概要

詩、劇、物語の三つのジャンルについて、日本文学の代表的な作品を取り上げ、主に日本文化を特徴付ける「重ね」という観点から概説した。当初は古典から近現代までの作品に眼を配る予定であったが、コロナ禍によるクラスの AB 分けにより、授業内容が半減し、ほとんど古典文学だけに焦点化することになった。劇については能と人形浄瑠璃、歌舞伎の DVD を用い、テキストだけでなく立体的に作品を把握できるようにした。

授業の問題点

クラスが AB に分けられ、分量的にほぼ半分の内容になったために、近現代の表現にほとんど言及できなかったのが残念であった。最後に古典と近代をつなぐ作家として川端康成を取り上げたが、駆け足で話すことになり、川端文学の本質を十分に話すことができなかった。

学生の授業満足度

得るところがあったかと、授業に満足できたかという問いに対する回答がともに 4.0 前後と普通であったが、もう少し高くてもよかったと思われる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の影響で上記のように授業の分量が半減したために、講義する内容が古典に限定されることになった。近現代に限定してもよかったが、日本文化の一環としての日本文学の特徴を明らかにするという趣旨から、古典に比重がかかることになった。後期の授業ではなるべくスムーズに話を進めていきたい。

その他

科目名	日本文学講読近現代Ⅱ
担当者	柴田勝二

授業の概要

宮澤賢治・太宰治・村上春樹らの主に昭和・平成期の日本近現代文学の作品を読み、その主題の在り処、文章表現の個性などを把握していく。具体的な作品としては『銀河鉄道の夜』『トカトントン』『踊る小人』『キッチン』『ペルソナ』の五つを取り上げ、教員側から問題点、考察点を投げかけながら学生に主体的に考えさせ、また毎時間小レポートを課してその考察を提出させるようにした。

授業の問題点

授業では学生とのやりとりを通して作品への読解を深めることを目指したが、積極的な発言者は特定の数名に限られ、出席者の意見を幅広く聞くことは難しかった。予習を義務化していたが、やはり全員がしっかりテキストを読んできているわけではなく、指名して意見を求めても答えられない学生も少なくなかった。もう少し多くの受講生の授業への参加を工夫すべきであったと思われる。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は4.1程度と普通で、高いとはいえないもののとくに強い不満を学生から聞くことはなかった。最終レポートで授業の感想を書いている学生もあったが、取り上げられる作品がどれも面白かったという記述があり、作品の選択は適当であったと思っている。

授業改善の課題と方策

授業の問題点のところで書いたように、授業が教員の説明と特定の学生とのやりとりで進んでいってしまう面があり、次年度の授業では予習への促しを徹底させ、出席者全員が作品への読解を授業中に提示できるようにしたい。また後期の授業では作品の読解を通して現代社会のあり方を考えるという側面を出すように心がけたが、作品と時代社会の関わりをもっと客観化できるような資料を学生に提供すれば良かったと考えている。次年度はテキストをより深く読むための資料面での充実も図りたい。

その他

科目名	日本文学特論近現代
担当者	柴田勝二

授業の概要

副題を「格差社会と文学」とし、明治期から現代に至る日本社会における差別・格差の諸相を紹介するとともに、それらが文学作品にどのように表現されてきたかということ、講義と作品読解の両面から探っていく。前半6回を講義、後半9回を講読とし、作品としては樋口一葉『十三夜』、川端康成『伊豆の踊子』、梶井基次郎『冬の日』、村田沙耶香『コンビニ人間』の四つを取り上げた。講読の回においては学生とともに作品を読み進めていき、出席者の積極的な参加を求めた。

授業の問題点

前半の講義の内容と、後半の読解の内容が必ずしも有機的にリンクせず、別々のものとして提示されたところがあったように思われる。また差別・格差をもたらす要因として身分・貧富・病・出自などを挙げ、それぞれに応じた作品を読んでいったが、もっと多くの要因に触れる余地があった。現代については村田沙耶香の『コンビニ人間』で代表させたが、教員側に現代社会における差別・格差についてはもっと見識を持ち、多様な作品に言及すべきであったと思われる。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は4.6程度とかなり高く、満足のできる結果であった。とくに現代社会における差別・格差は学生にとっても切実な問題であるようで、『コンビニ人間』に対しては強い興味・関心が示され、授業のやりがいがあった。

授業改善の課題と方策

授業の問題点にも書いたように、日本社会における差別・格差の様相は多様なので、それらに目配りをすべきであった。また「在日」への差別の問題は古くから多くの文学作品を生み出してきているだけに講読にも取り上げるべきであったが、授業時間の都合でできなかったのが残念であった。今後このテーマで特論の授業を行う際は、極力幅広い目配りによって、多角的に差別・格差の文学作品への表現の様相を捉えたい。

その他

専任教員

人間学部

心理学科

科目名	高齢者心理学
担当者	大川一郎

科目名	発達心理学概論
担当者	藤枝静暁

授業の概要

高齢者の心理について生涯発達の視点から、さまざまな領域に焦点をあてながら、概観していく。高齢者に限らず私たちが生きている日本はどのような状況に置かれているのか、老年期の至る中高年期はどのような時期なのか、加齢に伴い身体機能や知的機能はどのように変化し、その変化にどのように対応していったらいいのか。そもそも高齢者の心理はどのようなものなのか、認知症の高齢者の心理はどのようなものなのか、等々について学び、考えていく。

授業の問題点

「質問や発言をしたか」等については、2.50 と低かった。また、「資料が少し見にくく、紙で配るなどあればよかった」等の感想が見られた。

学生の授業満足度

120名の受講者の中で、回答者は4名であった。授業の満足度は、4.25、振り返って役に立ったかについては、4.50であり、概ね、授業自体に対する満足度等は高かった

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしたか」等については、評価は2.50と引くかったが、これについては、意識して、学生に質問を投げかけ、意見を求めるなどのことをする必要性を感じた。また、「資料が少し見にくく、紙で配るなどあればよかった」等については、teams経由で送った資料をスマートホン等の小さな画面でみながら授業を埋めている学生が散見された。これについては、学生の授業に臨む態度の問題もあるかと思う。授業の中で、再三、資料は印刷してのぞみ、大事なことは資料に書き込みながら聞くように、授業内で何度も注意喚起をするようにすればいいかと考える。
今後、上記2点について、意識しながら、講義に取り組んでいく所存である。

その他

特にありません。

授業の概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。心理学といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、幼稚園、保育所、学校といった現場での実際の子どもの姿も紹介する。

授業の問題点

アンケート結果から、特段の問題点は無かったと考えられる。「質問」や「発言」をしましたかに対する回答が平均よりも低かったことを踏まえて、質問や発言を促す工夫を考えたい。

学生の授業満足度

「授業から得るところはありましたか」の問いへの回答は、4.60/5点、「授業に満足できましたか？」への回答は4.52点/5点満点であったことから、学習満足感はおおむね満たされたと考えられる。

授業改善の課題と方策

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式に対して、戸惑いや、不安もあったと思いますが、多くの方が、授業によく参加し、課題を作成したと思います。レポートの内容は、個人差が大きかったです。テキストの中身をまとめた方から、テキストに加えて自身で調べた内容を加えてまとめた方もおりました。課題への取り組み状況に差があった点が課題かなと思いました。

その他

学生さんの自由記述による感想の一部は以下の様であった。これらの回答からも、学生さんが能動的に、楽しみながら授業に参加した様子がうかがえる。

「教科書に書かれている事だけを説明するのではなく、具体例や事例などを緻密に説明してくれるので応用的に学べて、とても関心が持てる授業です」
「実体験も踏まえて説明してくださったり、周りと話す機会が多かったことで、関心が深まったと思います。」
「発達は子供の心理にとってとても大切なことなので、意味や専門用語などを知れてよかったです。いつがあるのかをしっかりと知っておけば今後役に立つと思うので自分からも積極的に学んでいきたいと思いました。」
「人が成長していく過程を知ることによって、子どもならではのことで、大人になるにつれ無くなっていくことなどを知ることが出来た。」
「動画などを見ながらの授業も多かったので、理解しやすかったです。将来孤児の子達などと関わる仕事をしたいと考えているためとても良い学びになっています。」
などがあつた。

科目名	教育心理学
担当者	藤枝静暁

授業の概要

教育心理学についての基本的な知識や概念を体系的に理解する。授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れている。具体的には、本や PVC を利用した調べ学習、映像資料を視聴し、少人数で話し合いをするなどである。

授業の問題点

アンケートの結果から、特段の問題点は見当たらなかった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では5点満点で約4.5点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の項目では5点満点で約4.5点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

授業改善の課題と方策

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」は3.64点と例年よりも低かった。前年度までと異なるのは、今学期全面対面になったことであった。オンラインではなく、対面授業になり、予習復習に割く時間が減った可能性がある。

予習することで、授業内容の理解が円滑になる。復習することで、授業で吸収した知識が定着する。この基本事項を念頭に置き、どの授業においても予習・復習をして欲しい。

その他

自由記述回答は一件もなかった。この点も例年と異なっていた。

科目名	教育相談の理論と方法
担当者	藤枝静暁

授業の概要

教育相談の基礎となる理論および技法などの知識を取り上げる。また、思春期・青年期に起こりやすい心理的問題とその対応について紹介する。

学校現場で実際に教育相談を行う際に有効なチーム学校の考え方、心理教育技法、学校危機予防などについても取り上げ、演習を取り入れながら体験を通して理解を深める。

授業の問題点

アンケートの結果から、特段の問題点は見当たらなかった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の項目では5点満点で約4.6点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の項目では5点満点で約4.4点であり、満足度はまずまず高かったと考えられる。

授業改善の課題と方策

「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」は4.26点とまずまずの値であった。将来、教職を目指している学生だけに、意欲的に取り組んでいた可能性がある。

予習することで、授業内容の理解が円滑になる。復習することで、授業で吸収した知識が定着する。この基本事項を念頭に置き、どの授業においても予習・復習をして欲しい。

その他

「先生の実体験を交えたお話が参考になりました。」

「生徒指導や教育相談での実体験を聞くことができ将来に活かせると思いました。」

「実際に先生が働いていた時の実体験を述べられていて、想像がしやすいです。あまり大学の授業中に聞けることはないのもっと様々聞いてみたいと思っています。」

「生徒指導にマニュアルはなく、生徒の特性に合わせて自分が柔軟に対応する力が必要なのだった。」という意見があり、授業をよく聞き、自分で考えていたことが分かった。

科目名	心理学概論 I
担当者	安崎文子

授業の概要

はじめて心理学を専門的に学ぶ学生の入門として、心理学概論 I では、心理学の歴史・知覚・学習・認知・知能・神経生理・臨床・発達といった、心理学の基本的な領域について、広く概説を講義する。対人支援の専門家を目指す為に、科学としての心理学的な観点から、心理学の基礎的な知識の習得を目指す授業である。心理学概論 I は基礎中心に多少臨床を含めた内容、心理学概論 II は応用の内容である。対人支援職を希望する学生が多く、心理学概論 I は、学生の興味からやや外れている分野が多いが、必要不可欠な基礎知識である。

授業の問題点

- アンケート結果から、学生自身の学習態度については、学生自身の質問や発言は、平均値より低く、全体に受け身の授業であった。
- 授業方法については、10 項目中 7 項目が平均以上だった。しかし、Q6 適切な内容と量は、平均より 0.09 ポイント、Q8 授業を円滑に進めるための配慮は平均より 0.07 ポイント低かった。昨年と同じ傾向だが、全体に資料内容の量が多い事が本授業の問題点である。
- 学生による意見では、説明が早いとの意見が散見していた。量が多く、説明が早いというのが主な問題点である。

学生の授業満足度

- Q9 内容は得るところがあったかは、平均より 0.08 ポイント高く、Q10 全体の満足度は、平均より 0.04 ポイント低かった。
- 昨年度は両質問ともに、平均値を大きく高く超えていたため、やはり量が多くて早い点が改善されていなかった。
- 学生の意見として、授業の最後の小テストや実際の臨床での症例の説明などは、全体に好評であった。

授業改善の課題と方策

- 量が多くて説明が早いのが、私の授業の毎年の問題点であり、今年度は実際に大分量を減らしたのだが、それでもまだ多いようであった。
- 心理学概論 I と同時期の春期に、臨床心理学や社会心理学の授業もあり、重複する内容も多い。来年度は更に内容を厳選していきたい。わかりやすくするために、動画やアクティブ・ラーニングを更に増やしたい。
- 小テストの説明時間も増やし、質問時間も設けるようにしたい。

その他

- 心理学について入学前に抱いていた予想と実際の科学としての心理学との差に驚く学生が多い。科学としての心理学に興味を失わないよう、臨床例の報告を多く交えて授業をすすめたい。
- 学生の反応や個性は毎年異なる。今年度の学生の特性を良くつかみ授業をすすめたいと思う。
- 学生の名まえを覚えて授業中に声をかけるととても喜ぶ。頻繁に声をかけ、学生の積極的な意見が出るような授業にしたい。

科目名	心理学統計法 I
担当者	安崎文子

授業の概要

科学としての心理学では、「人の心」を理解するために実験や調査が行われる。そして、実験や調査で得られた数値データは、数値の意味を解釈するために統計的処理が行われる。心理学統計法 I では、心理学で用いられるこうしたデータを統計的処理する最も基礎的手法を講義する。なお、本科目は心理学の必修、卒業に必須の科目である。

授業の問題点

心理学科には、自身が不登校やいじめにあった経験をした学生が多い。なぜそのような事態に至ったのか、理由を知りたいと考えて入学してきている。その発想は、学術的に論理的に解釈するのではなく、感性でとらえ救ってもらいたいという宗教的発想である。したがって、心理学と数学は学生たちの中では本来結びついていない。だが、本来、心理学は物理学を手本として科学として誕生した。諸外国では、心理学はリベラルアーツとして理科系に近い分野である。心理学科に入学した時点から、科学としての心理学を徹底的に教えていくのだが、そもそも数学が苦手な、小学校高学年の「割合」で躓いている学生も多く、電卓で平方根を算出することにも手間取り、極端に苦手意識が強い。必修の統計学が嫌にならないように、ひたすら演習を繰り返した。数学が苦手ということは計算ができないというよりも、ロジックがわからないということである。思考の流れを視覚化し、具体性をもってフローチャートで確認していく必要がある。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところがあったか」は昨年 4.23、今年度は 4.36 (平均 4.45)、「全体的に振り返って授業に満足できたか」は昨年 4.14、今年度 4.33 (平均 4.37) と平均より多少低かったが、昨年より多少改善した。学生にとって難解な統計学ではあったが、なんとか 15 回終わることができた。

授業改善の課題と方策

論理的な思考の流れや組み立てがわからないようなので、フローチャートや図式で示しながら、具体例を示すことが今後も益々必要である。結局パソコンを用いて計算を行うので、計算は多少遅くても意味が分かればよいので、繰り返し具体例を示しながら説明を心がけたい。小中学校で既習の事柄であっても、学生たちは内容を理解できていないので、繰り返し意味を教えるように心がける。引き続き、諦めさせない、手を動かす、簡単な手計算をくり返すことで達成感を得る、等を心掛け積み重ねていきたい。

その他

統計学は、正規分布・ t 分布・ F 分布などの確認が必須で、ハンドアウトの資料だけでは不十分であり、教科書は必須である。教科書の購入を促したが、試験に至るまで購入していない学生がいた。更に毎回の授業ごとの確認テストを取りに来ない学生も多かった。統計学は難しいが基本の積み重ねである。復習ができるよう教科書や確認テストを繰り返すよう学生にさらに促したい。

科目名	心理検査法（心理的アセスメント）
担当者	佐々木 美恵

科目名	心理療法論
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理検査の実施においては、その目的や対象者に応じて、必要な心理検査法が選択される。本科目では、履修生が種々の心理検査法についての基本的な知識を得ることを目的として、発達検査や知能検査、投影法パーソナリティ検査など、心理検査法を広く取り上げ、その理論と実施法、分析法、解釈法について講義する。

授業の問題点

- ・ 学生の質問や発言を得る機会が十分ではなかったこと。
- ・ 授業外学習を促進できなかったこと。
- ・ 授業アンケートを見ると、課題に対応するのに情報が不足していると感じた学生がいた。グループ分け授業のため、非対面回の授業では学生の個別作業に依存することとなったが、さらにきめ細やかな対応が必要であったと感じた。

学生の授業満足度

満足度は低くはなく、学生の興味・関心のある程度喚起し、学びの深化に寄与することができたと考えている。
また授業アンケートでは、実際の検査体験を含めたことに対する高評価が多く見られた。実体験によって、さらに理解度が高まったことがうかがえた。

授業改善の課題と方策

- ・ 学生の質問や発言を効果的に得られるように工夫し（リアクションペーパーの改善など）、双方向性を高められるように努める。
- ・ 参考文献や学習内容の明示など、授業外学習を促進するための積極的対策を図る。
- ・ 学生のわからないところを、学生の視点で敏感にキャッチするように努め、準備資料や講義内容の改善を図る。

その他

とくになし。

授業の概要

心理療法および心理援助のさまざまな理論やアプローチについて講義する。心理療法とは、臨床心理学の知見をもとに、こころの問題に関連する心身の問題や症状を改善しようとする方法の総称である。心理療法にはさまざまな学派、方法論があるが、本講義では、精神分析理論や行動主義、人間性心理学など、代表的な方法に関する基本的な知識を講義する。さらに、心理教育的援助や子どもの心理療法のほか、心理援助の応用的展開まで発展的に講義する。

授業の問題点

- ・ 学生による質問や発言を積極的に促すようなかかわりが不十分であり、双方向性の授業展開としては課題が残った。
- ・ 学期末試験の結果として、授業内容の習得度は極めて低いことが明らかとなった。基本的な用語なども十分に身につけておらず、大きな課題として残された。

学生の授業満足度

- ・ 概ね良好であったと評価することができる。
- ・ 授業中も静かに熱心に聞く様子が見られており、学生の興味、関心のある程度惹起し、注意を持続させることができたと考えている。

授業改善の課題と方策

- ・ 学生の習得度は十分な水準には達していないことから、小テストの実施などによって知識の定着を図る。
- ・ コメントシートの有効活用など、学生のリアクションを活性化させる授業構成に努める。

その他

とくになし。

科目名	臨床心理学概論
担当者	羽鳥 健司

科目名	健康心理学（健康・医療心理学）
担当者	羽鳥 健司

授業の概要

学術的な臨床心理学の全体像を把握できることを目的とした。臨床心理学的な疾患である「異常」は「健康」の延長上にあるため、学生が日常生活を送っている中で体験している現象や、青年期の学生が関心を持ちそうな事象を例として多数取り上げ、各回のテーマと関連付けて解説することを試みた。

授業の概要

健康心理学では、主に身体疾患の特徴と、それに付随する精神面の予防や健康を維持増進するための支援方法を学ぶものである。本講義では、健康の捉え方、健康とパーソナリティの関連、生活習慣、出来事に対する認知や行動が影響する疾患等について理解し、その予防や改善に資する心理学的支援方法について紹介した。

授業の問題点

授業内での発言や質問のみが平均点を下回っていた。本講義は、心理学科1年生の必修科目であるが、2年生以上の学生や他学科の学生も受講しており、405 教室で開催されていたため、授業内で発言しにくい環境であったと思われる。また、概論であることから、どうしても教員がやや一方的に講義をするという形式を取らざるを得なかったため、このような結果になったものと思われる。

授業の問題点

学生の評価からは、特に問題となるような指摘は見られなかった。敢えて挙げるならば、学生からの質問や発言が少なかったことが挙げられる。ただ、オンラインでの講義が半数を占めたことを考慮すると、いたしかたない部分もあるかもしれない。

学生の授業満足度

高評価を得られた。学術的な知見を伝えることを基本にしつつも、学生の興味関心に合わせて解説したことを奏功したものと思われる。

学生の授業満足度

満足度においては、高い評価を得ることができた。来年度も今回の方法を踏襲しつつ、更なる分かりやすい授業を目指していきたい。

授業改善の課題と方策

唯一平均点を下回った授業内での発言を促す手法としては、教員から積極的に指名して発言を促したり、ディスカッションを取り入れる方法などが考えられる。しかしこれにこだわり過ぎると、本来の目的である概要を網羅的に伝えることが損なわれる危険があるため、慎重に取り入れていく必要があるであろう。

授業改善の課題と方策

最大の課題は、学生からの発言を増やすことであろう。個別での発言を求めただけでなく、小グループでのディスカッションなどを通して、グループでの発言を求めていきたい。

その他

その他

科目名	交通心理学
担当者	古澤照幸

科目名	環境心理学
担当者	古澤照幸

授業の概要

自動車交通を中心とした「安全」に影響する要因とともに「事故発生」に影響する要因を検討する。事故発生には、明るさ、暗さ、道路の整備状況、運転者の運転技術、性格、睡眠、疲労、年齢などさまざまな要因がかかわっている。本講義では、交通心理学がどのようなものなのか、その定義から始める。事故発生については、環境要因、人的要因について細かく検討を行う。運転者だけではなく、歩行者の年齢や性格などが事故にかかわることを確認する。交通事故を引き起こさないようにするためには、どうすればよいのか。どのような点に気を付ければよいのかを歩行者、運転者の両方の側から検討する。また、心理学が安全にどのように寄与するのかを考察する。
交通事故が低減するようにするにはどうしたらよいのかを考えたい。

授業の問題点

「授業内容」「授業方法」について全般的に低い評価であった。Q5の「授業のテーマの明確性」のみが、平均程度であったが、他の項目はすべて平均以下ということであった。私の講義を観察いただける先生方のご意見をいただきながら、修正を進めていきたいと考える。

学生の授業満足度

「授業満足度」のQ9、Q10は2.50と非常に低い値である。授業に対しての不満が非常に高いということであり、反省をし、授業に臨みたい。

授業改善の課題と方策

Q4の「授業方法のわかりやすさ」Q6の「授業の適切な内容や量」について、改善が可能な部分については早速、変更していきたい。

その他

特になし。

授業の概要

環境心理学は、心理学分野において、比較的に新しい研究分野と言えるであろう。しかしながら公害などの環境問題の観点から、1960年ごろから関心を持たれるようになった学問である。本講義においては、環境心理学とはどのようなものかを第2回で講義し、環境の認知を第3回から第5回に述べる。第6回以降、「パーソナルスペース」「都市と自然」「犯罪への認知」など環境に関わる問題を総合的に議論を行った。

授業の問題点

「授業内容への興味や関心」「シラバスに提示されていた内容、進度」などの「授業内容」や「授業の方法や資料のわかりやすさ」は学生の評価は非常に低い結果であり、改善が必要である。

学生の授業満足度

「授業の満足度」は、Q9、Q10ともに非常に低く、改善が必要である。各項目のチェックも十分に確認し、改善していきたい。

授業改善の課題と方策

Q4の「授業の方法や資料のわかりやすさ」は「2.80」、Q5の「テーマの明確性」は「3.40」であり、授業内容についてもしっかり考え、改善をしていきたいと考える。

その他

特になし。

科目名	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）
担当者	遠藤寛子

授業の概要

自己レベルの心理を理解していくことは、対人レベルそして集団レベルでの行動を考えていく上で重要な知識となる。本講義では、社会心理学における自己や他者に関わる様々な理論や知見を紹介した。具体的には、自分自身をどのように捉えているのか、他者との関係を形成しようとする気持ちが社会的行動とどう関わってくるのか、なぜ、他者を傷つけるのか、そして他者を助けるのか等について講義した。

授業の問題点

履修者が123名という人数で比較的多かったものの、大部屋での講義が可能であったため、毎回、対面授業を行うことができた。授業の満足度、理解度は4.78（5点満点中）であったことから、授業内容が概ね伝わっていたと解釈できる。しかしながら、質問や発言に関する回答が2.81とやや低い傾向にあった。多数の履修者がいることに備え、次年度に向けて、更なる工夫が必要になるであろう。

学生の授業満足度

授業内容への関心、わかりやすさ、内容や量の適切さ、授業への配慮、理解度、満足度は、どれも4.53～4.84と高い評価であったことから、概ね満足して頂けたと捉えている。自由記述の感想として「一番興味深い講義になりました。数回教える際にムービーを容易たり、例を出すなどの普段よりもっとわかりやすい授業がありました。」「自分で考える時間があるのでとても楽しく受けられます。」「最後にまとめをすることがあるので授業内で復習ができてとてもいいです。」「レポートに少しずつ授業で思ったことを書いていくというシステムが素晴らしいと思いました。」等が挙げられ、社会心理学の更なる興味を抱いた学生も多かったようである。

授業改善の課題と方策

更なる自由に質問できる雰囲気づくりが必要である。個別の質問時間を設けたり、リアクションペーパーに書いてもらう等の工夫はしたが、実際に質問をしたり発言したりする学生は少ない傾向にあった。

履修者が多数いるものの、学生一人一人の名前を覚えるなどして、教員と学生との心理的距離を縮める努力が必要である。また、Teamsを利用して質問コーナーを作り、学生の主体的態度を大切にしたいと考えている。

その他

科目名	心理学実験
担当者	遠藤寛子・安崎文子・伊里綾子

授業の概要

本講義では、心理学実験に関する一般的な知識とレポートの作成方法について教授した後、鏡映描写、短期記憶、推論過程の3種目について実験を行い、レポート作成に至るまでの指導を行った。受講生は毎回、数名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組んだ。1つの実験種目につき3週から4週かけて、実験の実施、データの記録・整理、データ分析を行った。受講生が3種の実験レポートを作成した後、教員がそれらの実験レポートを添削するなどして具体的な指導を行った。

授業の問題点

毎週木曜日3限・4限目の連続授業を15回実施した。授業内容への関心、質問への適切な対応、満足度は、どれも平均より高い傾向にあり、このアンケート結果を踏まえると、履修生には概ね満足して頂けたと捉えている。本授業は実験実習が中心であり、実験参加の意義が大きかったため、出席しようと努力している学生が多かった。一方で、授業の方法や資料のわかりやすさ、適切な内容や量、授業を円滑に進めるための配慮に関しては、若干ではあるが平均点を下回っていた。例年と比べると履修生の人数が2.5倍以上増えていることから、今後は人数比に応じた授業方法を考慮する必要がある。

学生の授業満足度

授業内容への関心、質問への適切な対応、満足度は、どれも平均より高い傾向にある。また、コロナ禍にあるため、登校困難な学生に対する対応として資料を送付したり、個別に質問に応じたりするなどの工夫も行った。学生側も毎回の実験実習に参加できるよう努力していたことがうかがえる。「難しい単語が多くはあったが、心理学を学ぶ上で重要な所なのでやる気がある人は大丈夫だと思った。」「PC等の取り扱いやレポート作成にも触れられ、心理師資格取得後の役に立つ事が沢山あると感じた。」「本格的なレポート作成や実験は大変だが、レポート作成のやり方など、分からなければ先生に教えてもらえるところがいい点だと思います。」という学生の意見もあり、本授業から更なる意欲を示す学生も複数見受けられた。

授業改善の課題と方策

例年に比べ、実験科目にも関心を持つ学生が増加した点は本学科としても喜ばしいことであるが、今後は人数比に応じた教授方法を工夫する必要がある。例えば、各担当授業のレベルを確認し合うなど3名の教員と細やかに連携していくことが必要である。また、学生にとっては初めてのレポート作成になるため、ゆっくりと丁寧に進めることも重要である。さらに、レポート作成のポイントとなる点について時間をかけて教授したいと考える。ただし、学生側が熟慮し、自ら考案していく過程も重要であることから、授業目的を詳細に説明し、授業レベルや内容を簡略化しないよう努めたい。

その他

科目名	パーソナリティ心理学
担当者	遠藤寛子

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）
担当者	川久保 惇

授業の概要

本講義の前半では、「パーソナリティ」およびその研究知見、測定法について紹介した。また、パーソナリティと健康、文化、犯罪などの関連についても論じた。本講義の後半では、パーソナリティと関連が深い「感情」についての基本的理論や感情の制御に関する研究知見を紹介した。こうしたパーソナリティと感情に関する研究を概観することで、自己と他者への理解に役立てることを目的とした。

授業の問題点

授業アンケートの結果をふまえると、授業外での予習・復習をしない学生が多かったようである。また、授業中において質問や発言をしない学生が多かったことも示されている。120名以上の履修生がいるため個々人に発言を求めるといよりも講義形式が主となっていた要因が挙げられる。

学生の授業満足度

毎回、履修生に対して振り返りシートを配布し、質問や感想、応用点を書くよう求めた。振り返りを習慣化したことで、履修生の理解も深まり、中には、卒業論文に役立てたいという意欲向上につながる学生もいた。実際の授業アンケートの結果より、満足度は5段階評価のうち4.68、興味関心度は4.69と高得点であった。「社会（主にコミュニティ）に対する視野が広がりました」「心理面接を行う上で必ず目にする人間のパーソナリティについて広く学べる興味深い授業だった」「話も分かりやすく、資料を元に過去の事例や研究を紹介し、頭に入りやすくしている授業でとても楽しく感じた。知っている部分が多かった為、深く学びたいと思う事もあった」という感想もあった。

授業改善の課題と方策

今後は、毎回の授業にて、負担の程度に予習・復習のポイントを教示していく必要がある。また、授業中において質問や発言をしない学生が多かった点については、振り返りシートで質問や感想を書くよう求め、それを発表できるような雰囲気作りを目指していきたいと考えている。毎年、120名以上という大人数での授業ではあるものの、グループワークを行うなどの時間も確保したいと考えている。

その他

授業の概要

産業心理学とは、会社や組織の中での人々の意識、態度や行動などについて研究する学問領域である。人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題を心理学の立場から実証的に考えて、解決策を探る。後半では、消費者行動とマーケティングなどの購買行動に関するテーマを取り扱う。人間の生活は商品やサービスの消費で成り立っており、消費者行動研究は人間の生活、あるいは人間そのものを研究対象とする幅広い研究領域である。本講義を通じて、心理学が職場の人間関係や行動の理解にどのように活かされているかを学んで欲しい。授業は主に講義形式で行うが、映像視聴やワークも取り入れる。授業内容を興味深いものにするために各履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業の問題点

学生の評定をみると、授業外学習（予習や復習など）をしましたか」と「質問や発言をしましたか」という項目については、それぞれ3.59、2.65であった。授業外学習や授業内での教員と学生間のやりとりはあまり行われなかったと学生は感じたようである。

学生の授業満足度

授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」のどちらも4.5点程度であったことから、多くの学生が授業に対して満足していたと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業改善の方策としては以下の2点が挙げられる。1点目は、授業を振り返る復習用の課題を提示することである。講義時間内で全ての学習を完結させるのではなく、授業時間外に取り組むことが必要な内容も講義に盛り込んでいきたい。2点目は、授業内で学生同士のディスカッションを促進するようなワークを導入したい。学生が受動的に取り組むだけでなく、積極的かつ能動的に取り組めるような工夫を授業に取り入れていきたい。

その他

特記事項なし。

科目名	知覚心理学
担当者	米村 朋子

科目名	調査研究法
担当者	米村 朋子

授業の概要

知覚心理学は、世界にあるさまざまな情報から自分を取り巻く環境を認識する仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野です。本授業では、知覚心理学の幅広い研究領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルや、知覚研究知見が社会や技術へ応用される例を紹介し、脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めていただきました。

授業の問題点

授業アンケートから、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、平均よりも低い評価を受けた。昨年度よりも学習態度は向上しているものの、講義形式の授業であったことで、受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。また、参考書の提示は行ったものの、教科書を必須としなかったことや、予習復習を課した量が少なかったことが、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、平均よりも高い評価を受けた。特に、「シラバスに提示されていた内容、進捗と一致していましたか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれていたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、本学の学生が求めている臨床系の心理学と異なり基礎心理学分野であったことが大きく影響した可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記4項目について以下の改善を実施することとする。

- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題内容・量へ修正する
- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
- ・授業内容への興味について：より身近な話題を導入として興味を促す

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業内容に関する自分の興味を話しに来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたりと、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えるスキルを身に付けていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

授業の概要

本授業では、心理・社会調査を行うための、テーマの設定、仮説構築、質問項目の作成から実際のデータ収集、データ整理、データ解析、論文(報告書)の作成までのすべてのプロセスについて学修しました。特に量的調査を中心とした方法論について理解を深めるために、調査を実施するまでの過程を解説したのち、調査実施後のデータ処理・解釈についてパソコンを使った演習で実践的に学びました。

授業の問題点

授業アンケートから、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、平均よりも低い評価を受けた。昨年度よりも学習態度が低下していた。講義形式の授業であったことで、受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。また、参考書の提示は行ったものの、教科書を必須としなかったことや、予習復習を課した量が少なかったことが、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の多くの項目で、平均よりも高い評価を受けた。また昨年度よりも評価は向上した。特に、「テキストなどの資料は適切でしたか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれていたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、心理学で得られた知識を学ぶ授業と異なり研究方法論的な内容であったことが大きく影響した可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記4項目について以下の改善を実施することとする。

- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題を明示する
- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
- ・授業内容への興味について：より身近な話題を導入として興味を促す

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業内容に関して、卒論に向けた自分の状況を踏まえて相談に来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたりと、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、学生自身の今後に役立てられそうだと感じていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	心理統計演習
担当者	米村 朋子

授業の概要

本授業では、行動実験もしくは質問紙調査（または質問紙実験）を実施した場合を想定した統計分析の演習を行いました。提示される課題に応じて、各自で SPSS などに代表される統計ソフトを操作し、デモデータに対応した統計方法を選択し、実際に分析を行い、その結果を考察することで、心理学統計の実際と課題について学びながら、心理学的研究が遂行できるスキルの修得をめざしました。

授業の問題点

授業アンケートから、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、平均よりも低い評価を受けた。演習形式の授業であったことや、大学でのみ使用可能な統計ソフトを使用した関係で、教員・学生共に授業中で学修が完了できるように心がけすぎたことが、授業外学習の機会を上手く作り出せない状況につながった可能性として考えられる。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、平均よりも高い評価を受けた。特に、「テキストなどの資料は適切でしたか」「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」「授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、心理学で得られた知識を学ぶ授業と異なり研究方法論的な内容であったことが大きく影響した可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記 4 項目について以下の改善を実施することとする。

- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題内容・量へ修正する
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
- ・授業内容への興味について：より身近な話題を導入として興味を促す
- ・適切な内容や量について：個人差に柔軟な対応ができるよう修正する

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業内容に関する自分の興味を話しに来てくれたり、わからないことを授業時間内に解決したいと積極的に質問してくれたり、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、学生自身の今後に役立てられそうだと感じていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	心理学実験基礎（心理学実験）
担当者	米村 朋子

授業の概要

心理学実験基礎は、演習形式で受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって、心理学的知見が生み出されていく過程を具体的に習得することができる、非常に重要な科目である。この授業は 1 年生必修科目であり、心理学における実証研究の実施に必要な知識を講義するとともに、受講生自らが実験を実施しデータ解析を行う。そこで得られた結果を踏まえた実験レポートを執筆するために必要な知識の修得を指導した。

授業の問題点

授業アンケートから、「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して、中程度(3)でかつ平均よりも低い評価を受けた。演習形式の対面授業であったが、学生同士で教え合いながら進める内容であったため、教員へ良く質問する学生と全く質問しない学生との差が大きかった点などが問題だと考えられる。また、授業内容については、4.5 前後と平均を超えた評価がほとんどであったが、「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については平均よりも低いクラスがあった。専門的な内容の学修に対するモチベーションをうまく高めてあげられなかったことが問題だと考えられる。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業方法については、全ての項目で 4.5 前後の平均を超えた評価がほとんどであった。各回の授業意図は伝わっていたことが確認できた。授業満足度については、4 を超える評価であったものの、平均値を下回るクラスもあった。一般的な心理学からのイメージとの差異に気付かされる授業であることや、初めてかつ専門的な内容を多分に含む科目で、レポート執筆による授業外学習の時間が多く必要であったことが、影響していると考えられる。

授業改善の課題と方策

授業アンケートにおいて、評価の低かった下記 3 項目について以下の改善を実施する。その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を事前配布する
- ・授業内容への満足度について：日常との関連をより意識させるなどして、授業の意義に納得してもらえようような指導内容に改善する

その他

授業を進める中で、授業内容に関する最新の話題を自ら調べて教えに来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたり、レポートに課した課題以上の取り組みを行ってくれたり、積極的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった演習でした。その一方で、授業の重要性が伝わりきらず、取り組むモチベーションを高められなかった学生も多くおられることが分かり、単なる知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えながら、心理学の研究スキルの基礎を身に付けていただける授業が提供できるよう、今後一層励みます。

科目名	認知心理学 (知覚・認知心理学)
担当者	米村 朋子

科目名	心理実習
担当者	伊里 綾子

授業の概要

認知心理学は、これらの心の働きを支える仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。本授業では、本授業では、認知心理学の幅広い研究領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルや、認知研究知見が社会や技術へ応用される例を紹介し、脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めてもらうよう指導した。

授業の問題点

授業アンケートから、学習態度に関する全ての項目で、平均よりも低い評価を受けた。特に「質問や発言をしましたか」の項目は、昨年度よりも学習態度は向上しているものの、低い評価であった。講義形式の授業であったことで、受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。他の項目についても、予習復習を課した量が少なかったことが、授業外学習のモチベーションの維持につなげられなかったのかもしれない。ノートやメモについては、良く取る学生とそうでない学生に分かれたようであった。

学生の授業満足度

授業アンケートから、授業内容、授業方法、授業満足度の全ての項目で、4.5前後かつ平均よりも高い評価を受けた。特に、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」などの項目では高い満足度が得られ、各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれたことが分かった。最も満足度が低かった「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目については、本学の多くの学生が関心の強い臨床系の心理学と異なり、基礎心理学分野であったことが大きく影響した可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記5項目について以下の改善を実施することとする。

- ・出席・課題提出について：出欠や課題提出状況の可視化をして出席・提出を促す
- ・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題内容・量へ修正する
- ・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
- ・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
- ・授業内容への興味について：より身近な話題を導入として興味を促す

その他の項目についても評価がより高まるよう、改善を検討する。

その他

授業内容に関する自分の興味を話しに来てくれたり、わからなかったことを積極的に質問してくれたりと、意欲的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ、教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく、日頃の生活と結び付けて考えるスキルを身に付けていただけた授業が提供できるよう、今後一層励みます。

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働分野等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、(ア) 要支援者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、そして(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の3点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

すべてのアンケート項目が平均点を上回っており、目立った問題点はみられなかった。項目ごとに相対的にみると、「質問や発言をしましたか」の項目が4.4点と他の項目に比べやや低くなっており、一部、質問や発言を十分にできなかったと感じている学生がいるかもしれない。

学生の授業満足度

授業の満足度は全員が満点の5点を付けていた。本科目は公認心理師試験受験資格取得のための選抜科目であり、全員が目的意識をもって積極的に授業に取り組んでいたことと、実習先の指導者の先生方がそれに応えて下さったことが満足度が高くなった要因と考えている。

授業改善の課題と方策

全員が積極的に自分の意見を発言したり、質問したりできるよう、あたたかな雰囲気でのディスカッションを心がけたい。また、事前学習や事後学習は課題の量も多いため、重要なポイントを事前に十分に伝えるようにしたいと考えている。

その他

特になし。

科目名	専門演習
担当者	伊里 綾子

科目名	卒業論文又は卒業研究
担当者	伊里 綾子

授業の概要

まず前半は、心理学の研究手法を用いた論文の収集方法と読み方を学び、各自興味のある文献について発表をしていただきます。また、発表や質疑応答を通じて、様々な心理学の研究手法、分析法について学びます。後半では、文献講読と発表で培った知識をもとに、自身の興味関心のあるテーマについて研究計画を立て、可能な範囲でデータの収集を行い、分析や考察をします。また、その内容について発表・レポート作成を行います。一連の手続きの体験から得られた改善点等を、卒業研究に生かすことができるよう、指導を行います。

授業の問題点

ほぼ全てのアンケート項目が平均点を上回っていたが、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」と「ノートやメモ等を取りましたか」の得点が平均を下回っていた。出席に関する項目や、質問・発言に関する項目は大幅に平均を上回っていたことを踏まえると、学生が主に授業中のやりとりによって学んでいたことがうかがわれる。

学生の授業満足度

授業満足度に関する項目も平均を上回っていた。授業は学生主体の発表形式になっているため、自身の発表に興味を持って取り組むことや、他の学生の発表から学ぶことができていると考えられる。

また、学生の発表のみではわからない点の知識を教員が補ったことも、有効であったと思われる。

授業改善の課題と方策

発表が多い授業であるため、授業外学習に負担をかけすぎないように配慮していたが、かえって予習・復習時間が短くなってしまっていたかもしれない。自分の担当箇所以外の論文を事前に読んで授業に臨むようにすることなどで、授業から得られるものが多くなると思われるため、今後このような対応を考えていきたい。

その他

特になし。

授業の概要

これまでの学びの集大成として、心理学研究の実施と、それに基づいた卒業論文の執筆ができるよう指導する。具体的には、各自の興味のあるテーマについて先行研究をレビューしたうえで、研究目的を明らかにし、研究計画を立てる。さらに、研究計画に基づいて調査もしくは実験を実施し、収集したデータについて分析し、その結果を考察して卒業論文としてまとめられるよう指導する。

授業の問題点

ほとんどのアンケート項目が平均点を上回っていた中で、「出席や課題提出等はしましたか」という項目がわずかに平均を下回っていた。実際に、出席した際は積極的に課題に取り組んだり、質問をしたりしているものの、欠席が多い学生も多かったように思われる。

学生の授業満足度

全員が満点の5点で評価しており、満足度が高かったことがうかがわれる。学生が自身でテーマを見つけ、自分の興味を持てる課題に取り組むことができていることや、一人一人のペースに合わせた指導を心がけたことの成果であると考えている。

今後は卒業論文の完成によって、学生一人一人が達成感を味わえるよう、引き続き取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

授業の問題点で挙げた通り、出席と課題の提出が今後の課題となる。出席状況が芳しくない学生については、こまめに個別に連絡をし、フォローするなどして、モチベーションを維持できるような働きかけを行いたい。課題についても、一人一人に合わせた難易度と量の課題を心がけ、着実に前進できるよう工夫したいと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	心理演習
担当者	伊里 綾子・中谷 隆子

授業の概要

次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討をすることで、公認心理師の業務に必要な心理支援の基本的な知識および技能を習得できるよう指導する。

- ・心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション、心理検査および心理面接の実施、地域支援の実施
- ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- ・心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- ・多職種連携及び地域連携
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

授業の問題点

いずれのアンケート項目も平均点よりも高く、大きな問題点は見られなかった。

学生の授業満足度

満足度に関する項目は2項目とも4点台後半と平均点を上回っており、満足度の高い授業となっていることがうかがえた。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」という項目が平均点3.30点に対して4.09点と平均は上回っていたものの、他の項目に比して本科目内では低い得点となっていた。学生参加型の演習であることも考えると、質問や発言はより活発にしていく必要があると考えられる。グループワークの際、発表をする人が固定される傾向がみられたため、全員に発表し発言することの重要性を説明し、積極的な発言を促していきたいと考える。

その他

授業内に回収した授業への感想も含め、より質の高い授業の提供に努めたい。

授業改善書

科目名	心理実習
担当者	伊里 綾子

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働分野等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、(ア) 要支援者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、そして(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の3点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

すべてのアンケート項目が平均点を上回っており、目立った問題点はみられなかった。

学生の授業満足度

授業の満足度は全員が満点の5点を付けていた。本科目は公認心理師試験受験資格取得のための選抜科目であり、全員が目的意識をもって積極的に授業に取り組んでいたことと、実習先の指導者の先生方がそれに応えて下さったことが、満足度の高さの要因と考えている。

授業改善の課題と方策

全員が積極的に自分の意見を発言したり、質問したりできるよう、あたたかな雰囲気でのディスカッションを心がけたい。事後学習ではできるだけ実習での率直な感想を発表してもらい、知識だけでなく、感情的・体験的な学びを得られるよう取り組んでいく。

その他

特になし。

科目名	専門演習
担当者	伊里 綾子

科目名	卒業論文又は卒業研究
担当者	伊里 綾子

授業の概要

まず前半は、心理学の研究手法を用いた論文の収集方法と読み方を学び、各自興味のある文献について発表をしていただきます。また、発表や質疑応答を通じて、様々な心理学の研究手法、分析法について学びます。後半では、文献講読と発表で培った知識をもとに、自身の興味関心のあるテーマについて研究計画を立て、その内容について発表・レポート作成を行います。一連の手続きの体験から得られた改善点等を、卒業研究に生かすことができるよう、指導を行います。

授業の問題点

春期のアンケートにおいて「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」が平均を下回っていたが、今回のアンケートでは平均3.81点に対し4.50点となっており、改善がみられた。ただし、「ノートやメモ等を取りましたか」の得点は変わらず平均をやや下回っていた。

学生の授業満足度

満足度に関する項目は2項目とも満点であり、本科目の満足度は総じて高かったと思われる。

授業改善の課題と方策

ノートやメモに関する得点がやや低めとなったのは、自分の発表へのコメントのみをノートに取っていたためと考えられる。他者の発表へのコメントを自身の学習に活かす方法を指導し、自分の発表以外においても積極的な学習を促したい。

また、質問や発言をしたかの項目も、全体の平均は上回っていたものの科目内では相対的に低めの得点となっていたため、アイスブレイク等によって全員が発言しやすい雰囲気を作り、他者の前での発言が苦手な学生も安心して発言できる環境を作っていく。

その他

特になし。

授業の概要

これまでの学びの集大成として、心理学研究の実施と、それに基づいた卒業論文の執筆ができるよう指導する。具体的には、各自の興味のあるテーマについて先行研究をレビューしたうえで、研究目的を明らかにし、研究計画を立てる。さらに、研究計画に基づいて調査もしくは実験を実施し、収集したデータについて分析し、その結果を考察して卒業論文としてまとめられるよう指導する。

授業の問題点

ほとんどのアンケート項目が平均点を上回っていた中で、「授業外学習をしましたか」という項目がわずかに平均を下回っていた。実際に、出席した際は積極的に課題に取り組んだり、質問をしたりしているものの、授業外で自主的に卒論を進めることの難しさがあったかもしれない。

学生の授業満足度

2項目ともに平均点を上回っており、満足度が高かったことがうかがわれる。学生が自身でテーマを見つけ、自分の興味のある課題に取り組むことができていることや、一人一人のペースに合わせた指導を心がけたことの成果であると考えている。

授業改善の課題と方策

授業の問題点で挙げた通り、授業外で自主的に卒論を書き進めることの難しさが今後の課題である。指導に対応して執筆することは可能であるが、自身で調べ、問題を解決する力を伸ばしていく必要があると思われる。論文だけでなく、分析方法や執筆方法の調べ方を教授し、学生が自主的に課題を進められる工夫を行っていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	カウンセリング心理学
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

本講義では、様々な心理療法やカウンセリングの基本を理解するとともに、訪問による支援や地域支援、心の健康教育、コミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮などについて学習することを目的とする。代表的な心理療法やカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について学習する。

講義全体を通して、人々の心理的な問題や苦痛に関わる様々な支援活動についての理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評定は4.5以上であるが、授業外学習(3.70)、質問や発言の有無(2.83)の質問項目は低評価であった。特に質問や発言の有無は他の平均と比較して低値であった。受講生には、対面では授業後、オンラインでは動画視聴後に感想を書いてもらい、次の授業開始時に匿名で感想を紹介して意見共有を行った。そのため、授業中に学生を指名して発言を求めることがなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか(4.57)、授業は満足できたか(4.52)となっており、平均点よりもどちらも高評価であった。

また、授業の方法や資料はわかりやすかつたかについては、4.59であった。授業資料は、事前にすべて教員が印刷して配布する形式をとった。

授業改善の課題と方策

2022年度春学期は、一昨年度、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、2グループに分けた対面授業とオンライン授業(オンデマンド型)のハイブリッド形式で行った。オンライン授業で課した動画視聴型の講義は、受講生によって取り組みの程度が様々であり、習得の程度に差が出ると考えられるため、学習の程度が反映できるように課題を工夫する必要があるだろう。

カウンセリング心理学(心理学的支援法)は、様々な心理療法を紹介するため、理論の理解だけでなく、体験を通じた理解も必要であると考えられる。全面的に対面授業が再開された場合は、より体験形式を取り入れた授業展開を行っていききたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	心理学実験
担当者	泉水・米村・川久保

授業の概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、触二点閾の3種目について、実験を行い、レポートを作成する。受講生は毎回、数名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組む。1つの実験種目につき3週から4週かけて、実験の実施、データの記録・整理、データ分析を行う。そして、実験結果に基づき、各自が実験レポートを作成する。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評定が4.5以上であり、非常に高い評価であった。質問や発言をしまったか(3.91)は、4以下であったが、平均点(3.30)よりも高い点数であったため、概ね高評価であったといえる。特に、授業外学習(4.55)は、平均点(3.81)よりも高値であった。これは実験科目という授業特性が大きく影響しており、講義科目の授業と比べて、学生が実験レポート作成に多くの時間を費やしたと考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか(4.91)、授業は満足できたか(4.91)となっており、ほぼ5点満点に近い数値であった。毎回出席、実験実施、レポート作成は、学生にとっては負荷が大きいものであつたと思われるが、その反面で得るものが大きかつたと推察される。授業の方法や資料はわかりやすかつたかについては、4.91であり、非常に高い評価であった。

授業改善の課題と方策

全体を通して、非常に高評価であった。学生の今度もアンケートの回答者数は11名であり、受講生全員が回答していた。そのため、調査結果は信頼できる結果であるといえる。毎回出席とレポート提出という基準を提示した上で、受講した学生であつたため、学生のモチベーションも高かつた。学生の期待に応えることができるよう、今後もよりよい授業を提供していききたい。

その他

特になし

科目名	神経生理心理学
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は、生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ、人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め、身体機能の生理学の基礎をふまえながら、知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ、これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用（精神障害、高次脳機能障害）について学ぶことで、心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評価が4以上であるが、授業外学習（3.41）、質問や発言の有無（2.94）の質問項目は低評価であった。受講生が授業後にコメントカードに感想を書いてもらい、次の授業開始時に共有する方で意見共有を行った。この点は、毎回の振り返りがよい復習となったとコメントがあった。ただ講義形式であったため、授業中に学生を指名して発言を求めることがなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか（4.65）、授業は満足できたか（4.59）となっており、全体と比較して同程度の評価であった。授業の方法や資料はわかりやすかつたかについては、4.63であった。

授業改善の課題と方策

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、2020年度、2021年度と同様に、2グループに分けた隔週対面授業であった。隔週の対面授業と、オンライン授業（オンデマンド型）を並行して実施した。おおむね高評価であり、次年度も資料提示などでオンラインをしながら授業進行が望ましいと考えられる。

その他

特になし

科目名	福祉心理学
担当者	佐藤洋輔

授業の概要

本授業では高齢者や子ども、女性、障害を持つ人等、社会の中で弱い立場に置かれがちな人びとに対して適切な支援を行い、あらゆる年齢のすべての人が健康で幸福な生活を送るために、福祉心理学の視点から解説した。具体的には、様々な福祉現場において生じる問題やその背景、心理社会的課題について理解し、福祉現場における心理職の基本的な活動や倫理、必要な支援についての知識を深めることを目的として視聴覚資料の活用、現職のゲストスピーカーによる講義も含めて説明を行った。

授業の問題点

本授業の問題点としては、次の2点が挙げられる。
 第一に、時事問題や社会問題などの映像教材を用いて、福祉心理学的な課題を身近なものとして理解できるよう工夫を行ったものの、資料等を見て「何を問題と感じたのか」、「どのような支援が必要と思ったのか」などの感想を共有する場が少なかったことが挙げられる。福祉心理学の知識を理解し、適切な支援につなげるためには受講者自身が問題意識を持ち、解決に向けて模索する態度を育むような工夫が重要と考えられる。
 第二に、毎回の授業後でのリアクションペーパーを通じて教員側から授業への質問を回答するなど、教員—学生間の双方向的なコミュニケーションについて意識していたものの、授業内では双方向コミュニケーションが可能なワークなどの実施は限られたものであった。受講生の自発的な学びを促すためには、リアルタイムで受講生が「授業に参加している」という感覚を持つことが重要であると考えられ、リアクションペーパーだけでなく授業内での双方向コミュニケーションに関する工夫も必要と思われる。

学生の授業満足度

項目全体としては多くの項目が平均点を上回っており、「Ⅲ. 授業満足度」についても4.57-4.63点と比較的多くの学生が満足を感じていたと考えられる。一方で「質問や発言をしまったか（2.87点）」と「授業の内容や量は適切でしたか（4.17点）」については平均点を下回っていた。先述した通り、感想のシェアやワークの機会が限られていたために、授業内で発言をする機会が少なく、また教員による講義が授業の大部分を占めていたことで、学生にとっては情報量が過多となってしまった可能性が考えられる。

授業改善の課題と方策

以上のことから、本授業の改善における課題と方策としては次のことが考えられる。まずは、視聴覚資料や教員からの問題提示に対して、学生が十分に検討し、他の学生と意見を共有できる時間を確保することである。このことにより、学生が福祉的な問題を自らにも関わる問題であると認識し、また他の学生の考え方をすることで多角的な視点から問題を分析する視点を身につけることが可能となると考えられる。
 そして、グループワークなどで上がった意見をさらに全体で共有し、教員からのフィードバックを行うなどの方法によって、授業内での双方向コミュニケーションをより充実させることが必要であると考えられる。その結果、学生自身も授業の構築に参加し、受け身ではなく自発的な学習態度を育むことが可能となると考えられる。
 また、以上の方策により授業を改善することで、学生の授業満足度で平均点を下回っていた「適切な授業の内容・量」の問題についても解決可能と思われる。

その他

科目名	キャリア心理学
担当者	佐藤 洋輔

授業の概要

本授業では、価値観が多様化する現代において、特に人生の長い時間を費やす「職業生活」の視点から、自分にあった働き方や仕事に対するやりがいを考えるため、「キャリア」に関する代表的な心理理論を講義し、授業内個人ワーク・グループワークを通じて大学生活の過ごし方を含めた今後のキャリア・プランニングに取り組む機会を提供した。

授業の問題点

本授業の問題点としては、次の2点が挙げられる。まず第1に、キャリアに関して幅広いテーマで授業を行ったために、1つ1つのテーマについての掘り下げが少なく、学生が授業の内容について十分に理解を深められなかった可能性があることである。そして第2に、本授業ではグループワークを授業の核としていた一方で、毎回のワークに取り組むグループのメンバーには流動性が乏しく、多様な価値観に触れる機会を十分に提供できなかったことである。

学生の授業満足度

学生の授業満足度の傾向としては、次のとおりである。まず、授業についての評価を示す10項目については、すべての項目で全体の平均点を上回っており、本授業に対する学生の評価は比較的高いものであったと考えられる。特に「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の項目は4.74点と全10項目の中で最も高く、毎回の授業冒頭でその日に扱うテーマについての導入や、そのテーマに関する授業の進め方、また全15回の授業におけるそのテーマの位置づけなどを説明したことで、授業に対する学生の理解が増進されたと考えられる。一方で学生の学習態度については、いずれの項目も全体平均を下回っており、授業内でのワークが学びの大部分を占めていたことで、かえって予習・復習を含む学生の主体的な学びについては十分に焦点が当てられなかったことが考えられる。

授業改善の課題と方策

以上のことから、本授業の改善における課題と方策としては次のことが考えられる。まず、授業内でのワークについては、毎回の授業でより多様な学生と交流する機会を保障できるよう、学生の興味に応じたグループ分けや、ランダムなグループの割り振りなどの工夫が有効であると考えられる。また、1つのテーマについての学びを深め、また学生が授業時間外も含めて積極的に学習に取り組むために、1つのテーマを複数の授業回に分け、授業で学んだことを授業外の時間で実践し、次の授業でシェアするなどの連続性を重視した授業計画の立案が有効であると考えられる。

その他

本授業では、職業生活の視点からキャリアについて考え、実践することを目的としていたため、任意の課題としてインターンシップ等への参加やその報告レポートの提出を課していた。しかしながら、実際に提出されたレポートの数は必ずしも多くなく、学びを実践に結びつけるためには課題が存在することも明らかとなった。本授業の内容が大学生活の過ごし方を考える一つの助けとなるために、ボランティアやインターンシップの紹介、また授業内ディスカッションを通じての体験の共有など、学生がより行動を起こしやすくするための工夫も重要であると考えられる。

科目名	学校心理学（教育・学校心理学）
担当者	中谷 隆子

授業の概要

本授業では、①学校心理学の枠組みを理解し、それに基づき子どもや学校に関わる諸問題と背景について説明できる、②心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を習得する、③学校教育現場で求められる基本的な態度やスキルを理解し日頃から意識できる、の3点の到達目標を達成するために、ICTを活用したアクティブラーニング形式で授業を実施するよう心掛けた。

具体的には、教員と学生が対話する双方向型授業や、個別または小グループに分かれてワークを行う体験型学習の機会を織り交ぜ、学生が主体的に関わり意欲をもって援助サービスのスキルを習得できるよう工夫した。また、授業後に毎回Formsより授業内容の感想を提出するよう課し、学習が定着するよう心がけた。非対面授業グループに対しては対面授業と同様の内容をあらかじめ動画撮影し、当日に配信することによって、対面及び非対面間の学習進度を平等に保つよう意識した。復習や学習の進化に役立てることができるよう配信動画および授業で使用したスライドは全てTeams上で共有した。

授業の問題点

授業アンケート結果によると、学習態度および授業評価ともに全ての質問項目で平均を上回る結果を得ることができた。そのうち、平均とほぼ同値であった「Ⅱ授業方法：Q6 毎回の授業は適切な内容や量でしたか」を授業の問題点とみなし、振り返りたい。

本授業は対面および非対面グループに分けて授業を実施した。対面グループにおいては、前回授業で寄せられた感想をフィードバックする時間が長かったため、取り扱うべき授業内容の質や量が不十分であった可能性がある。一方非対面グループにおいては、配信動画の時間数が40～50分と長時間であるにもかかわらず、さらに動画への感想も課したため、課題が過剰であった可能性がある。

学生の授業満足度

授業アンケート「Ⅲ授業満足度について」の結果は、いずれも最大値5であり、満足度は高かったと考えられる。ただし、アンケート回答者数が3名と少数であり、また、自由記述欄の記入もなかったことから、結果に慢心することなく今後も担当する各授業や受講学生へ真摯に誠実に向き合い、授業の質を改善・向上させてゆきたい。

授業改善の課題と方策

「授業の問題点」に基づき、下記に授業改善の課題と方策について検討する。

上述したように、対面および非対面グループの授業方法や内容には、それぞれに問題点があった。対面授業では、1回分の授業構成をあらかじめ丁寧に計画し、1.感想カードフィードバック、2.座学授業および質疑応答、3.体験的ワークの3点をバランス良く組み込む努力をした。また、非対面授業では、2,3が困難であるため、授業動画及びForms課題の内容を縮小し、予復習や課題内容について時間をかけて理解・熟考することができるようにした。

その他

専任教員

人間学部

子ども発達学科

授業改善書

科目名	教職概論
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を講じる科目として、最初に教育についての基本的な諸概念について、教えるという行為に関わって解説した。その上で、教員という職業がどのように考えられてきたかを概観しつつ、今日の教員に求められる資質を考察した。これらの基礎的、歴史的な視座をふまえて、教員の生活や教員に関する法制について、今日の状況を中心に解説した。

毎授業時の前に小レポート課題を課し、それをふまえて講義を実施し、最後に授業前とは別課題で小レポートを書かせるという方式を取っている。

授業の問題点

アンケートの数値を見る限り、特に問題として取り上げる点は見られない。オンラインと対面の混在した期間等も経て今は全面対面に復しているが、それでも大きな変化ないことを勘案すると、喫緊の改善を要する重大な問題はないと考えてよいものと思われる。

学生の授業満足度

満足度に関する質問については、4点台中盤で、昨年度と同程度である。出席者が多くないが、その分意欲の高い学生はきちんと授業を受けているということの証左でもあり、おおむね妥当なラインだと考えている。

授業改善の課題と方策

グループディスカッションを止めて、授業開始時レポートをウェブ (MicrosoftForms) で回答し、全レポートに目を通した上でコメントするという方式を取って3年目になったが、一定の水準は維持できている。今後はこの方式を基本線として継続していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教育課程論
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。) を講じる科目として、最初に教育課程の基準である学習指導要領の内容について、その歴史の変遷をふまえながら解説した。その上で、カリキュラム・マネジメントに必要な知識・理論を解説した。

授業の問題点

アンケートの数値を見る限り、特に問題として取り上げる点は見られない。出席者が少ないが、中高の教職課程はドロップアウトする学生も出るので、それ自体は致し方ないところである。

学生の授業満足度

満足度に関する質問については満点であるが、出席者が多くないので、数値の妥当性に難は残る。一方、小テストを実施した後でのアンケートということ考えると、回答者が意欲の高い学生に限定されている点は勘案する必要があるものの、おおむね妥当なラインだと考えている。

授業改善の課題と方策

上記の問題点とも重複するが、特段改善を要する点は今のところなさそうである。しかしながら、本科目を担当するのは今年度が初めてなので、来年度以降しばらく状況を注視する必要があるだろう。

その他

特になし。

科目名	教育原理
担当者	吉野 剛弘

科目名	教育心理学
担当者	尾形和男

授業の概要

教育の意義、思想及び歴史を講じる科目として、それぞれの項目について解説する純然たる講義形式で授業を進めた。

基本的な項目についての知識の定着を図るため、定期試験のほかに小テストを2回実施した。これは概して試験というものに慣れていない履修者のレディネスを考慮したとともに、4年次に受験することになるであろう各種採用試験への準備も兼ねてのことである。

授業の問題点

昨年度と比べて、数値に大きな変化はない。全体的に4点以上のものがほとんどであり、特段の問題点はない。

昨年度に引き続き、今年度も欠席率が高い（ちなみに、15%の履修者が定期試験を欠席している）ため、この回答で示されている数値は、比較的眞面目に授業を聞いている学生によるものだろう。そう考えると、実態値はもっと低いようにも思われるが、比較のしようがないため何とも言い難い。

学生の授業満足度

授業満足度についてもおおむね昨年並みである。

今年度は1クラス開講に比べて2年目となるが、それでも数値に大きなブレがないことを考えれば、おおむね問題ないとみてよいものと考ええる。

授業改善の課題と方策

来年度からは学則変更にもない履修者が減少するので、現状の授業方法の改善というよりも少人数での授業方法の模索が必要になるのだろう。

知識集約型の授業としている関係上、成績不振者が一定数出てしまう点は、例年通りである。学則変更にもなう科目の位置づけが変わっても、再履修者がいる以上、引き続き残る問題である。そのような学生への対応は引き続き考える必要があるだろう。ただし、各種免許の必修科目である以上、レベルを下げないことが前提である。

その他

特になし。

授業の概要

教育心理学の意義・目的、内容・領域について概観すると同時に、教育・保育に関わる、子どもの発達、子どもが主体的に取り組める授業・保育の展開、教師・保育士のリーダーシップ、学習の評価、障害児の理解と支援について学ぶ。また、家庭との連携による子どもの成長・発達も考える。

授業の問題点

学生の授業への参加意欲に関して、質問をしたという項目は平均以上の得点であり積極的な参加状況を示していることが理解できる。しかし、授業方法に関する質問の「学生からの質問に対してきちんと対応しましたか」はクラスによっても異なるものの、学生の参加意欲をしっかりと受け止め伸ばす取り組みに工夫を凝らし、学生と一体となる授業展開がさらに求められるように思われる。

学生の授業満足度

授業に対する満足度に関してはほぼ平均的な値ではあるものの、クラスによっては若干低めの場合もあり、満足度を高める工夫が求められる。

授業の内容は教育に関わる諸問題に対する心理学的な視点からの対応を考えることが主になる一方で、心理学的視点を含む専門的な視点や専門用語も入るため、より丁寧な説明に基づいたわかりやすい内容を検討したい。

授業改善の課題と方策

主として、授業の問題点において触れたように学生からの意見や質問を出してもらうような授業展開をしたが、学生からの反応に対する応答により工夫が必要と考える。また、いじめの問題を取り上げた際にDVDによる具体化を図ったものの内容がやや抽象的なものであり、より具体的に内容に含めた内容にする必要性も感じる。

教育心理学はやや専門用語が含まれ、学習への動機づけ、クラス経営、効果的な教え方など重要な内容を扱っているために説明もより具体的に分かりやすくする必要性を改めて感じる。このようなことを通して教育心理学の必要性をより強く感じてもらうことが求められると考える。

その他

特になし。

科目名	子どもの理解と援助
担当者	尾形和男

科目名	保育方法論
担当者	尾形和男

授業の概要
 保育実践において実際の子どもに即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進めるために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊び、子ども同士のやり取りの過程の中で子ども理解する視点を学ぶ。合わせて、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について実践的に学ぶ。

授業の概要
 幼稚園、保育所、認定こども園においてこれからの社会を担う個々の子どもの持つ能力を伸ばすために保育をどのように展開して行ったら良いのか。保育についての基本的な考え方を学ぶと同時に、基本的な方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）・教材の活用方法についての基礎的な知識・技能を身につける。

授業の問題点
 3クラスに渡る授業あり、同じ内容を3回繰り返す講義である。基本的には3クラス共に受講生の授業態度は平均以上であり、積極的に関心を持って取り組んでいた。また、授業内容についても平均以上の取り組みを示している。しかし、授業方法に関して、1クラスを除き、Q7「学生からの質問にきちんと対応した」Q8「授業を円滑に進めるための配慮」が平均以下であった。
 全体として、平均以上の評価の中で唯一の反省点として改善が必要と考える。

授業の問題点
 受講生数が多く、グループワークなどの学生主体のアクティブラーニングが十分に実施できなかった。また、秋期の3年生は実習が重なり、しかもコロナ問題によって実習時期が変更などになり、そのためにオンラインでの授業も併せて行うため統一した流れで授業を進めるのが難しかった。
 かし、実習に関連付けて授業内容を構成するなど、学生にとって役立つ内容に構成するなどの工夫を行った。

学生の授業満足度
 概ね、学習態度、授業内容、授業方法、授業満足度共に高い評価と考えられ、特に「授業満足度」に関しては得るところがある、という高い評価が得られていると考える。
 今後共により授業内容の改善と工夫を継続してすすめる必要がある。

学生の授業満足度
 今回の授業アンケートを見るが限りでは、受講生の多くは「学習態度」「授業内容」「授業方法」「授業満足度」共に平均以上の評価であり、意外であった。
 受講生の意見欄に、使用する資料による理解の深まり、現場の様子、深まり、などが指摘されており、今後とも参考意見として検討を加える必要性を感じる。

授業改善の課題と方策
 学生の授業満足度は概ね良好と考えられるものの、3クラスの評価得点にばらつきがある。このことは以前にも確認されたのであるが、同じ内容の授業を同じように進めていてもこのような結果になっている。これは、授業に問題点の箇所でも触れたように、学生の質問に対する対応をより丁寧にする必要性の一旦を示すものと考えられる。
 同じように授業を進めても、受講生にも興味や理解の仕方、受け取り方など個人差があるのであり、それに対するよりきめ細かな対応が求められると考える。そのために授業の中で小テストを行い理解の様子を具体的に把握し、理解と興味をより深められる取り組みも必要と思われる。

授業改善の課題と方策
 授業の問題点で触れたようなことが今後の問題点として指摘できる。基本は授業の目標に沿って、学生主体のアクティブラーニングを進めるようにしたいと考える。

その他
 特にはなし。

その他
 特にはなし。

科目名	保育・教職実践演習
担当者	尾形和男・千崎美恵・東元りか

科目名	保育内容（健康）Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要

将来的に、教育・保育の現場において専門家として十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。このような最終目的に沿うために次のことを具体的な狙いとする。そのために現在に至るまでの、教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として最小限必要な資質能力が習得されているかどうかを各自確認する。このようなチェックを通して、教員・保育士になる上で自分が習得できていない課題や問題点を明確にし、問題点の改善に努めると同時に不足している知識や技能を補いその定着を図ることを目的とする。

授業の問題点

受講生の「学習態度」については全て平均以上となり学生は高い関心を持って受講しているといえる。しかし、「授業内容」「授業方法」「授業満足度」など、授業そのものの評価については平均に到達していない。これは、学生は今まで授業、演習、実習などを通して一通りの知識や能力を身につけており、今回の本授業は学生の身につけているその領域を再確認する程度のものであった可能性も考えられる。

本演習は3名の教員により、それぞれの専門領域をより精選して学生に伝えているのであるが、それが十分でなかったと思われる。その理由として以下のことが考えられる。

- ① 3名の教員による授業内容の繋がりが不十分ではなかったか。学生からすると、3名の教員の専門的な知識・技能をばらばらに修得していることになると考えられ、何か新しい有力な知識・技能として身についたとは思っていないのではないか。
- ② 3名の教員だけでは本演習の目的を達成するのはかなり難しいと思われる。これについては、担当教員をもっと増やし、実践的・専門的内容をより深く広げる必要があると考えられる。

学生の授業満足度

授業満足度については4点台であり不満足ではなく、概ね良好な評価と思われる。しかし、平均点には到達しておらず学生は必ずしも十分な満足感を得られたとはいえないと思われる。

授業改善の課題と方策

授業の問題点で触れたように、学生が授業を通して今まで以上に新しい、しかも実戦力として身についたと実感できるように授業を進めることがより求められる。そのためにも、本演習は現場での実践的な能力を形成するためのものであることを、授業当初に改めて力説することも不可欠と考える。

現在3名での運営であるが、来年度は3名の専門性を確認しあった上で連続性を持たせる、専門性をより深めるなどの工夫も不可欠な条件の一つとして指摘できる。

その他

特にはなし。

授業の概要

本授業では、保育内容「健康」のねらい、内容、方法に関する理解を深めることを目的としています。具体的には、乳幼児の心身の健康に関する内容、健康な生活習慣や安全な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を学習するとともに、乳幼児に対する心身の健康の重要性を伝達するための「保育教材」を作成し、子どもの健やかな成長を育むための保育方法を学びます。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成へ結びつける手がかりをつかむことを目標としています。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」項目において、ポイントが低い傾向が認められました。(2限-4.05、3限-4.36、4限-3.90)

学生の授業満足度

学生の満足度は、「4.70~4.76」であり、概ね良好な数値となっています。

授業改善の課題と方策

コロナ禍において質問したり、発言したりすることは、難しい状況にありますが、コメントペーパーを利用するなどの手立てを用いて、質問や意見を求めることもできると考えられます。どのような手法が望ましいか、検討を進めていきたいと思います。

その他

科目名	道徳の指導法
担当者	島田 和幸

授業の概要

学校における道徳教育の在り方を学ぶために特別の教科である道徳科の目標・内容、一般的な「道徳教育」との違い、道徳科の具体的な指導方法、教材の特性などを中心に学習を進めた。これらの学びを通して教育現場で通用する実践的な指導に関する基礎・基本の習得を図るようにしてきた。また、道徳と特別活動、道徳と教科や教科外の領域の学習との「関連的指導」、「地域との連携」など、さらに、学習指導案の作成（指導観・本時の展開）も実施し、道徳指導の具体的実践に接する機会も設定した。

授業の問題点

全てのアンケート項目の中で、「授業外学習」（3. 5 6）だけが、平均点を下回った。これ以外は、平均以上であったので、この点に関する工夫や対策必要である。

学生の授業満足度

授業満足度に関する2項目の評価は、共に、4. 4 6（平均は4. 3 5）となっており、楽しく分かりやすい授業ができたのではないかと思います。今後も、努力を維持していきたい。

授業改善の課題と方策

学生が、気軽に「質問や意見」を言えるようにするためには、機会の設定が必要であるから、例えば、質問紙法を採用するなどして、この問題の改善を図っていききたい。

その他

科目名	特別活動の指導法（月曜日・2限目）
担当者	島田 和幸

授業の概要

特別活動の意義や目的、特別活動の歴史や思想的変遷、学習指導要領などに基づく教師としての特別活動の進め方などについて考えていく授業で、この学習の底流には、絶えず子どもの成長を見守り観察・記録を続けながら、多様な学級内・学年内・全校での活動場面での児童生徒の主体性・自主性の育成を意識した指導を心がけてきた。このような特別活動に関する教師の営みや歴史的意義・思想的変遷も重視しながら子どもにとって意義ある特別活動の在り方に関する講義を進めてきた。

授業の問題点

新型コロナ感染予防のため、感染対応を図りながら、グループ協議や協議内容のグループ別発表（板書による）等をさせる活動を重視してきた。また、学生には講義を聞かせる場面、個別作業をさせる場面、グループ協議をさせる場面、板書させる場面の4形態を意識しながら授業を進めてきた。そのため、学生にとって受身の学習活動が少なく、盛り上がりのある授業となった。

学生の授業満足度

回答した学生の満足度平均値が4.5であった。今後でもできる範囲で、学生が常に受け身となる授業にしないような工夫を図りながら「楽しく活き活きと学生が活動できる授業」をめざしていきたい。

授業改善の課題と方策

今後も新型コロナ感染予防のため、グループでの学習活動等の授業方法には、一定の制約が生じることになったが、ソーシャルディスタンスに留意しながら学生の主体的な学びの場となる工夫を図りつつ、今後も協同学習も重視した授業を展開していきたい。また、論述式課題（レポート）の実施により、文章表現力の育成を狙ってきた。論述の「形式・方法」に学生が慣れてきた気がするが、今後は、形式のみならず内容の充実をめざしていきたい。

その他

毎回の授業で「学習ノート」を印刷・配布し、これをテキスト代りに供覧している。ここでは、いくつかの主要な設問を設け180～200字で文章化させる作業をとったり、授業終末の感想を書かせたりしながら、これを授業終了後に提出させ、出欠確認と学生の理解状況確認もしていた。しなし、今後は、大学生らしく自主・自立をめざさせるため、学習ノートの形式を考え直していきたい。

科目名	家庭支援論
担当者	杉浦浩美

科目名	ジェンダー学
担当者	杉浦 浩美

授業の概要
<p>今学期も A、B グループ分けによる教室授業と遠隔授業の併用となった。毎回、教室授業と遠隔授業のテーマに関連を持たせ、教室授業で講じたテーマについて、翌週の遠隔課題学習に取り組んでもらうことで理解を深める、というやり方で進めた。教室授業では映像素材や応答的ワークを用いるなど、対面授業の満足感を学生がもてるよう、工夫をした。翌週の遠隔授業の課題についても、ねらいや取り組むべきポイントなど、あらかじめ指摘した。さらに教室授業時に、前週の遠隔課題について解説し、提出された回答のなかからすぐれたものを紹介するなど、学生が遠隔授業にも意欲をもてるよう、さまざまに配慮をした。</p>
授業の問題点
<p>保育士資格取得の必修科目であるため、出席が非常に重要となる。よって課題の未提出は細かくチェックをした。課題が未提出だった学生については、教室授業時に指導をしたところ、改善が見られた。</p>
学生の授業満足度
<p>授業評価アンケートについては、ほぼすべての項目で平均を上回っている。ただ昨年度に比べるとポイントを落としている項目もある。教室授業の内容は大きくは変わっていないが、遠隔課題では新しい試みもしており、負担が大きい部分もあったかもしれない。来年度の課題とした。</p>
授業改善の課題と方策
<p>遠隔課題の内容、分量については、FORMSの回答時間等も確認しながら、より一層、学習意欲とその効果を高める努力をしていく。</p>
その他
<p></p>

授業の概要
<p>ジェンダー概念について理解し、ジェンダーの視点から様々な社会事象を読み解く力を身につける。そのうえで日本における男女格差の現状について学び、理解を深める。さらに、男女共同参画社会への政策的アプローチについて学び、社会政策への関心を高めることを目的としている。</p>
授業の問題点
<p>今期もコロナ対応のルールに従い、教室授業と課題学習を交互に行う形式で実施した。講義・課題学習ともに意欲的に取り組む学生がいる一方で、課題の未提出が続く学生もおり、学生の学ぶ意欲には差が見られた。毎年、抽選科目ともなっているため、学ぶ意欲のある学生が登録できるよう、課題の多さをシラバス等で強調するなど、より工夫をしたい。</p>
学生の授業満足度
<p>概ね高評価を得ており、特に問題ないと考えている。「質問や発言をしたか」という項目のみポイントが低くなっているが、大教室であるため質疑応答には難しい点もある。教室全体を使った参加型ワークなどは毎回好評であり、今後も取り組んでいきたい。</p>
授業改善の課題と方策
<p>学生がさらに積極的に発言ができるよう、全員参加型ワークやテーマディスカッションなどの取り組みを強化していく。</p>
その他
<p></p>

科目名	理科
担当者	長友大幸

科目名	初等教科教育法（理科）
担当者	長友大幸

授業の概要

小学校学習指導要領を概説するとともに、教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には、可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして、小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能、安全面での配慮事項など、教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。

授業の問題点

昨年度同様の問題点となるが、久しぶりに理科の学習を行う学生が多いため、小学校理科の全範囲の内容、実験をなるべく取り上げて実施し、復習させたいと考えていた。そのため、限られた時間内で取り組まなければならない、全体的にあわただしい感じの授業が多かった。また、幾分は改善されたもののコロナの影響により十分に取り組むことができない実験観察もあった。

学生の授業満足度

本授業は3コマ開設したが、いずれも4.7以上の評価が得られた。座学にとどまらず、実験や観察を多く取り入れたため、学生も取り組みやすかったものと思われる。例年、折に触れて取り入れている応用的な実験については、昨年よりは改善されたもの今年度もコロナの影響もあり取り組みが十分ではなかったにもかかわらず、学生の興味関心を高めることができたのは幸いであった。

授業改善の課題と方策

限られた時間内で学習内容を完結するために教材、内容の一層の精選をしていきたい。実験についても全て実施するのではなく、事前調査を行うなどして実施数を精選していく必要があると思われる。

その他

特になし

授業の概要

小学校の理科の目標・学習指導・評価のあり方について、具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また、模擬授業を通して、今後あるべき小学校の理科授業について検討し、理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授業の問題点

実験や模擬授業を中心とした学習を本授業では進めるが、受講者の人数から2～3名1班で行うことができたため、きめ細かく指導し、全員1回は模擬授業を行うことができた。授業日の設定をもう少し多くとることでより少数に1班あたりの人数卵を設定して行うことができると思われるため、検討したいと考えている。
理科という教科の性質上、実験道具や設備が必要になることがあるため、実施可能な実験内容に限りがあり、学生の模擬授業を行う際に選択できる授業内容に影響がある。また、春期に理科を履修していない場合、本授業で初めて理科に接することとなる。そのため、知識が曖昧のまま模擬授業を実施することがあることが問題点としてあげられる。また、コロナ禍での授業になるため、実験の内容や回数も制限があることが問題点として考えられる。

学生の授業満足度

学生は各自が工夫して教材をつくり、指導案を立てて熱心に授業に参加していた。それが授業アンケートの結果にも見られており、「授業に満足」が4.3～4.75と高くなっている。本授業は演習的要素を多く含んでいるため、学生自身が積極的に動く場面を数多く作ることができたのが良かったのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

今後の課題としては、受講者数がさらに増えて定員一杯になったときも、密を極力避けながら本年と同じように授業を進められるようにすることである。また、春期に「理科」を履修せずに秋期になって本授業ではじめて理科に接する学生がいるが、その際に、基礎知識を身につけさせた上で模擬授業に取り組みさせるにはどうすればいいか考えていく必要があると思われる。

その他

実験器具などの整備しながら、多くの授業に対応できるよう工夫していく。

科目名	子どもの保健
担当者	堀田正央

科目名	子どもの健康と安全
担当者	堀田 正央

授業の概要

保育士養成課程の必修科目として、法令に沿った内容で子どもの健康についての内容を講義した。保健学分野の科目は「子どもの健康と安全」を含めた2科目となり、「子どもの保健」では子どもの成長・発達を前提に、保育士として必要な感染防御や事故防止を始めとした内容を厚生労働省の各ガイドライン等を参考に総論的に示した。

授業の概要

保育所等における子どものヘルスプロモーションにむけて、保育士として必要な保育環境の構築や保育上の援助・配慮についての知識・技能を学ぶ。具体的には保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、子どもの体調不良等に対する適切な対応、及び保育における感染症対策について、各ガイドライン・統計等に基づいて具体的な理解を深める。また子どもの健康や安全について、保育所での組織的取り組み、保健活動の計画の価、評価改善プロセス等について実践的な力を養う。

授業の問題点

かつて3科目構成であった保育士養成課程の保健学系科目が2科目に減少し、かつ取り上げるべき内容が増えているため、一回一回に盛り込む必要がある量が増え、啻々いた説明が十分に言い難い状況がある。また科目配当年次が1年生であるため、現場の具体的な対策を取り上げた場合に、十分に精緻なイメージが持てない面がある。

授業の問題点

演習科目であるものの、指定保育士養成施設の必修科目として定められた内容が多岐にわたり、新型コロナウイルスの状況下もあって、当初企図していた演習活動が十分に行えない部分があった。
また予習復習等について、結果や評価をフィードバックできる内容がやや少なく、履修者一人ひとりが自分自身の学びの成果を客観的に把握する機会を確保する必要があったと考えられる。

学生の授業満足度

概ね全体の科目の平均値に近いポイントの項目が多かった。必修科目のため履修者数が多く、グループ分け対象科目であったが、オンライン授業等についても過去の方法論の蓄積から、一定の成果を得ることができたと考えられる。提示されたシラバスとの進捗の一致および予習復習についての項目でポイントが他項目と比して低めで、前述の取り上げる広さの範囲と関連した結果であったと思われるが、今後の課題としたい。

学生の授業満足度

ほぼ全ての項目で平均以上の数値となっていることから、一定の満足度があったものと思われる。演習科目のため人数制限があり、比較的少人数での授業であったため、一人ひとりの理解を担当者が把握しやすく、ディスカッション等による相互作用が得られやすい環境であったことが肯定的な評価に繋がったと考える。

授業改善の課題と方策

提示されたシラバスの進捗との一致については、ほぼ完全にシラバス通りの進捗となっており、オンライン授業等と対面授業での学びの進捗に若干の体感差があるのではないかと考える。オンライン授業が今後も展開される場合には、予習/復習を効果的に行うことと併せて、対面授業時に前回オンライン授業時のまとめや次回への接続に関する内容を対面授業時に意識して行きたいと考える。講義科目であり、取り上げる内容が広い特長から、一人ひとりの学生の学びの確認が行い難かった自省もある。欠席したり自習が苦手な学生が置き去りにならないよう、双方向的なコミュニケーションをより心掛けて行きたい。

授業改善の課題と方策

演習活動の内容を質的・量的に見直し、保健活動の実践において具体的に寄与する学びを得ることを目指す。
予習復習等の内容を見直し、定期試験等以外に継続的に履修者が自己の学びを確認できる機会を増やすことで、履修者一人ひとりの目標到達に繋げる。

その他

その他

科目名	障害児保育 I
担当者	増南太志

授業の概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育 I では、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史の変遷などを指導する。授業においては、テキストや視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、ディスカッション等により、知識を深められるよう指導する。

授業の問題点

授業は、講義によって基本的な考え方を学習し、ディスカッションによって内容を深めていく形をとった。全体的には、多くの学生が授業に興味をもっており、積極的に参加していた。授業中、教員から問いかけたことに対してはよく反応が返ってきており、ときには質問もあがっていた。

普段関わらない障害児等を対象とした内容であるため、講義形式の授業では、①視聴覚教材等を用いてできるだけイメージしやすくするとともに、②指定教科書をそのまま黒板に投影することで、どこにどのような内容をメモすれば良いのかわかるように工夫した。また、ディスカッションにおいては、グループを入れ替えながら多様な考え方を共有するように取り組んだ。

授業の問題点としては、予習復習のためのサポートが不十分であったことがあげられる。予習復習のためには教科書を使用し、そのどこを見ておくなどを案内することが考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に関しては、視聴覚教材で障害のある子どもの感じている世界を示すなどして、できるだけイメージしやすくすることが好評であった。また、ディスカッションによって様々な考えを知ることができたという意見もあった。予習復習をしていないとする学生が多かったが、こちらも予習復習をしやすくするようなサポートをしていなかった点は課題である。今回は、授業当日の配布プリントのみで、教科書を使用していなかったため、予習復習がやりにくい状況にあったと思われる。

授業改善の課題と方策

予習復習への支援としては、教科書を使用し、予習すべき場所や復習すべき場所を授業内で案内することが考えられる。またそれを実施できるような課題を用意する必要がある。一方それらの課題については、学生の負担になり過ぎないものにすることも重要である。

その他

科目名	障害児保育 II
担当者	増南太志

授業の概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育 I では、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史の変遷などを指導する。授業においては、テキストや視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、ディスカッション等により、知識を深められるよう指導する。

授業の問題点

授業は、講義によって基本的な考え方を学習し、ディスカッションによって内容を深めていく形をとった。全体的には、多くの学生が授業に興味をもっており、積極的に参加していた。授業中、教員から問いかけたことに対してはよく反応が返ってきており、ときには質問もあがっていた。

普段関わらない障害児等を対象とした内容であるため、講義形式の授業では、①視聴覚教材等を用いてできるだけイメージしやすくするとともに、②指定教科書をそのまま黒板に投影することで、どこにどのような内容をメモすれば良いのかわかるように工夫した。また、ディスカッションにおいては、グループを入れ替えながら多様な考え方を共有するように取り組んだ。

授業の問題点としては、予習復習のためのサポートが不十分であったことがあげられる。予習復習のためには教科書を使用し、そのどこを見ておくなどを案内することが考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に関しては、視聴覚教材で障害のある子どもの感じている世界を示すなどして、できるだけイメージしやすくすることが好評であった。また、ディスカッションによって様々な考えを知ることができたという意見もあった。予習復習をしていないとする学生が多かったが、こちらも予習復習をしやすくするようなサポートをしていなかった点は課題である。今回は、授業当日の配布プリントのみで、教科書を使用していなかったため、予習復習がやりにくい状況にあったと思われる。

授業改善の課題と方策

予習復習への支援としては、教科書を使用し、予習すべき場所や復習すべき場所を授業内で案内することが考えられる。またそれを実施できるような課題を用意する必要がある。一方それらの課題については、学生の負担になり過ぎないものにすることも重要である。

その他

科目名	日本文学入門
担当者	三浦正雄

授業の概要

日本児童文学の代表作の中から幾つかの作品を選択して教材とします。子どもは、世界を分析したり合理的に解釈したりする力は未発達な部分がありますが、恣意的な分析・合理的な解釈の度が低いからこそ、かえって見えてくるもの・認識できるものがあると思われれます。その意味で、子どもを対象として創作された児童文学には、大人には見えない貴重な世界が描かれていると考えられます。特に異界という視点は、重要な世界認識の転換を読者にもたらすものと考えられます。

この授業では、日本近現代の歴史を背景に日本近現代児童文学の流れ、日本近代文学の流れ、海外児童文学の流れ等を視野に入れながら、代表的な児童文学作品を読み講義します。基本的に講義形式で行いますが、発表形式も取り入れ、毎回作品について全員がコメントを発表します。学外施設見学も行います。

授業の問題点

特に大人数の授業ですので、一人一人の学生を把握するのが難しく、なかには授業に参加できていない学生もいる可能性があります。座席表を作成し学生把握を一人ずつでもできるようにしてゆきたいと思いますが、そうすると、そこでまた時間をくってしまうことがあります。また、コロナ感染症拡大により隔週の授業であるため、課題の量が多くなりがちですが、なかにはこのことで負担を感じている学生もいるようです。

学生の授業満足度

特に大人数の授業ですので、ある程度の満足度に到達できているとは考えます。映像はあまり用いすぎると、本来のこの授業とかけ離れてしまうので、適度に利用しております。課題については、コロナ感染症拡大による特別な授業形態の期間は、減らすことがなかなか困難です。

授業改善の課題と方策

映像はあまり用いすぎると、本来のこの授業とかけ離れてしまうので、適度に利用しておりますが、今後も新たな映像の利用の機会をうかがいたいと考えます。課題については、コロナ感染症拡大による特別な授業形態の期間は、減らすことがなかなか困難ですが、課題提出期間をもう少し長く設定するなどの工夫は可能と考えます。

その他

児童文学を学ぶことを通して、書籍や文学に親しむ機会にできたらと考えます。現在、社会は極端な実学重視の傾向がありますが、本当の学力・人間性・精神性の成長を期すには、人文科学の潜在力こそが底力になると思われれます。この授業をそのきっかけにできたら、本来の全学共通科目の意義を果たすことができるのではないかと考えます。

科目名	文章作成法
担当者	三浦正雄

授業の概要

レポートや論文をはじめ文章の書き方の基礎を指導する授業です。文章を書くための基礎知識から文の作成をへて、文章全体の組み立て、流れ、マナーや読み手に伝わる書き方に至るまで文章を書くための様々な知識や技術について指導しています。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導しています。

「日本語の運用」に続く形で授業を行いますので、「日本語の運用」履修者の受講が望ましいと思われれます。

授業の問題点

「日本語の運用」に続く形で行っていますが、「日本語の運用」を履修した学生が少なく、同じことを再度、学習せざるを得なくなる点があります。

また、大人数が履修した場合、添削が細部まで行き届かないことがあり、この点が問題点だと思います。本年もできるかぎり添削を行うようには致しましたが、大人数のこともあり、不十分な点もあったかと思えます。学生も添削を励みとして、授業に熱意を持つと存じますので、今後もできるかぎり添削をしてゆきたいと存じます。

現在、感染症流行により、授業回数が半減し、十分な指導がしづらい点もあります。

学生の授業満足度

学生の満足度を向上させるためにも、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削法、発表方法、論文課題の出し方などを、考えてゆく必要を感じております。

感染症流行にともない授業回数が半減し、添削が行き届かなかった点や、コメント用紙をあまり活用できなかった点も、学生のニーズに応えることの難しさにつながった感があります。

授業改善の課題と方策

前項に記しましたように、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削、発表方法、論文課題の出し方などを毎年、考えてゆく必要を感じております。

できるかぎり学生のニーズを吸収し、学科を越えた共通項を指導し、また、学生間の相互添削等を取り入れながら、最終的に教員が添削指導できるような工夫をしてゆきたいと存じます。

その他

全学共通科目ではありますが、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目でもありますので、ある程度、子ども発達学科に合わせた内容を入れざるを得ませんが、他学科の学生も履修しているため、幅を持たせる必要があり、この点に難しさがあります。

また、添削指導を行う必要がある科目ではありますが、現在は感染症流行により授業回数が少ないため、人数が多いときの対処が難しい科目であります。

科目名	子どもの造形表現
担当者	森本昭宏

授業の概要

造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくために、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（クレヨン・ポスターカラー・粘土等）の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深める。

授業の問題点

学生への授業アンケートの集計結果は、全体的に平均点を超えていた。『この授業に対するあなたの学習態度』枠の「Q3 質問や発言をしましたか？」の項目が今年は高く目立った。対面回数が通常より半分（コロナ感染対策のため）であるため、机間巡視をしながら一人一人に声掛けを積極的にすることがこの数値に繋がったのかもしれない。「Q2 授業外学習（予習や復習など）をしましたか」については教科書を読んできると、造形材料のケント紙やクレヨン、粘土などを購入してくるなどの課題を出していた。学生は準備物に関しての忘れ物は少なく、教材に適した材料を多く準備出来ている。概ね予習はできているのではと思われる。Q4 のノート取りであるが、製作時間の確保からプリントを配布して、その日の製作手順や課題のねらいを説明している。板書をすると制作時間が取られてしまうため、演習科目では程よいところと考えている。教科書読み、説明、板書、制作と、演習科目ならではのバランスの難しさが挙げられるであろう。

学生の授業満足度

課題オンラインと対面授業を交互に行うため、演習授業としての製作時間の確保に心掛けた。題材設定の理解度を高めるために、詳しく解説した資料をチームズにUPした。作品写真などを多用して、早めに次の課題の予告を繰り返したことから、それぞれ題材の理解は深まったと捉えている。
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の項目に大きな隔たりはないが、2、3、4時限目のうちの3時限目の授業は全体指導で少し丁寧さが欠けていたのであろうか？平均より低いところが反省点である。
今後も丁寧に一人一人に声掛けをして、全体指導も充実させていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の対面とオンライン授業であったため、製作時間の確保に努めた。課題オンラインの週に自宅で進めた作品をフォームズで画像回収して、対面時にパソコン画面を開き、個別指導を行った。昨年よりはきめ細かい指導が出来た。
また、時間内に終わらない作品は図工室の空き時間を使って取り組むように指導した。早い時期から作品を溜めない（作品の完成）ように、今後も促していきたい。その際、自主的に製作する学生に対しては、こちらから積極的に声掛けや指導を試みた。これからも学生の理解を深める指導を今後も継続していきたい。

その他

特になし

科目名	保育内容（表現-造形）I
担当者	森本昭宏

授業の概要

本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付ける。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。
また、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品の見かたについて理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を自らの造形活動の実践と共に理解することである。

授業の問題点

対面とオンラインの交互の授業ということもあり、制作時間の確保と進行具合の把握に難しさを今年も感じた。計画的に時間配分を取ってきたが、学生が1回休むと次に会えるのが2週間後となる。休んだ日の課題持ち帰り指示などに苦労した。課題を補うような意識付けやメールやチームズを活用した指示などの配慮も必要であると感じた。課題提出までの製作時間には十分に配慮してきたが、学内での制作時間がないと感じている様子も見受けられた。
直接の実技指導が実質半分である。紙版画は学内でないインクやパレンが自宅にないなど制約がある。吹き絵やパネルシアター等は自宅で行えるが、道具の必要な課題の進め方は毎年難しい。

学生の授業満足度

今年は締切日を数週間後、又はテスト期間に設定して、Forms を活用した課題の提出も取り入れた。大きい課題は最終日に採点、細かい課題はForms で採点する方式を取った。管理がスムーズに行えた点は、学生に取っても分かりやすかった様である。
欠席した学生も想定して、チームズを使った分かりやすい解説と資料提示を並行して準備したため、ここのアンケートポイントは比較的どの時間帯（3コマ）も高い評価となった。

授業改善の課題と方策

学生への実技指導の中で説明を加えるべき箇所が多々あるため、授業内での資料配布をオンライン（チームズ）上にも同じ資料を置くよう心掛けた。隔週の対面授業であったため、指導が行き届かず、補足をチームズに頼る場面もあった。きめ細かい個別の指導として、チャットでの質問にも迅速に対応した。個々の遅れが出ないよう授業外での遠隔指導も続けた。
今年はフォームズの課題提出を授業の中で確認し、学生個々にICTを活用した作品指導の対応も出来た。対面の時には積極的に声がけて、机間巡視の際に学生の質問を多く受け付け細かい説明を加えた。授業計画を何度も明示して、学生の課題作品の提出日と制作時間を理解させた。毎年学生は作品を溜めて、最後に提出する傾向があるので、フォームズを有効に活用して課題提出状況を管理することができた。
影絵のグループ発表は練習する時間があまり取れない状況であったが、とても息の合った発表ができ（自主的に準備をしていた様子）、学生グループの団結力を感じた。

その他

特になし

科目名	初等教科教育法（音楽）
担当者	山本幸正

科目名	社会福祉論
担当者	藤野 好美

授業の概要

小学校学習指導要領「音楽」の目標・内容と音楽の授業との関連について理解するとともに、小学校低学年、中学年、高学年における音楽的発達と教材との関連についてのイメージをもって、主体的・対話的で深い学びを目指す音楽の授業を実施するための基本的な知識・技能を身に付ける。また、音楽教科書を中心に、音楽の授業で扱われる楽曲教材、ICT教材の取り扱いと学びのデザインについて理解し、学習指導案作成の基礎的な知識・技能を身に付ける。さらに、グループによる模擬授業を行い、講師の音楽科教員としての実務経験を生かした授業改善の視点を参考にしながら、効果的な音楽指導の在り方を探求する。

授業の問題点

授業アンケートの自由記述で「ICT化を用いた授業を行ってくれるのは、十分に有難いが操作方法が分からない」「オンラインになった際は毎度マイクがミュートになっているなど、あまりにも多すぎる問題であり、これなら対面で行った方がよかった」との指摘があった。ABグループによる交互の「対面・オンライン」を行ったが、4月～5月はTeamsのオンライン実施中に、パソコンの停止、WEBカメラの不具合、音声の不具合などが相次ぎ、何度もオンライン受講の学生から連絡を受けたり、授業中に連絡が受けられなかったりなどして、申し訳ない状況となった。6月から7月にかけてはTeamsの使用に慣れ機材も安定し、大きなトラブルは無くなったが、次年度は最初からスムーズに運用できるよう留意する。

学生の授業満足度

Q9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」については、4.53（平均4.43）、Q10「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については、4.37（平均4.35）であった。平均よりは満足度が高いものの、十分ではない。授業の方法についての個々の数値は平均より低く、授業内容については「関心を持った」「シラバスと一致」の点では平均より高かったが資料は僅かに平均に達していないなど課題が残る。

授業改善の課題と方策

初めてABグループ授業を実施したが、教科教育法という知識体系と技能体系の奥深い科目を効率的に実施するため、対面とオンラインを交互に行いながらも、内容を繰り返すことなく毎回が異なる内容とし、学生はよくついてきてくれた。しかし、筆記試験を実施してみると、学習指導要領の理解と学習指導案の作成の理解、模擬授業に向けた指導については、まだまだ不十分であり、よりきめ細かい指導方法と教材の開発が必要である。校内LANとタブレットPCによる各教科の授業が小学校で普通に行われ始めた。このことに対応するためには、教員養成でも個別PCやWiFiを含めICTを使いこなす教育を充実する必要がある。

その他

Teamsのチャネルを活用し、班別活動を充実させることができた。学習指導案フォームを各班に配布し、ワードオンラインで学生が共同編集することができ、授業時間外でも作業することができ、授業のための準備として、また反転授業として、ある程度実現できたものと思われる。チャットも大いに活用し、模擬授業前の学習指導案の提出、授業後の改善指導案の提出で利用した。また、音楽の音声教材もCDからリップリングし、タブレットの操作による音源聴取を模擬授業で行った。音楽の授業では繰り返し聴取が必要であるが、そのためには有効な方法であることが確認された。

授業の概要

- ・現代社会における社会福祉の動向と意義、さらに社会福祉の歴史の変遷について解説する。
- ・社会福祉における子ども家庭福祉の視点について解説する。
- ・社会福祉の制度や実施体系、相談援助について講義する。
- ・社会福祉における利用者保護にかかわる仕組みについて解説する。
- ・社会福祉の課題及び今後求められる点について講義する。

授業の問題点

- ・社会福祉の制度は幅が広く、また歴史を重ねていく中で複雑になっていることもあり、理解が難しい。
- ・社会的弱者への関心や興味が薄いと、社会福祉の必要性も理解し難い。
- ・授業の内容的な点ではないが、月曜1限に配置されているため、時間にルーズな学生や朝が弱い学生には「遅刻をしない」ということに対してハードルが高くなる。

学生の授業満足度

- ・「質問や発言をしましたか」について、平均値より低くなっている。レスポンスペーパーで質問があった場合には答えていたので、もっと促していきたい。
- ・一般的に平均値より少ない部分があるので、授業内容に興味をもたれにくい部分はあるのではないかとと思う。

授業改善の課題と方策

- ・質問については、授業中に行うのは難しく感じる学生もいると思うので、レスポンスペーパーに記載するよう、もっと喚起していく。

その他

科目名	保育実習指導Ⅱ（施設）
担当者	藤野・三浦・千崎

授業の概要

この科目は、保育実習Ⅱ（施設）のための必修科目であり、社会福祉施設における実習の目的や内容、利用者の理解、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに概要や重要な点について指導を行っている。

授業の問題点

保育実習Ⅱに向けて、必要な知識、技術を身に付け、さらに心構えを醸成していく授業ということをふまえ、無断遅刻・欠席、締め切りより遅れた課題の提出や課題の未提出について厳しく対応することを伝えている。授業での無断欠席・遅刻、そして締め切りより遅れた課題の提出・課題の未提出は往々にして実習が始まってからも現れ、実習施設から大学での指導を問われることになるためである。しかしながら無断遅刻・欠席、課題の未提出は時々あり、学生によっては無断欠席・遅刻、課題の未提出の意味をたいしたものと考えていないような態度も見られる。この点においては、実習に向けての心構えの醸成について難しく感じている。

学生の授業満足度

- ・ 授業満足度については概ね平均値に近い値であり、満足度が低い授業ではないと考えられる。
- ・ 「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」「授業を円滑に進めるための配慮はなされていきましたか」について、若干平均値より低い数値となっている。

授業改善の課題と方策

- ・ 上記にあげた、「毎回の授業は適切な内容や量」「学生からの質問などにきちんと対応したか」「授業を円滑に進めるための配慮」について、学生の個別性を見極め、必要に応じて対応していくこととしたい。保育実習指導Ⅱは3人の担当教員によりオムニバスで進めており、担当教員によって授業の進め方等に違いがある。教員のスタンスの違いも現れやすいことも考えられる。今後できるだけ統一するよう努力したい。
- ・ 学生への連絡事項や、学生の指導についての厳しい自由記述があった。連絡事項については担当教員間でも把握できていなかったため、まずは担当教員間で学生に連絡する事項について共有し、必要な連絡事項については漏れないようにしていきたい。学生の指導については、教員の意図が伝わっていないと感じられる部分もあったため、積極的に教員の意図を伝えるとともに学生が不快に感じないよう留意していくこととしたい。

その他

特になし

科目名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）
担当者	石橋 優美

授業の概要

教師の主たる実践である「授業」について、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした学力論・授業論・教育方法論を学ぶ。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。授業の実践事例をもとにディスカッションを行い、「よい授業とは何か」、「質の高い学習とはどのように成立するのか」について考える。

授業の問題点

本科目は、小学校教員免許取得のための必修科目である。授業における態度や、毎回の授業で出していた小レポートの記述内容に関し、現時点で小学校教員を目指している学生もしくは児童期の発達や学習に関心がある学生と、そうではない学生との間で差がみられた。今後、教育の方法を学習することの意義を受講生により積極的に伝えていく必要があると考えている。

学生の授業満足度

授業満足度に関する質問項目、授業内容、授業方法に関する質問項目における得点から、本授業は受講生にとっておおむね満足のいくものであったと思われる。毎回の授業における配布資料の内容や量、毎回の授業の初めに示していたテーマの明確さ、毎回の授業で扱う内容や量、授業の進め方が受講生に合っていたことが本授業への評価につながったと考えられる。

本授業では、授業の方法等を理解するにあたって、学習者側の学びにも重きをおき、児童期の学習のプロセスやメカニズムを心理学的に適宜解説した。また、受講生にとって直近の授業実践である教育実習や模擬授業と関連づけながら、実践的視点からも解説することを意識的に行った。

授業改善の課題と方策

授業初回から、受講生が授業中にメモをとることを積極的に促した。そのための工夫として、毎回の授業で提示するパワーポイントのスライドを資料として配布し、授業者の説明や他の学生の意見について受講生自身が重要と思ったことを資料に書き込めるようにしていた。恐らくそういった工夫によって、ノートやメモ等を取ったかという質問項目における得点が平均点を超える結果になったものと考えられる。今後の授業においても、受講生が授業の中で能動的に学習するための一つの取り組みとして、他者の話を聞き、メモをとることの重要性を伝えていきたい。

また、毎回の授業では、授業の内容に応じたテーマで小レポート課題を出していた。翌週の授業でレポートの記述を受講生に発表させ、それに対して授業者が質問したりコメントをしたりしていた。今後の授業においても、こういった時間を設け、受講生同士、受講生と授業者のやりとりの機会を作りたいと考えている。

その他

特になし。

科目名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）
担当者	石橋 優美

科目名	保育内容（言葉）Ⅰ（火曜日1限）
担当者	佐内信之

授業の概要
<p>教師の主たる実践である「授業」について、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした学力論・授業論・教育方法論を学ぶ。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。授業の実践事例をもとにディスカッションを行い、「よい授業とは何か」、「質の高い学習とはどのように成立するのか」について考える。</p>
授業の問題点
<p>本科目は、中学校、高等学校教諭免許状取得のための必修科目である。授業における態度や、授業内の小レポートの記述内容に関し、現時点で教員を目指している学生と、そうではない学生との間で差がみられた。今後、より積極的に、教育の方法を学習することの意義や面白さを受講生に伝えていく必要があると考えている。</p>
学生の授業満足度
<p>授業満足度、授業内容や授業方法に関する質問項目における得点から、本授業は受講生にとっておおむね満足のものであったと思われる。毎回の授業における配布資料の内容や量、毎回の授業の初めに示していたテーマの明確さ、毎回の授業で扱う内容や量、授業の進め方が受講生に合っていたことが本授業への評価につながったと考えられる。</p> <p>本授業では、授業の方法等を理解するにあたって、学習者側の学びにも重きをおき、学習のプロセスやメカニズムを心理学的に適宜解説した。また、受講生にとって直近の授業実践である教育実習や模擬授業と関連づけながら、実践的視点からも解説することを意識的に行った。</p>
授業改善の課題と方策
<p>授業初回から、受講生が授業中にメモをとることを積極的に促した。そのための工夫として、毎回の授業で提示するパワーポイントのスライドを資料として配布し、授業者の説明や他の学生の意見について、受講生自身が重要と思ったことを資料に書き込めるようにしていた。しかし、実際のところは、質問項目「ノートやメモ等を取ったか」における得点が平均点以下であった。今後の授業において、受講生が授業の中で能動的に学習するための一つの取り組みとして、他者の話を聞き、メモをとることの重要性をより積極的に伝える必要があると考える。</p> <p>一方、質問項目「質問や発言をしましたか」の得点は、平均を大きく上回っていた。受講生が少人数であったこともあり、毎回の授業で、受講生が自分の考えを発言する機会を多く設けられるよう意識していた。今後の授業においても、こういった時間を設け、受講生同士、受講生と授業者のやりとりの機会を多く設け、受講生の能動的な学びにつなげたいと考えている。</p>
その他
<p>特になし。</p>

授業の概要
<p>子どもの発達において「言葉」は、コミュニケーションの手段、行動の調整、考える道具として非常に重要な役割をもっています。そこで、本授業では言葉について子どもが興味や関心を広げ、より良い成長を促すために、保育者が言葉の観点から深く保育について考察できるように講義します。</p>
授業の問題点
<p>授業内容についての評価「ノートやメモ等を取りましたか」が、他の項目に比べると低い点数でした（3.89）。これはグループ活動が中心の授業であったため、ノートやメモの時間を確保できていなかったことが原因だと思われます。</p>
学生の授業満足度
<p>「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の点数は4.56、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は4.67と、おおむね好意的な評価が得られました。これは、グループで話し合う活動を取り入れるように意識して授業を構成したためだと思われます。</p>
授業改善の課題と方策
<p>活動中心の授業を行うと学生の満足度が上がることは想定通りでした。けれども、その分、個人で思考する場面が少なくなってしまったという反省があります。授業の最後にレポートを書く時間は設けていますが、その前にも適宜、ノートやメモできる時間を確保したいです。その結果、レポートの質が向上するように授業を改善したいと考えています。</p>
その他
<p></p>

科目名	初等教科教育法（国語）
担当者	佐内信之

授業の概要

国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。

授業の問題点

授業に対する学習態度の評価「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」が、他の項目に比べると低い点数だった（4.32）。これはグループ分け対象科目であったため、授業の半分がオンラインとなり、積極的に学習しにくい環境であったことが原因だと思われる。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の点数は4.84、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は4.80と、おおむね好意的な評価が得られた。これは、模擬授業の発表を通して、互いに学び合う活動を取り入れるように意識して授業を構成したためだと思われる。

授業改善の課題と方策

受講者数は多かったが、全員の模擬授業を行ったため、全体的に満足度の高い授業にすることができた。ただし、グループ分けにより対面での授業回数が限られていたため、進捗が慌ただしくなってしまった。また、動画での授業は、どうしても受け身になりがちであった。模擬授業の発表以外でも、積極的な学習態度を向上させていくことが今後の課題である。

その他

科目名	教職基礎演習（小学校）I
担当者	堀田（諭）・杉野・菅原

授業の概要

本講義は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎理論や実践的な資質を身につけることを目的としている。教育現場での実務経験をもとにして、小学校教師という専門家としての知見、職務の前提となる法規、授業や活動のつくり方、現代社会の教育に関する諸課題を取り上げ、具体的に授業を展開した。

また、小学校教員採用試験に向けて、各教科の内容や教職教養の内容、論文執筆の基本的な考え方について講義し、基礎学力の向上とともに、教職に対する態度や心構えを養うことを目的とした。

授業の問題点

全体として、大きな問題はなかったが、学習者としての被教育体験と教員志望学生として改めて学校教育を見ていく点でギャップが見られたようである。現在の学生として、また教師として学校教育の問題を見ていくとどのように見えるのか、丁寧に接続していくことが求められる。

学生の授業満足度

各回の内容、また全体を通して概ね満足していたようである。授業内容への関心、配付資料の適切さ、学生の質問への対応などについて、特に高い評価を得ていたようである。今後も継続していきたい。

授業改善の課題と方策

本授業の課題は、教育学や教員養成の観点から改めて学校教育を検討する方法を共有する点である。つまり、学生の被教育体験を基盤としながら、学校教育をめぐる問題や課題を提示し、子どもの視点のみならず、現在の学生の視点、現場に立つ教師の視点へと接続させ、当該問題について再検討させることである。そのためにも、テーマや指導法を適切に選択し、三者の立場で考察できるようにカリキュラムを調整する必要がある。学生の実態に合わせて継続して改善に努めたい。

その他

今年度からの試みとして、川口市教育委員会と連携し、現場経験豊富な指導主事を講師として招聘し、講演を行った。大学と学校現場をつなぐことで、大学での講義の意味をより身近に捉えられたようである。今後も継続していきたい。

科目名	教職基礎演習（小学校）Ⅱ
担当者	堀田（論）・杉野・菅原

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
担当者	堀田 論

授業の概要

本授業は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎的な教養や実践的な資質を身につけることを目的としている。

教職基礎演習（小学校）Ⅰを受けて、小学校教員採用試験合格に向けて各教科の内容や教職教養の内容、論作文執筆のための基本的な考え方を中心に講義した。

また、教育現場での実務経験をもとに、学習や教育の考え方、個や集団の学びの違い、授業における技術や方法、専門職としての教師のあり方、現代の教育課題への向き合い方について検討した。

授業の問題点

全体として、大きな問題はなかったが、学生自身の評価として授業外学習が十分促されなかったようである。学校教育の問題や課題を、子どもとして、学生として、教師として検討することについては共有できてきているので、教育学や教員養成の観点から、さらなる学習を促す参考文献や資料を紹介しながら、学生の学びを促進していきたい。

学生の授業満足度

各回の内容、また全体を通して概ね満足していたようである。授業内容への関心、テーマの明確さ、配付資料の適切さ、学生の質問への対応などについて、特に高い評価を得ていたようである。今後も継続していきたい。

授業改善の課題と方策

本授業の意図や目的については共有されてきているので、教員養成段階の次のステップにつながるように、教材や指導法の選択を適切にしていくことが重要である。一授業のみならず、教職課程全体としての位置づけを意識しながら改善に努めていきたい。

その他

今年度からの試みとして、川口市教育委員会と連携し、現場経験豊富な指導主事を講師として招聘し、講演を行った。大学と学校現場をつなぐことで、大学での講義の意味をより身近に捉えられたようである。今後も継続していきたい。

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成することを目的とした。内容として、近代国家の成立と地理歴史科教育の関係性、歴史教育の三つの教育観・授業観、地理教育の三つの教育観・授業観、地理歴史教育の新たな試みについて講義した。以上の検討を踏まえて、被教育体験としての自己の社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成し、実習校周辺地域の地域学習単元プランを作成した。

授業の問題点

学生は興味や関心を持ちながら取り組んでおり、授業の目的、内容や方法においても適切だったことがうかがえる。配付した授業資料についても、個人やグループで分析し、自分たちなりの知見を見出し、全体で検討できていた。授業外学習へとさらにつなげられるように改善していきたい。

学生の授業満足度

各回の授業、また全体を通して満足が得られていたようである。学生主体の議論や対話の中から納得のいく解決策や知見を見出し、さらに全体で討議し、条件を見出すプロセスは興味を持って取り組めたようである。

授業改善の課題と方策

学生の理解度に応じて適切に内容や進度を調整することができていた。今後も、学生の特性に応じながら授業内容を修正・改善していきたい。

その他

今年度は、平和学習の一環として美術館での学外授業を取り入れた。関心を持って取り組んでいたようだったので、学生の関心や社会科・地理歴史科の内容に合わせて今後も継続していきたい。

科目名	社会科・公民科教育法 I
担当者	堀田 諭

科目名	教職基礎演習（小学校） I
担当者	堀田諭・杉野・菅原

授業の概要
<p>本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科教育に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・公民科教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成することを目的とした。具体的には、社会科と公民教育、道徳教育との関係性、学習指導要領と公民教育との関連性、様々な社会科授業観や授業設計の具体について講義し、自らの社会科・公民科教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成していった。</p>
授業の問題点
<p>各回の内容やテーマ、資料の分量や質、全体の授業構成などについては期待に応えるものであったようである。基本的には、グループや全体での議論や対話をもとに授業を展開していたため、授業者に直接質問せずとも、グループ内で解決できていたようである。議論の目的や方向性を共有することで、学びを促進していきたい。</p>
学生の授業満足度
<p>各回の内容、全体を通して満足していたようである。学生の特性に合わせて柔軟に対応していきたい。</p>
授業改善の課題と方策
<p>各回の資料については、個人やグループで分析できており、授業内での取り組みはできていたようだった。授業外学習へのさらなる手がかりや動機を与えるように努めていきたい。</p>
その他
<p>特になし。</p>

授業の概要
<p>本授業は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎理論や実践的な資質を身につけることを目的としている。教育現場での実務経験をもとにして、小学校教師という専門家としての知見、職務の前提となる法規、授業や活動のつくり方、現代社会の教育に関する諸課題を取り上げ、具体的に授業を展開した。</p> <p>とりわけ、算数科のモノや教具から授業づくりの考え方に関する検討、タブレットを用いた ICT 機器の活用方法とその意図に関する検討、アクティビティを中心とした教育の諸問題に関する検討などを行った。</p>
授業の問題点
<p>授業の方法に関して、資料のわかりやすさ（4.52）や分量（4.48）においては一部課題が残った。また、個々の学習の進捗が異なるため、授業を円滑に進めるための配慮の程度が多様化しており（4.52）、授業づくりの課題が残った。</p>
学生の授業満足度
<p>授業に関しては、概ね満足していたようである（4.59）。また、小学校教師になるために、学生にとって意味があり（4.66）、授業内容にも関心をもっていたようである（4.69）。</p>
授業改善の課題と方策
<p>上記の授業の問題点を改善するために、全体での授業の中で個々の学生の状況の違いに対応していくことが求められるが、授業づくりやワークシートの開発などで改善を図りたい。とりわけ、オムニバス形式であるため、授業外学習に関する指導が難しい（3.83）が、事前の打ち合わせを綿密にとり、授業内容や方法について吟味したい。また、今年度実施した外部講師の講演会など、学生の関心や興味をひく授業内容へと転換しながら、学校現場との連携をとり、学生のキャリアにつなげていきたい。</p>
その他
<p>特になし。</p>

科目名	教職基礎演習（小学校）Ⅱ
担当者	堀田論・杉野・菅原

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
担当者	堀田 論

授業の概要

本授業は、小学校教師になるために必要とされる教職の基礎的な教養や実践的な資質を身につけることを目的としている。教職基礎演習（小学校）Ⅰを受けて、小学校教員採用試験合格に向けて各教科の内容や教職教養の内容、論作文執筆のための基本的な考え方を中心に講義した。

また、算数科や社会科を中心に、モノや教具からの授業づくりの考え方や実際の授業実践を通して、学習や教育の考え方、個や集団の学びの違い、授業における技術や方法、専門職としての教師のあり方、現代の教育課題への向き合い方について検討した。

授業の問題点

授業の内容や方法に関しては、個々の学生の学習進度や進路によるが、資料の適切さ(4.16)や分量(4.05)の点で課題が残った。また、授業を円滑に進めるための配慮(4.22)に関しては、学生は授業の受け手から作り手・実践者への移行期であるために、教育・教科への認識の程度の違いや個々の学習経験の違いによって認識の齟齬があったように思われる。

学生の授業満足度

授業については、概ね満足していたようである(4.27)。また、授業内容についても学生にとって意味のあるものだったようである(4.41)。

授業改善の課題と方策

上記の授業の問題点を改善するために、授業内容、すなわち教師・教職の仕事について関心をよりひきつけて授業づくりをしていきたい。今年度実施した外部講師の講演会については、学生は関心をもって参加していたものの、進路に迷っている学生にとっては、その限りではなかった(4.41)。それゆえ、学校教育のみならず、社会とのつながりを踏まえて、教育や教科の概念を捉え直すことで、学生にとってより意味のある時間にしていきたい。

その他

特になし。

授業の概要

本授業は、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的としている。具体的には、以下の手順で講義及び模擬授業実践・検討を行った。第一に、教育法Ⅰの理論的・実践的な課題を振り返るとともに、中高社会科教師と教科書の関係性、教材研究や生徒にとっての「身近さ」について検討した。第二に、学習指導要領と授業づくり・学習評価の関係について新学習指導要領や学術的な知見を踏まえて検討した。第三に、実際に学習指導案を作成し、自らの授業観を表現した。第四に、模擬授業実践・授業検討会を通して、指導計画と実際の授業の違いについての気づきを体感し、また授業改善への手がかりやアイデアについて検討した。

授業の問題点

授業の内容や方法に関しては、学生の意図するところであったようだが、内容や分量に関して、個々の学生によって差異が現れたようである(4.86)。授業の開発の手順に即したワークシートをもとに調査学習を進めたため、ノートやメモなどはワークシート内に記入することが多かったと思われる(4.57)。また、発言しやすい空間づくりに努めたが、個々の学習進度の差異により、自身の主張や意思の表明が十分にはできなかったようである(4.86)。

学生の授業満足度

授業に関しては、概ね満足しており(5.00)、学生にとって意味のあるものであったようである(5.00)。今後も修正・改善しながら取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

上記の授業の問題点を踏まえて、口述や記述、その他の表現方法で自身の主張や意思が表現できるように、授業での発言・対話のしやすい空間づくりやワークシートの開発に取り組んでいきたい。また、現時点で学生は予習・復習を行っている(5.00)ようだが、口述や記述の語彙を豊かにするべく、関連分野の情報の紹介や社会現象の事例の変更などを通して、学生が関心をもつような授業づくりをしていきたい。

その他

特になし。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ
担当者	堀田 諭

科目名	保育内容（表現-音楽）Ⅱ
担当者	東元りか

授業の概要

本授業は、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校公民科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的としている。具体的には、前半部では社会科・公民教育をめぐる教材研究、授業づくりの諸問題について講義し、それらを踏まえて自らの社会科・公民教育の授業観をもとに学習指導案を作成した。後半部では、実際に授業の実践とその検討を行った。

授業の問題点

授業方法に関しては、テーマの明確さ（4.90）や内容・分量（4.90）の部分で課題が残った。学生の学習態度の質問や発言の部分（4.40）にもかかわるが、発言しやすい空間づくりを試みてはいるが、個々の経験や学習進度などとカリキュラムとが一致しているとは限らないため、差異が生まれていると思われる。

学生の授業満足度

全体的には、概ね授業に満足する結果となっている（5.00）。学生の質問への応答（5.00）や授業を円滑に進める配慮（5.00）が、学生目線では十分になされていたようである。

授業改善の課題と方策

上記の授業の問題点、とりわけ学生の学習態度とカリキュラムのずれの問題を受けて、口述や記述、その他の表現方法によって、自身の主張や意思を表明できるように、発言しやすい空間づくりやワークシートの開発に努めたい。また合わせて、授業外学習（4.80）により一層取り組んでもらうために、関連分野の情報を適宜紹介し、自身の主張や意思を表明するための語彙を豊かにしてもらいたい。

その他

特になし。

授業の概要

本授業では、幼稚園、保育園等の保育現場における、音楽的表現活動の実践的な展開方法について学び、その技術を身につけることを目的としている。わらべうたや身体、楽器、リズムを用いた表現活動を通して、自身の感性を磨くと共に表現する力、想像力を高める。

授業の問題点

音楽的な理論に基づいた実践を自ら考えて行うことで得られる感覚、技術もあるため、授業へ出席し積極的に参加することが重要であると考えている。グループ活動を通しては、各自が能力や考えを発揮できたかという面で、多少偏りがあったように見受けられた。毎回、感想用紙の提出を求めたり、できるだけ個別対応を行うことを心掛けてはいたが、十分な促しには至らなかったと思われる。アンケート項目の、「質問や発言をしたか」では、4.33の評価となり、それが現れていると捉えている。

学生の授業満足度

概ね、満足度に関しては高い評価が得られた。授業方法や資料の分かりやすさ、授業内容の満足度については、4.78、全体的に振り返った授業の満足度は、4.72と評価を得、学生の意見には「説明された活動を実際に行うことで具体的に授業内容を理解することができた」「実際に子どもと音楽との関わりをイメージしやすいと感じた」などが挙げられた。理論をふまえ自身で体感して理解することを重視したため、達成感と共に満足度に繋がったのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業外学習をしたか、という質問項目では4.28の評価となり、他項目に比べ評価が低めであった。授業内では、グループ活動を多く用いたため、個々の復習予習に結び付きにくかった面もあったと思われる。今後、個を重視した活動内容をより取り入れたり、自主学习で行えるポイントを伝え、促すことで、個々の課題、授業準備といった取り組みへ繋がるのではと考える。自身の内的な感覚、技術、知識と向き合い、表出できるような授業内容の組み立てをより工夫していきたい。

その他

科目名	子どもの歌と伴奏法Ⅱ
担当者	東元・佐山・館岡・田中・宮崎・若宮・渡邊

授業の概要

子どもの歌と表現Ⅰを踏まえ、現場で必要とされる子どもの歌を課題曲とし、子どもの姿を具体的にイメージしたり、子どもが歌の楽しさを感じることでできるような表現活動を含めて指導する。授業形態は、子どもの歌と伴奏法Ⅰと同様、全体授業とグループ別個人レッスンを並行して行う。全体授業では、秋～冬にかけての季節の歌、生活の歌、行事に関する歌等、主にハ長調以外の曲を課題として扱う。各教員の、演奏者、子どもへの音楽指導、保育現場での音楽遊び指導としての経験を生かし、授業内では、歌唱及び伴奏法に関わる事柄についても指導する。

授業の問題点

授業アンケートの項目を見ていくと、「ノートやメモ等を取りましたか」の設問では、3つの時限すべてにおいて平均を下回る結果となった。これは、演奏実技という授業形態の特徴も関連していると予想ができるが、自ら記録を残すことで得られる知識の定着もある為、今後、必要な知識においては自ら記録していく形態をより組み込んでいきたい。

学生の授業満足度

授業満足度に関し、すべての時限において、平均より高い評価を得られた。全体的に最も高い評価となった4限目では、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の設問に対して4.93、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」では、4.83を得た。一方、3時限中では低い評価を得た3限目において、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果は4.65、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」では4.71であり、時限によって差異が見られる。3時限同じ授業内容を行うとはいえ、各時限の学生の特性や求められることを考慮しながら、授業内容を工夫する必要がある。

授業改善の課題と方策

この科目では授業準備と復習をすることが授業内容の理解度へ直接結びついてくるといっても過言ではない。いずれの時限でも平均を大きく上回る結果は得られているが、授業満足度をより上げるためには、この点における学生への促し、授業に対するモチベーションの保持が必要不可欠であると考えられる。その方策として、音楽理解、演奏技術に対する自身の課題がどこにあるかを毎時限明確にし、改善に向けた実践計画を立てられるような機会を設ける等、授業内容に組み込んでいきたい。

その他

科目名	幼児理解の理論と方法
担当者	千崎 美恵

授業の概要

この授業では、乳児期からの発達を踏まえながら幼児理解の視点と方法を学んでいく。A、Bグループに分かれて対面授業とオンライン授業に交互に取り組む形式であった。対面授業は講義形式で行ったあと、映像資料や事例資料を提示し、個人ワークに取り組み、その後グループディスカッションにて各自の考えを共有、さらに、グループの代表者がクラスへ発表し、疑問への回答やグループの考察を共有して理解を深めた。オンライン授業は、配信された授業資料を理解して課題に回答する形式であった。園における幼児の生活および遊びの実態に即して、幼児の発達と学び、並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理および対応の方法を、幼児教育の計画と評価という保育の営みとの関係の中で考えることができるという目的を達成した。

授業の問題点

A、Bグループに分かれて対面授業とオンライン授業に交互に取り組む形式であり、オンライン授業の課題の締切時間が守られない傾向があった。また、1限の授業であったためか、欠席が多く、履修登録をしているにも関わらず、単位認定を途中で諦めている履修者が見られた。「出席や課題提出等はしましたか」に対して、4.39という結果となっており、基本である授業への参加、課題の締切までの提出が問題点として挙げられる。対応策として、課題未提出者への連絡などを行った。

学生の授業満足度

「質問や発言をしましたか」に対して4.13(平均3.21)と高くなっており、積極的に授業へ取り組む様子が見られた。授業への評価のすべての項目について、平均を上回っており、授業への満足度が見られた。特に、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」4.71(平均4.38)、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」4.71(平均4.43)と高い数字となっており、授業へ積極的に参加した学生にとっては満足度が高く、充実した授業であったと思われる。自由回答では、「幼児の特性や対応などについて知ることができ、良かったと思います。」とあり、学生が関心を持って取り組める内容であったと思われる。また、「資料が分かりやすかった」とあり、わかりやすさを重視して作成した資料が理解を深めたと考えられる。

授業改善の課題と方策

「出席や課題提出等はしましたか」の項目について、4.39(平均4.59)の結果となり、唯一平均を下回った。1限の授業が出席しにくいという学生がいたため、モチベーションの低い学生に対して出席を促す対策を講じていく。また、オンライン課題については、締切を厳守して取り組めるような仕組みを作っていくと考えている。授業内容についてはより良い教材、内容、方法を目指す。

その他

特になし

科目名	発達理解と援助
担当者	千崎 美恵

科目名	発達心理学
担当者	千崎美恵

授業の概要	
履修者の中心は3年生であるため、2年生までに修得した知識や、実習での経験などを基に発展的に学べるよう、演習形式のアクティブ・ラーニングの実践を目指した。子どもの発達課題を学んだ上で、それぞれの子どもが向き合う課題を発見してアセスメントし、関わり方や解決策の提案などについて、主体的、協同的に学びを深められるよう進めた。グループディスカッションおよび発表を通して、多様な意見を取り入れて考察の幅を広げながら、また、担当教員の臨床現場における現代的な子どもの課題を適宜紹介しながら、問題意識を共有した。	
授業の問題点	
関連する内容の授業が多いため、他の授業の内容を把握して、3年生の授業として発展的な内容になるよう、他の授業と重ならない項目や深める必要がある内容の厳選などのさらなる工夫が求められる。	
学生の授業満足度	
自由回答の学生の意見に、「グループディスカッションを多く用いており、とても分かりやすく対話的な学びを深められた」「グループワークでの話し合いの機会も多く様々なことを学ぶことができた。」とあったように、毎回の授業で学生が積極的にディスカッションをして、発表している様子が見られたので、3年生の発展的な授業としては満足感があつたのではないかと考えられる。 また、自由回答に、「プリントにわかりやすい説明があつたので授業内容が理解しやすいと感じた。」とあつたことや、授業中に質問を発する学生が多かつたことなどから、授業内容の理解は達成できていたのではないかと考える。最終レポートについても、課題に対応をした適切な成果が提出することができていた。	
授業改善の課題と方策	
「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の結果が4.71(平均4.46)であつたように、各授業のテーマを明確にして内容を構成したため、各回の授業内容が盛り込み過ぎた傾向にあつたと考えられる。学生アンケートの自由回答に、「早口なので聞き取りにくかつた。もう少しゆっくり進めて欲しい」と記載があつたように、今後は、授業内容を厳選して、ゆっくり丁寧に進める必要があると考えている。	
その他	
特になし	

授業の概要	
発達心理学の基礎知識を習得するとともに、人の発達について多角的に理解することを目指して、各発達段階の特徴や発達の課題について学ぶ。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える環境や関わり方について考察できるように、現代的トピックを織り交ぜながら講義する。	
授業の問題点	
「発達心理学」の内容は、公立保育士や幼稚園教員試験などにおいて出題される項目も多く、習得すべき内容が多岐にわたっているため、重要項目を明確にして、理解を深める必要がある。	
学生の授業満足度	
授業アンケートの「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」における「質問や発言をしましたか」では3.82(平均3.30)、「メモ等を取りましたか」では4.82(平均4.26)など、すべての項目において平均点を上回っており、授業への積極的な取り組みが見られた。 授業に対する評価についても、Ⅰ授業内容についての「授業内容に興味や関心を持ちましたか」では4.64(平均4.39)、「テキストなどの資料は適切でしたか」では4.77(平均4.42)、Ⅱ授業方法についての「授業の方法や資料はわかりやすかつたですか」では4.55(平均4.39)、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」では4.73(平均4.50)、Ⅲ授業満足度についての「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」では4.64(平均4.45)、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」では4.50(平均4.37)などとなっており、授業アンケートのすべての項目において平均を上回る結果となつた。また、毎回の授業内課題への記述内容からも、授業内容への関心の高さや考察の深さが読み取れた。授業に出席していた学生の授業満足度は非常に高かつたと考えられる。	
授業改善の課題と方策	
「発達心理学」の内容は、公立保育士や幼稚園教員試験などにおいても出題される項目が多く、習得すべき内容が多岐にわたっているため、今後も、重要事項がどれにあたるのかを把握しやすいよう、項目を絞りつつ、授業を進めていきたい。そのために行ってきた毎回の授業内での課題、および、次の回でのフィードバックは、引き続き行っていきたい。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える環境や関わり方について考察できるように、引き続き、現代的トピックを織り交ぜながら講義しつつ、理解の促進を図っていきたい。	
その他	

科目名	算数
担当者	杉野裕子

授業の概要

算数・数学は、日常の事象を数理的に捉えて問題解決することで、よりよく生きていくための、知識・技能および態度を身に付けるための教科である。また、問題解決の過程では、思考力や表現力も養うことができる。

本授業では、数学の対象である、数と量と図形について、児童の認知発達段階に基づいた理解ができるように、『学習指導要領解説』と『小学校の教科書』と「算数教育の理論」を有機的に結び付けて講義する。また、関連する他の領域や算数教育に関わる背景についても講義する。

授業の問題点

小学校教員として、また教員採用試験で必要とされる内容の分量と、実際の学生さんの学力に乖離があるのを感じました。個人差もありますが、学力が伴っていないという点もさながら、勉強の習慣がついていない学生さんの率が多いという問題点があります。これに対処するひとつの方法は、内容レベルや分量を削るというのがありますが、そうすると、実際に現場の教員として巣立つ学生さんへの補償が出来ません。内容としては、「小学校算数」のレベルですので、これ以上上げるわけにもいきません。

学生の授業満足度

数学に苦手感をもつ学生さんにとっては、難しいと思われる内容もあると思われます。しかしながら、アンケートの授業満足度は平均を超えていますので、今後も改善を意識しつつやっっていこうと思います。

授業改善の課題と方策

学生さんからの要望として、「毎回パワーポイントをアップしてほしい」というのがありましたが、以下の観点から考えてはいません。

- ・授業中に、集中してノートをとることが、一番と考えます。
パワーポイントをアップしてもらえるとわかると、ノートすら取らず、試験直前に、パワーポイントを眺めて終わりという恐れがあります。
- ・パワーポイントは、私の長年の講義の財産です。流出を懸念しています。

なお、授業で分量的にノートにうつす時間が厳しいと考えられる箇所、走ってしまった箇所に関しては、これまでどおり、一部スライドのみ、その都度私の判断で、アップをします。

また、場合によっては、パワーポイントを使わず、黒板での講義（私にとっては逆もどりですが）も検討します。消したらなくなってしまうという切迫感が必要なのかもしれません。

その他

科目名	初等科教育法（算数）
担当者	杉野裕子

授業の概要

算数科の授業についての基礎的知識と指導法について知り、児童の学びを保証できる実践力を備えた教師となることが求められる。まず、「教材研究（教科書分析）」→「学習指導案作成（授業構成）」→「模擬授業（実践）」→「検討会（次の授業へ生かす）」という、PDCAサイクルに載せた流れと、それぞれの位置づけについて解説をし、続いて体験的に指導する。特に、模擬授業は、グループ毎に決められた単元の授業について、一連の流れで準備と練習を行い、発表をする。授業者以外全員が児童役を演じ、直後に意見を交わす授業検討会で、授業を観る力を養うとともに、よりよい授業をするための指導を行う。

授業の問題点

特に問題点はないと考える。ただし、条件的な難しさがある。例えば、小学校6学年の授業について網羅するには、15回の授業では足りないため、一部の単元を選出せざるを得ない。その前に、教材研究や学習指導案の書き方に関する演習指導も必要であるため、タイトなスケジュールとなっている。また、受講人数も多めのため、10の班がそれぞれ6人となり、集まって学参するのに苦勞をすることがある。

学生の授業満足度

どの班も、一定水準以上の模擬授業を実践することが出来た。班での話し合いの過程で刺激し合い、授業外で事前指導を入れたことにより、いろいろな質問に応える対処も出来た。事前に何度も教師役や児童役を立てて模擬授業練習を行うことから、学びが得られた様子が、期末の論述筆記からも読み取れた。

さらに、他の班の発表時に全員で児童役をして、授業を観る視点を養うことが出来た。配布された教材研究と学習指導案は緻密なものであり、今後の教育実習などの参考となる優れたものであった。

授業改善の課題と方策

算数の授業について、教師が上手に説明をするものだと思込んでいる場合が多々見受けられるので、児童が発言し活動する時間を多くとらなければならないことを、より強調していきたい。

授業外での学参と模擬授業本番による成果がある程度出ていたのは評価に値する。今年度の優秀な模擬授業動画や板書を、来年度以降の学生に提示して、さらに深めていくために活用させる。

また、受講人数の多さが改善すれば、さらなる効果が期待できるであろう。現在コロナ対応の座席のため、黒板からの距離が遠くなっている。この点も改善できればよい。

その他

特になし

専任教員

経済経営学部

経済経営学科

科目名	初級簿記
担当者	吉田雄司

授業の概要

本講では簿記の基本を講義した。簿記とは「帳簿記入」のことである。会社や商店は経済活動を帳簿に記録し報告書を作成します。簿記の目的は、会社の財政状態と経営成績を明らかにすることです。授業では、まず取引の仕訳を学び、次に総勘定元帳への転記の仕方を学び、そして試算表と精算表の作成まで学習した。講義目標は、日商簿記検定試験の合格レベルに到達することである。

授業の問題点

授業の板書が早いとの指摘について。

学生の授業満足度

概ね良好と判断している。

授業改善の課題と方策

板書が早いという指摘については改善すべきである。本講座は、日商簿記検定3級レベルの学習を行っている。そのため15回で完遂するには、学習速度が速いかもしい。今後の対応としては、板書のほかに各章ごとの印刷物を配布するなどその補助の施策を検討する。

その他

初級簿記の学習は、日商簿記検定3級レベルを目指している。特にその講義方法は、教科書の目次を体系的に修得することである。教材は、どれも各章と各節、各項そして小見出し・本文の流れで構成されている。授業では、章と節、項の部分を書きしている。学生は、この教科書の目次体系図を見ながら自己講義をする、それによって教科書の概要把握が可能になる。こうした、学習方法は資格取得試験などには有効とされている。しかも短期間でやらなければならない、何故なら記憶の定着化が必須だからである。忘却曲線については、すでにエビングハウス曲線で立証済みである。こうしたことから板書が早いことについて事前に教科書の読み込みを数回していればかなり理解度は上がるはずである。私も板書への配慮はするが、学生諸君は事前に教科書の読み込みは絶対必須であるとして欲しい。

科目名	中級簿記
担当者	吉田雄司

授業の概要

本講では、日商簿記レベルの講義をしました。授業では、春期「初級簿記」で学習した基本をもとに、さらに実践的な簿記を行った。目標は、合計残高試算表と精算表の作成ができること。11月に「日商簿記検定」の統一試験があったためその進捗に沿った学習を組んだ。主に実践問題を中心に答案練習を行った。本講座は、「教養演習Ⅱ」と連携して学習をした。コロナ禍で受講者多数のため、A/Bクラス分けをした。

授業の問題点

春期「初級簿記」を履修した学生が継続して学習した。問題点は、資格試験の勉強方法が習得できない学生が多いことである。

学生の授業満足度

学生の満足度はほぼ平均値に近いが、資格試験に合格できればさらに満足度は向上すると思います。

授業改善の課題と方策

簿記検定などの試験情報をインプットすることとそれらをアウトプットする学習が不十分である。そのため検定試験の合格に至らない。勉強のコツは、教科書の目次を体系的に覚えること。章、節、項、小見出しそして本文の流れをつかむこと。次に教科書はとにかく1回は完読すること。最低3回完読する。できるだけ早く読み込むこと、記憶はエビングハウス曲線が示唆するように忘却する。最後に過去問題集を解答することである。解答が不明の場合は、すぐに解答解説を読み込む。そして問題集を最低3回はこなすこと。勉強のコツは繰り返すとあきらめないことである。①目次の体系化、②教科書を早く読みこむ、③過去問題集を繰り返す。この3段階で成果が出ます。実践してください。

その他

勉強のコツは、君の人生を変える。在学中に資格取得をお勧めします。

科目名	金融論
担当者	花崎 正晴

科目名	日本経済論
担当者	花崎 正晴

授業の概要
<p>金融市場や貨幣といった金融のミクロ的側面、バブルや金融政策といったマクロ的側面、銀行の役割や金融規制といった制度的側面そして企業の資金調達といったファイナンス的側面を、それぞれ基礎から学び、金融に関する理解を深めることを目的として実施した。</p>
授業の問題点
<p>グループ分け授業に該当したため、各グループともに対面授業が7回、Teams を利用した課題提出方式によるオンライン授業が7回、そして期末試験が1回という構成になった。対面での講義回数に制約があったため、かなり速いスピードで講義を進めざるを得なかった。そのため、内容を理解するのが難しかった学生も、少なからずいたかもしれない。</p>
学生の授業満足度
<p>学生アンケートの授業満足度は4.3弱であり、来年度に向けて改善の余地があるように思われる。</p>
授業改善の課題と方策
<p>来年度には全面对面方式の授業になることを期待するが、万が一グループ分け授業になってしまった場合には、授業の範囲をやや絞りこむとともに、重要な点をより丁寧に説明することによって、学生の理解を深めるための取り組みを強化していきたい。</p>
その他

授業の概要
<p>日本経済における高度成長期の特徴、バブル崩壊後の長期にわたる低迷期、労働市場の特徴と所得格差、中小企業およびベンチャー企業の役割、環境・エネルギー問題、地域経済と政府の役割、人口減少と社会保障などについて、最新のデータや統計などを提示しながら講義した。</p>
授業の問題点
<p>過去2年間に渡ってグループ分け授業であったものの、今年度はグループ分け授業には該当せず、すべての回において通常の対面授業で進めることができた。その分、全体を通して講義内容が質量の両面で格段に増加したため、予習、復習をしない学生には、理解するのが難しかった面があるかもしれない。</p>
学生の授業満足度
<p>学生アンケート結果によると、授業満足度は4.4弱の水準であった。来期に向けて授業内容を引き続き改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。</p>
授業改善の課題と方策
<p>講義内容を充実させ、学生に理解させるためには、予習、復習が極めて重要である。そのために予習すべき箇所を学生に明示するとともに、各回の冒頭で前回講義のエッセンスを復習するなどの取り組みを進め、学生が一層理解しやすい方策を模索していきたい。</p>
その他

科目名	財務諸表論 I
担当者	李 相和

授業の概要

本講義は、企業会計の理論を学ぶものである。授業では、会計諸規則や会計の諸概念を体系的に説明するとともに、主な会計処理問題を会計制度に織り込みながら解説する。
特に、本講義では、企業会計の基礎を理解したうえで、貸借対照表及び損益計算書の原理を中心に解説する。

授業の問題点

- ・ 授業中に携帯を触るものが多少いることが気になっている。
- ・ 受講者が必ずしも意欲的であるとはいえない。

学生の授業満足度

単位評価の資料として提出された課題レポートを分析した結果、授業理解度は期待した基礎レベルには達して合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業内容が難しくならないように、会計の基礎を固めながら、要点解説や新聞などの資料を用いて、わかりやすく説明できるように工夫したい。また、丁寧に話せるように努力したい。
大学生としての自尊心を尊重するが、常識的な授業態度を守って欲しい。

その他

科目名	国際会計論
担当者	李 相和

授業の概要

本講義は、国際理解教育の一環として、会計基準の国際的比較研究の成果を総合し、国際会計の最終的目標(会計基準の国際統合)の実現に向けての努力の歴史、現状および将来の課題を学ぶものである。

授業の問題点

- ・ 受講者が多かったが、必ずしも意欲的であるとはいえない。
- ・ 出欠を取った後にすぐ退室してしまう場合が何度あった。

学生の授業満足度

全般的には、期待した基礎レベルには達して合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、国際会計の知識構築などでは他人の支援が必要な場合が多い。

授業改善の課題と方策

授業の満足度を高めるために、また積極性を持たせるために、日本企業のIFRS適用の事例を多く取り上げるなど、会計基礎に関する事例や話題を取り上げ、わかりやすく説明できるように工夫したい。
大学生としての自尊心を尊重するが、特に出欠を取った後にすぐ退室してしまうようなことは避けてほしい。常識的な授業態度を守って欲しい。

その他

授業改善書

科目名	財務諸表論Ⅱ
担当者	李 相和

授業の概要

本講義は、財務諸表論Ⅰの内容をふまえ、企業会計の理論を学ぶものである。授業では、会計諸規則や会計の諸概念を体系的に説明するとともに、主な会計処理問題を会計制度に織り込みながら解説するものである。
特に、キャッシュフロー計算書の作成と連結会計、時価主義会計、減損会計など企業社会が直面している会計処理問題を具体的に解説する。

授業の問題点

受講態度はよいが、受講生の授業に対する関心・意欲がやや弱かった。授業内容について、板書などは改善すべき点は残っている。基礎的な会計知識が足りない学生には授業内容が難しく感じたと思う。

学生の授業満足度

全般的には、期待した基礎レベルには達して合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業内容が難しくならないように、会計の基礎を固めながら、要点解説や新聞などの資料を用いて、わかりやすく説明できるように工夫したい。また、丁寧に話せるように努力したい。

その他

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	一戸 真子

授業の概要

グローバル化の進展により、今日では、地球がより小さく感じられるようになってきたことを踏まえ、国際的に共通する諸課題をテーマとし、テキストを使用し、ディスカッションや資料作成、プレゼンテーションの機会を提供しながら進めた。

授業の問題点

全体としてやや物静かな学生が多く、個々に思いや考えはあるものの、十分に自己表現できない傾向が高く、能力開発の機会もできるだけ確保できるよう努めたが、活発なディスカッションまでには至らなかった。

学生の授業満足度

全体的に個々の質問項目において、高い結果となっている。課題も毎回出して種々の能力のトレーニングの機会を提供したため、自己の成長を個々人が認識できており、授業内容に対する理解度も高く、積極的に取り組んだ結果が反映されている。

授業改善の課題と方策

やはり一部の学生がディスカッション等において他の学生を牽引しており、個々の学生の成長度と能力に差が見られてきている。この点については、できるだけ格差をなくせるよう、さらなる工夫をしていきたい。

その他

科目名	専門演習
担当者	一戸 真子

授業の概要

本演習では、テキストを使用し、詳細な業界分析を通して、未来の社会を描く柔軟な考え方や社会の現状把握、諸課題の理解や問題解決能力を修得することを目的とした。また産学連携活動を通して、社会性を習得できるようゼミナールを展開した。さらに、ディスカッションやプレゼンテーション実践を通して、社会が最も求めているコミュニケーション能力を習得できるように演習を展開した。

授業の問題点

人数がやや多いため、積極性に個人差が見られ、課題の取り組みなどに差が見受けられるため、授業を進めるスピードが大変難しかった。グループワークの実施においても、一部の学生にやや負荷がかかる場合も見受けられた。

学生の授業満足度

平均よりも高い傾向にはなったが、学生間に満足度に差があることが推測される。積極的に自らを成長させたいと考える学生と、できるだけ何もしたくない学生の2群に分かれ、結果が混じっていることと思われる。

授業改善の課題と方策

それぞれの学生個々にできるだけ寄り添ったゼミナール展開ができるようさらなる工夫をしていきたい。学生の能力とどこまで成長したいかのニーズの見極めをしながら全体的に質の高い教育が提供できるよう、コミュニケーションの充実をしながら取り組んでいきたい。

その他

科目名	卒業論文または卒業研究
担当者	一戸 真子

授業の概要

前半は、卒論の書き方全体の指導を行い、後半は、ゼミ生個々の卒論テーマに沿った、個別指導を徹底して行った。

授業の問題点

卒論と就職活動のバランスが上手く両立できない学生については、出席率も悪く、中々十分な指導に至らない部分もあった。また卒業に向けた単位の取得に時間を相当費やさなければならない学生についても、進度が遅く、なかなか課題をこなしてこることが出来ない場合も散見された。

学生の授業満足度

個別指導を徹底したため、個々人の満足度が総じて高い傾向となった。また、卒論指導を通して、学生一人ひとりとのコミュニケーションも密に行えたため、積極的な授業への参加状況結果となった。

授業改善の課題と方策

卒論テーマの絞り込みが遅く、自身が取り組みたいテーマを早期に決められない学生に対しては、考え、検討する素材ももう少し多く提供できるよう改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	一戸 真子

授業の概要

演習では、今後テクノロジーの急速な変化や感染症の蔓延などにより、世界はどのように変化していくのかについて理解を深められるよう指導した。具体的には、今後私達の生活はどのように変わっていくか、社会はどのように変化していくのか、それらに伴い、どのような企業が求められていくのか、インベーションが必要となるかについて、人々の幸福の条件についても考えを深めていけるよう、教科書を使用しながら、個々人の関心あるテーマを決め、担当ごとにパワーポイントを活用しながら準備を行い、ディスカッションやプレゼンテーション能力の向上を目指し、指導した。

授業の問題点

まだ1年次生であることもあり大学授業のリズムに十分に慣れておらず、また演習Ⅱからそれぞれ演習メンバーになったこともあり、円滑なコミュニケーションを図ることが十分にできておらず、不安のスタートとなったことがあげられる。

学生の授業満足度

演習後半より、ゼミ生達の学習意欲が高まってきており、笑顔で演習発表もできるようになり、積極的に発表資料の準備等も行ってきていることが確認できていたので、学生達の満足度も良いのではと予測していたが、結果もその通りであり、参加学生の満足度が高い結果となり、安堵している。

授業改善の課題と方策

今後の改善課題としては、限られた時間ではあるが、さらなる能力向上を目指すため、もう少し課題の質や量を増やし、個々人の能力や描いているキャリアビジョンに合わせた、個人ベースの能力開発のゼミナールを心がけたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	一戸真子

授業の概要

演習では、グローバル化の進展により、様々な分野において、日本国内のみではなく、諸外国も含め、世界レベルで互いに関連し合う社会となってきたこと踏まえ指導した。ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ等が、地球規模で行きかう本格的な時代の到来となったことを理解できるよう、テキストを使用し、担当を決め、できるだけプレゼンテーションやコミュニケーション能力向上が目指せるよう指導した。さらに、本演習では、世界を視野に入れた重要なキーワードについて理解を深め、今後の勉強や論文作成、就職等に役立つ基礎的知識を習得すること目的として、授業を展開した。

授業の問題点

10名のゼミ生を担当したが、個々の学生の学力レベルが異なることが課題であり、どちらの学力のグループに合わせてゼミを進めていくべきか悩みながらの進行となったことが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

学生達の授業に対する満足度結果を見ると、個々人がそれぞれ本演習に満足していたことが伺える結果となっており、良かったと思っている。学生のレベルを確認しながら、あくまでも個々人のおおのにあった進行、達成度に対する評価、能力向上を牽引することを目指したことは、とてもたいへんであったが、結果的に良かったと思う。

授業改善の課題と方策

今年度の本基礎演習の学生達はいへん真面目であるが、残念ながら、やや積極性に欠け、環境への適応能力がまだ十分ではない傾向が全体的に見受けられる。次年度の専門演習では現行のメンバーにさらに新しいメンバー数人が加わる予定である。就職活動に向け、社会人基礎能力の習得に向け、内容を充実させられるよう、個別指導の充実および演習方法全体のさらなる工夫を行い、学生ごとに見合った能力の向上を目指したい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	一戸真子

授業の概要

本演習では、詳細な業界分析を通して、業界の知識や情報をベースに、未来の社会を描く柔軟な考え方や、社会の現状把握、諸課題の理解や問題解決能力を修得することを目的とし、指導した。特に健康や環境関連ビジネスの成長が著しいので取り上げ、また、ディスカッションやプレゼンテーション実践を通して、社会が最も求めているコミュニケーション能力を身につけられるように演習を展開した。さらに、埼玉高速鉄道との産学連携活動にも参加しながら、具体的な社会実装を学べるよう指導した。

授業の問題点

15名以上のゼミ生のため、人数がやや多く、演習への参加の積極性にも差があり、進行および取りまとめに苦慮した。さらに、数名の積極的かつ優秀な学生と、モチベーションの低いゼミ生達との間の乖離が、演習の質に影響を与えていることが課題であった。

学生の授業満足度

学生による満足度結果を概観すると、全体的に満足度の高い傾向が見られたので安堵している。結果を見る限り、学生の自主性も含め、最高学年に向けての学生の成長が見られたようで良かったと思われる。

授業改善の課題と方策

学生個人々人においては満足しているようでよかったが、専門演習後に今後本格的に開始される就職活動などにおいて、十分に発揮できるだけの実力が十分に習得できているかについての課題が残される。今後はより一層学力や社会人基礎力の向上に向け、やや厳しいかもしれないが、もう少し演習内容のレベルアップを図っていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	卒業論文または卒業研究
担当者	一戸真子

授業の概要

これまでの各レポートとは異なり、4年間で最も関心を持つことが出来たテーマを選定し、1つのテーマについて真剣に考え、テーマに関する文献収集を行い、論理的な思考の訓練を行い、疑問に思うことを徹底的に調べ、掘り下げる必要がある内容を発見し、仮説を立て、研究目的に向かい、論旨を組み立て、論文を書き上げるまでの指導を行った。

授業の問題点

3年次より論文の書き方やテーマの絞り込み、文献研究の仕方などについて指導し、できるだけ早く卒業論文を書き上げるよう指導したが、学生自身のスタートが大変遅く、就職活動と残りの単位取得、そして卒論を仕上げるタイムスケジューについて、結局年末にようやく遅い追い込みスタートとなり、指導が大変であった。

学生の授業満足度

学生個々のテーマおよび実力、卒論執筆のスピードが異なるため、個別指導が大変であったが、学生の満足度が高い傾向にあり、質問への対応などについても十分に満足している結果となっており、良かったと思われる。

授業改善の課題と方策

論文締め切りに向け、かなり大変な個別指導の負荷がかかっており、年末年始のゼミの授業時間外での指導や対応が多かったため、学生中心ではあるが、自身の授業への負荷が大変高かったことについては、今後もう少し厳しく対応しながら、進めていけるよう工夫が必要であり、もっと計画性を持って論文執筆ができるよう指導改善していく予定である。

その他

特になし。

科目名	ヘルスケアサービス・マネジメント
担当者	一戸真子

科目名	マーケティング論
担当者	薄井和夫

授業の概要

本講義では、ヘルスケアサービスの特徴について理解した上で、他のサービスに比べどのような違いがあるかについて講義する。さらにヘルスケアコンシューマー中心のサービス提供にはどのような視点が重要であるかについても講義する。具体的には、ヘルスケアサービス提供の場ごとによる特徴、各従事者の役割とサービス提供について理解を深められるよう講義し、サービスの質と経営の関係についても講義する。また、多くの ニーズを抱えるサービス利用者の視点に立ち、保健・医療・介護・福祉の連携の重要性や今後より重要となる地域包括ケアシステムについても講義する。

授業の問題点

本科目受講登録の目的が、単純に曜日等の都合により選択した学生と、自身や家族が患者経験者あるいは、今後ヘルスケアサービス関連業界に就職希望の学生との2郡に分かれており、授業を進める際に、学習態度や積極性、課題への対応への差が顕著であり、苦勞した。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、結果を見ると、平均より高い傾向が見られ、本講義受講学生は比較的満足して講義を受けていたことが伺えるが、上記の授業の問題点でも述べたように、積極的かつ熱心に参加していた学生とそうでない学生達とは、捉え方も異なっていたことと思われる。

授業改善の課題と方策

本講義は選択科目であるため今後はこれまで述べてきたような課題に対応できるよう、講義開始の授業内で、できるだけ本科目内容に関心を持った学生のみが受講するよう、開始最初のオリエンテーションの充実を図りたい。残念ながら、指摘したような学生は初回からの熱心な参加も期待できないため、さらなる工夫が必要かと思われる。

その他

特になし。

授業の概要

現代ビジネスを理解するための基礎としてマーケティングを講義した。マーケティングの最も基本的な考え方や発想法、基本的な用語を理解できるようにすると同時に、担当教員の実務経験を踏まえ、マーケティングの基本的な考え方が実務にどのように生かされるのかを意識して講義を行った。

マーケティングの学習は、教科書を暗記すればそれで済むというのではなく、将来、どのように状況が変化しても、自分の力で問題を発見し、解決策を新たに考え出すことのできる力を養うことが大切だという観点から、対面での講義と同時に、受講生がウェブサイトを自分で調べて問題を解く「レポート課題」を継続的に課した。

授業の問題点

学生アンケートで、「質問や発言をしましたか」という設問の回答が2.97（平均3.21）と低い。「質問ありますか」という一般的な問いかけは常に行っているが、通常、学生はこれだけではまず質問はしないので、学生がディスカッションできる場をきちんと設定する必要があると思われる。また、担当教員の説明に熱が入りすぎ、学生が質問する時間が相対的に少なくなっていることも一因であると考えられ、この点は、謙虚に反省したい。

学生の授業満足度

学生アンケートで、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」という設問は4.50（平均4.37）、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は4.56（平均4.43）と相対的に高い数値を示しており、満足は得られたものと思われる。

一方、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は4.36（平均4.35）で、ほぼ平均値であり、これをもう少し高める工夫が必要であろう。

授業改善の課題と方策

- (1) 学生の質問が少ない点
授業のなかに、学生同士でディスカッションできる場をきちんと設定して、お互いが疑問・質問を気軽に出来るように工夫したい。また、教員の説明が長すぎて一方的にならないように心がけたい。
- (2) 総体的満足度が平均的である点
講義で取り上げるトピックをもう少し学生に身近なものにする工夫をしたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	会計学総論
担当者	大塚浩記

授業の概要

会計学は、企業の経済活動を記録、計算、報告する役割を果たす。その報告は主に財務諸表といわれる決算書を通じて行い、報告対象は企業の所有者である株主のみならず、その企業に関心のある人たちを含む。財務諸表は一定のルールに従った共通の用語・計算で作成され、利用される。本講義では、財務諸表の理解を中心に会計学の学問領域を少しずつ講義する。

授業の問題点

授業中の発言機会は様々な配慮から積極的には行っていない。しかし、この科目は特に言えることだが、予習と復習の要素が足りないのではないかと考えている。

学生の授業満足度

対面授業については、まずまずだとみられる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍にある影響で、対面授業と課題授業との繰り返しだったが、上記の予習の足りなさをオンライン授業の課題に求めたところがある。ただし、Bのパターン「オンライン授業→対面授業」と、Aのパターン「対面授業→オンライン授業」との違いにより、同じ内容でも、授業の進め方の想定が異なるので、基本はBのパターンを意識した。

また、復習の要素は、中間レポートを課すことにより、それまでの授業内での計算式を確認させ、またいくつかのサイトによる企業の経営情報に触れるような仕組みを実行した。学生が主体的に取り組むには至っていないと考えられるが、授業時間以外での作業をする形で今後も取り組んでゆきたい。

その他

授業改善書

科目名	インターンシップ I
担当者	大江清一・大塚浩記

授業の概要

インターンシップ I は1、2年次または3年次にインターンシップ等を体験しようとする学生のための授業である。ただし、授業でインターンシップ等の実習そのものを体験するのではなく、インターンシップ等の体験者である先輩や内定者である先輩、また企業で働いている社会人（企業人）とのコミュニケーションを通じ、就職に対する意識を高めることを目的とした指導を行う。

授業の問題点

オンライン課題提出授業の提出が例年より減っていたこと。
 特定の原因は明確ではないが、例年のことながら、3割近くの授業放棄者が出ていること。

学生の授業満足度

例年通り、最後まで興味をもって受講し、アンケートに回答している学生からの評価は、おおむね満足してもらっているとみられる。

授業改善の課題と方策

知識を習熟してもらおうというよりも、就職活動に関する情報を知り、受講者各自がどのように準備するかを考え、行動してもらう必要がある。この意味で、考えていることに対して、何かしらのフィードバックをしてあげなければいけないかもしれない。

その他

科目名	ビジネス社会と出会うⅡ（業界研究・会社研究）
担当者	大江清一・大塚浩記

授業の概要

本講義は、将来に就職活動を控える学生が、知っておくべき企業社会に関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、様々な業界が存在していること、その業界には多くの企業があり、また様々な仕事があること、そしてその仕事の社会的意義や働きがいなどを具体的に知るための講義を行う。

授業の問題点

例年より全体手としての受講姿勢は良かったと思われるが、出席率が低下したとみられること。

学生の授業満足度

例年通り、最後まで興味をもって受講し、アンケートに回答している学生からの評価は、おおむね満足してもらっているとみられる。

授業改善の課題と方策

知識を習熟してもらうというよりも、就職活動に関する情報を知り、受講者各自がどのように準備するかを考え、行動してもらう必要がある。特に、授業内レポートでは、自身が知らなかったことを知ることができた旨のコメントが多い。であれば、一層、積極的の多くの会社研究を行ってもらいたいところであるが、全体として必ずしもそうならないように見受けられる点が課題である。授業内外を通して、一層のガイダンスに注力する必要がある。

その他

科目名	上級簿記
担当者	大塚浩記

授業の概要

初級簿記や中級簿記で習得した内容に基づいて、より多くの取引を理解し、記帳できるようになることを授業の目標とする。具体的には、日商簿記検定の2級程度の範囲のうち、個別財務諸表に係わる日常の取引と決算を講義する。

授業の問題点

初級、中級と学んだあとの授業内容であり、少ない受講生数でありながらも、前提となる習熟度に差異があること。

学生の授業満足度

おおむね満足してもらっているとみられるものの、内容の理解をしにくかった受講者がいることは承知している。

授業改善の課題と方策

受講者全員が前向きな受講姿勢であったので、授業内容にかかわる以前に学んだ単元の復習を指示していたが、より具体的な課題として予習をしてきてもらっても良かったかもしれない。

その他

科目名	租税法Ⅰ
担当者	佐藤正勝

授業の概要

租税法Ⅰは、個別の税目(所得税法、消費税法など)の内容を講義した。具体的には、税の特色、所得税、法人税、消費税、相続税等を説明した。使用したのは、教員作成のテキストと参考資料である。

授業の問題点

そもそも、説明しても身近に感じてもらえる科目ではないので、身近に感じてもらえる内容にできるかどうか、が問題である。

学生の授業満足度

- アンケートの中の「満足度」の欄の評価は、次のとおりであった。
- Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
4.34 (4.43)
- Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか
4.25 (4.35)

●結果は、平均点よりも、低い満足度であった。

授業改善の課題と方策

特に、「プリントがわかりにくく、何をやりたいのかよくわからなかった。」とのアンケートが出されている。したがって、次回は、分かり易い授業にしたい。特に、図表を改善したい。

その他

なし。

科目名	租税法Ⅱ
担当者	佐藤正勝

授業の概要

租税法Ⅱは、租税法の解釈・適用方法を主に講義した。具体的には、租税法の基本原則、法源、解釈・適用、租税回避、租税法の適用例であった。

租税法Ⅰ(春期)は、消費税などの制度の説明であったので、例えばコンビニでの買い物等で消費税に接するので、身近な題材であった。しかし、租税法Ⅱ(秋期)は、身近な内容は、ほとんどなく、抽象的な内容とならざるを得なかったという特徴がある。

授業の問題点

租税法Ⅱは、前述のとおり、学生という若い年齢の者には身近な内容ではない。したがって、学生の興味のレベルは、高くなかった。しかし、これは、問題というべきではない。なぜなら、前述の科目の性質上、学生一般の知識・経験の浅さから、当然に発生することだからである。重要な点は、そうした中でも、すこしでも、興味を持ってくれて、4年の租税法論文に繋がったり、大学院の租税法専攻の学生が一人でも出てくれれば、ベストということになる。

授業アンケート評価全14項目のうち、平均を下回った項目は2項目のみであり、残りの12項目は、平均を上回る評価結果となっている。したがって、全般的には、問題はないように思われる。そこで、今後の授業においても、従前どおり、将来、社会に出た際に必要となる知識を身に付け、さらに、可能なら税の専門家を目指す学生向けに、分かり易く、興味をもってくれる授業をすることにしたい。

学生の授業満足度

- アンケートの中の「満足度」の欄の評価は、次のとおりであった。
- Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
4.48 (平均 4.45)
- Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか
4.38 (平均 4.37)

●結果は、Q9もQ10も、平均点より高い満足度であった。興味を持ちにくい科目であるにもかかわらず、満足度が、平均を上回っているという事実は、どう理解したらよいか不明なるも、授業内容に満足できた何か、があったからと考えられるので、当面問題はないと思われる。今後とも、満足度がさらにアップするような授業となるよう、工夫していきたい。

授業改善の課題と方策

テキスト、配付資料は、教員独自のものを作成している。また、毎年、前年の反省を踏まえて、少しずつ改善を加えてきている。その理由は、より多くの学生に興味を持ってもらいたいからである。今後も、改善の努力を続けていきたい。

その他

なし。

科目名	企業論
担当者	反田 和成

授業の概要

- ・本授業では「株式会社」の基本的な仕組みを概観するとともに、現代企業が変化の激しい時代を生き抜くための経営戦略、リスクマネジメント、マーケティング、戦略的提携やリーダーシップについて学び、現実の経営事象を理解する力を身に付けることを目的としている。
- ・また、グローバル化の下で大企業が行動する際の特徴や課題についても授業を行っている。毎回最新の企業の事例を取り上げながら、基本的な内容を重視し、授業を通じて学生の論理的思考力、判断力、プレゼン力、イノベーション力に必要な発見力や実行力といった能力の向上を図ることを目指している。

授業の問題点

- ・今回は受講生の人数が多かったため、A班、B班に分かれた授業となった。2班に分かれたので対面授業は7回となり短縮されたため、具体的な事例の説明に時間をかける授業はできなかった。
- ・また、2班に分かれたため、当初予定していたグループディスカッションやプレゼンテーションを行うことができなかったのは誠に残念であった。

学生の授業満足度

- ・当初授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を想定したが、一部予定通りに進捗できなかったため、学生の満足度は4.10であった。
- ・一方、対面授業の内容を踏まえたレポート課題を隔週で提出して頂いたので、学生の理解は深まったと考えている。

授業改善の課題と方策

- ・次年度以降はミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

- ・特にありません。

科目名	ベンチャー企業論
担当者	反田 和成

授業の概要

- ・本授業では、事業構想の発着想を支援する創造的思考法を身に付けるための実践的な演習を行いません。日常的に課題発見と創造的な思考を行なう為の方法や考え方を演習によって体得するとともに、「新規事業の構想×事業計画×事業の実行×出口戦略」といった一連のビジネスプラン作成を通じて新規事業の実行段階までの基盤形成を行う。
- ・新規事業のマネジメントに必要な知識・能力を身に付けると共に、人・モノ・金に代表される経営資源の手配や運用だけでなく、多面的に事業構想を捉える事を学習し、課題探求・問題解決ができる能力を身に付けることを目的としている。

授業の問題点

- ・各班に分かれて新規ビジネスのビジネスプランを作成し、プレゼンテーションを行ったが質疑応答の時間を取ることができなかったため、もう一歩理解度を深めることができなかった。
- ・授業の内容や量に関しては4.27と満足度は低かったため、次年度以降は見直す必要がある。

学生の授業満足度

- ・当初授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を予定していた。一部予定通りに進捗できなかったが、学生の満足度は4.45（平均）と概ね良好であった。
- ・テキストなどの資料の内容に対しては4.59、授業の方法に関しては4.55と概ね満足度は高かった。

授業改善の課題と方策

- ・次年度以降はミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

- ・特にありません。

授業改善書

科目名	国際経営論
担当者	反田 和成

授業の概要

- ・本授業では、国際ビジネスの基礎知識を学び、ダイナミックにグローバル展開する企業の活動を理解すると共に、国際経営戦略、リスクマネジメント、マーケティング、M&A、組織形態、人的資源管理等について基本的な内容を学びます。具体的には、日本企業による海外展開の背景や、進出先、事業内容等を学習し、その内容を体系的に講義する。
- ・総合商社での勤務を通じて培った国際的経験や事業会社の経営、新規事業構築の実務経験を活かした「実践から学び、理論体系を構築」する授業を目指し、授業の中で学生諸氏と双方向に意見を交換するなど、学生が主体となる授業スタイルで進行する。

授業の問題点

- ・各班に分かれて海外から日本へ進出している企業を調査分析し、プレゼンテーションを行ったが質疑応答の時間を取る事ができなかったため、もう一步理解度を深める事ができなかった。
- ・全体的な授業への満足度は4.30と高くなかったため、次年度以降は見直す必要がある。

学生の授業満足度

- ・当初授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を予定していた。順調に予定通りに進捗できたため、学生の満足度は4.50（平均）と概ね良好であった。
- ・授業のわかりやすさに対しては4.70、授業の方法や資料に関しても4.70と満足度は高かった。

授業改善の課題と方策

- ・次年度以降はミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

- ・特にありません。

授業改善書

科目名	中小企業論
担当者	反田 和成

授業の概要

- ・本授業では、中小企業の発展性と課題・問題点のほか、中小企業の競争戦略、中小企業の経営戦略、ベンチャー企業、中小企業の海外進出における国際経営戦略といった側面から中小企業を体系的に学ぶ。
- ・中小企業について経済や産業全体の視点から企業経営の視点まで幅広い観点から理解を深め、学生が将来中小企業を経営する立場、支援する立場、働く立場になったときに役立つ専門的知識を身に付けることを目指している。近い将来、社会人としてビジネスの現場の最前線で活躍できるように、地域中小企業に対する調査研究の実務経験に基づき、多くの最新事例を活用した理解しやすい授業スタイルで進行する。

授業の問題点

- ・各班に分かれて課題解決手法における問題点の抽出、課題設定、解決するための戦略設定のグループディスカッションを行ったが、多くの時間を取る事ができなかったため、もう一步理解度を深める事ができなかった。
- ・授業の方法や資料に関しては4.30と満足度は低かったため、次年度以降は見直す必要がある。

学生の授業満足度

- ・当初授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を想定していた。一部予定通りに進捗できなかったが、学生の満足度は4.40（平均）と概ね良好であった。
- ・授業のテーマの明確性に関しては4.60、内容や量に関しては4.50と概ね満足度は高かった。

授業改善の課題と方策

- ・次年度以降はミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

- ・特にありません。

科目名	経済史
担当者	張 英莉

授業の概要

この講義では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（傾斜生産方式）、③高度成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を解説する。

授業の問題点

今回のアンケート調査で受講生が挙げた主な問題点は次の2点である。

- ①板書が多くて書くのが間に合わないことがあった。
- ②内容は消化しきれないことがあった。補足プリントがあればありがたい。

授業改善の課題・方策

まず、アンケート調査の結果を見る限り、受講生は授業内容、授業方法を概ね肯定的に評価しており、これらについては特に修正する必要がないように感じている。また授業満足度も4.43ポイントになっているので、今後はこのスタンスを続けていきたいと考える。

上述の問題点について、

- ①はすぐに対応したいと考える。板書の内容はさらに絞り、全員が間に合うように配慮する。
- ②に関しては、現在、毎回授業のレジュメを配布しているが、その内容をより充実させると同時に、授業内容への理解を深めるための参考文献を幅広く紹介する。

その他

科目名	アジア経営論
担当者	張 英莉

授業の概要

この講義では国際経営、アジア経営に関する初歩的な理論と日本企業のアジア進出の実践例を解説する。講義内容は、①日本企業の国際化と対外投資の歴史的背景、②アジア市場の特徴、カントリー・リスク、およびそれに対応する進出企業の経営戦略（特にマーケティング戦略、人材戦略）、③異文化経営における理論と実践例、の三つの部分によって構成されている。必要に応じて以上の内容に関連する映像資料を併用する。

授業の問題点

授業内容、授業方法に関する回答はすべて4ポイント以上なので、特に問題はないと考えている。来期も履修生の要望に合わせて微調整をしながら、基本的にはこのまま続けていきたい。

しかし、「授業への学習態度」に関しては、出席や課題提出への自己評価が高かったものの、「質問や発言をしましたか」との質問に対して、2.60ポイントと極端に低く、全項目中最下位であった。これについては改善しなければならないと考える。

学生の授業満足度

授業全体に対する学生の満足度の評価は、「授業の内容はあなたにとって得るものがあったか」、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の二つの質問に反映されると思われるが、どちらの評価も4.47（平均はそれぞれ4.45、4.37）ポイントとなっており、受講生がおおむね満足しているのではないかと考えている。

授業改善の課題と方策

上述の問題を解決するために、昨年度に引き続き、次のような改善策を取り入れたい。授業中に質問や発言をしない受講生が多いということは、質問・発言しやすい雰囲気、環境が整っていないことが考えられる。今後は双方向教育を推進するためにも、受講生に対して適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作りたいと考える。

その他

科目名	経営財務 II
担当者	福永 肇

科目名	経営戦略論
担当者	文智彦

授業の概要
<p>本講義は、株式会社の資金調達を核に、企業の財務について学ぶものである（エクイティ・ファイナンス分野）。最初に株式会社のしくみと歴史を学び、「株式会社は人類の大発明」といわれる理由を考えていく。次に「株式」という有価証券について勉強し、株式会社の設立、会社運営における株式、会計（財務諸表）における株式、発行市場や流通市場における株式、株主の役割など、様々な視点からエクイティ・ファイナンスを学び、理解していく。</p>
授業の問題点
<p>教室（403号室）には天井固定型プロジェクター、窓への遮光カーテンがなかったことなどから、パワーポイント作成資料や各種の（白黒の）授業資料は毎回印刷して配布し、黒板板書での授業となった。カラーの色付きのパワーポイント映写による授業の方が、より分かりやすい授業が出来たであろう。</p>
学生の授業満足度
<p>受講生は10名、毎回ほぼ全員が出席していた（毎回出席をとった）。欠席する場合は事前にメールで連絡があった。この面では良好な授業であった。</p> <p>授業アンケート結果（回答6名）では、14項目中4項目以外は高い数字であった（4.50～4.83）。低い点数の4項目は「質問や発言をしましたか（2.33）」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか（3.67）」「ノートやメモ等を取りましたか（4.00）」であり、この3項目の低い数字は昨年度と同様である。学生の全くの授業受け身姿勢が反映している。本年度は「授業内容に興味や関心をもちましたか」が4.17と低い数字を示した。</p> <p>経営財務（コーポレート・ファイナンス）は「必修科目」ではないが、ビジネス社会で必須の知識であるので、経済経営学部の全学生に受講してもらいたい科目であるが、受講生は10名（昨年は12名）に過ぎない。ファイナンスへの興味を持って学んでもらうことを望む。</p>
授業改善の課題と方策
<p>世界でのファイナンス分野の主流は、米国のビジネススクールが教授している投資理論であるが、それらのテキストは数式、関数、微分方程式のパレードで、学生が関心を持ってそうになく、また理解が難しい。そこで授業では内容を、株式会社の資金調達に定め、自己資本（株式発行）、他人資本（銀行借入）について15回の講義を行った。実際の企業や経済社会を知らない学生が分かり、興味を持つ授業内容をどのようにするか、が引き続きの課題である。</p>
その他
<p>・シラバスに記載した到達目標は、①株式会社のしくみ（特に株主）に対する知識を理解、修得する、②株式会社の資金調達（株式、社債、銀行借入）を理解する、③株式の発行市場、流通市場、証券会社、証券取引所を理解する、④株主総会、配当政策、コーポレートガバナンスなど、株式会社の財務に関連する事項も理解する、である。これら4つの目標全てにわたっては、基礎的な事項から丁寧な講義を行うことが出来た。</p> <p>・学生はまだ企業で働いたことがなく、株式会社の仕組み（株主、所有と経営の分離など）、株式発行、株式投資（運用）、株式市場、株式上場、証券会社、配当政策、IRなど、初めて聞く新しい金融専門用語や項目の理解・習得には難しい処があったと思料される。</p>

授業の概要
<p>経営戦略とは、企業が存続・発展するための方針である。</p> <p>本講義の狙いは、このような経営戦略について、理論と事例に基づき理解し、実践的に活用するための基礎知識を獲得することである。</p> <p>本講義においては、このような科目にかかわる基本的な知識の獲得とともに、思考力やコミュニケーション力、などの向上のため、双方向型の授業を行い、さらにグループワークやレポート、リアクションペーパーなども用いて、学生の理解度を把握しながら、講義する。</p>
授業の問題点
<p>「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の中の「Q1 授業外学習をしましたか」の項目（3.95）以外すべての項目が4点台（4.05－4.58）である。</p> <p>よって、「授業外学習」に関する項目の点数がやや低いことが問題点である。</p>
学生の授業満足度
<p>「Ⅲ授業満足度について」の項目、「Q1. 授業の内容はあなたにとって得ることのあるものでしたか」の点数が4.11で、「Q2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が4.21であり、学生の満足度は高いと考えられる。</p>
授業改善の課題と方策
<p>「授業外学習をしましたか」の項目の点数をあげることが課題である。</p> <p>授業外学習を増やすための方策として、毎回課題を提示し、その評価を厳格に行うことを周知し実行する。</p>
その他
<p>授業内での発言が増えてきたが、より積極的な授業参加を促したい。</p>

授業改善書

科目名	経営学
担当者	文智彦

授業の概要

本講義では、経営学および、経営戦略論・経営組織論・マーケティング論・人的資源管理論などの専門科目の基礎について講義する。これらの理論体系をしっかりと理解し、それらを通じて具体的な事例を分析できるような内容である。これらを学ぶことによって、今後より高度な専門科目を理解し大学で学んでいくための学習能力を身につけるよう講義する。

授業の問題点

質問や発言をしたか、授業外学習をしたか、についての点数が低い。

学生の授業満足度

授業満足度は高い。
説明やスライドが分かりやすく、理解がしやすかった、授業中に先生がマイクをもって生徒に問いかける場面がいくつかあったが、他の生徒の意見もきけてとても良かったと思う、などの意見があった。

授業改善の課題と方策

授業内で質問と発言を促し、課題を増やし厳しく提出をチェックする。

その他

授業改善書

科目名	経営学史
担当者	文智彦

授業の概要

授業は経営学の歴史についての講義である。
古典的経営学、近代的経営学、人間関係論、コンティンジェンシー・セオリーなどの伝統的な理論分野から現代の経営理論に至るまで幅広い領域にわたる内容を講義する。
経営戦略論、経営組織論、経営管理論、イノベーション論などを学ぶ上で必須の内容を理解することも狙いとしている

授業の問題点

特にないが、授業外学習の評価点が相対的に見てやや低い。

学生の授業満足度

授業満足度はかなり高い。

授業改善の課題と方策

授業外学習を増やすための工夫をしたい。
たとえば、課題を出し、発表させる形式で、課題の遂行を促す。

その他

科目名	プログラミング I
担当者	村田嘉弘

科目名	フィンテックとデジタル社会
担当者	森 雅俊

授業の概要

コンピューターに関する基本事項を説明し、その後、Python の文法とプログラム作成の入門事項を実習を通じて学習する。

授業の問題点

(1) 期末試験の結果より、せっかく勉強してもプログラミングに関する理解が不十分なままの学生が少なからずいることが分かった。原因としては以下のことが考えられる。
 ・プログラミングも学習の積み重ねで成り立つ授業であるので、欠席するとどんどん分りにくくなってゆくが、それでも何回も欠席してしまう。
 ・学期の後半になっても Windows 操作の基本を理解しておらず、そのためプログラミングの学習に支障をきたす。授業の前提となる予備知識が身に付かないままになってる。
 ・学習用プログラムの入力に一生懸命で、自分の行っていることを理解しようとしていないように見える。間違わないように入力することだけに注意を傾けているようである。
 ・自習問題としてプログラム作成の問題を出しても自習していない。
 (2) 一方、コンピューターのことをほとんど理解できていない状態から根気よく積極的な学習を続けて、力を伸ばしてきた学生たちもいたことは大きな希望である。
 (3) 総じてコンピューターに関する予備知識の乏しい学生が多いが、高校の必修科目「情報 I」を履修した学生が入学するまでは、この状況は続きそうである。

学生の授業満足度

・「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の評価が低い。配布資料に学習テーマと内容を明記し説明しているにも関わらず理解できていないようである。
 ・「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」の評価が低いのは、学習用プログラム入力に時間のかかる学生が多く、授業進度が遅くなることが一番の原因ではあるが、コンピューターに不慣れな学生が多い現状では仕方がないと言え、対応策が必要である。

授業改善の課題と方策

・令和 3 年度の授業に比べ、3 回分をプログラミング II に移し、1.5 回分は完全に削除することで授業内容を 4.5 回分減らした。それでも、上に述べた問題点が発生しており、更に学習内容を減らさなければ、状況は改善しないようである。より精選した学習内容に絞ることを目標としたい。
 ・回毎の学習量の更なる平準化を行う。
 ・何を学んでいるのかをはっきり自覚してもらうために、毎回、自分で考える演習問題を出题し、その回の学習内容を理解してもらうようにする。
 ・授業全体の学習内容とテーマを俯瞰し現在そのどこを学んでいるかが分かる「まとめ」を資料に毎回掲載する。
 ・一般論として、勉強とはどうすればよいのかも説明していく。

その他

授業の概要

フィンテック、fintech(英: financial technology)とは、Finance(金融)と Technology(技術)を組み合わせた造語である。フィンテックは、従来の金融サービスを ICT(情報通信技術)で置き換えるだけでなく、新たなサービスも生み出そうとしている。そこでこの講義では、フィンテックの背景となっている代表的な技術である、(1) スマートフォン、(2) 人工知能(AI)・ビッグデータ分析、(3) ブロックチェーン・分散型台帳技術(DLT)について概説した上で、これらの技術を使ったデジタル社会を理解する。

授業の問題点

授業の問題点として、点数の低かった項目を上げると、
 1) 「テキストなどの資料は適切でしたか」 3.77
 これについては、この授業が扱うテーマは、新しいテーマで教科書にふさわしい著作が乏しいことである。
 2) 「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」 3.69
 これについても、上記と同じ理由があるが、来年度は、更なる工夫をして、分かりやすい資料と興味深い資料にしたい。

学生の授業満足度

学生の授業満足度については、下記のとおりであった。
 Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
 3.92 (4.43)
 Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか
 4.00 (4.35)
 平均を下回ったので、来年度は、努力したい。

授業改善の課題と方策

授業アンケートから分かった課題として、
 1. テキストなどの資料が適切でない部分があった
 2. 授業の方法や資料が分かりにくい部分があった
 上記のことから対策として、テキストの見直しを行いたい
 また、授業で使う資料についてもわかりやすくする工夫を行いたい

その他

学生による主な意見の項目で、「今後生きていく上で必要になっていくで、あろう知識を学ぶことができ良かった。」というコメントを頂いた。
 大変、うれしいコメントであり、来年も頑張っていきたい。

科目名	プラットフォームビジネス
担当者	森 雅俊

授業の概要

プラットフォームとは、略称でGAFAMと呼ばれる Google, Amazon, Facebook, Apple, Microsoft の米国系企業に代表される。それぞれ情報技術を使った特色のあるビジネスにより、その影響力は大きく、プラットフォームを形成していることから、これらの企業のビジネスモデルをプラットフォームビジネスと呼んでいる。日本国内でもこうしたプラットフォームと言われる企業が誕生しているが、最近の話であり、共通点は、ITC（情報通信技術）を駆使して競争力のあるサービスを提供している。これらを学び、その良さを学ぶことは、意義にあることと考える。

授業の問題点

新しい学問なので、プラットフォームビジネスの定義やこれを教える意義などについて、自分自身で自問自答や試行錯誤をしていることがある。こうした状況下で、今後も学生の知識や見識に役だつことを教えるように努めている。

学生の授業満足度

学生の満足度を高めるには、プラットフォームビジネスの概要を理解した上で、具体的な企業の分析やその手法を理解させることを心掛ける。満足感を高めるには、自ら興味のあるプラットフォームビジネスの企業に対して、調査、分析、資料作成、発表といった段階を経験させたいと考える。

授業改善の課題と方策

プラットフォームビジネスという新しい分野や新しい会社についての資料やデータの入手が難しいとことがある。本の情報だけでなく、できるだけ、インターネットの新しい情報も使って、良い授業になるように心がけたい。

その他

学生の意見：「新しいビジネスの考え方をしっかり学ぶことが出来てとても良かった」といううれしい意見を書いて頂いた。確かに新しいビジネスを多く紹介したつもりであるが、全体の満足度は、高くないので、これらを考慮して来期に臨みたい。

科目名	経営学総論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営学の基礎を修得する。そのためにはまず組織論の基礎を修得し、企業経営、経営戦略、企業倫理、企業の国際化の順で、経営学で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営学は生きた学問として身につけなければならない。経営学は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営学の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営学を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

- (1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、二部制への対応であった。1 回おきしか受講チャンスがない学生たちに講義するには一挙に多くの内容を講義で話すのではなく、実務経験を交えてわかりやすく説明することが肝要と思った。
- (2)ソーシャルディスタンスをとって座席についており私語は少なかった。

授業改善の課題・方策

【授業内容の改善】

- (1)講義内容に対する著しい不満は見られないので、今後も引き続きレジュメを用いて、講義中で重要ポイントを強調する方式で講義を進める。また、実務事例は従来以上に豊富に盛り込む。
- (2)講義内容に関係する経験談は講義内容を理解する上で必要なものに限って行うように心がける。

【規律の厳格化】

- (1)レポートの提出期限は 1 週間をメドにしたが、期限後に提出する学生が散見されるため、その点を引き続き改善させる。

その他

- (1)わかりやすい授業であったという感想ははじめてであったので今後はこのようなコメントを多くもらえるよう平易な解説を心がける。
- (2)基本的に受講態度は良好であったので、実務経験を交えて興味深い講義を行っていく。

科目名	経営管理論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営管理論の基礎を修得する。そのためにはまず経営管理の基礎を修得し、経営戦略と経営管理、経営管理の体制、経営管理の対象、国際化と経営管理の順で、経営管理論で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営管理論は生きた学問として身につけられなければならない。経営管理手法は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営管理論の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営管理論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

- (1)「授業アンケート集計結果」に基づく改善ポイントは、講義内容をさらに改善することである。
- (2)経営管理論の履修生は2年次以上であるので、経営学の基礎知識が修得されているという前提で専門性の高い内容を講義に盛り込んでいる。
- (3)経営学総論で説明した内容を折に触れて振り返るよう努力した。学生にリマインドさせる効果はあったと考える。

授業改善の課題・方策

【講義内容のレベル】

- (1)経営管理論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考ええる。
- (2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視した工夫を凝らしているが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに改善を加える。

【講義運営】

- (1)講義における学生の集中度は余り十分でなく、理論と実務を織り交ぜて興味を引く講義内容を心がける。
- (2)レポートの提出期限はおおむね守られた。しかし、講義中の態度に関しては熱心な学生とそうでない学生の較差が著しかったので平易な表現を心がける。

その他

- (1)レポートを15回提出させることで講義内容の理解レベルはむしろ改善したと思われる。
- (2)課題が負担であったというコメントがあったので、今後再検討する。

科目名	経営組織論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営組織論の基礎を修得する。経営組織論を理解するためには、経営学総論、経営管理論を履修しておくことが望ましい。経営組織論は、いかなる組織に所属する場合でも応用可能な理論である。

経営組織に関する研究は、経営学のみならず経済学、社会学等多くの分野に近接する学問領域であるので、多角的な視野から講義のテーマにアプローチする。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営組織論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

- (1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、講義内容を時間をかけて実務経験を織り交ぜて充実させることである。
- (2)従来の講義時間を割り振りは、全講義時間90分を理論編と実務編に大きく分け、前者を経営組織に関する学説や理論の説明、後者を講師の実務経験に基づく説明として現実に関した講義を心がけた。この方針を来期も継続する。

学生の授業満足度

- (1)学生の授業満足度は「4.14」と平均値の「4.37」と比較すると下回った。この点については上記の「授業の問題点」で述べた内容を実践し引き続き改善を目指す。
- (2)引き続き学生が集中できる講義内容にする。
- (3)上記2点について、授業外学習や講義中の発言等を積極的に求めていきたい。

授業改善の課題と方策

【講義内容のレベル】

- (1)経営組織論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野である。
- (2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視した工夫を凝らしているが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに継続して改善を加える。
- (3)実務経験に根差した経営組織上の問題点等を多く取り入れるにあたっては付属資料を示してリアリティを出す工夫を行う。学生の反応は良好であったので、レジメの予習、復習だけでなく、関連する経営に関する時事的な興味を抱かせることには効果があったと考える。

その他

- (1)受講者の「経営の成り立ちや組織の仕組みなどについてよくわかりました。」というコメントは参考になった。実務経験を交えた講義に対しては集中度が高と実感したので、引き続き講義内容に工夫を凝らす。
- (2)「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という質問に対する評価点は前年度の「4.53」から「4.32」と低下した。学生にとって有益な講義を心がける。

非常勤講師

人間学部

科目名	国際関係論
担当者	石塚 勝美

科目名	政治学
担当者	伊藤 肇

授業の概要

国際関係論の2大理論である現実主義と理想主義について学び、その理論が国際社会にどのように反映されているかを学ぶ。国際関係においても国際連合の働きやその課題点、さらには大国主導の国際紛争のあり方についても学んでいく。

授業の概要

新型コロナウイルスの影響で今期も対面授業とオンライン授業を並行して授業を進めた。特にオンライン授業の回では二人一組となって課題図書感想・理解について相互に批評し合うというペアワークの作業に取り組んでもらった。

授業の問題点

特に大きな問題点は感じない。
細かい問題点と言えば、教科書を速やかに買う学生が大勢いないために、なかなか教科書を使うことができない。
教員の口頭による授業よりも、DVDを使用する授業の方が学生の集中力が欠如する傾向である。
現在ロシアのウクライナ侵攻等、当該科目に関する国際問題は見受けられるが、学生間では、国際安全保障とか国際政治等に強い関心がある学生は少ないようである。

授業の問題点

総じて受講者の評価は芳しくない。「学生による主な意見」としても、「ペアワークはない方が良かったのではないかと思います。」という意見が取り上げられている。
ただ、「なぜない方が良かったのか」という点については全く不明であり(後述の文章作成能力を示す一例と考えられる)、それはペアワークが自分にとってあまり意味のない学習だったという評価なのか、ただ学習量が膨大になってしまったから楽に単位が取れる形式にしてほしいという願望なのか、担当者に対してもっと具体的なアドバイスを欲しいところである。

学生の授業満足度

概ね満足しているようであるが、教科書の扱いにやや問題がありそうである。(教科書のライン引きが速いなど)

学生の授業満足度

上記のような意見がある一方で、そのペアワークで受講者が書いた文章を紹介しておきたい。(文脈が通じるように数か所書き直してある。)

授業改善の課題と方策

やはり現在の国際問題に関してももう少し関心を持ってもらうための様々な工夫が必要であると感じる。これは範囲新聞の記事などを切り抜いて教材に使用するか、映像やDVDを観てもらい現実性を持たせるということももちろん重要であり、私自身も熱心にやってきたことではあるが、昨今はそのようなものだけでは限界を感じる。
例えば、ロシアのウクライナ侵攻に関しても、新聞の記事や映像を見せるだけではなく、そのことが国際社会や、とりわけ私たち日本人の生活にどのようにかかわっていくのかについてもリンクしながら教えていく必要があると考える。
また早期の教科書購入に関しても徹底していきたい。

「(ペアの相手の指摘を受けて)、自分がもう一度読み返してみても確かに一文が長くて読みづらいと感じました。その理由として、読点がないという問題がありました。一文が長い読点がないためにとっても読みづらいと感じた。また、確かに一マス開けるべきだったと考えます。文の最初は一マス開けるということを忘れていました。(中略)文章ができたなら、何回も読み返して自分自身で確認すべきだったと考えました。
自分の作品が、他人と比べられてどのような反応をされるかとても気になっていました。〇〇さんはちゃんと自分の作品を読んで下さって、良い点、悪い点を明確に出し悪い点は確かに自分が直すべき問題だったと学習することができました。」

これは内容以前の、文章を書く上での形式上の問題点に関するものであるが、そこには他人の目を通すことによって新たな発見があったことが記されている。

授業改善の課題と方策

「授業目標の達成度」に関する報告書でも触れたことであるが、埼玉学園大学の偏差値が近年上昇していることが報告されている。ただ、学生によってかなりの学力差があることも事実であるように感じられる。(偏差値のみが唯一の評価基準ではないけれども。)授業中の指示内容について授業後質問があった際、その様子から全く理解できていないことが推測されたので改めて「teams」上で文字にして伝達したが、それでも自分勝手な解釈しかできない学生が存在する。大学入試においても「情報処理能力」の重要性が指摘されているが、まず基本的な読解力および文章作成能力を身につけてもらうことの必要性を痛感している。

その他

その他

科目名	情報科学史
担当者	伊藤 裕二

科目名	英語 I
担当者	大山健一

授業の概要

授業では、現在身の回りにある情報科学・技術及び近い将来主流となり得るものを中心にその歴史的背景としくみについて講義した。コロナ感染防止のため対面・オンライン講義を交互に行うハイブリッド型を採用したのに伴い、従来のシラバスを必要に応じて修正した。

授業の問題点

本年度は授業内容、授業方法、授業満足度に関して昨年に引き続き低調な評価となった。昨年度授業の問題点への対策として従来の講義内容を一部削減したが、新たに Web3.0 など新規の項目を追加したため結果的に全体として大幅な削減には至らなかった。また、感染症対策のため2グループ制で交互に対面授業を行っているが、実質半減する講義回数をカバーするため本年度からオンライン課題の回数を増し計7つのレポートを課すことにした。それでもまだ15回講義を行っていたときと比べて30%程度講義内容が減少している。一方で特記事項にもあったようにこのオンライン課題を負担に感じているという学生がおり、実際課題提出された割合は全体の3割に満たない。講義回数が半減した中で如何に授業の質を維持するかが問われていると感じる。

学生の授業満足度

授業満足度は昨年同様3.6~3.8と低い結果となった。上述したオンライン課題は講義中に説明した内容に即して課しているが、その提出率が3割程度であるので講義の理解度も同程度であると推量し、それが学生の授業満足度の低調に影響しているものと考えられる。

授業改善の課題と方策

次年度も感染症対策のため2グループ制で講義を行う前提で7回の対面授業とオンライン課題のバランスを調整し、授業の質を向上させることに主眼を置く。具体的には、従来の講義内容を一部削減して、その分をオンライン課題関連事項の説明に充当する。また、今年提出率の低かったオンライン課題についてはその難易度やテーマ自体を見直して学生に過度な負担が掛からないように配慮する。

その他

ここ数年、履修登録をして一度も講義に出席しない学生の割合が増加傾向にあり、本年度は5人に1人の割合を超えている。また、出席回数不足により定期試験受験資格のない学生が全体の4割を占めた。そしてこの問題が表面化した。つまり、初回講義から出席し、オンライン課題もこなしていた学生が人数制限のために途中で履修停止を余儀なくされるという事例が発生した(この学生は選抜から漏れたことを知らずに受講していた)。このようなミスマッチを無くすための方策、例えば履修登録後出席しなかった学生にペナルティー(=次回履修登録時の優先順位を下げる)を与えるなど、を導入してはどうかと考える。

授業の概要

1年次必修科目の春期(前期)科目であった。全15回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、最終課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

前年度と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字(読む・書く)に関する活動は可能であるが、音声(聞く・話す)に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとした。その結果、「質問や発言」が3以下というアンケート結果になり、4を超えていないことから、発音指導が求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

前年度と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は4.5を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われる。今期に関しては、自由記述の回答から、「基礎的なところから学べることが良い点」「他の講義ではあまりない他者とのコミュニケーションが取れる場が設けられることが良かった点」「今まで英語は単語を覚えて文法をまなぶだけとおもっていましたが、それだけでなく人と会話をする事で学べる事もあると理解が出来た点」「一人一人にそれぞれ面談をし、先生ができる所でできないところをしっかりと把握してくれているのでやりやすい点」が満足度に繋がったと考えられる。

授業改善の課題と方策

前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

FD活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。
AとBとのグループ分けも可能であったが、教室の収容人数から合同で実施した。対面授業の利点を意識し、アクティブ・ラーニングを可能な限り実施しつつ、特に大学1年生ということから学生同士のふれ合いや対教師への関係性を構築、面談による英語学習へのアドバイスを実施する必要があると考えられた。一方で、定期試験ではなく、最終課題を課すことを実施し、毎回の対面授業が負担にならないように配慮した。

科目名	初等教科教育法（英語）
担当者	大山健一

授業の概要

3年次小学校教職課程必修科目の春期（前期）科目であった。AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。教科書を基に、小学校の教育実習の準備を目標とした。評価方法としては、発表、模擬授業・指導案、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

授業は、教科書の内容を基に、対面授業においては、グループ発表を実施した。一方で、オンライン授業においては、グループ発表を聞いてのディスカッションに答えるもの、または教科書の内容を纏めるものを実施した。グループ発表においては、レジュメを作成した上での発表のため、見るだけで確認が可能であった。その結果、「ノートやメモを取る」が4を超えていないことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。アンケート結果から学生の授業満足度は4を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。特に自由記述の回答から、「模擬授業が動画での提出で実際にやるのと違うのが少し難しく感じた点」が挙げられていることから、教科教育法関連科目はハイブリット授業ではなく、全て対面授業の方が良いと考えられる。

その他

PC教室の収容人数から、AとBとのグループ分けとなったが、学生一人ひとりへの指導が細かく行き渡っていなかったと実感している。理由として挙げられるのは、3年次必修科目のためか、履修学生が多く、学生からの質問に答える程度の指導になりやすかったためである。また、模擬授業の実施が最終目標であっても、その模擬授業をするための事前知識を身に付けさせるための時間が多く必要であった。これら2点の理由から、教科書の内容を理解させた後の模擬授業となるため、模擬授業のフィードバックの時間をどのように確保するのかを検討しなくてはならない。

2年次選択科目に「子ども英語」が設置されているが、本科目との連携が取りにくいいためか、模擬授業をするための英語力を習得させる機会をどのタイミングで設けるのかは早急の課題であると考えられる。

科目名	英語Ⅱ
担当者	大山健一

授業の概要

1年次必修科目の秋期（後期）科目であった。全15回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、最終課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとした。しかしながら、「質問や発言」が4を超えていない結果となったことから、発音指導が求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は4.5を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。今期に関しては、自由記述の回答から、「ネイティブの英語もプラスαで教えてくれるのでとても勉強になった点」「解説のときに日常的に使える単語とあまり使わない単語を理由をつけて教えてくれるのでとてもイメージしやすく分かりやすかった点」が満足度に繋がったと考えられる。

授業改善の課題と方策

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

FD活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、AとBとのグループ分けではなく、合同で実施した。対面授業の利点を意識し、アクティブ・ラーニングを可能な限り実施しつつ、特に大学1年生ということから学生同士のふれ合いや対教師への関係性を構築、面談による英語学習へのアドバイスを実施する必要があると考えられた。一方で、定期試験ではなく、最終課題を課すことを実施し、毎回の対面授業が負担にならないように配慮した。

科目名	英語（読む英語）
担当者	大山健一

授業の概要

2年次以上選択科目の秋期（後期）科目であった。AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。eラーニング教材を導入し、文法・リスニング・リーディングの確認・解説を取り上げた。評価方法としては、eラーニング教材の達成度、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

授業は、学生から事前に取り上げてほしい文法・リスニング・リーディングの事項を調査し、その内容を解説した上で、その内容に合ったeラーニング教材を学習する流れを採用した。解説では板書だけではなく、オンライン授業との平行からスライドを活用した解説をしたため、見るだけで確認が可能で、理解度が上がるように工夫をした。その結果、「ノートやメモを取る」が3という結果になったことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。しかしながら、eラーニングの受講期間の公平性を確保するため、AグループもBグループの授業内容を、BグループもAグループの授業内容を提示し、課題を課す方法を採用した。よって、前年度とは異なり、アンケート結果から学生の授業満足度は4.5を超えた結果となった。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。

その他

PC教室の収容人数から、AとBとのグループ分けとなったが、2年次以上選択科目のため、履修をしたとしても1度も出席をしていない学生や、途中で出席をしなくなった学生が複数見られたことから、履修をしても授業の出席率が低い学生がある程度見られた。このような学生がいたことから、AとBとのグループ分けとなった可能性が高く、アンケート回答率も低くなったと考えられる。勉強をしたいという気持ちを持った学生へ迷惑を掛けた言動をしたと自覚を持ってもらう必要はあると思われた。eラーニングは日々の学習が必要不可欠であるため、事前にシラバスを熟読して、自分自身が学びたい内容であるのかを確認してもらいたいと思われた。

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要

演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2019の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Wordの文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArtの挿入、参考資料の適用について指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業アンケートの学生による意見に「丁寧に、説明や質問に答えていただいたので、わからないことを抱えて悩むということがなく、とても授業が受けやすかったです。」「今までWordに触れる機会が少なかったので、Wordの基礎を学ぶことができた。また、学年が上がるごとにレポートを作る機会が増えてくるので、レポートを作成する上で有効的な授業だと思った。」「私の質問に丁寧にその都度その都度教えて下さり、ありがとうございました。おかげで苦手なパソコンにも少し前向きに取り組むことが出来ました。」「授業内容外の補足説明なども行って下さり、PCの効率的な使用法を初歩的な範囲で網羅的に身に付ける事ができました。」「テキストがわかりやすかったのはもちろん、先生の指示やポイントなどもとても分かりやすく、ためになりました!」とコメントがあることから、満足が得られる授業が展開できたと考えられる。

授業改善の課題と方策

さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。学びをふり返り、自分の変容を知ることによって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。また教室の設備を有効活用することを心掛けたい。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

科目名	情報処理 (データベース)
担当者	坂本明子

科目名	宗教学
担当者	志田雅宏

授業の概要

現代社会には様々な業種・職種があるが、データベースを利用していない所はほぼ皆無といっても過言ではない。身近なデータベースとして、Google 検索エンジン、Wikipedia、辞書、WEB ショッピングの商品データベース、図書館 OPAC、アドレス帳、スケジュール管理データベース、電子カルテなど、様々挙げられる。ここまで普及しているデータベースを理解することは非常に重要であり有用である。この授業ではデータベースの基本概念から設計、運用に至るまでの基本的な知識について講義した。また Microsoft Access を用いて具体的なデータベースの構築方法を指導した。さらに、MOS (Microsoft Office Specialist) Access 2019 に合格することを目的とし、試験対策用教材の練習問題を指導した。

授業の問題点

授業への興味が強く感じられた。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、操作対象のソフトウェアが Access データベースであり、初めて操作する機能が多く、学生は難しく感じる時もあった。また、グループ分けで授業を実施したため、演習時間が少なかったことも、データベース操作の理解度を高められなかった原因と考えられる。

学生の授業満足度

授業アンケートの授業満足度が 4.46~4.76 であり、満足が得られる授業が展開できたと考ええる。

授業改善の課題と方策

さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ。学びをふり返り、自分の変容を知ることによって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業の概要

前半はユダヤ教・キリスト教・イスラームの概説、後半は宗教学の諸理論の紹介とそれにもとづく事例紹介という構成の講義を実施した。学生は A・B の 2 グループに分かれ、対面講義とオンラインでの講義動画 (オンデマンド方式) で交互に受講した。授業の内容と課題は A・B グループでまったく同じである。毎回の授業ごとにリアクションペーパーの提出を課した。提出はすべてオンライン (Google フォーム) で実施した。オンライン実施の理由としては、毎回半数の受講生がオンラインであること、合理的に集計できることなどが挙げられるが、最も重要な理由は学生に考察の時間をじゅうぶんに与えることである。授業終了時に 5 分程度の時間で提出を求めても、なかなか考えをまとめることは難しいので、復習と考察の時間を設けられるよう、授業日の翌日以内の提出を求めた。実際、ペーパーには優れた記述も多数みられ、特に優れたものについては翌週の授業の冒頭で公開し、講師からのコメントを述べた。定期試験は実施概要と教室の収容人数の関係から、第 15 回授業時 (A グループ) と試験期間中 (B グループ) に分けて実施した (持ち込み不可)。試験問題の一部を事前公開したが、その目的はテスト勉強を通じて、講義についての十分な復習を促すことである。

授業の問題点

授業の設計については、前年度におこなった変更点のうち、うまく機能した部分を今年度も取り入れたので、A・B グループ別の受講形態であっても大きな問題やトラブルはなかったといえる。教室での受講人数と、オンラインでのリアクションペーパー提出の数字にやや相違がみられたが、これは対面授業のときに参加せず、講義動画で受講してペーパーを提出した学生がいたからであると考えられる。講義動画へのアクセスを制限することも可能かもしれないが、講師の側の技量不足などのトラブルのリスクを考えると現実的には避けるべきと判断する。教室での出席カードを求めるのがシンプルな解決策と思われる。

学生の授業満足度

アンケート回答者の集計では、多くの項目が 4 点台中盤の点数となっており、学生の満足度を得られたものと考えている。特に【授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか】という質問に対する回答が高評価であったことに満足している。本学において、「宗教学」は教養科目の位置づけであるため、教養として学問を学ぶ機会を通して、多くの学生が授業に満足してくれたことに感謝したい。

授業改善の課題と方策

オンラインの部分については、講義および課題のいずれについても前年度の改善点をうまく引き継ぐことができた。リアクションペーパーへのコメントは前年度よりも増やしたが、かなり好評だったようなので、今後も継続したい。対面授業の出席管理については課題が残ったが、「授業の問題点」で示したような解決策を考えたい。

その他

科目名	英会話 I
担当者	シーハン小田 早苗

授業の概要

コロナ禍での履修人数の関係上、A/B グループに分け学生は対面授業とオンライン授業を隔週で受講する形態となりました。そこで、文部科学省が促進する「反転授業」の方針に従い、知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認のための演習を教室で行う構成としました。身近な話題に関する基本的な会話表現を学習するとともに、対面授業時にはペアワーク、ゲーム形式によるアクティビティを取り入れたさまざまな演習を行いました。また、自分の考えを英語で積極的に表現するための訓練として、プレゼンテーション課題に取り組みました。

授業の問題点

グループ分けによる対面・オンライン混合授業の実施が初めての経験であったため、学生がバランス良く学習できるような内容構成に努めました。対面とオンライン双方の利点を最大限に生かしながら、学生のモチベーションを高め、オンライン授業時の学習をしっかりとモニターできるような工夫が必要でした。

学生の授業満足度

上記のように対面・オンライン混合構成に苦慮しましたが、「解説がわかりやすく丁寧」「充実した内容で毎回の授業を有意義に過ごすことができた」等のコメントにより、グループ分け授業においても学生に一定の満足度と達成感を与えることができました。また、英語に対する苦手意識の強い学生が多いなか、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感してもらい、今後の英語学習につなげることが最優先項目であると常に意識しながら授業を進めました。アンケートのデータ結果および「先生が1人1人に向き合って授業し、ほめてくれたのでやる気が出た」等のコメントから、学生の英語学習に対するモチベーション向上に役立てたのではないかと思います。

授業改善の課題と方策

英会話の授業ではありますが、ただなんとなくスピーキングの練習をすることにどまらないよう、文法事項や重要単語フレーズの復習、ロジカルシンキングも取り入れた体系的な授業展開を目指します。
受講生の基礎的な英語力が以前よりレベルアップしているように感じられるため、そのような上位の学生に高度な学問的刺激を与える必要があると思います。その一方で、今回のように「課題が多かった」とのコメントが出ないよう、下位の学生をしっかりとサポートしながらバランスをより上手く取っていくよう努めます。

その他

将来小学校や幼稚園等で英語を教える立場になる学生のために英語教授法の専門的知識に基づいた指導も適宜紹介し、また将来ビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のためにビジネス実践英語も紹介しつつ、学生が自ら将来のビジョンを持つことができるようにサポートしていきたいと思ひます。

科目名	英会話 II
担当者	シーハン小田 早苗

授業の概要

春期の英会話 I の内容を発展させた授業として、TOEIC・英検等の資格試験対策や就職活動も視野に入れながらコミュニケーション能力の養成に注力しました。英会話 I と同様にリスニングとスピーキングをバランス良く取り入れ、毎回、前半はテキストを使用しながらリスニング問題に取り組み、後半ではインプットした会話表現をスピーキング練習ですぐアウトプットに移す構成としました。
学期末には、発展的学習としてプレゼンテーション課題に取り組みました。身近にいる外国人へのインタビューや与えられたトピックへの意見表明を通し、主体的にリサーチし、自分の考えを英語で発表するというアクティブラーニングを実践しました。社会のさまざまな場面で使用できる会話表現を能動的に学習するとともに、英語をツールとして使いながら、他の授業でも応用できる学習スキルが身につくような授業展開を心がけました。

授業の問題点

2クラスのうち1クラスは学生数が多く、クラス内のレベル差も大きかったため、特にペアワーク等で学生間のバランスに配慮する必要がありました。英語学習に苦手意識を持つ学生に十分なサポートを与えつつ、上級の学生の知的好奇心も満足させられるような高度な実践コミュニケーション学習も取り入れ、双方のバランスをうまく取りながら授業を構成することに毎回細心の注意を払いました。

学生の授業満足度

学生がコミュニケーションを楽しみながら能動的に会話演習に取り組めるよう授業内容を工夫しましたが、授業中の学生の様子や授業満足度に関するアンケートのデータ結果、および「とても分かりやすく身になる授業」「英語が苦手でも楽しく学べた」等のコメントにより、その目標は概ね達成できたと思われます。ほとんどの受講者が春期の英会話 I から続けて履修していたため、プレゼンテーション課題でも春期からの進歩が確認でき、学生も達成感を感じている様子でした。

授業改善の課題と方策

英会話の授業ではありますが、ただなんとなくスピーキングの練習をすることにどまらないよう、文法事項や重要単語フレーズの復習、クリティカルシンキングも取り入れた体系的な授業構成を目指します。受講生の英語力が以前よりレベルアップしているように見受けられるため、上位の学生には高度な学問的刺激を与えつつ、教師からの一方通行的な授業とならぬよう、学生からの発信を重視するアクティブラーニング形式の授業展開に努めます。

その他

将来ビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のためにビジネス実践英語を紹介しつつ、将来小学校等で英語を教える立場になる学生のためには英語教授法の専門的知識に基づいた指導法も適宜紹介し、それぞれの学生が自ら将来のビジョンを描きながら学習できるようにサポートしていきます。

科目名	社会学Ⅰ
担当者	中村 牧子

授業の概要

社会学を初めて学ぶ学生を想定し、身近な社会現象の社会的な考察法を紹介していく授業である。一回ごとにテーマを定め、それに関連する重要概念や既存研究の動向を紹介するとともに、具体的事例をとりあげて、現代社会で起きている諸現象をどう理解し、どう対応しうるかを学んでもらっている。今回は、コミュニケーション分野からは異文化間コミュニケーション、流言の社会的影響、ネット環境の可能性と危険性などを、また家族分野からは未婚化と単身者増加の問題、少子化、DV や子ども虐待の問題などを取り上げた。対面授業、オンライン授業いずれも、資料や説明を踏まえた社会の現状認識とそれについての自分の意見を、整理して書けるようになることを目指した。また、参加者の意見は次回授業で必ず紹介し、多様な見方に触れてもらう機会を設けた。

授業の問題点

学習態度については、ノート取りはきちんとできている学生が多いが、それに比べて授業外学習や質問・発言のスコアは低い。これは非常に個人差があるが、平均だけを見れば、学習が受動的な傾向がある。授業内容・方法については、興味を持てた、テーマが明確、資料の量・内容の適切さ等についてはおおむね評価されている一方で、そもそも質問があまりないこともあるが、学生からの質問への対応の項目は低めである。

学生の授業満足度

授業の内容に得るところがあったか、全体的に満足できたかについては、ほぼ評価されている。自由記述欄の回答には、授業をきっかけとして考えるようになった、興味を持った等の意見もみられ、身近な社会現象を取り上げたことや、具体的事例や記事を多く紹介したことは効果的であったと推測される。

授業改善の課題と方策

主要な問題は、例年のごとく、学生の受動的な学習態度である。今回もオンライン・対面交互の授業となってしまう、調べ学習の課題を課す余裕がとれなかった。オンライン授業では、課題達成の個人差が大きくなってしまい、たくさん書き自分で調べられる学生はどんどんスキルアップする一方で、回を重ねるごとに手抜きになってしまう学生もいる。ただ、「調べて書く」ことをはつきり課題にした回には、皆ある程度ネット検索等に取り組むことができたので、こうした機会を増やすことが対策として考えられる。もう1つは、そもそもアンケートの回答率が低いこと、即ち出席学生の全員がオンラインを活用できる態勢にはないことである。これは授業の受け方にも現れており、交互に行われるオンライン・対面授業の一方にしか参加せず、一度もオンライン課題を出せない学生がいる。必要な連絡を Teams にアップしても、そもそもそれを見ていないらしく、試験日程さえ知らなかった学生が複数いた。これでは単位取得自体に悪影響が出てしまう。前回も指摘したことだが、個々の教員もさながら、大学全体としてオンライン活用の最低限のスキルを習得させるシステムが、急務なのではないかと考えられる。

その他

科目名	社会学Ⅱ
担当者	中村 牧子

授業の概要

春期開講の社会学Ⅰに続く応用編として、現代日本社会における労働・ジェンダー・格差等の社会現象について多角的に学ぶ授業である。「労働」については、働き過ぎや過労死、女性労働の特徴と問題点、正規雇用と非正規雇用の関係や相違などを取り上げ、それぞれの現状とそれに対する取り組みについて様々な資料を挙げつつ紹介した。また現代人の自分らしさの可能性を考える「自己」論においては、男性・女性やLGBT といったジェンダーの現在地や、障害者と社会の関わりなどの現代的な問題を取り上げた。いずれにおいても、社会のなかにおける自分自身の位置を理解し、様々な他者の置かれた位置をも理解していくことを目指した。

授業の問題点

学生の学習態度では、ノート等を取っている点ではスコアが高いものの、授業外学習や質問・発言についてはあまり高くない。グループ分け授業となつて以来、対面授業で参考文献を紹介したり、資料を調べて提出するレポート課題を出す機会が減ってしまったのが一因であるかもしれない。授業内容・方法については、資料等のわかりやすさ・テーマの明確さ・分量等についてはスコアが高めだが、これは毎回テーマを明示し、一語完結的な構成で講義をしていることにも関係するだろう。その一方で質問への対応等のスコアは低いが、これは質問自体があまり多くないことにも困っている。

学生の授業満足度

授業満足度についてのスコアは高めである。本講義では、とりわけ前半の「労働」に関連する部門において、各自が実際に社会に出たときにどんな社会関係に入っていくことになるのか、そこにどんな問題があり、それはどう対処することが可能か、また現在の取り組みはどれほど進展しているのかなど、具体的・実証的な視点に立つ議論を多く盛り込んだ。そうした授業の必要性が理解されたのかもかもしれない。また、自分の視点だけでなく他者がどのような立場からどのように考えているのか、という複眼的な考え方を多く紹介したが、こうした新しい視点で考えていくことは新鮮だったらしく、自由回答においても評価されているようである。

授業改善の課題と方策

主体的な学習の程度が低いことについて。より主体的な参加を促す方策として、オンライン授業による課題提出は本来、効果的な手段であるはずだが、現状ではオンライン利用によってむしろ「学生の二極化」が起きている。主体的に学ぼうとする学生は、自ら調べたものをまとめたりしてオンライン課題の内容が回を重ねるごとに高度になっており、十分に成果が現れている。反面、もともとそういう動機づけの強くない学生は、簡単に感想などを書いて済ませてしまつてなかなか進歩しない。コロナ禍によるグループ分け授業が始まって以来、継続しているのがこの問題である。授業では、発展的学習をした参加者の意見ややり方を次回の授業で紹介するなどして、全員に積極的に関わってもらうような働きかけをしており、それは今後も継続する予定だが、オンライン自体を敬遠してしまう学生や、逆にオンラインしか参加しないため他の学生の取り組みを見聞きしない学生などいても、効果的な改善策はなかなか見いだすにくい現状である。

その他

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田 純一

授業の概要

MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容はすべて指導した。教室に導入された授業支援ソフト「CHTeru」を活用し、必要に応じて教師の画面を学生 PC 画面に映すとともに、理解度を図るために小テストを 3 回実施した。例題は、教科書的なものだけでなく、社会に出て役立つような実践的かつ最新のデータも取り入れ、役立つことをイメージしやすいようにした。

授業の問題点

おおむね、標準以上の評価が得られたと考えているが、以下の問題点がある。
 ・わかりやすいと感じる学生も多いが、進みが早い、内容が難しいと感じる学生もいること。特にオンライン授業は自習になるためか十分に理解できない学生がいた。
 ・課題の解説は行ったが、個々人に採点結果をフィードバックしていないため、学生が間違いを十分に把握できないことがある。

学生の授業満足度

授業の満足度は、4.35~4.68 ポイントであった。次回も、基本的には授業内容を変えずに継続していきたいが、ついていけない学生がいることから、教えるボリュームは工夫したい。

授業改善の課題と方策

・学生の予備知識に差があるのが実態であるが、基本的には、初心者向けに授業を実施し、理解不十分のままにしないように、もう少しゆっくりと話をするようにしたい。
 ・オンラインでの授業が難しいと感じる学生がいたため、教材を見直すとともに、次回の対面授業でフィードバックを十分に行うようにする。
 ・課題の採点結果を個々人にフィードバックできないか、VBA 採点プログラムの改善を検討する。また、課題の解説時には、個々人の回答を例にしてフィードバックする方法を検討する。

その他

授業で使った資料はすべて Teams に掲載して自習できるようにしたが、やはり欠席すると理解度が下がるようである。できるだけ欠席が少なくなるよう、学生参加の題材や企業等でも使えるような題材を使うようにしたい。

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田純一

授業の概要

MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容をすべて指導した。教室に導入された授業支援ソフト「CHTeru」を活用し、必要に応じて教師の画面を学生 PC 画面に映すとともに、理解度を図るために小テストを 4 回実施した。例題は、教科書的なものだけでなく、社会に出て役立つような実践的かつ最新のデータも取り入れ、役立つことをイメージしやすいようにした。

授業の問題点

おおむね、標準以上の評価が得られたと考えているが、以下の問題点がある。
 ・課題の解説及び簡易採点結果の提示は行ったが、個々人に採点結果をフィードバックしていないため、学生が間違いを十分に把握できないことがある。
 ・授業への興味や関心が持てない層がいると推測される。

学生の授業満足度

授業の満足度は、4.57~4.59 ポイントであった。授業スピードが適切である、質問がしやすいという意見もいただいていることから、次回も、基本的には授業内容を変えずに継続していきたい。

授業改善の課題と方策

・課題の採点結果を個々人にフィードバックする方法について改善したい。具体的には、VBA による採点プログラムを工夫して、授業の場で学生に誤り箇所を指摘できるかを検討する。次年度はすべて対面授業になると想定されるので、対面での指導を充実できると考えている。また、小テストについては、VBA 自動採点結果を Teams で返却し、学生は採点結果を見ながら授業時に解説を開けるようにできないかも検討したい。
 ・授業への興味や関心をさらに持ってもらうように、学生に身近な話題や社会人になっても使えるような話題、時事問題に関するデータを用いた例題を使うように工夫したい。

その他

授業で使った資料はすべて Teams に掲載して自習できるようにしたが、やはり欠席すると理解度が下がるようである。できるだけ欠席が少なくなるよう、欠席の多い学生への声掛けやメールでの注意喚起をマメに行いたい。また、学生に身近な話題や社会人になっても使えるような題材を用いた例題や課題を出すように工夫したい。

科目名	法学入門
担当者	宮島 薫

授業の概要

2008年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は法学入門、民法の2科目の担当をさせていただいております。法学入門につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点は助けられています。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の使い方、時間配分など、自問自答する毎日です。なお、今年度も1コマのみの開講となりました。(開講当時は2コマ体制で、履修者が100名を切るも1コマになりましたが、今回は、当初206名でのスタートでしたがコロナ禍による教室不足もあり、そのままでした(要改善かもしれません。))

授業の問題点

一般に、専門外の科目の場合、担当者との距離感に学習意欲や満足度など、生身の人間である受講生の側の反応が左右されがちですが、コロナ禍ということで、A班、B班、リモート、となり、中々直接顔を見て講義、ということができない以上、原点に立ち返って、少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないようにという点です。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「4.49」→シラバスとの一致度「4.06」→満足度「3.88」とあり、昨年度は、出席「4.58」→シラバスとの一致度「3.99」→満足度「3.78」という結果でした。2コマ体制から1コマになったものの、科目としての総履修者数は、概算で217名から206名となり、いわゆる・人口密度の問題も関係するかもしれません。例年、人口密度の高い・窮屈感が、不快指数の増加につながることも考えられますので、学問の場でもある授業が、うれしい、楽しい、ばかりではないかもしれませんが、この点も交えまして、今後の検討課題とさせていただきたいと思っております。なお、評価の低さは逆行する形で、意見は、好意的なものも見られました。

授業改善の課題と方策

教室は勉強・学習の場であるということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場で、かつ卒業後には学生各人が社会から迎えられうるような人材を育成する場である、ということから話を始め、そのためにどう授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。具体的に書く作業、声に出して読む作業などメリハリをつけるようにし、ある意味正当なライバル意識などは学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけています。まずは、学生一人一人の顔を見て講義するようにしています。

その他

今回のアンケートで初めに気が付きましたのは回答率の低さです。A班、B班2回に分けて実施いたしましたが、当日の実際の出席者数は7月5日(B班実施)が57名、7月12日(A班実施)が77名で合わせて134名でした。これが有効回答数98ということで率にして73%です。未回答分36名が批判的な学生でなかった場合、評価ポイントも変わり加えて平均点を算出するくらいならこの点も考慮の余地はあるかもしれません。当然のことながら受講生数と人口密度の関係も考慮の余地はあると思っております。同じ担当者の民法の講義の場合階段教室ではなく受講者数が少ないためよりきめ細やかな講義が実現可能かもしれません。(当然評価も異なります。)

科目名	民法
担当者	宮島 薫

授業の概要

2008年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は民法、法学入門の2科目の担当をさせていただいております。民法につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点助かります。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の使い方、時間配分など、自問自答する毎日です。

授業の問題点

担当者の側からの・授業のいわゆる制度設計は、受講対象者が2年次生以上ということで、新入生対象の科目とは異なり、大学生活にも慣れ、自分の学習ペースを有する者が大半であるとも思われますので、担当者自身のモチベーションの保ち方も、気をつけねばならない点かもしれません。少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないように。また、自分または自分たちの行動が、他の受講生の眼にはどのように映っているのか、ということも認識してもらう必要があるかもしれません。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「4.58」→シラバスとの一致度「4.58」→満足度「4.27」とあり、昨年と比べ若干ではありますが、横ばいか下落傾向にあるようです。これを放置せず、更なる進化を目指そうと思っております。一般に、使用教室による人口密度と不快指数は、なにがしかの関係もあるようなので、ゆったりとした環境で、資料を活用しながら、可能な限り個別の指導も交えつつ内容の定着を図るという方針を進めたいと思っております。大学側のご理解とご協力に心から感謝いたしております。

授業改善の課題と方策

まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には学生各人がいわゆるプロフェッショナルとして社会から迎えられうるような人材を育成する場である、ということから話を始め、そのためにどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。加えて具体的に書く作業、声に出して読む作業など、メリハリをつけるようにし、ある意味、正当なライバル意識などは、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけるようにしています。法律を扱う科目である、という科目の特性上、将来の社会人としてのマナーの一つではある、という認識をどう伝えるべきか、可能な限りソフトな対応を心がけたいと思っております。

その他

今回は、社会的にはコロナ禍といわれる状況で、かつ講義もリモート併用が継続中という情勢の下自分の居場所を見失っているような学生も存在したかもしれず、これが例えば履修登録はしたものの出席も課題の送信もしない者の存在が物語っているかもしれません。すべての人の不安を取り除くことは困難を伴いますが、専任・非常勤を問わず、学内での情報の共有化と対応の一元化など、今後の検討課題とすべき問題も存在しているかもしれません。

科目名	科学史
担当者	宮崎正峰

授業の概要

A, B グループで対面授業と課題学習の交互の授業であったため、進度としては速くなかったが、自宅での課題学習の回はどちらのグループも大変だった面があるようである。

授業の問題点

課題の回は指定テキストの使用によるまとめ学習を中心としたので学生は退屈に感じた部分があったかもしれない。
また、対面においてはなるべく学生からの発言の機会をつくったが、履修者数が多かったため、必ずしも多くの学生に機会が与えられなかった面もあった。

学生の授業満足度

対面授業では映像や画像も用いての展開としたので、その点では学生たちから好評をえたように思う。板書での説明でも学生たちはきちんとノートにうつしていたことがうかがえ、プリントを配布するのみの授業展開よりはよかったのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

上記の点はアンケートでは学生から不満は出ていないが、今後の授業では注意すべき点であると言える。
また、予習や復習の時間があまりとれていない学生が多いようなので、今後は具体的に指示をしての予習、復習も指導していくべきと考える。

その他

科目名	英語 I
担当者	近藤 真理

授業の概要

- 既定のテキストを使用。
- 主にリスニング、ディクテーションの練習。聞きこめるまで何度も聞く。
その他、スクリプトの和訳を各自取り組む。
- それ以外にオリジナル教材を二、三回使用。
洋楽、簡単な英字新聞、TED などを使用し、使用した洋楽の時代背景、作者の心情など、英語を単に訳す作業ではなく、精読、または、咀嚼していく過程に重きを置いた。また、TED に関しては、視覚でも楽しめるように、学生の興味、関心事に寄せて選んだ。例えば、コミカルなアートを取り扱ったものからシリアスな社会問題まで、ジャンル問わず幅広く、学生に教示していった。

授業の問題点

- 参加率の悪い学生が、3、4人居ること。
- スマホをかざす学生が居ること。
- 時折、騒がしくなること。

学生の授業満足度

- 概ね、満足しているようであり、特に授業の方向性を変える必要性はないと思われる。

授業改善の課題と方策

その他

引き続きこの調子で学生と邁進していきたい。
以上。

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	近藤 真理

授業の概要

リスニングを通じて、外資系の内容、雰囲気把握し、現実でもそこで対応できるような人材を作る。
英語で最低限の自己表現が出来るようになる。
英語で履歴書が書けるようになる。
英単語、決まりのフレーズを覚える。

授業の問題点

仲間同士で固まると私語が出る。
全員当たらない時がある。
スマホに頼り切りの学生も、ちらほら居る。

学生の授業満足度

概ね良好。
空調の調節は、各自で場所を変えたりして工夫させていく。
個人的に、来年度も担当したいと思える学生たちでした。

授業改善の課題と方策

なるべく、毎回、全員当たるように工夫する。
話し声大きいときは、席移動させる。

その他

授業改善書

科目名	日本漢文学
担当者	有木大輔

授業の概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は源平から徳川氏までの歴史を漢文体で記述された史書であり、幕末期においても歴史読物として広く愛読されてきた。歴史上有名な戦国武将も多く登場するため受講者にとっても親しみやすく、かつ比較的平易な教材でもある。漢文訓読の知識を確認しつつ原文を読むことに挑戦するため、国語科教員免許取得を目指す学生にとっても有意義なものとなる。また、西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで散文と韻文の違いを講義した。

授業の問題点

テキストとして用いた『日本外史』や『日本外史楽府』はまだ訓点が付いた平易なテキストが少ないために、漢文の苦手な学生からすると一瞥しただけで敬遠してしまう恐れがある。講義という形で読み進めていったが、学生にとっては聞いているだけの受身の授業になりがちで、自分で調べたりする活動的な学習がまだ出来ているとは言い難い。

学生の授業満足度

今年度の大河ドラマの題材となった時代や人物を読んだり、学生に人気のある戦国大名を取り扱うことで、馴染みのある話を漢文で読むことに新鮮味を感じていたようである。しかしテキストが難しいと感じる学生もおり、授業内容についての評価がやや平均値を下回った。

授業改善の課題と方策

講義の初期では比較的読みやすい文章を教材とするために高校教科書の該当箇所をテキスト資料として配付した。その中で当初予定していたシラバスの順番と入れ替わることがあり、その部分の評価が低かった。しかし学生の理解の習熟度を高めるためには読みやすいテキストから慣れていく必要があるため必要な措置であった。次年度はテキストの順番より学生のスキルを重視したシラバスを計画したい。

その他

授業改善書

科目名	韓国語 I
担当者	李芝善

授業の概要

「韓国語 I」初級では、主に文字の読み書きができるように指導しながら、学生が分かりやすく日本語との言語的差異や文化的背景などを取り上げ、韓国語に対する基礎的な知識はもちろん、日本語も知ってもらおうと努めた。また、韓国文化への興味と理解を深めるために言葉で説明するのみならず、ドラマ、映画など視覚をととした理解を積極的に図った。

授業の問題点

コロナ禍の受講人数が多く、すべての学生に指導が届かなかったのではないかと気になっていたが、韓国語 I で目指した文字の読み書き・自己紹介など、全体的に授業が分かりやすく、満足できる授業であったという結果であったので、今後も今まで通り分かりやすく楽しい授業を目指して努力していきたいと思う。

学生の授業満足度

アンケート結果、多くの学生が韓国語に興味を持ち、ほとんどの学生が理解でき、満足できた結果であったと思われる。

授業改善の課題と方策

「先生が発音してくださいと言ってもする人が少ないので、もう少し発声しやすい環境を作る何かが必要かなと思いました。」というコメントがあったが、コロナ禍では積極的に促すのは難しいと考える。

その他

「韓国語を知って、街中でも韓国語を読むのが楽しくなりました。」「映画面白かったです。」「韓国語の発音がとても分かりやすいです。」「韓国語の基礎から応用編までとても細かく教えて頂きました。授業がとても楽しかったです！とても充実した授業でした。」「楽しくてわかりやすい授業でした。」「韓国に興味があったので楽しかった。」「動画や音楽を流してくれて韓国語の発音が分かりやすかったです。また、先生が教室を回っているときに間違っている問題があればすぐ直してくれるのでその場で理解し学びやすかったです。」「という学生の意見を踏まえ、今後も多くの学生が満足できるように良い授業を目指して最善を尽くしたいと思う。

授業改善書

科目名	フランス語 I
担当者	市橋 明典

授業の概要

この授業ではフランスの豊かな文化を学ぶとともに、「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにする。
プリントと映像を使い、ビデオ教材である『彼女は食いしん坊』の内容に沿って簡単な会話練習を行う。基礎的な文法の学習に基づく練習問題をこなすとともに、実践的なコミュニケーション能力を養うべく単語集を使った語彙の補充につとめる。また、教科書のトピックに合わせて随時フランスの文化について学習する。

授業の問題点

2022 年度前期の授業は前年度に続きコロナ・ウイルスの蔓延が原因で最初の 2 週間は隔週のオンライン形式で行われた。今年度は特に Microsoft 365・Stream で授業動画を閲覧してもらうなどの工夫をしたものの、初心者にとって対面授業の中でさえ理解が難しい第二外国語をオンラインで学習することは困難であった。その後十分な感染対策のもとで対面授業を行ったが、遠隔授業によって生じた学習プログラムの遅れが影響したことは否めない。

学生の授業満足度

前期最初の 2 週間は隔週の遠隔授業になり、後の対面授業においてその内容を復習する必要があった。従来の学習プログラムが大幅に遅れたためか、アンケートにおける満足度のポイントが若干落ちたように思われる。ただし、その他の項目に関しては、データを見る限りでは、受講生の満足度は比較的高かった。なお、文法事項の説明には十分な時間をとり、それに関する理解の度合に関する確認を必ずとっているため、自由記述欄に記載されていた「本説明が終わっていないのに補足説明が入り、理解しづらい時がある」のコメントに関しては思い当たる節がない。

授業改善の課題と方策

外国語初級の学習において、発音等に関する受講生それぞれの理解力を把握するとともに、分かりやすいプレゼンテーションを心掛けて学生一人一人に対する細やかな指導を行うことは学習の基礎固めをする上で重要である。それだけに、状況が許す限り万全の対策を講じた上で、対面授業を今後とも実施する。また、Stream を使用したオンライン授業を行うにあたっては、学生の学習意欲が高められるようにオンデマンド授業の方法をみなおしていく。

その他

科目名	フランス語Ⅱ
担当者	市橋 明典

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	王振宇

授業の概要
前期の「フランス語Ⅰ（初級）」に続いてフランス語とその文化について学び、基礎文法をマスターすることで「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにすることを目標にした。パリ観光を題材にした初心者にも分かり易いビデオ教材を使い、毎回簡単な会話練習をしながら基本的な文法の説明を行なった。さらに、実践的なコミュニケーション能力を養うために、フランス映画の映像やシャンソン、単語集を使った語彙の補完につとめた。
授業の問題点
前年度同様、前期の「フランス語Ⅰ」の授業プログラムは新型コロナ・ウイルスの蔓延防止対策が影響したため遅れが生じ、後期の「フランス語Ⅱ」においてその遅れを取り戻す必要があった。そのため授業進度のペースが上がり、特に後期から学ぶこととなる基礎文法の後半部分（疑問代名詞・疑問副詞・中性代名詞 y・部分冠詞・数量の表現・中性代名詞 en・疑問形容詞・命令形・非人称構文・指示代名詞・補語人称代名詞・代名動詞など）は比較的難解な項目が多く、前期における学習よりも困難を伴った。履修者は週1回・15回分の限られた授業時間を通して全ての学習項目を理解したうえで予習・復習・課題を多数こなす必要があり、前期の授業よりも高い集中度と努力を要した。
学生の授業満足度
過去の年度に比べ今学期の「フランス語Ⅱ」の履修者は比較的多く、課題と真摯に向き、合い熱心に勉強していた学生であったとする印象を受けた。そして、授業アンケートの結果からは、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の質問に対する評価以外は全授業に出席した学生の「授業に対する満足度」は概ね高かったと判断できる。「学生による主な意見」としては、「テストに向けて毎時間詳しい解説をしてくださるのでとてもわかりやすい」や「時間が経つにつれて黒板のメモがごちゃごちゃして写し取りにくくなってしまふのをできれば改善して頂きたい」などの意見が散見された。
授業改善の課題と方策
今年度も新型コロナ・ウイルスの感染防止対策が行われるに伴い、結果的に前期授業において学習プログラム上の遅れが生じた。そのため後期授業でも学習すべき項目が増え、若干授業の進度が速まり、一部の履修者の学習に負担がかかった。 この傾向を改善するには、今後はコロナ・ウイルスの蔓延防止対策による学習プログラム上の遅れが生じる可能性があることを前提とし、後期の学習に無理が生じないように以前にもまして授業進度のプログラムを改良してゆくことが求められると考える。 当然ながら、これからも受講者それぞれの理解の度合いを的確に把握し、学生が短期間の内にそれぞれの学習項目を正しく理解できるように工夫をしてゆきたい。解説の仕方に常に気を配り、学生にとってより一層分かり易いプレゼンテーションが行えるようにする。また、演習における学習者の理解を深めるべく、課題レポートと授業内での指導及びアドバイスをさらに丁寧に行うつもりである。
その他

授業の概要
本授業の目的は日常生活でも最もよく使われる中国語の基本的表現を身につけることである。また、中国関連の視聴覚資料を通して中国現代社会や文化などに対する理解力を高めていく。
授業の問題点
履修生のすべての回答の中、点数が最も低かったのは「質問や発言をしましたか」という問いである（3.56）。本来、語学の授業のため、双方向性が重視されるはずだが、コロナ感染症が未だ収束していないこともあり、一部の履修生は発言を控えている。学生の回答は実情を反映していると言えよう。
学生の授業満足度
授業満足度に関する問いはⅢの1と2である。それぞれ4.44、4.38となり、いずれも平均点をを超えており、やや高い満足度を得られたと言えよう。また、自由記述欄には「中国語は何も分からなかったのですが、先生の優しい授業により少しの文法程度なら書けるまでいけました。」とのコメントもいただいた。
授業改善の課題と方策
受講生の学習態度に関係する「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」の問いに対する回答結果は4.00となっている。今後も引き続き授業外の学習の重要性を繰り返し強調すると同時に、受講生のモチベーションを維持させる工夫をさらに考えていく。
その他

科目名	中国語Ⅱ（中級）
担当者	王振宇

科目名	社会調査論
担当者	春日清孝

授業の概要

この授業では、中国語の実践的な表現を増やし、運用能力を身につける。中国関連の視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化、中国歴史などに対する理解を深めます。

授業の問題点

今学期はA、Bグループに分けて、隔週半分ずつの対面授業となっています。授業中の発音練習の回数を増やしました。そのため、授業アンケートの「質問や発言をしましたか」の問いに対する答えが3.47となり、去年度の2.89より一段高くなりました。

学生の授業満足度

授業内容、授業方法に関する質問に対する回答はすべて平均点を上回る解答結果となっています。授業満足度に関するQ9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の問いに対する回答は4.57であり、また同じ満足度に関するQ10「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の問いに対する回答は4.50である。いずれも平均点を上回る評価となっています。

授業改善の課題と方策

コロナの感染状況が続く状況で、教室での会話練習をさらに増やすためには、いかなる工夫をするのかは大きな課題になると考えます。

その他

自由記述のコメントを頂いていませんので、次回自由記述の書き込みを呼びかけます。

授業の概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義においては以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業の問題点

講義内容についてはシラバス通りの展開をしているものの、受講者による講義内容についての受けとめ方が見えてこない。毎回、講義に対する感想や質問を提出してもらっているにも関わらず、受講者からの要望が提示されることはほとんどない。履修登録以前から、この講義の特性と履修上の注意（「講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことを求める」）を公開しているが、それに対する質疑もほとんど見られない。今後も引き続き、講義以前にコミュニケーションを取ることを重視していく必要があるようだ。

学生の授業満足度

授業内容以前に、社会について興味関心を向ける受講者自体が少ないように思える。現在に埋没するのではなく、将来的な展望と時間軸を意識させるようにして、大学卒業後の生活がどのようになるのかをよりいっそう考えることができるような機会を用意したい。

授業改善の課題と方策

社会調査という講義においては、社会に向き合うことが絶対的な条件となる。そのため、今後自身が一員となるべき社会の問題や話題、事象や制度を取り扱っても、そこに積極的な価値を見出すことができなければ、向き合うこと自体を先送りしてしまう傾向も生じる。より具体的な社会像を提示するようになっていく必要がある。

その他

ICTをはじめとしたオンライン環境をもっと活用していくことができれば、社会調査論については学習効率が飛躍的に伸びる可能性もある。インフラとしてそれを使いこなせる環境を期待したい。

授業改善書

科目名	人文地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

今年は履修者が多かったが、2 グループに分けての授業とはならずすべて対面授業で実施することができた。授業ではまず地図の概念や世界地図の発達と歴史といった地図に関する講義を行った。そのあと国家と国連、日本の人口動態、都市の制度、余暇と休暇に関する講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして授業を進めた。

授業の問題点

私語をする履修者はおらず、快適に授業を進めることが出来た。その一方で、居眠りをしてしまう履修者も見られた。また履修登録をするだけで、ほぼ出席をしなかった学生が1割程度いた。

授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。全体的にはオンライン授業より、対面授業の方が理解度は高いように感じた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

対面教室での授業の場合、一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。

その他

授業改善書

科目名	自然地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

授業では、まず地球の大きさとその表し方について講義した。そのあと世界の大陸や気候、海水の流れ、日本の山と平野、河川、気候、季節感などについて講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして、授業を進めた。

授業の問題点

今年是对面授業のみで授業を行った。授業では、私語をする履修者はおらず、一般的に出席率も良かった。その一方で、集中力に欠け、居眠りをしている履修者も見られた。難解な用語ばかりを用いて授業を進めているわけではないが、基礎的な知識が不足している学生も少なからずいた。授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。

学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。

その他

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

科目名	日本思想史
担当者	杉山亮

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

質問に対しての対応についての評価が低かった。大人数の講義のため、授業の中で発言されたい限り、一人一人の質問に対応するのは限界があるとも言える。授業のどのタイミングで質問してよいか分からなかったという声もあったので、質問を聞く時間をもう少し明確にとる必要があると思われる。また、オンラインの課題をフォームで回収したため、そこでの質問にダイレクトに答えることができなかったという問題が考えられる。学生からメールで質問が来るケースが数件あったので、そのような形でのコミュニケーションをもっと学生に打ち出して推進してもよかったかもしれない。

学生の授業満足度

満足度は低くはないと思う。分かりやすかったという感想は多くの学生から寄せられている。音楽を使って授業で学んだ内容について確認したり、オンライン授業の課題を登校授業で解説したりしたことが学生の満足につながったと思う。

授業改善の課題と方策

大人数での授業になる場合、学生の疑問点などをいかに吸い上げ、対応するかは大きな課題になると思う。授業の感想用紙などで疑問点を書いてもらうことはしているが、個別対応は難しく、全体に関係する内容を取り上げるのにとどまってしまうことが多い。学生が授業内に質問できる時間をもっと積極的にとっていきようにしたい。また、メールなどオンラインでつながれる場を工夫し、できる限り個別の質問にも対応できるように努めていきたい。そのような質問対応によって、授業外学習も促進されるのではないかと考えている。

その他

特になし。

授業の概要

古代から幕末に至るまでの思想を概説した。時代ごとに書籍を中心に、歴史的背景と著者の生涯、書籍の内容を解説した。書籍の選定は『山川倫理用語集』によった。講義ごとにレジュメを作成・配布し、内容を解説した。同時にコメントペーパーを配布し、講義ごとに質問や感想を募集した。集めたコメントの内、講義の進展に資すると思われるものは次回講義で紹介した。

授業の問題点

1 回ごとのレジュメ・配布資料の分量が多くなり、配布時に学生が混乱することがあった。講義中もレジュメの内容を全て紹介しようとするあまり、早口になってしまい、学生から理解が追いつかないとの声があった。また、レジュメの分量を抑えるために一枚当たりの文字量が多くなり、見づらくなってしまった。講師からの知識の伝授が先行し、一方的に話しかけるだけになってしまった回があった。

学生の授業満足度

講義中学生に発問し、挙手やアンケートなどによって発話させることを心がけた。そのため、授業アンケートで質問や発言をしたと答えた学生もノートやメモを取ったと答えた学生も平均を上回った。また、毎回コメントペーパーに答えたほか、中盤にコメントペーパーに答える回を設けたため、学生の質問に対する満足度も平均を上回った。だが、レジュメなどの資料が分かりやすいと答えた学生は平均を下回った。講義内容が適切な量だったと答えた学生も平均を下回った。一回当たりの情報量の過多になっているため、全体の満足度が平均を下回ったものと思われる。

授業改善の課題と方策

授業アンケートからもうかがえるように、配布資料の改善が急務である。分量を縮小する。見やすいようページ番号を振る、重要箇所はフォントを変えるなど、一目で理解できるようにする工夫が求められる。また、講義中に学生が考えを述べる機会を設けることが学生の理解と関心を促進する手立てである。1 回あたりの情報量をコントロールし、学生への発問とコミュニケーションの時間を確保して行くことが今後の課題である。

その他

科目名	英語圏文学講読（古典）
担当者	高橋百合子

授業の概要

この授業では、劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の主要作品のいくつかを、主に翻訳を使いながら講読していく。イントロダクションとしてシェイクスピアの人物像、またシェイクスピアが活躍した16世紀末から17世紀初頭の、現代とは違う劇場の特徴、当時の上演状況なども考察する。演劇を文学作品のテキストとして読むことの基本を学びながら、「せりふ」の持つ可能性に注目し、想像力を最大限に生かして豊かな演劇の世界を楽しむことができるよう、授業を進めていきたい。シェイクスピアの時代はまさに、ペスト（黒死病）のパンデミックとの戦いの時代でもあった。作品やその上演をめぐる様々の状況と今日の状況を比較し、考えるきっかけとなることを期待している。秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

授業の問題点

今回は、クラスがA、Bと別れていた関係で、取り上げた作品についての解説が二週にわたる場合などは、学生のみなさんにとってはわかりにくい部分などがあったかと思われる。みなさんから寄せられたコメントのうち、授業動画を挙げて欲しいというものがあったが、私自身の技術不足や、機材のスペックの関係で十分な資料を提供できなかった部分もある。

学生の授業満足度

ある程度満足してもらえたのではないと思われる。それほど有名ではない作品を含め、多くの作品を取り上げたが、リアクション・ペーパーを通しての反応は、オンライン上で回収したものも含め、おおむね良好であった。

授業改善の課題と方策

ハイブリッド授業において、対面の回とオンラインの回とで、なるべくシームレスに情報を提供し、フィードバックができるよう工夫していきたい。また、アンケートのコメントに、授業の音声をそのまま録音したパワーポイントで、動画なども埋め込みにして、対面の授業でお話する内容と同等の内容をお伝えしたつもりだった。今後は機材のアップデートを含め、できる限り改善していきたい。

その他

科目名	西洋史特論 I
担当者	武市一成

授業の概要

アメリカ史の基礎事項を、独立革命、奴隷制度、フロンティアなどのテーマ別に概説した。

授業の問題点

事情により、一つの授業を実施することが出来なかった。また、それに関連して、必ずしもアメリカ史には直接関係ない事柄を説明する必要が生じ、都合2週がシラバスとは直接関係のない内容となった。

学生の授業満足度

以上のような問題点があったにもかかわらず、学生はそれなりに授業に積極的に参加してくれたと思う。

授業改善の課題と方策

授業自体は、毎年改善の努力を重ねている。今後も継続していきたい。

その他

授業改善書

科目名	地域文化論 II
担当者	武市一成

授業の概要

南北アメリカの事象をアジアを結び付けて論じ、歴史的事項の時間及び空間的関連性を描こうと努力した。テーマは植民地主義や民族差別についてである。

授業の問題点

事情により、2 週使ってシラバスからはずれたことをせざるを得なくなったが、テーマの本質に関連するものであったので、受講生はそれなりに得るものがあったものと思う。

学生の授業満足度

以上の問題点があったために、授業の流れが止まり、それがマイナス影響となって現れた可能性がある。なお、ウクライナ情勢に言及したのは、私のこの問題についての見解を詳しく説明する必要性が生じたためであり、その理由は当日授業にいた学生はよくわかっているはずである。

授業改善の課題と方策

年ごとに授業の内容と範囲は充実させているので、今後も様々に工夫し継続したい。

その他

授業改善書

科目名	ドイツ語 I
担当者	手嶋 直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩をアルファベット・発音から人称代名詞の格変化・前置詞のあたりまで学んでいく。ドイツ語の基礎を身につけることを目的とする。動詞の現在人称変化、冠詞、複数、不規則動詞、冠詞類、命令形、人称代名詞、前置詞までを練習問題をやりながら講義する。

授業の問題点

最初だけ AB に分かれたので、少し目標の手前で終わってしまいましたが、その点を除けばおおむね予定通り進みました。

学生の授業満足度

まじめに取り組んでくれた学生にとっては手ごたえがあったのではと思います。

授業改善の課題と方策

授業が分かりやすくなるために、なるべく気軽に質問できるような雰囲気を作りたいと思います。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	ドイツ語Ⅱ
担当者	手嶋 直彦

授業の概要

ドイツ語の初歩を学んだ上で、さらに踏み込んだ文法事項を学び、少しずつ文章を読む練習もする。初級と中級合わせて「独検」4級程度の文法を学ぶことになる。前置詞、語法の助動詞、分離・非分離動詞、形容詞、再帰代名詞くらいまでを練習を交えて講義する。

授業の問題点

少人数で分割せずに対面授業ができたので、あまり問題はありませんでした。強いて言えばもう少し人数が多い方が(多すぎるとよくないのですが)よかったかもしれません。

学生の授業満足度

だいたい例年通りのようです。

授業改善の課題と方策

途中からでなくなってしまった学生が数人いたので、なるべく多くの学生が理解できるように丁寧な説明を心掛けます。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	東洋史資料講読
担当者	中村麗衣

授業の概要

歴史をみる筋道と視角、史料の信憑性や性格についての批判的精神を、実際に史料を読むことによって習得する。「インド独立の父」として知られる M.K. ガンディの著作の中から、日本語に翻訳されているものを読み、史料の読み方、解釈の仕方を具体的に指導する。ガンディの生きた時代背景、思想から現代世界へのメッセージを、議論し、読み解いていく。

授業の問題点

今年度も、対面授業とオンライン授業の二部形式になり、シラバスに記載した各自が学んだことを発表する機会を設け、発表の方法、レジュメの作成などの指導も行うことが困難であった。オンライン授業の課題レポートを提出してもらい、対面授業の際にその解説を行った。しかし、以前のようにグループ討論、その発表をする機会を作れなかった。

学生の授業満足度

Q9	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.33 (4.43)
Q10	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.37 (4.35)

授業改善の課題と方策

以前のようにグループ討論、その内容を発表する機会を作れなかったことに関して、グループごとに集まって、感染対策をとりながら話し合いをする工夫をしていきたい。

その他

とくになし

科目名	東洋史特論Ⅲ
担当者	中村麗衣

授業の概要

東南アジア地域は、隣接するインドや中国との間に古代から活発な交易が行われ、それぞれの文明を摂取して独自の世界を形成した。東南アジアの社会と文化を特徴づける多様性と多元性が、どのように生じたのか。時と空間を経てもたらされた文化が、それぞれの地で取捨選択され、変容をとげ、定着していく歴史について講義する。

授業の問題点

映像資料を用いるため、対面授業のみとなった。そのため、抽選によって選抜せざるをえず、希望にこたえられなかったことは申し訳なく思う。当該地域は、地域教育が手薄であり、あまりなじみのないところなので、できる限り講義と視角の両面からアプローチを図った。知らないことを知りたいと思うより、なじみのないものにはそっぽを向く傾向がある。

学生の授業満足度

Ⅲ 授業満足度について		
Q9	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.53 (4.45)
Q10	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.53 (4.37)

授業改善の課題と方策

当該地域の地理的条件、歴史的背景から、現在の文化的特徴をより鮮明に理解してもらうため、白地図による作業を行い、映像資料を駆使していきたい。まだまだ工夫の余地はあるので、努力していきたい。

その他

--

科目名	英語圏文学入門
担当者	新堀 司

授業の概要

この授業のテーマはイギリスとアメリカを中心とした英語圏文学への誘いである。その文学に誘うために、詩、劇、小説の3つのジャンルの主だった作家・作品を取り上げ、作品からの一部抜粋を通じて英語表現を学びつつ、その多様な豊かな想像力の世界を講義する。また英語圏文学にまつわる基礎的な事柄（時代的小説のおよび文化的背景、文学用語など）も学習する。（本年度の場合は、クラスを二つに分け、面接授業とオンライン授業を隔週で交互に実施した。）

授業の問題点

「令和4年度の春期授業アンケート集計結果」を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の項目中のQ3「質問や発言をしましたか」の結果が、2.96と低かった点である。

学生の授業満足度

アンケート集計結果によると、「授業満足度について」の項目のQ9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果が4.51、Q10「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の結果が4.56であったことから考えると、学生から一定の評価を得たように思われる。

授業改善の課題と方策

発言や質問の少なさが問題である。使用している教室が広いので、できるだけ、授業中に教室内を移動しつつ、私の方から学生に質問したが、さらにより多くの質問を学生に投げかけ、より多くの学生が授業中に発言したり、質問するように促したい。

その他

--

科目名	英語圏文学概論
担当者	新堀 司

科目名	文化人類学
担当者	西澤秀行

授業の概要
この授業のテーマは、ユーモアを通して学ぶ英語圏（特にイギリス）文学である。このテーマのもと、イギリス文学における主な作家・作品を取り上げ、英語表現を学ぶために作品の一部抜粋に触れつつ、その文学世界を講義する。文学にまつわる基礎的事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。

授業の概要
本コースの目的は、世界各地に見られるさまざまな文化を比較考察しながら、「文化」そのものについての理解を深めることにある。「文化」を学ぶにはいくつかの方法があるが、ここでは、文化人類学者により研究されてきた、いくつかのテーマを取り上げながら講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。そこで、授業では、ディスカッションの機会を設ける予定である。それにより、みなさん一人ひとりが「大学で学問することの意味」、「みずから学問することの意味」について、深く自問自答していただければ幸いである。なお、教室での学びとはべつに、「ポスター・プロジェクト」、「博物館プロジェクト」という、各自の問題意識にもとづいて取り組む課題も用意されている。よって、本コースでは授業・課題ともに、みずからの主体的な関与が求められることに注意していただきたい。

授業の問題点
「令和4年度春期授業アンケート集計結果」を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の項目中のQ3「質問や発言をしましたか」の結果が、3.09と低かった点である。

授業の問題点
教科書として指定した書籍が「文化人類学の入門」としては難解であったこと、講義で扱っているトピックに一つ一つ対応するハンドアウトを用意しなかったことなどにより、授業内容の理解について学生のあいだに大きな差が生じた。各回の講義で取り上げる内容もかなり広く、学生によっては理解に相当な負担を感じてしまった人もいたようである。さらに、学生がノートを取る時間を確保する配慮に欠けていたことも、本コースの大きな問題点・反省点といえる。十分な自筆ノートがないことにより、復習や試験勉強に困難を感じた学生も相当数いたようである。

学生の授業満足度
アンケートの集計結果によると、「授業満足度について」の項目のQ9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果が4.41、Q10「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の結果が4.50であったことから考えると、学生から一定の評価を得たように思われる。

学生の授業満足度
授業では毎回異なるトピックを扱ったので、学生の側に飽きはなく、いつも新鮮な驚きを持ってもらえたと感じている。その反面、これまでの授業で習った知識を活かして応用・推論しながら理解を深めるということができず、授業内容の把握に困ってしまった学生もいたようである。くわえて、上述したように、教科書を使って自学自習（おもに復習、試験勉強）することも難しかったようなので、授業中にノートを取る時間を確保してあげられなかったことに不満が集中してしまったと言わざるを得ない。

授業改善の課題と方策
発言や質問の少なさが問題である。学生の中には積極的に発言し、授業に参加した者も一定数いたのだが、それは限定的であった。より多くの学生が発言し、質問するように、私からより多くの学生を指名し、質問するなどして、学生の発言や質問を促すようにしたい。

授業改善の課題と方策
大学1年生も履修することを踏まえ、できるだけ授業内容に即した教科書を使用する。あるいは、教科書の章立てに沿って毎回の授業を組み立てるようにする。そのうえで、「今回の授業で扱う範囲は教科書の●●ページから●●ページまでです」のように、逐一、丁寧に説明することを心掛ける。教科書で触れられていないテーマを扱う際には、こちらでハンドアウトを用意し、それを学生に配布してから講義を進めるようにする。

その他

その他
現代社会における諸問題について学生に考えてもらうために、積極的にディスカッションの機会を設ける。各回の授業時間の配分（講義、映像視聴、ディスカッションなど）について今学期を振り返り、今後に向けて細かく分析していきたい。

科目名	比較文化論
担当者	西澤秀行

授業の概要

北アメリカ各地に独自の文化を築いたネイティブ・アメリカン（アメリカン・インディアン）諸族について、彼らの歴史と文化を、考古学的・文化人類学的な視点から講義する。異文化を学ぶ際にもっとも必要とされるのは、「もっと知りたい」という知的好奇心と、みずから積極的に調べてみる姿勢である。そこで、授業ではディスカッションを取り入れる予定である。くわえて、「ポスター・プロジェクト」、「フィルム視聴プロジェクト」という、各自の問題意識にもとづいて取り組む課題も用意されている。こうした学びの機会をとおして、みなさん一人ひとりが「大学で学問することの意味」、「みずから学問することの意味」について、深く自問自答していただければ幸いである。

授業の問題点

教科書として指定した書籍が英語であったこと、授業のなかで視聴した映像が英語であったことなどにより、授業内容の理解について学生のあいだに大きな差が生まれてしまった。各回の講義で扱う内容が広範になってしまうことも多く、結果的に詰め込み型の講義になってしまった。そして、学生からの指摘にあるように、ノートを取るのに十分な時間を確保できず、学生によっては復習や試験勉強が困難になってしまった人もいたようである。

学生の授業満足度

毎回、授業では異なるトピックを扱ったので、その点では学生の側に飽きはなく、いつも新鮮な驚きを持ってもらえたと思う。しかし、その反面、授業回数を経ても、これまでの知識を活かして学べる（推論できる）という部分があまりなく、授業内容の理解に困ってしまった学生もいるようである。また、上述したように、教科書を使って自学自習（おもに復習、試験勉強）できない学生のあいだで、ノートを取る時間が十分になかったことに不満が集中しているようである。

授業改善の課題と方策

日本語で書かれた教科書を使用する。そのうえで、毎回の授業では「今回授業で扱う範囲は●●ページから●●ページまでです」のように、丁寧に説明することを心掛ける。教科書で触れられていないテーマを扱う際には、こちらでハンドアウトを別途用意し、それを学生に配布してから授業を進めるようにする。

その他

現代社会における諸問題について学生自身が考え、それを意見としてクラスメートの前で述べてもらうために、積極的にディスカッションの機会を設ける必要がある。そのためには、各回の授業時間の配分（講義、映像視聴、ディスカッションなど）について、今学期を反省し、今後に向けて細かく考えていきたい。

科目名	英会話 I
担当者	ヒューパーマー

授業の概要

この授業は外国旅行や外国生活をする為に必要とされる使い易い言葉や表現を学びます。映画、テレビ番組、雑誌などのメディアを講義に取り入れています。

授業の問題点

ノートやメモを取るという事項においては平均を下回っている。学生の授業態度という点において、次期からは授業中に予習・復習、適宜メモを取るよう促して行く。併せて、授業方法や資料の分かり易さという点では平均を下回っている。授業では主に英語を使っており、「もう少し日本語を使してほしい」という意見も上がっていることから、この点が問題点となっているように思えるが、英語によるコミュニケーション向上を目指しており、一部では英語が分かり易かったという意見もあり、対応が難しい問題ではあるが出来る限り改善に向けて取り組んで行きたい。

学生の授業満足度

課題が楽しい、分かり易かったという意見が多い。同時に質問や発言においては平均を上回り、学生の学習意欲が高いことがうかがえる。コロナ禍という大変な状況においても、前向きな姿勢で、授業に満足しているという結果となった。

授業改善の課題と方策

前述の通り、ノートやメモを促していく。授業では日本語使用は出来る限り控えたいという意図があるため、口頭の説明に併せてプリント等を適宜使用していく。

その他

科目名	英会話Ⅱ
担当者	ヒューパーマー

授業の概要

このコースは基本的にサバイバル英語ということを中心として、外国旅行や外国生活するための使いやすい言葉を学んでいきます。その中で買い物、道案内、雑談などを学んでいきます。映画、テレビ番組、雑誌などのメディアを使います。Eメール、手紙、フォームの書き方も練習します。

授業の問題点

今回のアンケートの結果において、授業の分かり易さ、時間の有効性、質問への対応という点においては若干点が低いようであるが、アンケート回答の内容がより具体的であれば、今後の授業の運営に非常に参考になる。

学生の授業満足度

今年も異例の事態となり、コロナウイルスによる制約が一部残っていました。また、新型コロナウイルスによる制約から、授業に不満を持つ学生もいるのではないかと心配しました。しかし、ほとんどの学生が前向きな姿勢を示し、効果的に授業に貢献してくれた。

授業改善の課題と方策

授業への関心度は、いつもより少し低かった。しかし、出席率は良好で、学生はほとんどの部分でよく参加しました。したがって、来年はシラバスを大幅に変更する予定はありません。ただし、学期後半の活動については、学生のレベルを考慮して柔軟に対応します。

その他

科目名	日本史資料講読（近世）
担当者	福澤 徹三

授業の概要

現在の日本近世史の通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義を行う。学生には、史料から歴史像を組み立てていくおもしろさを味わってもらい、時には、より専門的な史料を読んでいくことにより、より深く、立体的な歴史像を学生が持てるような授業を行うことを目的としている。

今年は、履修学生が教室定員の半数を超えたので、A・Bグループに分けて授業を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、シラバスに記載していた見沼通船堀の見学は中止した。

授業の問題点

A・Bグループ分けのため、例年に比べると3/4程度の内容となった。中間試験が授業時間数確保のため行えなかったことが原因だと思うが、基礎的事項の理解が後半にずれ込み、いつも以上に成績が「まばら」になってしまった。それでも、期末試験で満点に近い点数を取った学生が複数いて、A・Bグループ分けでも十分な理解度に達することが可能であるということもわかった。

学生の授業満足度

Ⅲ授業満足度は、両項目とも4.43であり、学生にはおおむね満足してもらえたと考えている。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」の項目が、2.89であった。例年は、解答を板書させ、史料の歴史的意義を考える場面で学生を指して意見を聞いていたが、今年は進度を気にするあまり、まったくできなかった。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるところが大きいが、反省点として、来年度改善したい。

その他

新型コロナウイルス感染症対策として、教員はマスクを装着して授業を行った。学生もマスクをきちんと着用し、協力してくれた。授業態度は、とても良いものでした。学生の理解と協力に感謝しています。

授業改善書

授業改善書

科目名	美術史
担当者	柳澤恵理子

科目名	日本文化概論 I
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業は日本美術史入門編として、飛鳥・奈良時代から戦後まで、各時代の代表的な作品・絵師たちを見ていきながら、日本美術の歴史を講義した。同時に、その作品が制作された社会的背景、注文主や享受者といった当時の人々の思い、表現技法などに触れることで、日本美術の特徴について理解を深めてもらうことを目指した。

授業の概要

本授業では、『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』の絵画、漆工、染織品、メディア芸術を取り上げながら、古典文学の造形化について講義した。受講者に著名な古典文学の内容を学んでもらうと同時に、その造形文化について理解してもらうことを目指した。

授業の問題点

今年度も交互対面授業となり、シラバスの内容を縮小せざるを得なかったが、適宜オンライン課題で補うことができた。ただ、課題の提出率が低かったため、提出に関してもう少しアナウンスする必要があると感じた。

授業の問題点

途中から交互対面授業に切り替えたため、『平家物語』の単元を1回しか行うことができず、受講者から不満の声が挙がった。また、それまでの対面授業には毎回出ていたが、オンライン課題になると提出しなくなってしまった受講者も多かったため、もう少し積極的に取り組めるような課題内容にするべきであった。課題そのものが難しかったと言っていた受講者もいた。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業評価アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法に概ね満足してもらえたと感じている。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業評価アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法に概ね満足してもらえたと感じている。

授業改善の課題と方策

オンライン課題については、昨年度よりも絵を見て自由に考えるという形式を増やしたため、楽しんで取り組むことができたとの感想を複数得られたが、提出率が低かったため、より積極的に取り組めるような内容にしたいと考えている。
また、質問率も低かったため、学生からの感想や意見を引き出せるような問いかけを授業内で行っていききたい。

授業改善の課題と方策

オンライン課題は主に「古典の造形作品を見て考える」というものであったが、古典文学の内容について知らない受講者も多かったため、今後はもう少し物語の内容を予習できるような課題を出していきたいと考えている。

その他

その他

科目名	書誌学
担当者	山口恭子

科目名	西洋思想史
担当者	山城貢司

授業の概要

日本の古典籍についての基礎的事項を講義する。今年度も、遠隔授業と対面授業とを組み合わせての授業であったため、テーマを絞り、写本に関する歴史と用語、古筆切と手鑑、和紙の種類をとりあつかうにとどまった。
また、古典籍を扱うに際して書くことのできないくずし字の解説も行った。これについては、遠隔授業時の課題とした。提出までにある程度の時間をおき、各自のペースで時間を掛けて取り組んでもらえるようにした。

授業の問題点

アンケートの集計結果を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価してください」の各項目のポイントが比較的低かった。実際の授業のなかでは、誠実に学習に取り組んだ学生は少なくないと感じたが、一方、たとえばオンラインでの課題提出の必要性についてほとんど理解をしていない学生がいたことなども事実であり、大きな反省点である。より多くの学生が能動的に学習できる工夫や環境づくりに努めたい。

学生の授業満足度

アンケートの集計結果からは、学生の満足度が低いことがうかがえた。今後も、理解を深化させるような資料の工夫、また、課題や質問に対するフィードバックや解説を丁寧に行ってゆきたい。

授業改善の課題と方策

感染症対策のための授業形態となった際の授業の内容や対応にいつもの工夫をした。とくに、遠隔授業時の課題への取り組みや提出の徹底、また、対面授業時に発言をしやすい雰囲気作りなどに配慮したい。

その他

授業の概要

本コースでは、(1) 古代ギリシア哲学思想のおおまかな流れと(2) 哲学史全体におけるその意義について学んだ。今年度は、難解なソクラテス以前に割く時間を減らし、その分ソクラテス・プラトン・アリストテレスの思想を詳細に扱った。加えて、ヘレニズム時代から現代に至るまでの古代ギリシア哲学の受容と展開についても概観することができた。教科書的な概説だけにとどまらず、哲学テキストの抜粋の読解に少なからぬ時間を割いたほか、主体的な思考を促すため、授業内における対話や質疑応答に力点を置いた。

授業の問題点

今年度は、説明の段取りや例に工夫を凝らしたほか、図などを用いて学生の理解が容易になるように努力してみたが、講師の説明が十分に伝わっていないのを改めて実感した。おそらく、
(1) 毎回の授業の重要ポイントを明確に提示できていなかった。
(2) 学生の側で大きな流れがイメージしづらかった。
(3) 耳慣れない用語や表現を使用しがちであった。
といった問題があったと思われる。

学生の授業満足度

アンケート結果からは、少なからぬ学生が授業内容に必ずしも満足してはなかったことがうかがえる。原因として、そもそも学習内容が難しく、学生にとってしっかり咀嚼することが困難だったことに加えて、古代ギリシア哲学を学ぶ意義がいまいち実感できなかったことが考えられる。

授業改善の課題と方策

本コースの担当は3年目であり、パワーポイント資料やその他の配布資料、また一回ごとの授業の組み立て方などは形になってきたが、論点をもう少し絞り、基本の部分にしっかりと時間をあてることにする。
自宅学習では、授業の内容を要約する課題を出したが、学習効果についてはあまり手応えがなかったので、来年度は別のタイプの課題を用意することを検討する。
現代社会や今日の学問との関わりを強調することで、学生がもっと学習内容に関心を抱くように工夫する。
あまりにも高度な内容には踏み込まないように留意し、もっと全体のバランスに配慮する。

その他

可能であれば、来年度こそはグループ分けなしの授業を行いたい。

科目名	異文化コミュニケーション
担当者	吉村貴之

科目名	中国語 I (初級)
担当者	李小捷

授業の概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要である。本講座では、異文化コミュニケーション論の理論を学んだうえで、ユーラシアにあった前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方を探る。

授業の問題点

この講座は専門科目でありながら、本学の複数の学科、つまり言語・コミュニケーション領域、史学・文化領域双方にまたがる内容であるばかりでなく、年度によっては他学科の受講生も出席するため、いずれの領域の学生にも関心をもってもらうよう配慮しないとけない点が難しい。

学生の授業満足度

学生の興味を引き付けるような視聴覚教材を増やした点は、学生が授業に関心を持ちやすくなっているようだ。

授業改善の課題と方策

昨年度は、分散登校や機材のトラブルの対応で授業の進路が遅れた際にシラバスで公表したスケジュールを短縮したのに対し、今年度は機材のトラブルが多かったものの、後半の事例研究は、講師が一方向的に話して、最後は駆け足の解説にすることでスケジュール通り進めたため、学生が消化不良を起こしていた観がある。今後は多少解説事項を減らしてでも、無理のない講義運営を心掛けたい。

その他

授業の概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌などを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業の問題点

1. 遠隔授業グループは、一部の学生は課題を書き写すだけです。発音の音声の確認や文法の自習などが不足しています。
2. 学生がマスクをつけたままで、口の形や発音の正確性を確認しにくいです。

学生の授業満足度

学生の授業の満足度はほぼ平均点と同じです。
学生による主な意見は「授業の最後に中国語の勉強ができるビデオを流してくれるので授業の内容が復習されていていいと思いました。」「中国語の基本をよく学べたと思う。」などです。

授業改善の課題と方策

一部の学生は遠隔授業の課題の自習が不足で、対面授業の時、授業の内容を理解しにくいです。遠隔授業の課題をちゃんと自習させるように、対面授業時に単語の確認小テストを行いました。このような小テストは学生の自習のモチベーションを改善しました。これからも単語小テストだけではなく、もう少し文法も含めて確認小テストを行いたいと思います。

現在はまだマスクを外して声を出して発音練習ができませんが、難しい発音を確認する時は、私が少しマスクを下げて、発音します。学生は正しい口の形や発音のコツなどを確認することができます。これからもこのような方法で発音を確認したいと思います。

また、学生たちが授業に対する興味や集中力を向上させるために、さらに工夫したいと思います。例えば、中国の切り絵（剪纸）と一緒にやりたいと思います。

その他

学生たちの発音はとても上手です。たくさん褒めてあげました。

科目名	東洋史特論Ⅱ
担当者	宮古文尋

科目名	哲学概論
担当者	天野恵美理

授業の概要

対面・オンライン（リアルタイム／オンデマンド）、三種の受講方法が選べるハイフレックス方式で行います。（リアルタイム方式：対面授業をリアルタイムで ZOOM から配信します。オンデマンド方式：その録画を YouTube にアップロードし、URL を Teams よりお知らせします）。受講方式による成績評価の差はありません。

中国とその周辺地域の歴史を、まだ教科書には反映されていない、近年の研究成果を踏まえながら講義します。いわゆる「通史」という形ではなく、幾つかのトピックを取り上げる形で歴史過程を概説し、「民族」とは何なのかについて考えます。過去の制度や思考法は、現代に至るまでの間に失われたのか、残存しているのかを考えることを糸口に、歴史を踏まえた現代社会の再検討を、各テーマごとに試みます。まずは、現代の中国やその周辺地域で生活する人々の、文化や社会を知ってもらおうと思います。そして、その背景にはどういった歴史があるのかを考えていく形で講義を進めます。その時、その地域を生きていた人々が、どのような感情を抱き、どのようなことを考えたのかを、当時の人たちの視点から考えてみて欲しいと思います。

授業の問題点

授業アンケートにおける「質問や発言をしましたか」の項目での点数が低かった。機材準備（プロジェクターとブルーレイプレイヤーの設置、持ち込み PC のインターネット接続等）に手間取り、授業開始時間が遅れることが数回あった。機材準備は出来る限りのことをしたが（事前に全てコード類を繋いだ状態で教室に持って行く等）、10分では難しいところがあった。また、今年度の教室は次の講義がなかったので問題とはならなかったが、片付けについても同様の問題が起こるだろう。機材を片付けるために講義時間を短くせざるを得ないようであれば、それは本末転倒であるように思う。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果を見るに概ね満足できたようである。

授業改善の課題と方策

講義形式の授業のため、これまで発話を促すことはなかったが、対面受講者の集中力維持のためにも今後は取り入れていきたいと考えている。講義内では対面受講者の集中力と緊張感を持続させるため、またオンライン受講者の出席確認のために、数問のクイズを出題している。これまでは各々がリアクションペーパーに回答を記入する形式であったが、対面受講者の一人に回答を促してもいいのかもしれない。当然、回答が分からなかった他受講者にも正答が伝わることにはなるが、対面受講にそれくらいの有利性があったもよいだろう。

可能であれば、前後の時間に（昼休みや 1 限・5 限含め）空いている教室を利用することが最善策であるように思う。

その他

特になし。

授業の概要

・心身関係や自由、死といった、哲学の諸概念について、毎回、いくつかの（基本的には対立する）考え方を紹介し、反論の仕方も含めて、哲学的な「論証」の仕方を学んでもらうことを目指した。
・授業の最後には、毎回、その日の授業で扱った論証を再構成してもらい、ミニレポートのような仕方で提出してもらった。

授業の問題点

・プリントを配り、学生がノートを取る際の手助けとすべく説明をあえて部分的に記したが、学生の側からすると、教員が述べたことを正確に書き写さねばならないと理解されてしまったきらいがある。
・また学生のコメントから、授業進度が少し早いのではないかと感じた。

学生の授業満足度

・プリントで空欄になっているところを聞き取れなかったとの声があった。
・熱心な学生には、授業後等に分かりやすいとのコメントを直接もらっていたが、アンケートの結果を見る限り、多くの学生にとってわかりやすい授業であるとは言い難いようである。

授業改善の課題と方策

・プリントについては、授業中に、一字一句正確に書き取る必要はなく、あくまで、内容を全体的に理解しつつ自分なりにメモを取ることが重要であると、学生に再三呼びかけた。また、プリント自体も、字句を正確に聞き取るべきとの誤解を学生に与えてしまわないように意識して作成したい。
・学生の理解度を伺いながら、1つのテーマにつき1回ないし2回の授業で扱ったが、授業の理解度の向上や、コメントシート執筆時間の確保のため、今後は、原則として1つのテーマを2回に分けて扱うと決めて進めるのが良いのではないかと検討している。

その他

・改善点はあるにせよ、授業の最後にミニレポートを書いてもらうやり方は、授業を真剣に聞いてもらったり、改めて教科書を読み直してもらうためには、良い方法であるように思った。

科目名	倫理学
担当者	浜田郷史

科目名	生命の倫理
担当者	浜田郷史

授業の概要

講義形式で倫理学史と応用倫理学を学ぶ授業である。

授業の概要

講義形式で生命倫理学上の様々な問題を検討していく授業である。

授業の問題点

倫理学史については、直感的にわかりやすいものとわかりにくいものの差が激しかったようである。
ふたつのグループを交互に行ったが、オンライン上では動画を視聴する形式である。しかし視聴数があまり上がっておらず、授業を聞かないままにいる学生が多く見受けられた。また、特に音声上の聞きにくさを指摘する声があった。
リアクションペーパーなどの提出に関して、技術的な問題点も残った。
座学中心で一方的な授業展開になりやすいため、持続的に学習を続ける態度についても課題が残った。
定期試験の結果においても、基本的な文章作成に不慣れな者が多かった。

授業の問題点

生命にかかわる倫理的問題であり、概念的思考と情動・直感の両立が課題である。前者に流れればアクロバティックな推理や悪しき抽象に陥り、後者に流れれば思考停止に陥る。今回は、後者のほうがやや優勢であった。
ふたつのグループを交互に行ったが、オンライン上では動画を視聴する形式である。しかし視聴数があまり上がっておらず、授業を聞かないままにいる学生が多く見受けられた。また、特に音声上の聞きにくさを指摘する声があった。
リアクションペーパーなどの提出に関して、技術的な問題点も残った。
座学中心で一方的な授業展開になりやすいため、持続的に学習を続ける態度についても課題が残った。
定期試験の結果においても、基本的な文章作成に不慣れな者が多かった。

学生の授業満足度

それなりに高い満足度であったが、ノートをとっている者や質問数の少なさなど受け身の多さが気になっている。

学生の授業満足度

それなりに高い満足度であったが、ノートをとっている者や質問数の少なさなど受け身の多さが気になっている。

授業改善の課題と方策

倫理学史については、わかりにくいものの理解や、一見わかりやすいものについての根本的な問題点に立ち入るなど、過程を重視し、より深い思考につながる授業を心がける。
音声・文字以外の情報を検討したい。
リアルタイムでの双方向性を取り入れられるようにズームで質問を受け付けるか、グループワークなどを取り入れる。
文章作成については、受講者数の兼ね合いもあるが、試験結果以外のフィードバックを検討したい。

授業改善の課題と方策

適用や一般化、推論、帰結主義的な説明をより授業に取り入れる。
音声・文字以外の情報を検討したい。
リアルタイムでの双方向性を取り入れられるようにズームで質問を受け付けるか、グループワークなどを取り入れる。
文章作成については、受講者数の兼ね合いもあるが、試験結果以外のフィードバックを検討したい。

その他

その他

科目名	倫理学概論
担当者	浜田郷史

科目名	東洋史特論 I
担当者	永島 育

授業の概要

講義形式で「赦し」と「応報」双方の立場を検討していく授業である。前半はより基本的な倫理学上の立場や基礎的な概念を説明し、後半で具体的な吟味を行った。

授業の問題点

双方の立場を検討したが、はじめから「応報」に傾く者は、最後までそのままだったきらいがある。それ自体は何も悪いことではないのだが、自己の直感を批判的に吟味する方法を体得できたかは、やや疑問である。
ふたつのグループを交互に行ったが、オンライン上では動画を視聴する形式である。しかし視聴数があまり上がっておらず、授業を聞かないままにいる学生が多く見受けられた。また、特に音声上の聞きにくさを指摘する声があった。
リアクションペーパーなどの提出に関して、技術的な問題点も残った。
座学中心で一方的な授業展開になりやすいため、持続的に学習を続ける態度についても課題が残った。
定期試験の結果においても、基本的な文章作成に不慣れな者が多かった。

学生の授業満足度

それなりに高い満足度であったが、ノートをとっている者や質問数の少なさなど受け身の多さが気になっている。

授業改善の課題と方策

「なぜ」そのように考えるかだけでなく、その根拠自体をより良いものにする必要がある。試験問題を工夫したい。
音声・文字以外の情報を検討したい。
リアルタイムでの双方向性を取り入れられるようにズームで質問を受け付けるか、グループワークなどを取り入れる。
文章作成については、受講者数の兼ね合いもあるが、試験結果以外のフィードバックを検討したい。

その他

授業の概要

本講義では、中東から北アフリカ、内陸アジア、そして海域アジアにひろがるイスラーム世界について、軍事史の視点を軸にしつつ、通史的な知識を得ることを目指す。現在、世界有数の紛争地帯を抱えるイスラーム世界であるが、そのために「イスラームは好戦的な宗教である」という偏見が存在している。こうしたイメージに晒されるイスラーム世界と共生するためには、イスラーム世界と軍事とのかかわりの実態を歴史的に把握し、偏見を払拭することが求められている。そこで、軍事、戦争がイスラーム世界の政治・社会・文化的展開に与えた変化について見ていくことで、今日のイスラーム世界が抱える紛争という課題の考察に機会を与えるような講義を行う。

授業の問題点

アンケートの結果によれば、授業外学習、並びに授業内の質問や発言の項目が最も低くなっている。したがって、この点を授業の問題点と見なすことができる。ただし、以上の項目は平均においても最も低い点であり、本授業のみの問題ではない。

学生の授業満足度

ほとんどの項目で平均を上回っており、学生の高い授業満足度が看取できる。

授業改善の課題と方策

今回のアンケートによれば、学生からの質問にきちんと対応したかどうかの項目では十分な満足度が得られているので、授業内の質問や発言を増やす取り組みをすることが本授業の評価を最も高められる点であり、本授業の今後に向けた課題である。
次年度は出席カード裏のコメントを義務付けるなど、学生が質問する習慣をつけるように計りたい。

その他

科目名	犯罪心理学（司法・犯罪心理学）
担当者	古 曳 牧 人

授業の概要
公認心理師科目として、①犯罪、非行、犯罪被害者及び家事事件についての基本的な知識を習得する、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解する、を到達目標としている。 本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、受講者は2グループに分けられ、オンライン授業の回と対面授業の回が半数ずつの割合であった。
授業の問題点
グループによって、対面授業→オンライン授業という順で受講する場合と、オンライン授業→対面授業の順で受講する場合がある。対面授業とオンライン授業の組み合わせについては、どちらの順序で受講しても理解できるように工夫したが、一定の順序で受講した方が理解しやすい場合もあったと思われる。 また、オンライン授業を受講した場合は、出席確認を兼ねて感想等の課題を提出してもらったが、受講者が多いため、すべての課題に目を通すことができなかった。
学生の授業満足度
アンケートの授業満足度は、得るところがあったかという設問は4.43（平均4.43）、全体的な満足度の設問は4.39（同4.35）であった。平均程度の満足度を得ていると思われる、比較的受講者の多い授業としては、大きな問題はないと思われる。
授業改善の課題と方策
アンケート結果では、質問や発言の項目や質問対応の項目における評価が低い。元々、比較的受講者が多い講義科目なので、授業中の発言の機会はほとんどなく、また、オンラインの課題についても上記のとおりすべてに目を通すことが時間的に難しかった。オンライン授業の課題の他にオンラインで質問を受け付ける場所を設けても良かったと考えている。 授業動画の音が聞き取りづらいという意見があったが、機材等による改善が図れないか検討したい。
その他
特になし

科目名	乳幼児心理学
担当者	岩崎桂子

授業の概要
本講義では、胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。 とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように進める。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養う。
授業の問題点
選択科目ということもあり、履修者がなかなか確定しない、辞退者がはっきりしないという点で学生の出席管理が非常に困難であった。 乳幼児心理学という科目であるが、乳幼児に特に興味・関心がない学生が存在しているので理解を深める事が難しかった。
学生の授業満足度
学生からの授業に対する満足度は、比較的の高い得点であった。しかし、シラバスに関する項目は他の項目と比較すると低かった。シラバスの見直しが必要である。 また、学生の予習・復習についての項目得点から、ほとんどの学生が勉強していなかったことが分かった。
授業改善の課題と方策
シラバスの改善については、今後も検討していく必要がある。 子どもの成長や発達に関して、知識の無い学生が多くいるのでDVDなどの映像資料をそろえておく必要がある。 学生の出席管理については、学生に確認するだけでなく事務との連携が重要である。
その他
今期、教員自身の出張等で、急速、オンラインでの自宅学習に変更する回が増えてしまった。できる限り、早めに学生に周知できる様にしたい。 数回、グループワークを行った所、学生達が学年関係なく積極的に参加していた姿が印象的であった。このような機会を増やせるように検討したい。

科目名	精神医学概論（精神疾患とその治療）
担当者	片岡岳

授業の概要

心理職としてどの領域でも必要とされる精神医学の基礎知識に加え、特に医療保健領域で必要とされる知識について講義する。
 まず精神疾患と身体疾患とを比較しつつ、精神疾患と精神医学について概観する。以降総論として、症状学、診断学、治療学について概説する。各論として、各種精神疾患について、さらに世代ごと性別ごとに特徴的な精神障害について説明する。最後に、精神医学に特徴的な社会とのかかわりについて説明する。

授業の問題点

30 コマで教えるべき内容を 15 コマに詰め込んだので、進度が早かったと考えます。

学生の授業満足度

4 点を超え、おおむね平均程度でした。

授業改善の課題と方策

講義内容の絞り込み。

その他

科目名	人体の構造と機能及び疾病
担当者	高柳雅朗

授業の概要

チーム医療において、公認心理師として多職種連携(Interprofessional Work; IPW)を実践することが求められている。この多職種連携の実践に必要な医学の基礎知識について講義する。まず、医学総論として医学と医療やその歴史等を講義する。次に、疾病を理解するために必要な、正常な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について講義する。そして、心理的支援が必要な疾病を主として疾病について講義する。

授業の問題点

授業に対する学習態度を学生が自己評価するアンケートの結果から、学生の授業外学習(予習・復習等)を促す工夫が引き続き必要と思われる。また、質問や発言を促す場面を増やしていきたい。

基礎知識として全身の正常な解剖学・生理学を学び、さらに主要な症候そして主要な疾病を学ばなくてはならない。これらの学ぶべき範囲が広く、学習項目が多いため、授業の内容が多くならざるを得ないことや、授業の進行がはやくならざるを得なかった。

学生の授業満足度

授業満足度についてのアンケート項目の結果から、学生はおおむね満足していると思われる。今後も学生がより満足する工夫を続けたい。

学生による主な意見に「例えてくれるのでわかりやすいです!」という意見があった。このことから、わかりやすい例えが学生の理解や満足度につながると思われる。今後もわかりやすい授業を目指していきたい。

授業改善の課題と方策

学生の授業外学習(予習・復習等)を促すため、対面授業・遠隔授業の両方において課題の実施を検討したい。

授業中における問いかけを増やす等し、学生の発言を促したい。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、出来る限り話さずに黙ることが求められている。このため、学生に質問や発言を促すことは控えざるを得ない。新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まったのち、学生に質問や発言を促したい。

その他

今年度も前年度に引き続き、学生も教職員も新型コロナウイルス感染症への対策が求められ、履修生を A グループと B グループに分けるなど、さまざまな対策を行いつつ授業であった。今後も引き続き新型コロナウイルス感染症やインフルエンザへの対策を行いつつ、授業を進めたい。

科目名	メディア心理学
担当者	田中道弘

科目名	学習心理学
担当者	時本 楠緒子

授業の概要

メディアと言えば、かつては新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「四大メディア」が主流であった。「四大メディア」は、特定の情報源から不特定多数の人々に大量の情報を発信する一方通行の情報の流れが特徴である。しかし、2000年以降、この構図が劇的に変化した。現在、「メディア」は、インターネットを利用し個人が情報を発信し、ユーザー同士のコミュニケーションにより情報が拡散していく「ソーシャルメディア」へと移行している。「ソーシャルメディア」は、個人が発信した情報が、インターネット上の不特定多数の人に共有され、拡散してだけでなく、情報を受け取った受信者の誰もが情報の発信者になりうるという双方向の情報の流れが特徴である。こうした内容を、様々な角度から説明していく。

授業の問題点

昨年度と同様に、対面授業と遠隔授業のリアルタイムで実施していた。しかし、授業回の前半に遠隔授業の学生から音が聞き取りにくい、PowerPointのスライド画面が（教員側では進んでいるにも関わらず）画面が進んでいないという指摘を受けた。そこで、急速、対面授業とともに、遠隔クラス回の学生にはオンデマンド型で対応することにした。

遠隔回の学生に対しては、毎回、Teamsにより授業を録画し配信した。対面授業内容そのものは問題ない。しかし、授業内で学生に閲覧させたビデオは、そのまま Teams で録画した状態では閲覧が難しい。そのため、別途、動画教材を閲覧可能な状態にしたものこちらの動画再生回数は増えることは無かった。

学生の授業満足度

「この授業の評価について評価してください」という Q1-Q10 の 10 項目については、すべての項目で 4.0 を超え、うち 2 項目は平均点を上回るものであった。

授業改善の課題と方策

授業の初回から 4 回まで機材トラブルなどがあった割には、全体的にはよい評価であったものと考えられる。課題は、コロナ禍ならではの対面授業と遠隔授業の併用による問題も大きい。遠隔の学生用に動画を配信しても、毎回の課題箇所のみしか動画を閲覧していない、一部には、動画を視聴せずに授業の感想を記載する（授業内容とのズレ）も確認された。フェイクニュースに騙されない、より正確な情報にたどり着くための指導しようとしても、遠隔ではその場に学生がいない。遠隔授業ならではの、もどかしさがある。このような問題があるものの、少しずつ、学生の授業満足度が上がるように努力してきた。

その他

学生の受講態度については、4 項目中 1 項目のみは平均値と同じ得点であったものの、それ以外は平均点を上回っていた。その他の項目についても、平均点を上回るように努力していきたい。

授業の概要

学習とは、「経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」である。学習心理学は、学校の勉強に止まらず、日常生活の様々な場面で見られる行動をも対象とすることから、本講義では身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について学ぶ。後半は、学習と言語の関連領域について、人がどのようなプロセスで言語を学ぶのか、現在も論争が繰り返されている言語獲得のメカニズムを通して基本的な言語理論への理解を深める。

授業の問題点

学習態度のうち「授業外学習をしましたか」「質問や発言をしましたか」が 3 点台にとどまったのは問題であると考えています。また、授業内容が穴埋め資料に記載されていないというコメントがみられました。

学生の授業満足度

今学期の学習態度の評価平均は、わずかですが昨年より高くなっていました。授業時間や受講者数などが異なるため簡単に比較はできませんが、全体的に満足できる結果であると考えています。以前「授業の分かりやすさ」が 3 点台後半だったことがあり、「学習心理学は難しい」との感想がみられることもありましたが、この点も改善されていました。コロナ禍であっても受講生と教員の双方が努力を重ねた結果が反映されていると受け止めています。

授業改善の課題と方策

今学期は「授業外学習」を充実させる目的で、毎回の授業後に簡単な確認課題を課し、結果に対するフィードバックをできるだけ丁寧に行うように心掛けました。授業に出席してさえいればよいと考える受講生には不評ですが、授業内容の理解度を高め、学期を通して受講生の学習意欲を継続する効果がみられたと感じます。授業中に自発的に「質問や発言」ができる学生は少数ですが、課題という形ならハードルが低いので今後も続けたいと考えています。ただフィードバックの中で、あらかじめ用意した授業資料に記載されていない内容を紹介することがあり、そのことで不安になる学生がいることが明らかになったため、その対策も考えていきたいと思います。また、今学期の課題は復習が中心でしたが、本講義で用いる概念は他の授業で学習しているものも多いため、キーワードを手掛かりに自ら学習することができます。来年度はこのことをきちんと伝えたい上で、より自発的な「授業外学習」を促していきたいと考えています。

その他

今学期も Teamsのおかげで色々工夫をすることができました。ありがとうございました。

科目名	英語 I
担当者	青木雅幸

科目名	英語 II
担当者	青木雅幸

授業の概要

国際化する日本の教育現場において、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につけ、スキット再現する。なお且つ、基本文法項目についてのプラクティスを行うことにより基本文法を再確認する。各課のまとめとして学習した内容についての応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。これらのサイクルを習得することにより実践的な教育現場に必要な身の回りの物事を英語で表現できるように指導する。

授業の問題点

コロナ禍の最中での授業であり、飛沫感染を防ぐための着席指導・マスク着用など学生にとっては大きな声で発音ができないこと等々、教員ともにストレスを感じつつ春期が終了した。とくに7月にコロナの第7波により体調不良により休む学生が多くなり、また定期試験をも欠席する学生が多く見受けられた。

毎週の授業において各 Unit の復習と応用を兼ねた幼保英検の模擬問題を課題として与えているが、時間の関係で宿題が多くなり一部の学生においては宿題が多いとの不評がアンケート調査に記されていた。しかし、英語が苦手な学生は、授業進度が遅いことについては喜ばしいことであるが、英語を得意としている学生にとっては不満を覚える点ではある。

一番の問題点は、やはりクラス内の英語力にかなりの差があることである。

学生の授業満足度

アンケートの結果全般で判断するに、例年の通り子ども発達学科の学生には「英語は苦手である」者が多いようであるが、授業の内容が中高時代の読み書き文法中心の授業ではなく、教育現場で有効と思われる表現を中心としている点に関しては満足度が高いように思われる。しかしながら、全ての学生が高い満足度を示しているわけではなく、当然のことながらより満足度の高い授業を提供することが求められている。

授業改善の課題と方策

大学の教育現場において、英語は最も学力差が顕著に表れる科目の一つであると言われている。そのため、上記したように、英語が苦手な学生にとっては進度の遅い授業展開は喜ばしいことであるが、一部の英語が得意な学生にとっては不満の種ともなり得る。子ども発達学科の学生にとって英語は中心的な教科ではないが、英語教育の低年齢化・教科化が進む今日、教育現場における英語需要は高まる一方である。故に、子ども発達学科の学生諸君により良い英語の授業を展開するために、将来に向けて習熟度別のクラス編成を提案したい。

その他

小学校のみならず、幼保の現場でも教育者に英語力が求められる時代となっている。したがって、授業では幼保英検の模擬問題の指導を行っているが、子ども発達学科の学生諸君には、英語が苦手であっても、せめて幼保英検3級ないし4級を取得して欲しいと願っている。英語学習の動機付けにも直結すると確信する。

授業の概要

春期の「英語 I」に引き続き、国際化する日本の教育現場における子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につけ、基本文法項目についてのプラクティスを行うことにより基本文法を再確認する。各課のまとめとして学習した内容についての応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。これらのサイクルを習得することにより実践的な教育現場に必要な身の回りの物事を英語で表現できるように指導する。

授業の問題点

コロナ禍の最中での授業であり、飛沫感染を防ぐための着席指導・マスク着用など学生にとっては大きな声で発音ができないこと等々、教員ともにストレスを感じつつ春期が終了した。また春期は定期試験をも欠席する学生が多く見受けられた。

春期に続き、秋期でも毎週の授業において各課の復習と応用を兼ねた幼保英検の模擬問題を課題として与えているが、時間の関係で宿題が多くなり一部の学生においては宿題が多いとの指摘があった。しかし、英語が苦手な学生は、授業進度が遅いことについては喜ばしいことであるが、英語を得意としている学生にとっては不満を覚える点ではある。

学生の授業満足度

授業満足度についての回答については、全体としては「分かりやすい授業」であるとの好評がある一方、上記したように英語が得意な学生にとっては易しすぎるとの意見が見受けられる。毎週課題を出していることにより「学習態度」についての設問に関しては「予習復習」についての項目が平均値より高く、それなりの効果があるものと確信している。その他の項目においても令和3年度の授業アンケート結果と比較すると、満足度は高まっている。

1時間目～3時間目のクラスで大きな差があることは、例年のとおりではあるが、クラスの構成員の英語力に大きな要因があるように思われる。この点においては、極力それぞれのクラスレベルにあった授業展開ができるようより工夫が必要であると思う。

授業改善の課題と方策

一番の問題点は、やはりクラス内の英語力にかなりの差があることであり、この問題に関しては今後何らかの奉納で、能力別クラスなどを工夫するなど、検討する必要がある。苦手意識を持つ学生にとっては進度の遅い授業展開は喜ばしいことであるが、一方、英語が得意な学生にとっては不満の種ともなる。また、子ども発達学科の学生にとって語学は専門外との認識が強いが、英語教育の低年齢化・教科化が進む今日、教育現場における英語需要は高まる一方である事実を今後とも学生に周知させたい。

その他

子ども発達学科の学生諸君には、英語が苦手であっても、せめて幼保英検3級ないし4級を取得して欲しいと願っている。英語学習の動機付けにも直結すると確信する。

将来的には、小学校で正式な教科としての「英語」を学んだ学生が入学することとなるが、その頃には子ども発達学科で英語を学ぶことに対する意識も大きく変化することが期待される。

小学校のみならず、幼保の現場でも教育者に英語力が求められる時代となっていることを学生諸君に再認識してもらふ必要がある。

授業改善書

科目名	保育内容(人間関係) I
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、人のかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れ、各自発表を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が5点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容総論
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容を総合的に踏まえ、保育教材製作と保育実践に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育内容の実践的理解を図った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自が指導案を作成することで、学生が主体的に学ぶことに繋がっていることが読み取れた。学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が4.8点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

科目名	保育内容(人間関係)Ⅱ
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容(人間関係Ⅰ)で学んだことを踏まえて、保育内容(人間関係Ⅱ)は、さらに学びを発展させ、地域との連携、外国籍の子どもとその保護者とののかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れた。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫したことで学生にとって満足度が高い授業になったと考える。さらに充実した学びになるように励んでいきたい。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が5点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。選択科目であるため、学生の意欲的な学びが見られたことも授業満足度に繋がっていると考える。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

科目名	保育内容「環境Ⅰ」
担当者	伊藤能之

授業の概要

保育における環境の意味について学ぶ。環境と通した保育、遊びを通した保育の意味について理解する。教材研究として物的環境、人的環境、社会的環境について考え、環境設定の意味を指導案指導に結び付けて学ぶことで、ねらいと内容についても理解し、環境を題材として指導案指導の作成に挑む。また、その過程を模擬保育にて実践し、保育者の思い、子どもの気持ちについてより具体的に指導する。

授業の問題点

保育内容「環境」という授業における「環境」という言葉は非常に日常よく使われる。学生の中にも、社会一般の環境問題に興味のある学生もいる。そのような学生の環境に対する関心を授業内容としての「環境」に結び付けたい。たとえば、ゴミ問題をゴミの分別という視点から、子どもたちにどう伝えるか、というような課題につなげていきたいと考える。社会一般で用いられる環境という概念と連動させつつ、保育内容としての環境の概念を正確に伝えたいと思う。

学生の授業満足度

授業は3コマ担当させていただいているが、全科目において4点台であり全体の平均をうわまった。一応の成果は得ているようである。1クラスにおいて「授業内容をメモしたか」という問いに対して5点、つまり全員が敢行したと回答している。担当教員としては、いずれも同一内容にて授業を行っているつもりであるが、このクラスの成果を他のクラスでも生かしたいと考えている。

授業改善の課題と方策

「環境」というフレーズが社会の中で、大きな意味を持つようになってきているので、地球環境のような社会問題との関連づけも必要であると考え。たとえば、ゴミ問題と幼児の意識、地球温暖化の考え方などをどのように幼児に伝えるか、等。このような授業展開により学生の興味を高めていく必要がある。また、領域の総合性を重視し、他の領域との関連性を重視したい。

その他

学生の授業態度はおおむね良い。発言量もけっこう多い。ただ、大人しい学生もいるので、そのような学生にも発言する機会を設けたい。

授業改善書

授業改善書

科目名	書道
担当者	大橋 修一

科目名	家族論 I
担当者	工藤 豪

授業の概要
<p>中学書写および高校の芸術書道の両面に渡っての講義。中学書写においては、中学校の書写の位置づけを理解させた。具体的には言語事項における書写の意義である。高校においては、芸術科としての書道の位置づけを理解させた。高校書写においては、五体（草書・行書・篆書・隸書・漢字かな混じり）を実技および理論の両面に渡って指導した。</p>

授業の概要
<p>日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その中で変化した側面と基本的に持続している特性を判断し、認識することが求められる。その一方で、家族慣行や家族規範に関する空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団でもある。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えることを目的とし、現代家族の持続と変容について講義する。</p>

授業の問題点
<p>半期 15 回において、盛りだくさんの授業内容であるために、なかなか学生の実技までにおいては不十分な要素がある。</p>

授業の問題点
<p>学生にとっては、対面授業とオンデマンド型を隔週で交互に行うという形式であった。毎回、全体向けにフィードバックを行うとともに、個別の返答が必要な学生にはできる限り対応したが、学生に主体的な学習（授業外学習）を行うような意識をもってもらうところまでは到達できなかったように感じられる。</p>

学生の授業満足度
<p>かなり満足度が高い。一人ひとりに手本を示し、丁寧なアドバイスをを行ったためである。</p>

学生の授業満足度
<p>対面授業とオンデマンド型の併用という形の中で、オンデマンド型の受講時にも、ただ課題を行うのではなく、教員の説明や参考資料の確認を踏まえ、学生自身が調べ、考え、記述するような流れでの学習を行うとともに、意見共有（他の学生が記述した意見や考えを知る機会をつくる）を実施することで、理解を深めることを目指したが、学生のコメントや感想などにおいて、それにより興味関心が高まったという反応を得られたと思われる。</p>

授業改善の課題と方策
<p>今後はコンパクトな解説書を作り、学生に配布し、自宅でも練習できるような体制を整えたい。</p>

授業改善の課題と方策
<p>学生からの評価において、「（教員が）学生からの質問などにきちんと対応しましたか」については一定の評価となっているものの、「（学生が）質問や発言をしましたか」については低い評価となっている。学習意欲が高く、教員への質問等を行うことに積極的な学生に対しては、十分な対応が行えたと考えられるが、そうではない学生に対しての配慮や対応を十分に行えなかったと考えられる。すべての学生が学習意欲を高められるような教育方法、質問等を行うことへの障壁が低くなるような学習環境を構築できるように努めていきたい。</p>

その他
<p></p>

その他
<p></p>

科目名	家族論Ⅱ
担当者	工藤 豪

授業の概要

少子高齢化は、家族生活や家族形成に影響を与えるものであるが、その一方で、家族に関する意識・規範などが、少子高齢化の要因・背景として重要な意義をもっているのが日本社会の特徴である。このような動向を踏まえ、人口高齢化と人口減少、少子化と未婚化などに関する基本的な知識や実態を把握しながら、「少子高齢化」と「家族」の関係性について講義する。

授業の問題点

遠隔授業と対面授業を隔週交互に実施するという方法の中、例年であれば実施しているグループワークを対面授業の中で実施することは回避せざるを得ず、学生同士の積極的な議論を行うことは困難であったが、「意見共有の取り組み」（他の学生がどのように考察・記述したのかを把握できる授業内容）を導入することで、その状況への対処を行った。

学生の授業満足度

授業方法についての部分（授業でのテーマを明確に提示・授業の内容や量における適切性・学生への質問対応・円滑に進めるための配慮）では、平均点よりも高い評価となっており、学生において一定の授業満足度が得られているものと思われるため、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

授業方法における学生からの評価の中で、「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」の部分が、平均点より若干低い評価となっていたことは、今後の課題として認識しなければならない。講義資料の選定や参照方法なども含め、授業全体の進め方について再度検討を加えながら、説明等において工夫していきたいと考える。

その他

科目名	初等教科教育法「生活」
担当者	齋藤澄子

授業の概要

- ・生活科の教科目標や内容について講義し、生活についての理解を深める。
- ・生活科の9つの学習内容を理解し、指導上の留意点等について知る。
- ・指導計画や単元構成における配慮事項を理解し、学習指導案を書くことができる。
- ・学習指導案を書き、指導案検討を経て模擬授業を実行できる。
- ・生活科を通して育てる子ども像や児童理解との関わりについて考えることができる。

授業の問題点

- ・シラバスを作成する時には15回という回数で内容を考えていたが、オンライン授業と交互で7回半の指導になり、対面授業の限界を感じた。オンライン授業のレポート提出は対面授業との関連を考えて行ったが学生により取り組みに温度差があった。
- ・学習指導案の作成や模擬授業を行うのが初めてという学生がほとんどであったため、その為の説明や方法の解説に予想外の時間を要した。
- ・授業を欠席した学生についてチーム等で授業資料をアップしたり、課題を解説したがまじめに取り組む学生が少なかった。

学生の授業満足度

- ・対面授業の回数に限界があったので、オンライン授業で課題を出し、対面授業に繋げる作戦がうまくいき、学生の予習・復習の数値が平均をはるかに上回る高い数字になった。シラバスの変更等をした時は、口頭だけでなくプリントを作成して今後の予定等を連絡してきたので、学生たちも内容を把握しやすかったと考える。
- ・全体的な授業の満足度は4.56であり、学生にとって学びのある授業はほぼ達成できたと考える。多くの学生が授業に集中して講義を聞いていた印象もあり手ごたえを感じた。
- ・毎回授業の最初に本時の講義テーマと到達目標を明示したので、II-Q5の数値が高くなったと思う。学生も授業目標を意識して授業に参加できたようだった。

授業改善の課題と方策

- ・学生の理解度を高めるために、前半の理論研究の授業をもう少し充実させたい。
- ・後半の学習指導案の作成⇒検討⇒模擬授業の流れに時間がかかり過ぎた。もう少し授業者を絞り、全員参加型の模擬授業ではなくモデル授業にすることを考えたい。
- ・来年度もオンライン授業と交互に授業を行う見通しであれば、シラバスを一層工夫し、対面授業とオンライン授業の内容を再考したい。

その他

- ・課題を感じる学生の対応に追われた。非常勤であるにも関わらず、学生からのメールやチームに入れる資料づくり等でかなりの時間を要した。課題を感じる学生の指導についてどのように対応すればいいのか・悩むことも少なくなかった。
- ・授業を休んだ学生への個別対応も大変だった。「授業を休んだ時は、友達に授業の内容を聞いて次の授業についての情報を得るように」と言ったが、実際には「何も聞けなかった」という学生も少なくなかった。コロナ禍で学生自身が罹患したり濃厚接触者になったりして、個別対応しなければならない学生がとて多くて大変だった。
- ・熱心に授業に取り組む学生が多く、やりがいはあった。

科目名	家庭
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校5年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。小学校家庭科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、講義、演習、実習を通じて、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培う。

授業の問題点

本年度も履修者数と教室との関係で、A、Bグループの2つに分けて実施した。教員側からすると学生の顔が毎週変わることにより、授業内容の一貫性、継続性に欠けることがあったり、課題のフィードバックも難しかった。しかし、昨年度の反省をもとに、毎授業の際に前回の復習を行ったり、課題の返却とフィードバックをこまめに丁寧に行うことで、知識の定着が図れたと思う。

学生の授業満足度

授業に対する評価は平均より少々悪かったが、すべての質問で4点以上のスコアがとれて学生の満足度は高い評価が得られたのではないかとと思う。
また、自身の学習態度については、平均よりも高いスコアがとれており、ワークシートにメモをとりながら授業を聴く、課題に取り組む、という自分なりの授業のペースに乗りながらメリハリをつけて授業に参加できたのではないかと推測する。

授業改善の課題と方策

本年度もコロナ感染拡大防止のため2つのグループに分かれての面接授業で行った割には、学生の満足度が比較的高く評価されていたので良かったと考える。毎授業のワークシートや資料もよりわかりやすいように、前回の復習を織り交ぜながら作成した結果、学生からも評価が得られたと思う。
半数回しか面接授業ができないという時間の制限があるため、「家庭」の基本的事項を優先して講義を行った結果、学生の質問、発言の時間があまりとれなかったことが反省点である。学生からのコメントにもあるように、グループディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れた主体的な学びができるようにしていきたい。

その他

科目名	初等教科教育法（家庭）
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授業の問題点

コロナの状況下でも本授業は全員一斉参加の対面授業が叶ったものの、やはり調理実習や体験的模擬授業の実施はできず、実践体験の内容が多い家庭科としては非常に悩ましい状況であった。
また授業指導案作成あたり、実際の家庭科の教科書をみながら想像力を膨らませてほしかったが、どうしても教科書や指導書に書かれているとおりに授業計画をたてようとする傾向が強く、創造的な授業をつくるための指導の難しさを感じた。履修者の人数が多すぎることも、教員の配慮が届かなかった一因であるように感じる。また学生もコロナ世代であることが影響しているためか、よくも悪くも真面目で、言われたとおりにやろうとする傾向が強く、殻を破ることができなかつたように感じる。
グループワークの演習が中心だが、自分に与えられた仕事に真摯に取り組む姿勢が目立った。しかし、総じて、生活における様々な課題を他人事ではなく自分事としてとらえることができていなかった。グループでお互いの歩調を合わせるということが難しい学生が多い印象であった。オンライン授業が続く個々の学生が個別に学習を勧めざるを得なかった影響がでているのではということがうかがえた。

学生の授業満足度

授業アンケートの項目について4点以上の評価が得られたものが多く概ね満足できるものであったのではないかと考える。校外実習期間とも重なり、その間のグループワークが難しかったためか、「授業外で予習、復習をした」という回答が平均点よりもポイントが高くみられた。また「学生からの質問にきちんと対応していた」のポイントが高く、学生に寄り添うことができたのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

家庭科は実践的体験的性格が強いため、様々な状況下でもより実践的、体験的な授業を創造できるように指導をしていきたい。
さらに、家庭科は現実の日常生活を扱うものであるため、変化する社会状況に応じて、新しい教材の提案、授業方法の工夫、時には違った視点からみる題材の開発などが特に必要な科目であると考えている。学習指導要領、教科書の分析とともに、時事問題などを取り入れ、さらに一步踏み込んだ家庭科教育内容を提案できるように進めていきたい。
学生が創造的な家庭科授業をつくることができるように、これまでの授業方法を修正、改善しながら構想していきたい。

その他

授業改善書

科目名	子どもの食と栄養 I
担当者	高尾 優

授業の概要

子どもの食生活、食習慣は小児期だけでなく、生涯の健康にも影響を及ぼすことが知られている。しかし、現在の子どもの食生活、食を取り巻く環境には問題点が多く見られるのが現状である。
 子どもの食と栄養 I の授業では、まず現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について考える。次に栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養（胎児期・離乳期・幼児期）について学ぶ。離乳期・幼児期の栄養に関しては講義だけでなく、調乳や離乳食の調理についても学び、実践できる力を養うこととする。

授業の問題点

毎回の授業でテーマが明確に示された、適切な内容や量だったという点で評価が低く、問題点としてあげられる。
 また、学生の学習態度では質問や発言をしたかという点での評価が低かった。

学生の授業満足度

得るところがあった、授業に満足できたという項目について4以上の評価となった。

授業改善の課題と方策

授業はパワーポイントを使用し、ポイントを書き込むことのできるプリントを用意した。プリントがあることにより、学生はポイントを書き込む習慣はできたが、内容が多く、授業のテーマがわかりづらかったように思う。重要事項を確認するなど、毎回の授業で振り返りを行っていききたい。
 本年度は調乳と離乳食の調理実習を行うことができ、教科書での知識と、実際に注意すべき点などがつながったのではないかなと思う。
 実習以外のことに関しても知識を身につけるだけでなく、アウトプットできる力を身につけられるように授業内容についても検討していきたい。

その他

授業内で前回の授業内容の小テストを行うことにより、授業の復習をすることにつながったのではないかなと思う。
 また、パワーポイントで示した内容についてポイントをまとめたプリントを配布し、記入しながら授業に参加できるようにした。これにより、多くの学生がメモを取りながら授業に参加することができ、満足度につながったのではないかなと考える。

授業改善書

科目名	保育内容（表現-造形） II
担当者	前沢 知子

授業の概要

実際の保育の現場を想定して、子どもの姿に寄り添いながら、表現・造形活動を進めることの理解を目指す。下記の3つのスキルを学ぶ。
 ・子どもの表現と発達の関係について学び、子どもの制作についての基礎を理解する。
 ・保育の現場や子どもの日常を想定して、使用する材料や道具の有効性や、季節や行事に連動した活動題材の設定について学ぶ。
 これらの学びを通して、保育・教育者としての適切な指導のあり方を考えるよう指導する。

授業の問題点

全体的に4以上の高評価であったと見られる。
 その中で、平均に比べて数値が低かったものは、「学習態度」の「1.出席や課題提出等はしましたか」（評価4.5、平均4.59）と「4. ノートやメモ等を取りましたか」というものであった。（評価3.79、平均4.27）
 この理由としては、1については、自宅での課題についての提出が遅れた学生がいたことを把握しており、原因としてネットを頻繁にチェックしないため課題を知らない学生がいたことによる。4については、授業自体が、実技制作を行うものであったため、基本的にノートやメモの必要がなかったことがあげられる。

学生の授業満足度

満足度はとても高いことが結果からうかがえる。
 これは、昨年度の造形の授業を受講した学生が、授業内容を把握して、今年度も履修していたため、期待した授業と、実際行われた授業が一致していたことによると考察する。
 また、授業内容も、主体的な学びになるように、個々の制作進度に合わせて授業のデザインしたことにより、学生個々の主体的学びに繋がったと考える。

授業改善の課題と方策

1については、授業期間の前半で、提出が遅れる原因が把握できたので、すぐに対応した。そのため、授業期間後半には改善が見られた。方策としては、対面授業の際に、次回の自宅課題の内容を伝えるようにしたことで改善がみられた。

その他

学生がやる気ももち、楽しそうに授業に取り組んでくれたので、とても授業を行いやすかった。

科目名	造形演習（平面・立体）
担当者	前沢知子

授業の概要

平面や立体を中心とした様々な制作を学生が実際に行うことで、作る楽しさを学生自らが実感することを通して、子どもの作る姿への共感力と、子どもの造形活動の指導力を高めることを目指す。

・材料や道具の基本的な使い方、幼児が安全に楽しめる使い方、保育で応用可能な使い方などを学ぶ。

・平面と立体の制作を行い、実際に自分で作品を作り上げることを通して、材料や道具の使い方を身につけ、制作能力を高めるとともに、制作の楽しさについて実感的に理解する。

・実際の保育の現場を想定して、共同制作を行う。他者と共同して制作することを通して、実践に役立つ現場力を養う。

これらの学びを通して、保育・教育者として、制作のスキルを活用した指導のあり方を考えるよう指導する。

授業の問題点

・授業を初回から欠席していた学生が数名いた。本授業は抽選であったので、抽選で当たった学生のみ履修できた授業であり、抽選でもれた学生も何人もいたことを踏まえると初回からの欠席は大変残念であった。

・今学期は、履修した学生については制作を非常に得意とする学生と、苦手とする学生の差があり、学生の意識にも差があった。

学生の授業満足度

満足度についての結果は、5.00であった。今学期は、制作を得意としたり、好きであったりする学生が複数いたため、授業に積極的に参加してくれて、かつ集中して制作をしていた。そのような学生が複数いたために、全体的に授業への取り組みが良かったと感じる。

授業改善の課題と方策

・制作についての個人差は、制作を苦手とする学生が苦手意識をもちにくくする工夫が必要である。そのために完成作品だけの評価に対して、学生が注目しないように、授業参加自体や共同作業など、学生が「授業への取り組み」に自体に注目できるような、授業内容にすると有効であると考えます。

その他

作品を保管できる場所か、または作品用の棚がもう一台あると授業を行いやすいので、設置をお願いできますと助かります。

科目名	保育内容 表現身体 1
担当者	松村朋子

授業の概要

対面授業では、幼児の発達の沿った身体表現の指導をどのように組み立てていくかを毎週実際の童謡に振付して、検討していきました。オンラインでは、対面授業で使用する童謡や季節の行事に沿ったりサーチと壁面構成をレポート・創作する課題を課しました。

授業の問題点

今年度もオンライン授業と対面授業が隔週で行われていました。学生によっては、最初 3 回連続での対面授業を欠席し、オンライン授業だけレポート提出して、前半が終わった生徒がいました。そうした生徒が 8 回目以降に初めて対面授業に参加してきても、グループ活動では消極的になり、積み上げたものがないため、結果グループの全体の成績に響くことになっています。毎回対面にきていた学生も、欠席多くて、学習意欲が低い人と一緒に活動する事に疑問を持っていた事もあるので、対面欠席者への課題を今後は検討していきたいと思いました。

学生の授業満足度

多くの学生が、受講の前と後で、身体表現活動に対しての苦手意識が減ったとレポートしているのも、受講した満足度は大きいと思われまます。

ただ、オンライン授業でのレポートやノリ制作を始め、実直に学習を進めることが苦手な学生にとっては、やることが多い講義となったと思います。実際には幼稚園教諭や保育士として、教育の現場では同様に一つ一つ積み上げていく作業が多いのですから、やることが多い、面倒くさい、と感じる意見の学生は、本来の適正に欠けるかと思われまます。

意欲ある学生が、身体を動かす、ダンスを作る、歌を歌いながら踊る、ことに対して、前向きな気持ちを 15 回の講義で学んでくれると思っています。

授業改善の課題と方策

その他

オンライン授業の課題に時間がかかると学生の意見に有る点について。毎年その用に言ってくる生徒が数名いますが、teams の記録を見ても、締め切りを遅く設定しても、閲覧する初めの時間が同様に遅れるだけで、作業時間が伸びているわけではないと思われまます。過去 3 年同様にしてはいますが、締切伸ばして欲しいといってくる学生は、伸ばしても結果未提出の場合も多いです。

今年の課題のレポートは 8 つありました。次回の対面の復習内容として、壁面工作（折紙）と、使用曲の童謡の歌詞についてのレポートです。

折紙課題はいつでも youtube を見て作業できるようになっています。折紙 1 つに 30 分以上かかる学生は、事前に作業しておくべきです。折紙は時間は 1 つ 5 分と考えています。

レポートも、ネットで検索、コピーペーストで提出する内容です。学生が熟考して、意見を述べる内容ではないので、時間内に終了できる内容です。

教本のレポートは、自分で踊りを作るので、時間がかかることを予想したので、締切を長く設定しました。それでも、提出できない学生は、取りかかり始めの時間が遅すぎです。teams は、最初に閲覧した時間も調べることもできますが、締切を長くした課題でも、結局は課題にとりかかる時刻は遅いです。

また、本来、大学講義は、予習復習に 90 分をあてることを想定しています。それを踏まえて、90 分以上かかったとしても、予習復習時間も含めると相応の内容と思っています。

科目名	保育内容（健康）Ⅱ
担当者	丸山東人

科目名	健康科学Ⅰ（理論・実技）
担当者	大江 淳悟

授業の概要
<p>保育の質を、健康教育学の観点から考究している。専任の先生方が尽力されているため、保育所保育指針および幼稚園教育要領の中での「健康・安全」や、乳幼児期の子どもの健康支援に関しては、みな既に、健康Ⅰと幼児体育ほか関連する授業（保健、心理、5領域Ⅰ等）を通じ十分な学修を済ませている。この利点を生かす形で、健康Ⅱでは、既習事項のおさらいをしつつ、対象年齢や話題提供の幅を広くとりながら進めている。</p>
授業の問題点
<p>4限の授業では、ほぼ全ての項目が平均値以下だった（ⅠQ1, Q2, Q3, ⅡQ4, Q5, Q6, Q8, ⅢQ9, Q10.）。一方、3限の授業では、ⅠQ2（シラバスと一致しているか）とⅡQ4（授業の方法や資料はわかりやすいか）が平均値よりも低かった。</p> <p>その他の問題としては、自由意見に「一方的に担当者の考えを押し付けているように感じた」という記述があった。</p>
学生の授業満足度
<p>2クラス共通の問題点として、ⅡQ4「授業の方法や資料はわかりやすいか」が満たされなかった。しかし、自由意見では対照的に「質問しに行ったらしっかりこたえてくれるし、毎回わかりやすいレジュメを作ってもらえてとても充実した授業だ」「毎週プリントに授業内容の詳しい説明が記載されていたため、授業が理解しやすいと感じた」と書いてくれた人もいた。不満が多く出た一方で、少なからず、授業の方法やレジュメの内容に満足してくれた学生もいたことが伺える。</p>
授業改善の課題と方策
<p>複数のクラスを相手に、同一のレジュメを用いて同じ様に進めても、クラス全体での受け止め方はそれぞれ異なる、というのは当然なので、今回の結果は気にしていない。付け加えれば、今回の4限の授業では、学期途中に、学生から「騒がしい」と苦情が出たり、授業を中断せざるを得ない場面がある等、少し緊張した空気を持った時期があった。そうしたことも、評価をする際に少なからず影響を与えたのかもしれない。</p> <p>別件で、ⅠQ2「シラバスと一致しているか」も、2クラス共に平均値以下だった。担当者としては、15回を通じて一つのストーリーとなるように構成し、毎回の授業では内容を完結させながら進めているので、そんなことはないのだが、という気持もある。</p> <p>最後に、「一方的に、、云々」については、受け止め方の問題だと思う。担当者としては、基礎的事項を修得済みの学生に対して、「喫緊の健康課題として〇〇がある」「こんなことも知っておくとよい」と、話題提供をしているのであり、（宗教的に？）私的な考えを押し付ける意図は無い。思い当たるとすれば、毎回の授業の冒頭で、“本日の内容と結論”を端的に伝えるスライドがあるが、その結論を受講者側が“押し付け”と受け取ってしまったのかもしれない。或いは、授業中に、重要なことを何度も繰り返したり、時間が押した際に早口になる傾向があるため、“押し付け”ている様な印象を与えてしまっているのかもしれない。</p>
その他
<p>担当者は「学納金を頂いている以上、学期中は学生が主役」と考えており、今年度も、全体としては楽しく進めることが出来と思っている。</p> <p>今後も、上記問題点を踏まえながら、学生に負担をかけないように、また、授業が学生主体の学びの場となるように、創意工夫を重ねてゆきたい。</p>

授業の概要
<p>トレーニング各種・バレーボール・卓球を通じて、生涯におけるスポーツ活動実施の素養を高める。</p>
授業の問題点
<p>担当4コマで受講生の授業に対する取り組み方に大きな差があり、結果的に授業内容に差が出ました。</p> <p>授業に積極的に取り組む学生が少ないコマ → 授業を途中で打ち切り、授業の取り組み方について受講生と個別に話をする機会を設けた回がありました</p> <p>授業に積極的に取り組む学生が多いコマ → 学生同士でコミュニケーションが活発に行われ、理論・技能の習得レベルが高く、それに応じて設定する目標を高めることができました</p>
学生の授業満足度
<p>担当4コマで受講生の授業に対する取り組み方に大きな差があり、その差が学生の授業満足度にも反映された結果となっていました。自由記述のコメントにもあるように、課題に対して積極的に取り組まない学生と同じチームになることで積極的に取り組む学生の技能習得に悪影響が及びます。</p>
授業改善の課題と方策
<p>課題に対して積極的に取り組まない学生は積極的に取り組む学生の技能習得の機会を奪うことになる為、個別に注意を続けましたが、その人数が多いコマでは全体への悪影響をゼロにすることは困難でした。授業を途中で打ち切って授業の取り組み方について受講生と個別に話をする機会を設けた回では、受講生が今後の取り組み方について考える機会となったようなので、機を見てそのような機会を組み込んで積極的に取り組む学生への悪影響を可能な限り少なくなるようにしていきます。</p>
その他
<p>特記事項なし</p>

授業改善書

科目名	スポーツ指導論
担当者	大江 淳悟

授業の概要

効果的なコーチング法についての基礎的知識と具体的な方法について理解し、（一緒に授業を受けている仲間に対して）コーチング実践を行う。

授業の問題点

学内HP及び授業内でのガイダンスでグループ分けのアナウンスがされていますが、その確認が不十分な学生が散見されました。

学生の授業満足度

受講生のこれまで経験したスポーツ場面での出来事をピックアップし、それとテキスト内容とを照合しながら授業内容の理解を進めていく方法は合っていたようです。授業終盤にコーチング実践（グループワーク）を設定しましたが、序盤・中盤にもグループワークがあると授業内容の理解がより高まったようでした。

授業改善の課題と方策

授業の序盤・中盤にもグループワークを組み込み、受講生の学ぶ意識を活性化させながら、終盤のコーチング実践に繋げていく工夫を行っていきます。

その他

特記事項なし

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ（理論・実技）
担当者	大江 淳悟

授業の概要

フットサル・バドミントンを通じて、生涯におけるスポーツ活動実施の素養を高める。

【

授業の問題点

履修登録者が多数であった関係でA・Bの2グループ編成となり、対面授業と課題自主学习を隔週で交互に行う進め方となった。対面授業では受講生の取り組み状況を都度把握できる為、個別にフィードバックして次の課題に繋げることができた。課題自主学习では提出されたレポートにコメントを入れ採点して返却することで回を重ねるごとに評価点が高まる受講生がいる一方、なかなか軌道修正がきかない受講生も一定数見られた。課題自主学习は受講生の取り組み状況をコントロールすることが困難であるが、学習への自主性が高まる方策を加えていく必要がある。

学生の授業満足度

積極的に課題に取り組む受講生が多く、「こんなに早い1時間半は他にありません。どの授業よりも興味があり関心があり楽しかったです。」とのコメントや授業満足度点から、概ね好評であったと考えられる。

授業改善の課題と方策

履修登録者が多数でA・Bの2グループ編成となった際の課題自主学习への自主性が高まる方策が課題と考えられる。対面授業の際の個別フィードバックを密に行うことによって学習への自主性が高まるよう尽力していきたい。

その他

特記事項なし

科目名	生涯スポーツ論
担当者	大江 淳悟

授業の概要

生涯スポーツの実態と社会の取り組みを理解し、自らの健康づくりをマネジメントして実践できるようになる。

授業の問題点

履修登録者が多数であった関係で A・B の 2 グループ編成となり、対面授業と課題自主学习を隔週で交互に行う進め方となった。対面授業では受講生の取り組み状況を都度把握できる為、個別にフィードバックして次の課題に繋げることができた。課題自主学习では提出されたレポートにコメントを入れ採点して返却することで回を重ねるごとに評価点が高まる受講生がいる一方、なかなか軌道修正がきかない受講生も一定数見られた。課題自主学习は受講生の取り組み状況をコントロールすることが困難であるが、学習への自主性が高まる方策を加えていく必要がある。

学生の授業満足度

履修登録を行っただけというケースが多数あったが、授業に出席した受講生は積極的に課題に取り組んでおり、「様々なメジャースポーツを生涯スポーツという観点から初心者でも経験者の人と等しく参加できるという授業内容で、もちろんその試合間にも生涯スポーツの知識を授けて下さり、とても為になる講義内容でした。」とのコメントや授業満足度点から、概ね好評であったと考えられる。

授業改善の課題と方策

履修登録者が多数で A・B の 2 グループ編成となった際の課題自主学习への自主性が高まる方策が課題と考えられる。対面授業の際の個別フィードバックを密に行うことによって学習への自主性が高まるよう尽力していきたい。

その他

特記事項なし

科目名	初等教科教育法（体育）
担当者	鈴木 健一

授業の概要

本授業は、第 1 回目から第 8 回目までは、学習指導要領の変遷、小学校学習指導要領に示された体育科の目標と内容ならびに評価、体育科における言語活動と情報機器の活用方法、運動習熟や運動観察といったスポーツ運動学に基づいた指導理論などについての講義とともに、それらから得た知識に基づいた模擬授業の授業設計を実施した。第 9～14 回目からは各グループが準備した模擬授業の実施とそのレビューから、よりよい授業づくりのための方途を考える時間とした。第 15 回目は体育科にかかわりの深い評価方法を用いた各模擬授業の評価結果を検討した。

授業の問題点

Q1 から Q8 の回答は、いずれも 4.84 を上回っており、概ね良好な評価を得ることができた。本授業の受講学生の大半は、小学校免許・幼稚園免許・保育士資格の取得を志向しており、教科教育法にかかわる知識の獲得や能力の習得に意欲的な学生が多いと推察される。第 1 回目の授業以降、その授業回の講義の後半に模擬授業の実施に向けたグループ作りならびに模擬授業内容の検討を目的としたグループ協議を展開した。模擬授業づくりの視点や体育科指導の実際のイメージの共有を図るために、文部科学省が提供している指導資料を事前に配布し、学生が活用できるようにした。それらを用いて、毎回の講義内容から得た理論を含めた模擬授業づくりが為されたものの、途中、幼稚園教育実習期間に入り、停滞したグループもあった。事前に実習期間を把握し、模擬授業づくりのための協議の場の設定を改善する。

学生の授業満足度

受講学生による回答は、Q9「授業の内容は得るものがあつたか」が 4.89、Q10「授業に満足できたか」が 4.79 と概ね高い評価を得ている。しかしながら、体育科指導は、単に運動・スポーツの経験値の豊富さや学生の運動能力の高さに直接的にかかわるものではなく、「できる」から「わかる」わけではない。目の前の学習者に対して、どのようなアプローチで動きを高め運動を修正させるかについての方途について、講義や模擬授業指導の場面においてさらに具体化したものを提供したい。

授業改善の課題と方策

本授業は秋期に実施した。履修学生の大部分は、小学校免許・幼稚園免許・保育士資格の取得を志向する学生が多い。そのため、単に免許取得のための必修科目という位置付けに留まらず、教育者となった際に指導現場において活かすことのできる内容によって授業を実施した。実際の体育科指導に必要な理論とそれに基づいた模擬授業の設計・実施・振り返りで構成したが、体育科指導にかかわるスポーツ運動学に基づいた指導理論はやや難解であったと思われる。身近な運動材や受講学生のこれまでの経験からイメージしやすい動きや運動を材料に指導理論を展開したが、学生の理解を深めるためにさらに分かりやすい例示と難解語句の理解を促す資料作成に努める。

その他

授業アンケート期間中、2 回の授業において本アンケートの実施のための時間を設け、学生に回答を求めた。履修者数に対して回答者数が少ないため、次年度は、本アンケートへの回答をさらに求め、より多くの学生の声を授業改善に活かしたい。

科目名	子ども家庭支援の心理学
担当者	後藤 沙希

科目名	健康科学Ⅱ
担当者	小山内 弘和

授業の概要

子どもや家庭支援について、心理、発達、家族、地域という視点から捉える重要性について講義する。また、保育現場の社会的役割と機能を知り、事例検討やロールプレイを行うことで現場における具体的な対応方法について指導する。さらに、子どもや家庭支援において求められる多職種連携の実践のため、自分自身の考えを言語化する力、他者に伝える力を受講を通じて身につけて頂きたい。

授業の問題点

予習や復習、授業内での質問や発言に関するポイントは高くなかったため、学生自らが学びを主体的に深める機会が提供出来なかった点。リアクションペーパーに自らの体験や経験について記述する学生が多かったが、授業内で事例として取り扱うことが出来なかった。

学生の授業満足度

グループワークやレジュメの空欄への記入形式等、受け身ではなく自ら取り組めるような方法に対して評価する意見があった。

授業改善の課題と方策

グループワークやリアクションペーパーの提出は引き続けて行い、自らの考えを言語化して他者に伝える機会は残したい。また、学びを深める主体性を育むため講義後の復習が次回の予習に連動するような課題を出来る限り提示したい（次週分のリアクションペーパーを先に配布し、課題を示す等）。また、子育て支援の一環である保護者対応の実践をイメージしながら講義の内容を理解できるよう初期、中期でロールプレイを取り入れていきたい。

その他

--

授業の概要

講義では、健康について考え、自己の身体計測を通して身体の現状を知ること、また反復測定によりその変化を実感できるよう展開する。実技は、「身体を動かす」ことに重点を置いて、複数の運動・スポーツを実施することで、自らの体力を実感するとともに運動・スポーツの楽しさを感じられるよう展開する。講義、実技を通して得られた自己の身体、体力や生活の情報を基に、今後の自己の健康を考えるきっかけとなるよう講義・指導する。

授業の問題点

健康科学Ⅱを3クラスの授業を担当した。3クラスで得られた得点に大きな差がみられた。最も評価の良かった授業以外では、出席・課題の提出に関する項目以外、すべての項目において、平均点より低い得点であり、最も評価の悪かった時間については平均を大きく下回った。3クラス同一の内容を行ったものの、時間により評価が異なることは問題であり、かつ、低い得点であったことも問題となる。

学生の授業満足度

学生の満足度については、3.62~4.52と大きな幅が見られた。授業の満足度は、授業の問題点に述べた通り、平均点より下回っており、学生の満足が得られないものであったことが分かる。

授業改善の課題と方策

健康科学Ⅱの授業では、講義・実技であることから、7コマがスポーツ実技、8コマであった。授業は概要に見られるように、自己の身体計測を通して身体の現状を知ることの一つの目標とした。しかし、学生からの自由記述に「体重や体のサイズを測らないといけなかったのが辛かったです。」とある様に、授業自体に問題が見られた学生もいた。配慮はしたものの、その行為自体が困難なものであったと推測される。身体計測については、現状の自己や生活習慣を検討するにあたっては重要な要素であるものの、実施に対する心理的な部分は考慮していたつもりでいたが、再考を必要とするのかも知れない。本授業得点の一つの要因であるかもしれない。今後、検討を進める。授業内容、授業方法についても、低い得点であった。授業内容、シラバス等の内容の内容を精査するとともに、より丁寧な説明を行っていく必要があるものと考え。全体としてこれまでにない、予想以上に低い得点であった。このことに関しては真摯に受け止め、今後の教育活動を工夫していく。

その他

「実技を細かくしてくれるので遅れることがない。」「とても楽しくみんなでやれたと思います。」「メリハリがあって良かった」「自分の身体能力に応じて無理せず運動することができました。」との自由記述があった。大学での健康科学のようなスポーツ実技では、様々な条件の学生が一斉に行う。そのため、講義・実技ともに個々の学生を見ながら工夫しながら進めてきた。少数であるかも知れないが、その点を学生が理解してくれたことの表れと思われる。制限のある中での実技となったが、協力してくれた多くの学生に感謝する。

科目名	社会心理学Ⅱ
担当者	木村 能成

科目名	家族心理学
担当者	木村 能成

授業の概要

社会心理学とは、人と社会との関わりについて、心理学的な観点から解明しようとする学問である。それは、私たちの身近な現象、様々な事件や社会的問題について考える上でも役立つ。本授業では、対人関係、集団と個人、コミュニケーションに関する社会心理学の基本的な概念を学び、日常生活における現象や体験と結び付けながら理解できるようにすることを目指す。

授業の問題点

授業アンケートの自由記述にて、「非常にわかりやすい授業でテンポもいいが、テンポを良くするために板書の時間が短くノートにまとめきれないと感じた。後日レジュメは配信されるが少し取り組みにくいので授業時には配信してあるようにするか板書時間を多めにもらいたいと感じた。」という意見があった。授業で取り扱う情報量が多すぎ、学生が板書する時間を十分に確保できなかったと感じている。

学生の授業満足度

「Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」については4.62、「Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については4.45であり、概ね満足できる授業であったと考えられる。この結果を励みに、より一層学生が満足できる授業を目指していきたい。

授業改善の課題と方策

学生がノートやメモをとる時間を確保するよう意識して授業を進めていきたい。レジュメについては事前に Teams に配信・アップロードされているが、複数回アナウンスを行い、周知を徹底していきたい。

その他

学生の質問や発言が活発なクラスであった。今後も、学生が主体的に心理学の理論と自身の生活や体験を結びつけて考えられるような授業づくりに努めたい。

授業の概要

本授業では、「家族と何か」という基本的な問いに始まり、「家族はどのように変化するのか」「家族を取り巻く問題とは」といった問いに対して、心理学的な視点から講義を行う。その際、家族療法の基礎理論や、家族療法の鍵概念についても講義する。さらに、講師の児童期・思春期の子どもを対象としたグループセラピーの実践経験や、教育・福祉現場での心理職としての実務経験を踏まえ、現代社会における様々な家族の形態や家族を取り巻く課題について、架空事例を用いながら解説する。

授業の問題点

授業アンケートの結果から、授業外学習、質問や発言、ノートやメモ等を取るといった授業態度に関する得点が平均を下回った。この結果から、予復習をしたいと思えるような授業になっていなかったことや、質問や発言を促す機会が乏しかったこと、板書を取る時間が十分に確保されていないといった授業の問題があると考えられた。

学生の授業満足度

「Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」については4.53、「Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については4.50であり、概ね満足できる授業であったと考えられる。この結果を励みに、より一層学生が満足できる授業を目指していきたい。

授業改善の課題と方策

学生に予習・復習を要するポイントについて具体的に伝えるとともに、学生が家族心理学により興味を持てるよう授業の題材を再検討する。授業ではグループワークを取り入れ、学生が対話する機会を設けていたが、そこで話し合ったことなどを学生が全体に共有する時間を設け、発言・質問の機会を作る。ノートやメモを取る時間を確保する。

その他

科目名	教育相談の理論と方法
担当者	木村 能成

授業の概要

教育相談の基礎となるカウンセリングの理論および技法を理解することを目指す。また、幼児期、児童期、思春期の発達課題と、それぞれの発達段階で生じやすい心理的課題とその対応について講義する。また、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークを用い、体験を通じた事例理解を目指す。

授業の問題点

本授業ではグループ・ワークを積極的に用いたものの、講師の時間配分に問題があり、フィードバックの時間を十分に取ることができなかった。学生の中には消化不良だった者もいたことが推察される。オンライン課題の提出については、講師の方から具体的な指示を出してはいたものの、締め切りを過ぎてしまったり、提出方法がよく分からないという質問があった。

学生の授業満足度

「Q9 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」については4.74、「Q10 全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については4.72であり、概ね満足できる授業であったと考えられる。この結果を励みに、より一層学生が満足できる授業を目指していきたい。

授業改善の課題と方策

講義とグループワークの配分にメリハリをつけ、グループワークへのフィードバックや学生が発言する時間を確保する。講義を要点に絞り、長々と話をしないようにする。オンラインの課題提出については、授業開始時に毎回アナウンスをしたり、Teamsなどで周知する。また、スライド等を用いて「どのように提出するか」を視覚的に理解できるようにする。提出が滞っている学生については、メール等で講師から直接連絡し、課題で困っていることはないか確認する。

その他

教員免許取得を目指し、意欲的に学習する学生が多く、こちらも身が引き締まる思いだった。より良い授業を目指し、こちらも精進したい。

科目名	博物館経営論
担当者	奥田 環

授業の概要

博物館の行財政、組織や職員など基本的な運営状況を把握した上で、ミュージアム・マネジメントの視点に立った博物館経営の理論と実践を講義する。また倫理規程や危機管理など、現場に即した学芸員の職務について具体的に解説する。

授業の問題点

学生はみな熱心に耳を傾け、受講態度に大きな問題は感じられなかったが、授業中に自発的な質問や発言はやはり多くはなかった。質問をしても黙りこんでしまい、根気強く待っても回答が得られない場合は、講師の方でフォローすることになった。「わからない」より、「発言することが恥ずかしい」「間違えると怖い」という気持ちがある学生もいるようだ。

学生の授業満足度

満足度についてはおおむね良好であるので、これを励みに、今度なお一層、学生に興味関心を持ってもらえる授業内容と講義態度を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

学生の活発な発言もうながして、双方向のコミュニケーションによる活気のある授業を目指しているが、学生の個性により、それらに馴染めない、もしくはなるべく黙って聴いていたい学生もおり、各自の負担にならないように考慮しつつ、やはり全体として、自分の博物館体験をもとに、より積極的に授業内容にコミットできる環境を整えたい。そのためには学生の視点に立って、発言しやすい雰囲気づくりにも留意したいと考える。

その他

授業改善書

科目名	博物館資料保存論
担当者	奥田 環

授業の概要

博物館における資料保存の意義と収蔵環境・展示環境について学び、資料の保存方法を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得して、博物館資料の取り扱いと保存に関する基礎的能力を養えるよう講義する。さらに、日本古来の伝統的資料保存方法、予防保存としての IPM の実施、資料保存のための危機管理と災害対策、環境保護と博物館の役割などについても解説する。

授業の問題点

授業外学習として、博物館の Web サイトを調べたり、博物館の見学を勧めたが、コロナ禍による感染状況を考慮すると、博物館の現地訪問については慎重にならざるを得ない面もあった。博物館の現場を見て経験値をあげることは非常に重要であるため、悩ましいところである。

学生の授業満足度

授業内容に対する興味・関心や授業テーマへの理解、授業満足度については、おおむね高評価であったので、学芸員課程としての基礎的素養や新しい知識の習得について良い成果を得られたものと安心した。

授業改善の課題と方策

コロナ禍における博物館訪問については、デジタル化も促進され、博物館へアクセスする方法が多様化しているので、具体的な事例紹介や助言を通して、現地訪問以外の博物館の利用についても体験していくよう指導したい。
また、授業中の積極的な発言を求めているものの、全体的に消極的であるため、自己の体験を発表するなど、発言しやすい内容や、他の学生も共感できるような話題を用意するなど、問いかけにも工夫をしたいと考える。

その他

学芸員課程の履修者は総じて熱心に学ぶ態度があり、講義を興味深くよく聴いてくれるので、やりがいを感じる。知らなかったことや新しいことを知る面白さが伝わればよいと思う。

授業改善書

科目名	博物館実習
担当者	高梨真行

授業の概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って、実践的な知識と技術の習得を目的に設定し、特に実際の現場では、いかなる問題を抱えながら、どのような対応をしているのか、といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容とした。また、実習を受入れる博物館園側の状況や、博物館業界における実習の意義と目的を説明し、館園での実習に際しての、履修学生の心構えについて理解を促進させた。

授業の問題点

アンケート結果において、特に大きな指摘はなかったと判断される

学生の授業満足度

アンケート結果において、授業全体としては概ね好評評価と判断される

授業改善の課題と方策

履修学生が3名であり、実習前ということもあり、実技内容が多かったため、一人一人きめ細やかな指導が出来たといえる。また、実習先についても学生一人一人の希望を確認しながら、実技内容を各館に対応させる形で実施できた。

秋期は実技ではなく、実習後の経験に即した内容となるため、とすれば単調な講義形式となる恐れがある。そのため、学生を交えた活発なディスカッションが行えるように、各自の実習先でのトピックを多く取り上げながら、アクティブな授業運営が出来るように努力したい。

その他

科目名	博物館実習
担当者	高梨真行

科目名	児童サービス論
担当者	中川理恵子

授業の概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って、実践的な知識と技術の習得を目的とする。特に実際の現場では、いかなる問題を抱えながら、どのような対応をしているのか、といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容を実施。秋期は博物館で行われている各種事業について実習の経験を踏まえ具体像を検討し、その上で事業の実際を知るために博物館への見学を回実施した。最終的には実習終了をうけ、各館で体験してきたことを中心に、1人15分間程度の報告をしてもらい。その報告をテーマに受講生全員でのディスカッションを行い総括とした。

授業の問題点

実技教授中心の春期に対し、秋期では講義および報告、ディスカッションを中心とした内容であったが、平均点は上回っているものの、学生の学習態度に関して、授業外学習(予習や復習など)や質問や発言についてはあまり積極的ではなかった傾向が看取された。次年度は、学生がより積極的になれるような、キーワードや項目を事前に設定して、自発的に学習や発言の準備が出来るような工夫を準備したい。

学生の授業満足度

授業全体としては概ね好評価と判断される。

授業改善の課題と方策

実習終了後の秋期授業の実施当たっては、報告、ディスカッションに至る過程でも、単調な講義形式にとどまることのない方法の採用に努力する。例えば、博物館での各事業に関する内容を扱う講義形式の授業においても、後半の45分間を実習先での学生の経験を基に抽出させた課題についてディスカッションするなど、よりアクティブになるような工夫を取り入れたい。また、より学生が関心を持てるような、博物館に関係する時事問題(一例としては令和4年4月の博物館法の改正など)を取り上げ、自分で情報を収集することで、問題の本質を理解出来るような内容を盛り込んでいきたい。

その他

授業の概要

「児童サービス」について、歴史的に学び、現在多くの図書館で行われている、お話し会、ブックファースト運動ブックトークなどに必要な知識を深めた。また、児童文学の歴史や昔ばなし、絵本、紙芝居の特性について講義した。

授業の問題点

履修者に人数が多く、質問や発言がしにくい状況だったと感じている。

学生の授業満足度

Q9	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.68
Q10	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.52

上記の回答から内容的には大きな問題点はなかったと考えている。

授業改善の課題と方策

授業で扱う内容が少なくなっても、学生の意見や考えを皆で共有する時間を設けていくことを考えている。

その他

科目名	国語科教育法 I
担当者	橋本和顕

科目名	学習指導と学校図書館
担当者	橋本和顕

授業の概要

国語科教育法 I は、教職課程の 2 年生を対象に、中高免許取得に向け、前期の授業を通して基礎を培う科目である。前半では、国語科の各領域別に教材や言語活動の特徴を理解し、言語活動の特性に触れることを意図して進めている。また、後半の活動では、実際に教材研究の基礎を学び、本時のみの学習指導計画を立て、初めての模擬授業の実践、授業協議会を進め、発問や反応予想について、基礎的な授業づくりを進める。

授業の問題点

満足度は非常に高かった。資格認定の科目でもあることから、全授業回の出席を基本としているが、1 回～2 回程度の欠席が見られる。特に終盤で体調を崩す学生もいることから、感染症の広がりへの懸念もあり、無理をさせられない面があった。欠席した学生への課題やオンライン課題を整えていくことも、取り組んでみたが、課題未提出の学生が 2 名出た。次に、協議会での意見交流が盛んになってきたので、適切なアドバイスが欠かせない。学習活動をさせる中で、言語活動の中身を十分に理解させていながら、指導者として配慮することに丁寧に繋げていく時間の確保は、継続して取り組む。初めての樹豪づくりということもあり、緊張感を受け止めながら、ソフトランディングできるように配慮をさらに続けていく必要がある。丁寧に、学習者の学びに寄り添い、振り返ることが重要である。

学生の授業満足度

上記以外は、学習態度、授業内容、授業方法、満足度ともに高評価なので、よいところを意識して、今後も進めていく。特に、学生同士の対話から、発想の豊かさを引き出したり、充分話し合ってから、教員が助言を加えることで、ねらいに近づけたりするなど、丁寧な授業運営を信条としているが、引き続き、学生主体で進めながら、大事な点を学ばせる質の保証も同時に進めていきたい。一人一人が学びの達成感を得られるように、今後も授業内容方法の工夫と改善を加えながら地道に取り組むよう心掛ける。

授業改善の課題と方策

問題点で述べたように、①フォロー課題を試してみる。欠席をしてしまうと授業効果が半減してしまうので、課題を出し助言を個別に行うなど、相談にも応じやすい手厚い指導を心掛ける。②授業内容や量の見直しを意識して、学生の理解状況を把握しながら、適切な内容と量を割り出していく。このように理解が不十分学生へのフォローを積極的に行っていく。さらに、成長したことへの声掛けも丁寧に進める必要がある。自信をもたせることで、教職への意欲を低下させない工夫が必要である。

その他

授業の概要

本授業は、図書館司書教諭資格認定の科目として、隔年実施されている授業である。読書教育に関する、児童生徒の読書に関する発達段階を理解した後、後半は、学校教育における読書活動の具体とその実践を直接体験で考え、学ぶ内容を構成している。工作系の活動や実際の絵本や本を持ち寄っての読書会など、生きた学習活動を体験しながら、その特徴を学ぶ内容を構成している。

授業の問題点

授業外学習(予習や復習)について、学生の側に積極的にかわる姿勢が求められる点が挙がっている。また、授業内容(興味・関心)についても、ひと工夫をして内容を構成することが求められる。さらに、授業方法(適切な内容や量)については、質量、ともに、適正な学びを心掛けているが、再度、点検する。

学生の授業満足度

おおむね良好ではあるが、さらに満足度を高める工夫が必要である。読書紹介活動の疑似体験と、その活動後の意見交流や達成感の共有など、意識づけ、価値づけを丁寧にやることを積み重ねていく。さらに、新たな気づきを丁寧に紡いでいくことに時間をかけていく必要があるだろう。これらの取り組みを経て、より充実感を得られる学びとなるように努めていくことが肝要である。

授業改善の課題と方策

まず、授業外学習については、事前に本の準備や課題に対する事前の取り組みなど、学生任せになっていた側面がある。授業外の時間でも調べてみたくなるような、追究して考えておきたいような課題について、検討する必要があるだろう。絵本の準備や関連する書籍の準備など、事前の準備がこの項目にあたりと考えていたので、準備にあたっては、かなりの時間を要するよう配慮したが、それでも、授業開始時間間際になって、慌てて大学の図書館に本を借りに行く学生が数名見られた。教育実習期間をとも重なり、意識を連続させて授業に臨むことが難しい時期であったとも考えられるが、さらに、ねらいを連続させながら取り組ませていくようにしたい。

授業内容に関しては、ばらばらに行ってきた読書紹介活動の工作系の活動と学習系の活動との関連性を意識して、今、どのような特徴を生かしながら学習活動に繋げているかを意識させながら、その体系を理解しながら学びを深められるように配慮していく。

最後に、学習の質の向上であるが、稼働のさせっぱなしに陥らないように、学習成果を授業のまとめの時間に分かち合えるようにさらに工夫していく。また、質の高い活動を共有しながら、気づきの交流や学び合いにも時間を割くように心がけていきたい。

その他

授業改善書

科目名	学校経営と学校図書館
担当者	和田 初枝

授業の概要

学校教育の動向を踏まえ、学校図書館の理念・目的・役割について基本的な理解をはかる。さらに学校図書館に関する法制度、学校図書館運営計画、学校司書および学校図書館運営組織の役割、学校図書館を活用した読書活動と学習活動支援事例など、学校図書館の具体的な運営方法について学ぶ。以上の講義内容を踏まえたうえで、受講者は学校図書館が直面している課題について考察し、これからの学校図書館経営について提案することができる知識を修得する。授業は主として3部で構成した。第1部は講義、第2部は講義内容に付随するディスカッション、第3部はディスカッションのまとめのレポート（A4・1枚程度）を作成し、提出することで自身の知識の整理と発信力の研鑽も兼ねた。

授業の問題点

授業アンケートに記された下記の項目から

- ① 授業方法Ⅱ-Q4「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」 → 4.36

「専門事項の解説の平易さの不足」が問題点であるとする。

学生の授業満足度

- ① Ⅲ授業満足度-1「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」 → 4.57

本授業は資格科目であり、理論と併せて、現場で実際に役に立つ、あるいは利用できる知識や考え方も繰り返し伝えてきたことが上記結果となったと推測する。7項目にも関わらず出席率も良く、資格への熱意を持った多くの学生たちの思いに、今後も真摯に伝えていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

授業課題

- ① 専門的内容の講義手法の再考

課題改善策

- ① 講義の最後に予習のための次回授業で扱う専門用語の解説を行い、授業内容の円滑な理解を図る。
授業では実務の例を挙げながら、平易な言葉での講義を工夫する。
なお、関連事項や実務の課題については、ディスカッションや復習の中で修得できるよう、資料等に指示する。

その他

科目名	道德の指導法
担当者	北村 康子

授業の概要

本講座は、特別の教科 道德の基礎理論、そして実践の指導力を身に付けることを目標にした。中学校の道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行われている。平成26年10月、道德の時間は「特別の教科 道德」とされ、道德教育は大きな転換期を迎えた。教師(指導者)には、道德教育の実践力が一層求められている。そこで、指導要領解説を事前に読み込むとともに、実践に基づいた確かな実践力を高めるため、1講義あたり、課題の講義資料1枚を作成し、計15枚の振り返り資料で学習のめあてを明確にした。また、対話型授業を中心に、アクティブラーニングを取り入れ、実践的な学習になるよう指導した。①道德とは何か、その本質について多角的に考察した。②中学校学習指導要領道德の読解を通して、道德教育の基本的な在り方とその特質を理解し、実践に関する基本的知識・スキルを習得した。

授業の問題点

- 1 秋学期の講義、演習に3年及び4年の複数学年が受講していたため、教育実習を経験しているかないかで、特別の教科 道德の基礎理論、実践的指導力、生徒理解力等に習熟の程度の差が大きいこと
- 2 学生の事前学修、事後学修の充実のために、ICT通信機能を生かした適度な授業連絡の工夫をすること
- 3 学生が自覚して自主的な学修の成果を得るために、半期で取り組める課題論文等が必要であること
- 4 教職課程を受講するにあたり、教員採用試験の情報提供を取り入れ教職に対する認識を改めて高める必要があること

学生の授業満足度

この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい

この授業について評価して下さい

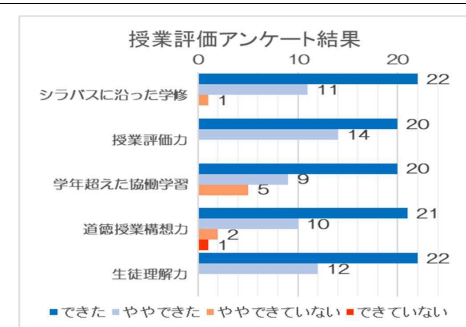
- 1 学習態度の評価が高い。特に小レポート提出を評価資料として扱い、シラバスに沿って振り返り資料とする。
- 2 Q9「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」に対して、平均よりも0.41ポイント高い。講義内容と模擬授業の演習のバランスをさらに配慮する。
- 3 Q7「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」に対して、平均より0.44ポイント高く、適宜、学生の質問に答えていたこと、Q8「授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたが」に対して、平均より0.32ポイント高く、学生の実態に沿ってグループ編制をし、課題への興味、関心を高め、学生の「道德」の授業経験を振り返ることをしたこと、等が、Q10「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が平均より0.20ポイント高いことにつながると考えられる。今後、さらに学生の習熟度や教職への意識の実態把握を適切に行い、満足度につなげていく。

授業改善の課題と方策

- 1 複数学年の中で①4年生の経験値を生かす、②効果的な模擬授業の適切な演習回数を設定する、③グループ編制を数回設定する等、学生の実践的指導力、生徒理解力等の実態を把握し、円滑かつ効果的なアクティブラーニングとする。
- 2 ICT通信機能を生かした適度な授業連絡の工夫をし、質が高く、適度な量の事前学修、事後学修を提示する。
- 3 「特別の教科 道德」において、最も課題であると感じる課題の一つ選び、半期の中で探究する課題設定も行う。
例えば、①これまでの道德教育と道德の特別教科化 ②道德の時間の指導方法の蓄積と課題 ③道德の時間に関する評価の仕組みと課題 ④学校教育全体で行う道德教育と要の時間としての道德科 ⑤道德教育の質的転換 ⑥質の高い多様な指導方法 ⑦発達障害等のある児童生徒の現状と合理的配慮 ⑧ 様な指導方法の確立や評価の工夫・改善のために必要な条件等、が考えられる。
- 4 教員採用試験対策の情報提供をトピックスの形で取り入れて、受験に当たっての意識をさらに高めていく。

その他

- 1 第16回筆記試験後に、独自に授業アンケートを実施し、右記の学生の自己評価結果を得た。
①授業計画シラバスに沿って授業が進み、②学生相互に模擬授業のよさと課題を見出す授業評価力が身に付いている。③アクティブラーニングとして協働学習を取り入れているが、複数学年に亘ってグループ編制したため、3年生にとっては4年生との協働学習に抵抗感があった。④講義で取り上げた基礎的な考え方を習得し、構想力が高まった。⑤授業案を作成するにあたり、中学校の生徒の予想される反応を想定して実践的な授業づくりが可能になった。と考えられる。
- 2 学生による学内の授業評価について、授業中に時間を設定したものの、学生によって入力できないという声があり、母数が少なかった。時期が早かったのか、今後課題となる。



授業改善書

科目名	図書館基礎特論
担当者	入江 伸

授業の概要

1990年代から2020年までを、紙資料から電子資料への変化 技術・インターネットの発展を視点にして図書館の変化について講義する

授業の問題点

毎時間課題をだして授業外学習を義務付けていたが、評価が甘かったようです（課題は提出されていたのですが、簡単だったのかな）
課題が簡単だったわけではなく、論文を読んで感想を書かせるものだったので、簡単にかけたのかもしれませんが。

学生の授業満足度

授業改善の課題と方策

課題を再考し、レポートの評価をもう少し厳しく 評価を学生へ返して行きたいと思います。

その他

非常勤講師

經濟經營学部

科目名	産業組織論
担当者	安藤 陽

科目名	キャリアデザイン I
担当者	井島由佳

授業の概要

産業組織論は資本主義経済における市場メカニズムを検討対象にしており、財・サービスの供給主体である企業・企業グループの市場行動や、それらが属する産業部門での行動原理が研究の対象である。この授業では、競争と独占、企業行動、政府規制と規制緩和、産業国有化と民営化などをテーマに、電気事業や鉄道事業などでの企業行動や、競争・独占・規制と市場メカニズムとの関連を講義する。

授業の問題点

事前に授業内容に関する資料を Teams にアップロードして予習を可能にし、授業後にパワーポイントの授業資料を同様にアップロードし、復習を可能にしたが、必ずしもこれらの資料を活用しているようには思われない（ただし、一部の学生は欠席時に授業資料を参考にレポートを提出している）。学生の授業評価としてはほぼ平均値と同水準になっていることから、授業資料の活用を促せなかったことが問題点としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容に関しては、概ね満足しているように思われるが、十分に満足しているようではないことが反省点である。

授業改善の課題と方策

パワーポイントを使用した授業で、資料の事前配布と事後配布の方法は適切であると思うが、授業内容に関して、学生の興味を引き付ける内容をさらに加味することが必要と考える。また、リアクションペーパーに頼りすぎて、授業での質疑応答、討論をおこなわなかったが、授業での質疑応答、討論の活発化が授業内容の改善に向けての課題であり方策である。

その他

授業内容は科目の体系的な教授をおこなうものと考えているが、具体的な事例や余談などをはさんで、「遊び」も含めながら、学生にとって楽しく、面白く聞けて、授業内容を理解しやすいものにするのが理想と思っている。その理想になかなか近づけないことを反省している。

授業の概要

キャリアカウンセラーとしての実務経験を活かし、大学に入学してこれからの4年間をどのように過ごすか、何を目標としていくかなど、大学生生活を充実させるために、キャリアについて考えるための講義と演習を行います。キャリアデザインの意味と自分と大学、社会を捉え直しながら、主体的な Career や生き方を検討する時間としていきます。そして、キャリアカウンセリングやキャリアセミナーでの経験を踏まえ、自身の性格や行動パターンを知るための自己理解と自己認識についての手法を講義しながら、趣味や強みを把握し、それを伸ばす方法などを演習から考えられるよう指導をしていきます。

授業の問題点

今期は、シラバスの進捗について変更することが多くなった。AB グループ分けとなり、対話する機会を AB 共に実施できるようにするためと、講師自身が手術入院、術後措置でオンライン授業が多くなったためである。コロナ対応のグループ分けがいつまで続くかは不明であるが、変更については、次年度は改善されると見込まれる。

また、第1回オリエンテーションで授業の進め方を説明しているが、履修確定が4回目以降となり、第1回授業を受けていない学生が多くいる。授業動画を残しているため、全員が観られるようになっているが、観ていないことから、途中から履修してきた者と最初から履修している者との間に理解と認識の相違が観られる。当然に、理解度の低い者は不満を持ちやすい。履修者の多い科目であることから、第4回時にもオリエンテーションの概要を入れることで改善される可能性をみている。

学生の授業満足度

2・3・4 限で満足度は異なる。抽選でも申込の多い2限が一番満足度が高い傾向にある。4限履修者は、単位獲得の埋め合わせが多いと学生から聞き及んでいるが、モチベーションは3コマ中で一番低い状況が課題などからも見受けられる。

また、オンデマンドの利便性に恩恵を受けることを希望しつつも、対面時での満足度とは異なる様子である。本学の学生は、対面授業が向いている。

授業改善の課題と方策

オンデマンド授業と平行して行っているうちは、大きな改善は見られないと考えられるが、PC スキルの上達によって改善できる部分もある。ネットやPC、アプリケーションの使い方が未熟なことで適応できないこともあるため、今後はPCスキルへの注目に関しても授業で取り扱っていききたい。

課題の多い科目であることから、一定のマイナス感情を持たれやすいが、自身に還元される内容であることを更に伝えていきたい。

その他

オンデマンド授業が多くなったことから、授業評価に関する案内が対面授業でできなかったため、回答者が履修者数の1/4程度となってしまった。

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅡ
担当者	井島由佳

授業の概要

企業研修・公務員研修の実務経験とキャリアカウンセラーとしての実務経験から、就職や公務員、教員試験などに向け、「就職活動」の準備期間として必要な知識や情報を取り入れていけるよう講義と演習を行います。そして、就職活動を始めることを目的として、その先に必要なことを考えるために、ワークやグループディスカッションなどを行っていきます。最終的に、自分の目標設定が明確となっていくよう指導をしていきます。

授業の問題点

学生からのコメントで「特定の学部のみ配点を損なう可能性があるのは扱いとして平等ではないと思う」とあった。これは、レスポンスシートをWEBで行っている関係で、経営学部の学籍番号EがExcelでの読み込みで関数となってしまうことから、入力を全角で求めていることに起因する。

学生の授業満足度

授業の満足度は、2限と4限で多少異なるが、概ね満足していることが伺えた。回答人数の違いもあるが、2限と4限の受講者の学生構成の違いもあるかもしれないが、違いが出ることの大きな事柄は見当たらず不明である。今後は学生からの意見も訊きながら、努めていきたい。

授業改善の課題と方策

「授業の問題点」にあった視点は、回答方法の記入方法を再検討し、不利にならないよう努めていくこととする。

その他

質問や発言を求めても、授業内で発言されることは殆どないが、レスポンスシート(WEB)では、質問やコメントをしてくる学生は多い。授業評価アンケートで「質問や発言をしましたか」の問いに対し、学生は対面時しか思い浮かべていないのだと考える。

授業改善書

科目名	原価計算論Ⅰ
担当者	江頭 幸代

授業の概要

製品を「1個作るのにいくらかかるのか」を求める原価計算論の授業です。製品を1個作るのには、それを作るために材料費、労務費、経費がかかります。前期の原価計算論Ⅰの授業では、費目別計算として材料費、労務費、経費の計算を行いました。その後、場所別にいくらかかったかを把握する必要から、部門別計算(直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法)を学習しました。前期の後半では、受注製品(たとえば船舶など)に関する原価計算である個別原価計算について学習し、後期の原価計算論Ⅱにつなげていきます。

授業の問題点

ほとんどの学生が熱心に取り組んでくれましたが、欠席の多い学生は欠席すると、なかなか次のステップに進むことができず、個別に対応しなくてはなりません。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果、授業満足度は高かったため、学生も満足してくれたのだと理解しております。

授業改善の課題と方策

もう少し予習復習が出来るような体制をとりたいと思います。

その他

科目名	原価計算論Ⅱ
担当者	江頭 幸代

授業の概要

製品を「1個作るのにいくらかかるのか」を求める原価計算論の授業です。前期の原価計算Ⅰで学習した内容（費目別計算、部門別計算、個別原価計算に続き、単純総合原価計算、工程別総合原価計算、組別総合原価計算、等級別原価計算、標準原価計算について学習します。

授業の問題点

ほとんどの学生が熱心に取り組んでくれましたが、欠席の多い学生は欠席すると、なかなか次のステップに進むことができず、個別に対応しなくてはなりませんでした。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果、授業満足度は高かったため、学生も満足してくれたものと理解しております。

授業改善の課題と方策

もう少し予習復習が出来るような体制をとりたいと思います。

その他

科目名	日本経営論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、経営戦略の視点から日本企業の現状と課題について明らかにすることにより、日本企業ならではの経営方法である日本経営論について、その姿を明らかにしていく。

授業の問題点

受講者数に比して教室が狭く、教室は常に「満員状態」であり、学生たちも授業を受けづらそうに感じた。施設の都合もあるだろうが、「コロナ禍」と逆行しているように感じられた。

学生の授業満足度

授業アンケートの数値はおおむね平均以上であった。昨年度の数値よりも大分上がったが、私が担当する他の科目よりも全体的に数値が低いので改善の余地があるだろう。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」という質問については他の解答よりも数値が低く改善の余地があるだろう。

その他

昨年度別の授業を履修して、今年度本授業を履修してきた学生が多かった。他の授業について好意的に受け止めてくれているのかどうかは分からないが、彼らが私とまた縁を持つと思った行為自体嬉しく思った。

科目名	スポーツマネジメント論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、プロスポーツクラブ、スポーツ NPO、スポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツ小売店などスポーツを「事業（営利・非営利含む）」として行う活動の総称である「スポーツマネジメント」について講義する。なお本講義では、「事業」としてのスポーツの特性のみならず、事業としてスポーツを取り扱う組織の経営方法や管理方法などもスポーツマネジメントの範疇に含め、講義を行いたい。

授業の問題点

教室がかなり横広で個人的にはかなりやりづらく感じた。中央に着席していた学生はともかく端の席にいた学生に授業がどこまで届いたのかは不明である。次年度本授業をやらせていただけるのであれば、教室は検討いただけると幸いである。

学生の授業満足度

授業アンケートの数値は平均よりもかなり高かったのではないかとと言える（満足度が 4.58）。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」という質問については他の解答よりも数値が低く、改善の余地があるだろう。

その他

例年に比べ、真面目に受講している学生、質問をしてくる学生、話しかけて雑談などをしてくれる学生が多く、楽しくやらせていただいた。もう少し学生とコミュニケーションしてもよかったのではないかと思います。今後の課題にしたい。

科目名	スポーツ企業経営論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、スポーツを製品・サービスとする企業の存続・成長の方法であるスポーツ企業経営の理論と実態について講義していく。

授業の問題点

実受講者数が 15 名程度であったのでゼミ教室などで授業をしてもよかったのかもしれない（学生の性質上、どうしても後方に固まるので・・・）。
 少人数であったので（履修者数 22 名）、もう少し学生と教員、学生同士でコミュニケーションする余地があっても良かったかもしれない（例えばグループワークなどを入れてみるなど）。そうすれば少人数ならではのアットホーム感のある授業ができたのではないかと思っている。

学生の授業満足度

授業アンケートの数値は平均よりも高かったのではないかとと言える（満足度が 4.44）。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」という質問については他の解答より平均も数値が低く、改善の余地があるだろう。

その他

騒いだり、授業を聞かないということがない代わりに全体的に大人しい学生が多かった。もう少しコミュニケーションをしながら授業に引き込んだほうが、彼らにも印象に残る講義ができたのではないかと考えている。次年度も教壇に立たせていただく機会を頂けるのであればこの部分を改善していきたい。

科目名	国際経済論
担当者	小原篤次

授業の概要

国際経済論は、国々間の経済関係や、国際経済の枠組みのなかでとらえた各国経済の現象に関する科目である。前半は、国際収支の仕組み、外国為替のメカニズム、経済発展、国際貿易および経済成長の理論の基礎、後半は、国際貿易・海外直接投資、産業集積、社会関係資本・社会ネットワーク、経済協力・政府開発援助・SDGs など経済発展の諸要因を講義する。国際経済の中で、開発経済アプローチは先進国の発展過程を説明、今後の新興国の成長を理解するのに役立つ。内外の金融商品を提供しているみずほ証券の国際部門・調査部門での実務経験に基づいて、開発経済を含む国際経済の取引実態について詳しく講義する。

授業の問題点

2年目で初めての対面講義となった。
 教員の講義のほか、履修者が新型コロナウイルスにおける教室の定員を超え、出席がAとBの分割となったことも、どうしても理解・関心に影響があったのかもしれない。

学生の授業満足度

Q9	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	3.93	(4.43)
Q10	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	3.71	(4.35)

授業改善の課題と方策

- ・授業外学習（予習や復習など）をしましたか
 - ・質問や発言をしましたか
 - ・ノートやメモ等を取りましたか
- いずれも4未満である。
- ・課題の分量を増やすなどして、授業外学習の必要性を増やしたい。
 - ・質問や発言の機会を毎回、もうけたい。
 - ・ノートやメモ等の点検の機会をもうけたい。

その他

科目名	スポーツ文化論
担当者	齋藤 うい

授業の概要

本授業は、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、スポーツと文化の関係性から、スポーツが社会的に構成される文化であることの理解を深め、今後のスポーツのあり方や可能性、課題などを自発的に見出すことを目標としています。現代スポーツの諸問題についても取り上げ、学生が現代スポーツの成立から社会におけるスポーツのあり方についての視野を広げられるような授業づくりを心がけています。

授業の問題点

日常生活で「する・みる」の観点からスポーツと関わりをもっているなか、本授業ではスポーツを通して「学ぶ」という観点を重視し、社会とスポーツ、文化との関係性からスポーツの理解度を高めることを心がけています。一方、スポーツの歴史は古代時代にまで遡るほど深く、また社会とスポーツ、制度とスポーツ、政治とスポーツ、教育とスポーツなど、スポーツを扱うテーマが広範囲であるため、授業内で取り扱う内容が広義になってしまう点は、授業づくりをするうえで十分な配慮が必要だと考えています。

学生の授業満足度

授業アンケートによると、学生の授業満足度は、私が学生に感じている認識や理解レベルとそこまで差異がないように感じます。一方、「授業外学習をしましたか」や、「質問や発言をしましたか」の項目は、他項目に比べて比較的低い値でした。予習・復習をするような單元ではありませんが、次回範囲を知らせて、その範囲に関する文献を読んでもらうなどができると思いますので、一言付け加えたいと思います。また、授業中の学生への質問の機会を設けられていないという点については、次年度における授業内容の見直しとともに、学生が質問する機会も増やしていけるよう授業を組み立てていきたいと思っています。

授業改善の課題と方策

前述したように、本授業で取り扱うテーマは広義であるため、学生の理解を高めるための工夫が必要です。例えば、できるだけ具体的な事例や資料を紹介するようにしています。ときにはDVDを用いて実際の映像を観てもらい、イメージをしやすく工夫しています。スライド以外の関連資料なども積極的に配布して、その資料をもとに授業を進めることもあります。ときには配布資料に含めていない資料が多くなってしまっていますが、その場合は説明を加えてメモをする時間を設けるなど、学生への細かな配慮を心がけたいと思います。

その他

本授業では、授業の合間と最後に授業テーマに関連した簡単な問いを出し、その回答をリアクションペーパーに書かせています。授業の理解度を高めるために、自分自身の言葉で説明する機会を設けています。座学でのスポーツは、スポーツの事例・事象から「何が読み解けるのか」という観点が非常に重要であり、授業から得られた知識をどのように自分自身の考え（問い）として導きだすかが問われると考えているからです。講義内容をふまえてリアクションペーパーに取り組ませることは、自分自身の考え（問い）を再考する良い機会だとも考えます。実際に一生懸命自分自身の言葉で表現しようとしている学生が多く、私自身もリアクションペーパーを読むことで学生の授業理解度を計ることができます。次年度も引き続きリアクションペーパーは取り入れて、学生の意欲を引き出せるような授業づくりを考えていきたいと思っています。

授業改善書

科目名	マーケティング・リサーチ
担当者	佐藤 正弘

授業の概要

全体的に数値が高く、特に問題はないものと思われる。

授業の問題点

強いて挙げれば、授業外学習時間が他の項目よりも数値が低かったこと。

学生の授業満足度

授業満足度は3.89とまあまあ高い数値だった。

授業改善の課題と方策

来年度は担当しません。

その他

授業改善書

科目名	人的資源管理
担当者	高橋哲也

授業の概要

労働全般に関して講義した。特に企業において我々がどのような立場であり、どのように管理されるのか、そのことについて学生目線から理解できるように映像資料を用いて説明した。経営学という与管理主体側の説明が多いが、管理対象としての労働者自身の立場から考えなければならないことの理解を促した。

授業の問題点

授業アンケートで「質問があまりできなかった」とあった点には留意したい。リアクションペーパーを実施し、何か疑問があった場合には対応しているつもりでいたが、学生の視点からすると質問時間が欲しいのかもしれないと気づかされた。また15回という半期の内容であるため、講義内容をかなり圧縮して行わなければならない。重要箇所は押さえているが、やはり説明不足になっている可能性は否めない。

学生の授業満足度

授業アンケートを見ても、概ね良好な反応であった。就職活動を控えた学生にとってはこれからの自分の選択に関わる内容であるため真剣に聞いており、質疑の反応も良かった。また企業や仕事への間違っただけの思い込みもあったが、そのあたりの誤解も解くことができていると思われる。今年度は比較的真剣に聴講する学生が多かったように思われる。そのため学生の興味関心を引き出すことが出来たことにより満足度は高かった可能性がある。

授業改善の課題と方策

対面授業の学生の満足度はかなり高かったようなので、現状維持および資料の更新で対応可能だと考える。リモート授業を希望した学生が数名いたようだが、初回授業以降は反応がなかったため履修を変更したのかもしれない。授業形態によるものであれば、申し訳ない結果となってしまった。ただしハイブリッド授業の配信は現状では難しいためオンデマンド資料の配信を行っている以上は、その対応を学生に求めたいところである。

その他

「働く」という話題に対して毛嫌いしている学生がどうしてもいるように思われる。そのあたりを解きほぐす工夫はしていきたいと思う。

15回の授業では説明しきれないので、30回にすることも検討してもらいたい。または人材開発論などを設置してもらおうとよいように思う。

科目名	憲法（日本国憲法）
担当者	多田 庶弘

科目名	リスク・マネジメント論
担当者	谷内 陽一

授業の概要

日本人ほど憲法をよく知り、崇拝する国民はいないといわれる。しかし、これほど現実の政治や国民生活に影響を与えない法はない。その意味からは憲法への理解が薄い面もあるのかもしれない。だが、国会での憲法改正議論が始まり、憲法改正議論が具体化する状況において、改憲、護憲以上に憲法をきちんと理解する知憲という視点が必要なのではなかろうか。そのような点から、改めて憲法をとらえ直す機会となる内容としている。

授業の問題点

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症のため、対面授業と遠隔授業とが混じるなかでの授業方式となった。遠隔授業との関係もあり、対面授業でも PowerPoint 等を利用した方法で行い、また、通常の対面授業であれば利用できる資料も、遠隔授業との関係（公衆送信権等）から使用できない状況もあった。そのため特定の部分で時間とるような授業内容にした。時間をかけたことで理解度は深まったと考えられるが、その反面、どうしても授業内では桑榭説明（解説）できない箇所もあったため、その点は改善点として生じた点といえる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症による授業形態のため、レポート等を複数課すことで学生の理解を図った。学生のみなさんは、他の授業の課題もたくさんあったであろうなかで、きちんと課題の提出を行ってくれたことには感謝したい。ただ、全体的な満足度に比べると時間外学習は高くない点は改善点として考えたい

授業改善の課題と方策

今後、対面授業数が今までよりも確保されることにより、改善が行える点はあると思える。しかしながら今後の状況を踏まえ、仮に遠隔授業が増えるようなことになったとしても、対面授業のみと同様な対応ができるような準備も行いたい。

その他

授業の概要

本講義では、リスク・マネジメントの意義と役割を平易かつ具体的に理解できるよう、講師の年金基金、銀行および生命保険会社での実務経験に基づき、保険論・金融論をベースとしたリスク・マネジメントの理論的体系から具体的事例まで、学術・実務両面の視点から幅広く講義してする。

授業の問題点

Q4（授業の方法や資料のわかりやすさ）は 4.45 点（平均 4.37 点）と平均を上回ったものの、Q6（毎回の授業の内容・量の適切さ）は 4.21 点（平均 4.34 点）と平均以下となった。履修者数の増加（前年度 21 名→当年度 89 名）に伴い履修者を A・B グループに分けて授業を実施することとなり、1 回の授業で 2 回分の内容を凝縮して実施したことが影響しているものと推察される。

学生の授業満足度

Q9（授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか）が 4.43 点（平均 4.43 点）、Q10（全体的に振り返って、授業に満足できましたか）が 4.36 点（平均 4.35 点）といずれも平均点以上だったものの、前年度に比べると評価を落とした形となった。履修者の増加に伴う A・B グループ分割実施に対応して授業内容を再編成したことが要因と推察される。

授業改善の課題と方策

当年度の履修者数の増加に対応しきれなかった点を反省材料とし、次年度以降は、履修者数の多寡にかかわらず授業内容の質を確保できるよう見直しを行いたい。また、履修者数の増加への対応については、大学が提供している Microsoft Teams 等のオンライン環境を全面的に活用し、オンライン講義（録画配信含む）の全面実施や、自習・レポート提出の増加などにより対応したい。

その他

特記事項無し

科目名	旅行ビジネス論
担当者	富吉光則

科目名	職業指導
担当者	富吉光則

授業の概要

観光・旅行全般を扱う入門編と言える講義である。航空・鉄道・自動車・宿泊・テーマパーク、等の分野別に基礎知識を展開した。環境と観光は重要な関連性があり、本学の契約している環境省とのつながりも関心高く取り組んでくれた。

授業の問題点

受講生が多く A/B 分級となったため、半分为オンライン授業だった。私の展開する観光系科目は、動画や実例を示して理解を深めるため、オンライン授業で動画の視聴は、どこまで実行しているか、不明瞭な点もある。

学生の授業満足度

観光に関心を持ってくれる学生数が目に見えて増え、口に出してくれるようになったことが目覚ましい進歩であり、満足度の表れと言ってよい。

授業改善の課題と方策

コロナ前・コロナ後、で観光を取り巻く景色、マーケットは大きく異なる。従って、入門編の授業であるが、この科目だけの問題ではなく、この後に続く授業展開を考えないといけない。

その他

そろそろ、観光系科目を初級・上級で分けて、観光を目指す学生に資する形を整える必要性を感じている。特に宿泊系科目がないことはいただけない。エアライン系の科目も必要。英語が弱い学生には、特別なインターンシップやサマーキャンプ、などを取り入れて、就職で結果につながる学習環境を整える必要があるだろう。

授業の概要

職業に関する全般を指導する中で、ビジネスに関する知識を蓄積しつつ、迎える就職活動への取り組みを高度化するため、あらゆる最新の情報とノウハウを可能な限りサンプルを示し、対応方法を習得し、夏のインターンシップに臨む心構えと準備ができるように指導するもの。

授業の問題点

受講生が多く A/B 分級となったため、半分为オンライン授業だった。そのため、対面授業で効果を発揮する内容のものが、授業の資料を読み課題を出す形式になった分が講師としては消化不良であった。学生は全 13 回のノウハウについて、満足しているようであるが、私としては教室移動をしても、全て対面授業を実施して、理解度を高めたかった。

学生の授業満足度

「受けて良かった」「就活に自信がもてた」「就活をスタートできる」「最新の取り組みを学べた」等、満足度の高いコメントをたくさんいただき、授業のあと、また、メールでも、個別に相談を受けるなど、これまで見たこともない取り組み姿勢に学生の満足度が表れていた。

授業改善の課題と方策

昨年までの受講生が 15 名前後だったものが、今回 60 名以上に増えた。ひとえに、学生の関心が高く、それに応えるためには、とにかく、対面授業をお願いしたい。連動した「箱根温泉・プリンスホテル夏季インターンシップ」の参加者も目覚ましい数が増えた。これはこの授業で学んだことをすぐ実践しようとする学生の意欲の表れである。さらに分野を増やし、夏のインターンシップへの参加を促したい。

その他

最終課題レポートで提出された生の就活意識調査に近い現状をキャリアセンターにも共有し、この取組を授業だけで終わらせることなく、摘み取っていくフォロー体制が、内定獲得に大きく影響する。あわよくば、前後期通し授業としていただければ、そのまま後期のサポートまで継続でき、さらに効果がでることは間違いない。

科目名	財政学
担当者	野村容康

授業の概要

租税政策、公債発行、社会保障、公共投資といった日本の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように、現実の制度を前提として、市場経済における財政の機能とその背後にある理論的な考え方について講義する。

授業の問題点

・「質問や発言した」のポイントが質問項目の中で最低のポイント(3.33)であった。
 コロナが収束つつあるなかで、学生の発言を促すように努めたがさらなる工夫が必要であると感じた点である。

学生の授業満足度

アンケートの結果、
 「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」：4.06
 「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」：3.94
 であったので、満足度は低くないものと推測する。

授業改善の課題と方策

来年度の秋学期に向けては、
 ① 受講者の理解度を把握するためにも、受講者への発問を促す
 ② 演習用の資料をいっそう充実させ、一人一人から回答と意見を聞くことで、双方向の議論を増やす
 といった点を心掛けたい。

その他

科目名	管理会計論 I
担当者	藤井 博義

授業の概要

本講義は管理会計の基礎的な知識と技術の習得を目的として講義する。本講義ではただ単に管理会計の技法を扱うだけでなく、管理会計が歴史的にどのように発展してきたのか、組織や経営の変化とどう関係にあるのかという観点も含めて、説明する。

授業の問題点

受講生の(財務会計を含めた)会計の基礎知識の有無、勉学へのモチベーションに幅があるため、どのあたりに合わせて進めるべきかが課題となる。

学生の授業満足度

本年度は例年に比べ受講者数が多く、満足度の幅も広がったように感じる。

授業改善の課題と方策

できるだけ全ての受講生に合わせてられる講義の進め方を模索したい。

その他

授業改善書

科目名	経済学総論
担当者	船木恵子

授業の概要

経済とは何かを理解し、経済学の基本的理論を学ぶ。

授業の問題点

大きな問題となるようなことは特になかった。

学生の授業満足度

わかりやすかった。スライドと説明がわかりやすかったとあったが、平均値より少し劣っていた。

授業改善の課題と方策

学生が書いていたように、授業の途中に問題を解かせたり、質問したりと結構工夫をしたので、理解してもらえたのかと少し安心した。
この授業は1年生がほとんどなので、わかりやすく説明することに努めた。高学年が若干いて、試験をするほとんど白紙か、関係ないことを書いて提出する。今後の課題としては、やる気のない学生にどのように理解させたらよいかを考えたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	経済学史
担当者	船木恵子

授業の概要

テキストを使用し、テキストに沿って経済学の歴史を理論だけでなく、経済思想も含めてわかりやすく理解する。また現代の経済学に経済学の理論史がどのように影響をしているのかも説明し、考えてもらう。

授業の問題点

新型コロナ禍のため、授業がグループ分けとなり、予定している範囲までなかなか到達できなかったこと。

学生の授業満足度

集計数が少なかったがスライドが見やすいという意見があった。

授業改善の課題と方策

経済学史は経済学の基礎的学習なので、現代経済を理解するうえで知らなければならないことが多い。そのため詰め込み式の学習になりがちだが、スライドがわかりやすいという意見もあったので、こうした視覚的素材をいろいろと利用しながら工夫してみようと考えた。

その他

特になし

授業改善書

科目名	社会政策論
担当者	船木恵子

授業の概要

格差、民主主義、労働関係などの社会政策をその歴史から現代の社会保障制度や憲法までをわかりやすく説明する。身近なところから理解を深める社会政策論の入門授業。

授業の問題点

大きな問題となることは特になかった。

学生の授業満足度

満足度は平均よりやや劣るが、試験結果を見れば授業にはついてきていると思われる。

授業改善の課題と方策

正規雇用、非正規雇用の賃金差、子供の貧困、など現代社会で問題となっていることをかなり選択して授業を組み立てたつもりだったが、それほど学生の興味を引いていないことに驚いた。社会政策は労働問題や貧困問題に対処するものだが、もう少し幅を持たせていこうと考えた。

その他

特になし

授業改善書

科目名	経済政策論
担当者	船木恵子

授業の概要

市場経済の発展と経済政策との関係を理解し、経済政策の必要性と社会政策との違いなどを学ぶ。

授業の問題点

クラス分け授業だったため、その時々状況、学生たちの興味などによって若干各クラスの内容の偏りができてしまったと感じた。
(ただし、それについては、各クラスの最終授業で共通の内容で試験対策授業を設けて成績に不利益が生じないように気を付けた)

学生の授業満足度

ほぼ平均だが、平均より少し下方であるため、何が不満だったのかを考えてみる。

授業改善の課題と方策

問いかけをいろいろしてみるのだが、あまり返事がなかった。そのためコメント・ペーパーやリアクション・ペーパーなどをおこない、自宅学習の義務づけなどもおこなったが、あまり効果が無かった。今後はもう少し親しみやすい内容を加えるなど、授業内容を具体的に考えてみたい。

その他

授業改善書

科目名	企業法Ⅰ
担当者	松田 和久

授業の概要

会社企業を規制する会社法について、株式会社を中心に講義する。具体的には株式会社の設立、構成単位、資金調達に関する規制について、プロジェクターで映写した内容をノートに書き写してもらい、講義担当者が口頭による説明を加える。

授業の問題点

受講者のほぼ全員がノートに書き写しているが、講義担当者の説明を顔を上げてきいていない受講者も見受けられる。

学生の授業満足度

アンケート項目の平均前後で推移している。

授業改善の課題と方策

特になし。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	企業法Ⅱ
担当者	松田和久

授業の概要

会社企業を規制する会社法について、株式会社を中心に講義する。具体的には株式会社の運営機関、組織再編に関する規制について、プロジェクターで映写した内容をノートに書き写してもらい、講義担当者が口頭による説明を加える。

授業の問題点

出席者は全員ノートを取り、講義担当者の説明を大部分の出席者は顔を上げて聞いており、授業に対する取り組み姿勢は例年と比べて高かったと思われる。したがって問題点はない。

学生の授業満足度

アンケートを見る限り、受講者の満足度が高いように思われる。

授業改善の課題と方策

高い授業満足度を維持できるよう、今後も努めたい。

その他

科目名	監査論
担当者	山本貴啓

科目名	情報機器の操作
担当者	劉 博

授業の概要	
<p>上場企業や会社法上の大会社等においてはその社会的重要性に鑑み、公表される財務諸表の適正性を確保するため、会社法や金融商品取引法によって、公認会計士や監査法人による監査が義務付けられている。</p> <p>本講義においては、金融商品取引法制度、会社法監査制度、公認会計士法等の公認会計士監査についての制度的な背景や、監査の基本的概念について学習し、資本主義社会において公認会計士監査がどのような役割を果たしているか及びその限界について考察する。</p> <p>講義はテキストを中心に進め、必要に応じ実務的なトピックにも触れる予定でいる。</p>	
授業の問題点	
特になし。	
学生の授業満足度	
アンケート結果をみれば、高評価を頂いているので問題ない。	
授業改善の課題と方策	
<p>監査論は公認会計士監査に関するものであり、実務的な要素も濃くなるため、公認会計士受験生の間ですら、わかりにくいと評判の科目であるため、なるべく身近な具体例を用い、わかりやすい講義をするよう心掛けている。授業は、拙著「セミナール監査論」改訂版をテキストとして用い、足りない点についてはパワーポイントのレジュメで補足している。</p> <p>試験結果及び毎回のフォームズによる回答状況を勘案すれば、公認会計士試験の短答式試験の基礎的な問題が解けるようになるという到達目標を概ね達成できたものと考えている。</p> <p>またアンケート結果を見る限り、概ね高評価を得ているものといえ、日頃の努力の成果が実ったものといえる。</p>	
その他	
特になし。	

授業の概要	
<p>今日、情報通信ネットワークがインフラの一環として定着し、大学や企業などを含むあらゆる組織ではパソコン等の情報機器およびインターネットの利活用が欠かせません。本授業では、情報機器とセキュリティ対策、Windowsの基本操作とオフィスソフトによる文章作成・データ処理・プレゼンテーション、電子メールの送受信などインターネットを活用するための基本知識と操作スキルを体系的にわかりやすく指導しました。</p>	
授業の問題点	
アンケートの結果から、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」の項目が比較的低い点数であることがわかりました。	
学生の授業満足度	
アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「情報機器の操作を通して、コンピュータの使い方がより理解でき、グループワークもとても楽しく学べた授業でした。」などのコメントをいただきました。	
授業改善の課題と方策	
アンケートの結果から、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」が比較的低い点数であったため、今後、授業外学習のさらなる充実に向けて、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。	
その他	
学生の受講態度はおおむね良好でした。皆様のご協力があったからこそ、無事に15回の授業を進めることができました。この場を借りて、感謝を申し上げます。	

科目名	環境経営論
担当者	劉 博

授業の概要

21世紀は地球環境の時代といわれています。国際的には、特に「脱炭素」を取り巻く動きが猛スピードで始まっています。社会がカーボンニュートラルに向けて変革し、産業と企業経営に大きなインパクトを与えています。脱炭素にかかわる知識は、これから先の就職活動はもちろん、社会人として活躍するためにも必要不可欠ですし、実生活にも役に立てることができます。本授業では、脱炭素時代の企業経営に関する専門知識と最新事情を体系的にわかりやすく講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」の項目が比較的低い点数であることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生がおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「環境に対する対策を企業側がどのように取り組んでいるのかを詳しく知ることができました。また、他の受講者との少人数グループでのグループワークができたことで色々な意見交換ができたのはとてもいい経験になりました。」などのコメントをいただきました。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」が比較的低い点数であったため、今後、授業外学習のさらなる充実に向けて、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

学生の受講態度はおおむね良好でした。皆様のご協力があったからこそ、無事に15回の授業を進めることができました。この場を借りて、感謝を申し上げます。

科目名	情報機器の操作
担当者	劉 博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティの基本知識、オフィスソフトによる文章作成・データ処理・プレゼンテーション、インターネットを活用する情報収集・発信のための基本技能を体系的に学べるように指導しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、受講生の学習態度「授業外学習」の項目がほかと比較して低い点数でありました。また、授業評価の「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目は、平均点より低いものとなっています。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、受講生の学習態度「授業外学習」と授業評価の「授業内容に興味や関心を持ちましたか」の項目がほかと比較して低い点数であったため、今後より復習・予習しやすい環境と授業内容に興味を持てるように、シラバス、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

科目名	経営分析論
担当者	劉 博

科目名	証券市場論
担当者	鯖田豊則

授業の概要
<p>本授業では、財務諸表（決算書）としての貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書の基本知識および、企業の成長性・収益性・安全性など財務諸表分析の基本知識と技法を体系的に学べるように講義しました。</p>
授業の問題点
<p>アンケートの結果から、受講生の学習態度「授業外学習」の項目がほかと比較して低い点数でありました。</p>
学生の授業満足度
<p>アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「ためになるやりのある授業です」「学んだことを、発表という形ですぐに使うことができるのは分かりやすかったです。」などのコメントをいただきました。</p>
授業改善の課題と方策
<p>アンケートの結果から、受講生の学習態度「授業外学習」の項目がほかと比較して低い点数であったため、今後より復習・予習しやすい環境が実現できるよう、シラバス、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。</p>
その他
<p>特にありません。</p>

授業の概要
<p>証券市場論は、証券（有価証券）に関する市場を学ぶ講義科目である。金融市場には、預金を扱う銀行と、証券を扱う証券会社が存在し、銀行と証券会社の業務の違いをわかりやすく理解できるように行う。学部的大学生にとって、預金を扱う銀行は身近な存在であるが、証券を取り扱う証券会社はよくわからないという場合が多く、かつ、就職先として、銀行希望者は多いが、証券会社は敬遠される傾向があるので、銀行と証券会社を同程度に理解し、どちらに就職したいかを自分で判断できる講義を行うこととした。</p>
授業の問題点
<p>金融市場は、いろいろな経済の動きが反映する場所である。円安になれば、輸出は儲かるが、輸入代金は高くなり、物価高として、食料の輸入依存度の高い日本では、我々の日常生活に直結する。また、日本は低金利だが、世界的には、ウクライナ問題をめぐるロシアへの経済制裁を通じて、石油・天然ガスなどの資源価格が上昇し、物価高騰（インフレ）となり、その価格上昇を抑制するための金利引き上げという金融政策が実施されている。このように、教科書的な単純な話ではなく、現実の経済の動きを理解するためには、新聞やインターネットで触れた様々なニュースが、金融市場・証券市場にどのような影響を与えるかにつき、複雑な動きを理解する必要があり、学生にとって難しかったのではないかと思われる。</p>
学生の授業満足度
<p>授業で毎回実施している授業内容に対する学生のコメントでは、すでに他の金融関連の知識で学んだことがさらに理解できよかったという学生がいる反面、まったくよくわからないと書いている学生もいた。全体的には、銀行と証券会社の違いが、授業受講前に考えていたものと違い、授業を受けてよかったという学生が多かった。また、日本の低金利下では、銀行預金として貯蓄しても資産形成は困難で、正しい知識による株や債券による資産運用を、時間を味方につけて長期的視点で行えば、欧米の投資家のように、財産形成ができる内容を講義したところ、自分たちもそのような運用を行っていきたいとする学生の意見が多かった。学生による授業評価アンケートの数値評価だけでは、学生の満足度を十分に評価できなかつたので、授業後の学生提出資料も活用して行った。</p>
授業改善の課題と方策
<p>学生にいろいろと教えたいと、いろいろなトピックを題材にしたために、一部の学生において消化不良となったことは否めないと考えている。来年度は、トピックの内容を減らして、1つ1つのテーマを深く掘り下げて、学生の理解度を確認しながら、ゆっくりと授業を進める方向に改善したいと思う。また、学生の理解度を向上させる方法として、講義回数の中段階で、何らかの中間試験（筆記試験、やや長文のレポート提出）を実施して、学生の理解度を確認するとともに、試験答案やレポートを返却して、学生自身にも各自の授業目標に対する理解度確認の機会を設けることも検討したい。今回は、提出されたミニレポートにつき、次の講義で、全体的にまとめたコメントをしていただけたので、学生個々に、授業の目標到達度を伝える形式に変更したいと思う。</p>
その他
<p>特になし</p>

科目名	かしこい旅行実務論
担当者	小川 昭吾

科目名	エコツーリズム
担当者	小川 昭吾

授業の概要

授業 15 回の内、前半は旅行業界の現状や観光地理、旅行関連実務の基礎知識に関してパワポを使って授業を行った。後半は受講生同士でグループをつくり、旅行の企画、企画書（パワポ）作成、授業内での発表会を行った。
グループで役割分担、議論、旅行先の決定、やりたいこと、旅行の実施方法と費用の確認、企画書の作成、企画内容の発表（アピール）、採点（注意深く聞く）など一連の流れを事前に説明し、それを自ら行うことを体験した。

授業の問題点

前半は、パワポを使用した授業だったが単調な授業に終わったと感じた。
授業中のこちらからの質問や問いかけへの反応は鈍く、さらなる工夫が必要。
毎回、パワポには題名をつけて説明していたが、授業のテーマやシラバスとの相違などをもっと明確にしていくべきとも感じた。
後半のグループでの旅行企画に関して、積極的に企画の議論や企画書の作成を行った学生と休みがちで他の学生任せになっているケースがあり、ギャップを埋める努力が必要。
旅行企画作業に個人の興味や作業の力量に応じてうまく分担できたグループがある一方で、グループ 4 人の中、企画書作成を行ったのは 1 名だが、発表は 4 名というケースがあった。

学生の授業満足度

教室の前の方で授業を受けている学生は、視線や質問への反応もあり、授業への理解度も高く、それなりに満足度もあると思う。
一方、教室後方でスマホをいじったり、寝ている学生にとっては、満足度からは程遠いかもしれない。

授業改善の課題と方策

- 学生が授業に興味を持ち続ける方法について常に考えながら改善を進めていきたい。
- ① 授業の冒頭、授業内容の明確化
- ② わかりやすいパワポ資料作成、
- ③ 観光に関する動画や小テスト（内容確認）の活用
- グループ活動における参画度の向上について
- ① グループ内での役割を明確にし作業内容を記録 ⇒ どのようにかかわったか明確化
- ② メンバー全員が採点する、簡易な採点表作成 ⇒ 発表内容をきちんと聞く動機付け
- ③ 2 週（授業 3 回）に及ぶ作業の中間チェック ⇒ 関与が低い学生を減らすため
- ④ 小道具の検討

その他

春期の授業アンケートを参考に、変化を持たせたりして、より学生が興味を持てる授業としていきたい。

授業の概要

受講者の人数の関係から授業が A・B グループに分かれての対面授業となった。
本来の講義内容 2 回分を 1 回分にコンパクトにまとめたり、講義の内容に沿った課題レポートを考えてレポートを科すこととなった。課題レポート提出にあたり、決められた文章や Web サイト、動画などをみて単純に感想を記載する場合とさらに自分で調べて学びレポートする学生との差が大きいと感じている。また、未提出の場合は効果が全く不明となってしまふ。

授業の前半は質問や問いかけの時間もとれたが、後半は、エコツーリズムに関わる題材が多すぎて、講義中心となり、事業自体が変化に乏しくつまらない内容と感じたかもしれない。

授業の問題点

15 回の授業を約 9 回に収めることになり、授業をやった学生の反応を踏まえてテーマを絞り込んで授業を行っていったほうが良いと思う。
課題レポートは、幅広い分野での課題や読み物の設定ができたと思うが、更に学生にとって身近なものでエコツーリズムにつながるテーマを考えていきたい。

学生の授業満足度

アンケートでは、「Q6 毎回の授業は適切な内容や量でしたか?」「Q7 学生からの質問などにきちんと対応しましたか?」「Q8 授業を円滑に進めるための配慮はなされてましたか?」といった部分の評価がやや低い、今後、学生から可能な範囲でヒヤリングを行い改善につなげていきたい。
ラムサール条約に関する動画を使った解説、知床のエコツーリズムガイドを行っている方のインタビュー、カナダのバークーバー市の「世界で最もグリーンな都市への取組み」「バリアフリーへの取組み」「100 マイル・ダイエット」に多くの学生が感心して知ってよかった、日本ももっと取組むべきといった感想が非常に多かった。

授業改善の課題と方策

エコツーリズムと関連が深い環境問題について、より身近なものとして捉えるべきであり、授業を受けるだけでなく自ら考える場を増やしていきたい。
具体的には、授業参加者がテーマに沿って、自分で調べ、考えをまとめて、説明する場を少しでも作っていく。
課題レポートのバリエーションとして身近な課題や自分が取り組める内容のものを題材として選択して、提示していく。
動画を少しずつ取り入れているが、さらに多くの動画を精査して授業の補助教材として適したものを積極的に活用していきたい。

その他

授業の初回や 2 回目に学生から期待内容や様々な意見を集約できないか考えてみたい。

授業改善書

科目名	生産管理論
担当者	平岡 秀福

授業の概要

授業の進め方としては、パワポを用いて解説し、その後、練習問題を解いたり、課題を出したりした。課題の提出は期限通り提出しない場合でも、受け取って評価していた。

授業の問題点

開始のチャイムと終了のチャイムが鳴らないのに不慣れなところもあったので、学生のアンケートにあるように授業時間を超過してしまうことに気づかなかったことが多かった。

学生の授業満足度

授業中携帯電話を使用している学生に注意を促したところ、何度も同じことを繰り返していた。その点は授業に集中できない点があったと思う。後半は教材を読んでもらうなどして、従業に集中してもらおうことにしたので、満足度は改善されたように思う。

授業改善の課題と方策

今後はパワポの資料を読み上げてもらうなど、学生がもっと授業に参加できるような方策を考えていきたいと思う。実際に計算問題を解いてもらったりしたが、今後は携帯電話の授業中の使用は控えてもらったり、座席をこちらで指定したり、学生が居眠りしないような進め方を工夫したい。

その他

とくにありません。

授業改善書

科目名	スポーツ心理学
担当者	矢野 康介

授業の概要

スポーツ心理学は、私たちの健康に対して運動習慣が果たす役割や、ヒトの運動機能が発達していくプロセス、競技におけるパフォーマンスの向上、アスリートが抱える問題とそれに対する支援など、幅広い範囲を含む学問領域である。本授業は、経済経営学部の学生が受講していたため、スポーツ場を題材としつつも、それらの知見を将来の生活場面や職業場面に活かせるよう講義を行った。

授業の問題点

授業アンケートにおいて、授業内容や授業方法に関するほとんどの項目は平均点を上回っており、概ね満足のいく結果であった。その一方で、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の項目では、平均以下の得点を示した。実際に、数回分の授業では時間内に内容が収まらず、次回に持ち越すことがあった。受講者の混乱を避けるためにも、回ごとに授業内容を区切れるよう改善が必要であるものと考えている。

学生の授業満足度

アンケートの授業満足度に関する項目では、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は平均点を上回ったものの、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」が平均以下の得点であった。後者については、前述の授業内での時間配分や、授業を構成する形式を工夫する必要があるかもしれない。

授業改善の課題と方策

今後の授業では、授業の時間配分調整と形式の工夫に尽力することで、上記の課題を解消していきたいと考えている。例えば、毎回冒頭に前回の内容について復習する時間を確保していたが、これを毎回の自主課題として徹底し、授業内での復習時間を短縮する。また、本授業はスポーツ科学や心理学の初学者が大半を占めていたことに加え、5限に配置されていたことから、集中力が途切れてしまう受講者も見受けられた。今年度は講義が中心の回も多かったが、グループワークやディスカッションを行う時間も十分に確保することで、学生の主体的な学びにつなげ、より満足度の高い授業を展開できるよう努める。

その他

授業改善書

科目名	商業科教育法 I
担当者	對馬秀男

授業の概要

商業科教育法の中心課題は、高等学校における商業科目の教授方法にある。平成 30 (2018) 年告示の高等学校学習指導要領では、示された 20 科目の商業科目を通じて、何ができるようになるか、そのためには何をどのように学ぶかが問われるものとなっている。さらに主体的・対話的で深い学びの実現が求められている。商業教育は特定の分野の知識・技術をただ単に習得させるだけでなく、広く社会や経済、様々なビジネスシーンで活用できる力を身に付けさせる教育である。これら 20 科目にはそれぞれ科目独自の教育目標があり、いかにわかりやすく効果的に生徒に学習させるかが商業科教育法(教授法)である。しかし、商業科教員は単なる教授法の技術者であってはならない。教授法のエキスパートである前に、教育者としての確固たる信念と自覚を持たなければならない。その意味で各科目の教授方法に入る前に、教育の基本理念と教育の真の目的はどこにあるのかを検討し、商業科教員としての根本的心構えについて十分な自覚を促したい。次に、変化が急速な経済環境の理解と、各種答申などから、高等学校における商業教育の現状と特質、そして課題、今後の方向性などについて幅広く講義を行った。

授業の問題点

○履修学生が 1 名であるため、学生の緊張感は大いものであるのではと私は考えているが、学生が真面目で熱心であるため、一方的な講義ではなく常にアクティブラーニングと言える形式になっている。

○1 名の履修者であるため、学生間での討議や相互評価などの機会がない点が、問題点の一つと言える。しかし、この点は指導する授業者側で十分に配慮して指導を行っていくつもりであり、大きな問題ではないといえる。

学生の授業満足度

履修学生が 1 名であるためか、全項目について高い満足度であった。この学生の満足度がなぜ高いかについて授業者として振り返りをしたい。この学生は授業に対して極めて積極的である。欠席はゼロであり、事前課題も事後課題も確実にやってくる学生であり、授業が(金)の 7 限であるにもかかわらず「授業がとても楽しい」と言ってくれる。マンツーマンの授業であるがゆえに、学生の理解のあいまいさを残すことなく講義進行できることも満足度の高さにつながっていると考える。

授業改善の課題と方策

今回のアンケートでは学生からの高い満足度を得ることができた。後期も高い満足感を感じてもらえるために常日頃意識し、授業で行っていることを継続していく中でさらに工夫を重ねていきたい。①授業の初めに必ず「本時の流れ」を黒板に明記し、この 1 時間で何を分かるようになるのかをしっかりと伝える。②授業は今日学ぶ内容は、現代社会のどのような問題課題に関係しているのかを考えられるように指導する。③商業科教員として教科書、検定問題の解放だけでなく、「日本経済の今」をしっかりと理解し、生徒へ指導できるようにする授業を心掛ける。④資料・データの入手の仕方とその読み方を丁寧に指導する。⑤常に対話型の授業を心掛ける。

その他

今回、学生の満足度が高かった理由には、前述の通り真面目な学生であることが一番大きいといえる。欠席がまったくなく、こちらの講義内容にも興味関心をもって臨んでくれていることが大きい。授業者としてその他の点で意識していることは、その学生の他の専門履修科目とも関連付けて授業をすることを心掛けている。このことで学生がすべての学びが繋がっていることを意識できるようになると考えている。

資料

メディア科目群の概要と 課題・展望

人間文化学科

岡田正樹

自己紹介

ポピュラー音楽論、メディア論

→我々の音楽経験(作る、演奏する、聴く、その他...)を媒介しているメディアの働き

レコード、動画サイト、イヤフォン、テレビ...
楽器、楽器店...

今日の内容

- 1 メディア科目群の概要
- 2 今年度の授業と学生の反応
- 3 課題
- 4 展望

- 1 メディア科目群の概要

- 2 今年度の授業と学生の反応

- 3 課題

- 4 展望

メディア科目群

- 今年度開設の科目群
- 「アニメ、ゲーム、音楽...身近なポップカルチャーなどを例に、メディアの特徴を読み解いていくことで、現代社会を理解し、未来の文化と生活を探っていきます」(大学ウェブサイト)
 - メディア文化論 ●メディア教育論
 - ポップカルチャー論(今年度から)
 - 映像文化論 ●アニメ・ゲーム文化論
 - ポピュラー音楽論(来年度から)

なぜメディアか？

- アニメ・ゲームを筆頭とするメディア文化の存在感が無視できないものとなり、学生の関心も高いため、その専門の科目群を創設する、というのが発端

なぜメディアか？

- TVアニメ、映画、ゲーム、音楽、お笑いのような娯楽、家族・友人とのやり取り、仕事
- メディア無しでは(少なくとも今のような形では)成立せず
- 我々を取り巻く社会の組成を知る鍵としてのメディア
(=今とは異なるあり方の可能性)
- しかしメディアは意識されにくい(透明化)

なぜメディアか？

- 我々の音楽聴取はほとんどが再生産(複製)メディアに媒介されている
 - ストリーミング、店内放送、動画サイト、TV...
 - ライブは？
 - 事前にLINE MUSICを聴いて予習、別の指揮者の録音と比較、会場でのマイクやスピーカー、スクリーンの経験
- ※そもそもライブという言い方が媒介されている

1 メディア科目群の概要

2 今年度の授業と学生の反応

3 課題

4 展望

ポップカルチャー論

- R4年度以降入学生対象(今年度は1年生のみ)
- 履修者125名
(経済経営2名、人文92名、子発3名、心理28名)
- 人間文化の7割程度の学生が履修
→関心は比較的高いと思われる(課題もある。後述)

ポップカルチャー論

- アニメ、音楽、ファッション、YouTuber、写真(プリクラ)などを対象に、技術的・社会的背景をおさえつつ、メディア理論や文化研究の方法を使って分析。実例を積極的に用いる。
- アイドル/YouTuber × セレブリティ・スタディーズ
- ファッション × ジェンダー論
- アニメ × メディア・ミックス論

今年度の講義と学生の反応

- 反応は上々↑↑
- コメントカードに質問や意見を記入
- 主にコメントカードをもとに学生の反応を紹介

※コメント記入の時間を設ける理由

- ポップカルチャー周りの学問の特徴
- 対象によっては学生のほうが知識が分厚い
例:メイク、プリクラ(男性のみ立入禁止...)、ファン文化
- 好きな人や作品・事象についてはかなり饒舌になる学生が多い
- コメントに色々な情報を盛り込んでくる
- 学生から「現役実践者」の知識を得られる

今年度の講義と学生の反応

コメントシートの反応が特に大きかった講義

- アニメとメディア・ミックス
- ファッションとジェンダー
- ロック史(ロックの社会的・技術的背景)

アニメとメディアミックス

「日本のアニメは好きだけど、ディズニーは嫌い。何故なのか説明できるようになった」

「コンビニでバイトしているがそういえばアニメキャラが一年中どこかにいることに気づいた」

- 非常になじみ深い話題
- アニメをまったく見ないという学生も案外多かったがそれでも熱心なコメントが多かった

ファッションとジェンダー

「ファッションにこだわってるわけじゃないが...」

「ジェンダーについては知りたいが...」

- 受講生はファッションの話題にもジェンダー(やセクシュアリティ)の話題にも敏感だった
- 「ジェンダー学」を履修したいと思ったという学生も
→他の授業につなぐことができた

ロック史

「洋楽はほとんど聴かないが、背景を知ったらおもしろかった」

- 親近感の無い(文脈がよくわからない)洋楽はあまり聴かれていない
- 映像つきで文脈を紹介すると結構反応が大きい

1 メディア科目群の概要

2 今年度の授業と学生の反応

3 課題

4 展望

課題1 「メディア」という言葉に対する認識

- マスメディアの存在感は薄れており、印象もよくはない
- 「メディア」と聞くとテレビ等のマスコミュニケーション機構(のみ)を思い浮かべる学生が案外多い

→この2つが重なり、
「メディア＝マスコミ＝つまらない」という
発想の連関があるように思われる

課題1 「メディア」という言葉に対する認識

- 一部の学生からはメディア科目群＝マスコミ専攻の類だと思われるふしがある
- そしてマスコミはネガティブなイメージを抱かれている(つまらない、偏向報道云々)
- その反転？で「テレビの嘘を暴き、溜飲を下げたい」という発想で受講する学生もいる
- 「メディア科目群はマスコミ専攻**ではない**」ことを含め、具体的に扱う対象をさらに周知する必要あり

課題2 アニメ・ゲームだけにイメージを固めない

- 一方、こうした反応も...「アニメのこと何も知りませんが履修してOK?」
- 確かにアニメへの関心は全体的に高いが
- アニメ・ゲームを前に出しつつも、例えば映画、マンガ、ドラマ、演劇、ファッション、スポーツ、観光その他の対象も扱える幅の広さを強調する必要があるだろう(もちろん具体的な対象は担当者に左右される)

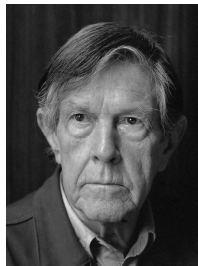
課題3 ノイズを導入する

- メディア科目群は、学生の世代にとって身近なもの、好きなものを学ぶことができるのが一つの特徴
- この分野の特性として、対象によっては学生のほうが詳しく、語らせると饒舌に語る
- 既に興味のある人・作品を授業で扱うと強く反応する(「VTuberが好きだから嬉しい」「2.5次元が好きなので嬉しい」)
- しかし...

課題3 ノイズを導入する

- 「自分の好きなもの」「友人と共感しあえるもの」を超えた物事への橋を作ることも重要
- (一般論として)フィルターバブルの内部で閉じるより、より広い視野で文化事象に触れたほうがよいし、せっかくならそうして欲しい

課題3 ノイズを導入する



John Cage

Bogaerts, Rob / Anelo, CC0, via Wikimedia Commons

My favorite music is
the music I haven't
yet heard.

"Autobiographical Statement"(1990),
In *Writer: Previously Uncollected
Pieces*. Limelight Editions.

課題3 ノイズを導入する

メディア科目群

「馴染み深い対象」を扱いつつ、それを介して「見知らぬノイズ」に潜るための入口でもある

メディア科目担当教員として

フロアが喜ぶ曲をかけるだけのDJ(ワックDJ)にならぬよう。適度に「わけのわからないもの」をぶつけるDJのようなものを目指す

1 メディア科目群の概要

2 今年度の授業と学生の反応

3 課題

4 展望

人間文化学科の3つ目の柱に

人間文化学科の科目群

- ①文学・言語
- ②史学・文化・人間心理

→既存の2つの柱に加え、「メディア」を3つ目の柱として確立させる

人間文化学科の3つ目の柱に

3つ目の柱とするために

ひとまず、

・科目を充実させる: 今年度ポップカルチャー論開講。来年度以降3つの科目新設

・教員の純増: 来年度1名着任予定
マンガやアニメーションが専門

人間文化学科の3つ目の柱に

3つ目の柱を目指すとはいえ、必ずしも「メディア科目群」のみで閉じないこと

- ・文学・歴史等を考える上でメディアの理解は重要(これらと無媒介には接触できない)
- ・他方、メディアの理解を深めるには、文学・言語・歴史等の知識や方法論が非常に重要

人間文化学科の3つ目の柱に

- ・学際的な学科らしく、学生が複数の分野を横断して学ぶことが理想的
- ・比較的とっつきやすい日常の文化を扱うメディア科目群は積極的にその媒介を担いたい
- ・メディア科目群自体がメディアになる

渋沢栄一と研究教育活動 — 渋沢研究の学際的特質と大学教育 —

講義中に出てくるキーワード:

「渋沢栄一」、「講利合一説」、「マズロー」、「自己実現欲求」、「思想と業績の累積的因果関係」、「思想的質質」、「精神的質質」、「実務的質質」、「性善説」、「国臣意識」

担当講師 大江 清一

渋沢研究の学際的特質と大学教育

【講演の項目】

- I FD活動と渋沢研究の関係
- II 渋沢研究の概要
- III 渋沢研究の目的とアプローチ
- IV 渋沢研究の現状
- V 渋沢研究の方向性
- VI FD活動の展開

I FD活動と渋沢研究の関係

- (1) 文部科学省はFD活動の趣旨を、「専門分野を素材に成り立つ学問の府としての大学制度の理念・目的・役割を表現するために必要な『教授団の質質改善』または『教授団の質質開発』を意味する」と定義している。
- (2) この定義から、「教授団の質質改善および質質開発」とは、大学教員の本来業務である「研究能力」および「教育能力」を改善・開発することと理解される。
- (3) このような目的に対して貢献するため、小職の実務家としての経験を踏まえた研究内容をお話し、FD活動に資すると考えられる提案をお示しする。

【FD活動と渋沢研究の関わり】(研究活動)

- (1) 小職の専攻は「著名な経営者の事績から得た知見を現代経営に生かすこと」を目的としている。
- (2) 研究対象である渋沢栄一は企業家としてだけでなく、社会事業家、思想家としての側面を有し、国際交流にも大きく貢献した。渋沢は「日本資本主義の父」と称され多くの経営者から尊崇されている。主な業績は以下の通り。
 - 1) 500社余りの企業の設立・育成。
 - 2) 600以上の社会事業に尽力。
 - 3) 論語に基づく道徳・倫理の啓蒙。
 - 4) 国際親善への寄与。

(3)このような多彩な活動を行った人物に対して研究を進めるためには学際的なアプローチが有効と考えられる。

(4)渋沢の内面に切り込むという小職の研究姿勢からすると、渋沢の「精神構造」を解明するには心理学、「倫理思想」については論語、「政治思想」については水戸学などの近代日本思想の知識が不可欠である。

(5)これらいずれの分野も本学の人間学部で専門の教員が在籍しておられるので、経済経営学部との協働が実現すれば、両学部のシナジー効果を通してFD活動の趣旨である「教授団体の資質改善・開発」の契機を見いだし得ると考える。

【FD活動と渋沢研究の関わり】(教育活動)

(1)本学の学生は他県の学生との比較において渋沢に対する親近感強いと思われる。

(2)多くの学生が埼玉県内から本学に入学するが、小職の8回におよぶ県内高校での出前授業の経験から、深谷市出身の渋沢の認知度は相対的に高いという印象を受けた。

(3)渋沢を郷土の偉人と位置づけ、経営学のみならず経済学、心理学、日本思想史などの講義においても渋沢を取り上げその業績に触れることは、一種の「大学教育における郷土色」を打ち出すという意味でユニークな試みになると考えられる。

II 渋沢研究の概要

(1)渋沢研究の概要は以下の2拙著に基づいて説明する。

1)『渋沢栄一の精神構造』

2)『義利合一説の思想的基盤』

(2)渋沢の業績を研究して現代に生かす活動は、「公益財団法人 渋沢栄一記念財団」によって展開されている。同財団では、各種イベントや講演会などが開催され、その詳細は月刊誌『青淵』で知ることができる。

(3)この財団の会員は法人・個人と多彩であり、法人会員は渋沢が設立育成に関わった企業だけでなく、多くの業種からなる企業が構成され、個人会員には企業者や研究者が在籍している。

(4)渋沢が設立育成に関わった500社余りの企業や、600件以上の社会事業には現在でも活動を継続している企業や団体が多く、渋沢思想を経営理念や社是に反映させている。

(5)渋沢の業績は現在活動している企業や社会事業の実態に反映され「見える化」がなされていることから、企業や社会事業を対象とした実証研究が盛んである。

(6)一方、多くの業績を支えた渋沢の内面のエネルギーを見える化することは容易でなく、まだ未解明な部分が多く存在するというのが筆者の基本認識である。

(7)したがって、渋沢が設立育成に関わり現在も活動している企業や社会事業など、「見える化がなされたもの」を「業績」とし、渋沢の業績を内面で支えた思想や精神構造など、「見える化が困難なもの」を「精神」と「思想」に分類して認識する。

Ⅲ 渋沢研究の目的とアプローチ

【渋沢研究の目的】

- (1) 渋沢研究の目的は以下の2点である。
- 1) 「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一が、なぜあれほどまでに膨大な業績を残しながら恬淡として長寿をまっとうし、現在に至るまで多くの企業家の尊崇の的となり続けているのかを説明すること。
- 2) それを説明するプロセスで得た知見を、現代の企業経営と健全な資本主義社会の発展に生かす道筋を探ること。つまり、渋沢が膨大な業績を遺し得た原因の解明から得た知見を実践に生かすこと。

- (8) さらに思想は「倫理思想」と「政治思想」に分けて渋沢の内面にアプローチする。渋沢が成し遂げたものを1)思想、2)精神、3)業績に分けたうえでその全体を「業績」と定義する。
- (9) このような切り分けによって認識される渋沢の業績は、以下の3つの資質によって支えられたいと考えられる。

- 1) 思想的資質：渋沢思想(倫理思想・政治思想)を支える資質。
2) 精神的資質：渋沢の精神構造を支える資質。
3) 実務的資質：渋沢の業績を支える資質。

- (2) 上記の目的に対する解を得るためには、渋沢の浩瀚な思想とそれを支えた精神構造、さらには渋沢が遺した膨大な業績を分析することが必要となる。
- (3) 分析を行うにあたっては、渋沢のような傑出した人物と常人を比較し、渋沢の並外れた業績を両者の個体差によるものと認識することは、渋沢を神格化することに結びつきかねず必ずしも合理的ではない。
- (4) この神格化を回避して「人間 渋沢栄一」を理解することが重要である。
- (5) 渋沢を郷土の「先輩という身近な存在として平行な目線で捉えるためには、「見える化された」渋沢の業績を分析するのに加えて、「見える化されにくい」内面、つまり企業家、社会事業家、思想家、国際人としての活動を支えた精神構造や思想の内容を探ることが不可欠と考えられる。

【渋沢研究のきっかけ】

- (1) 渋沢研究をテーマにした経緯は小職の実務経験に由来する。その経験とは渋沢が設立育成した第一国立銀行の流れをくむ旧第一勸業銀行に勤務し、渋沢思想の残り香を身にまとった上司や先輩と接してそれを体感したことである。
- (2) 嗅覚で感じた残り香は人間の記憶に残りがちである。小職は上司や先輩から渋沢思想について直接薫陶を受けたわけではないが、渋沢の残り香は、先輩たちの日々の立ち居振る舞いやアドバイス、叱責、愚痴、世間話などの日常行為に隠された銀行員としての心構えのようなものであった。

(3) 筆者がみずほ銀行の前身である旧第一勧業銀行に入社したのは、第一銀行と日本勧業銀行の合併4年後の1975(昭和50)年のことであった。

(6) 企業文化や社内慣行などの違いから、一体化が困難であるのは合併企業の常である。第一勧業銀行の場合も両行の出自からくる社風の相違は顕著であった。

(7) それぞれ独特の社風は創設者の精神とそれを受け継いできた人々によって醸成されたものであり、合併後の旧第一銀行出身者にも渋沢精神の影響が日常作法の隅々に観察された。

(8) 筆者の入社年次をささむおよそ前後3年に入社した行員は、筆者と同じく合併前の旧銀行の上司や先輩と接しながら、いずれの社風にも完全に染まることなく、客観的な立ち位置で両銀行を比較しているようなところがあった。

【渋沢研究のアドバンテージ】

(1) 小職は渋沢研究を進めるうちに、自分のアドバンテージが皮肉にも当時の立ち位置にあることに気づかされた。

(2) 合併銀行への入社後、いずれの側にも属さない立場から旧銀行を比較考量することによって、両行の特徴をごく自然に観察できていたのである。

(3) 換言すると、日常業務を通して無意識のうちに参与観察、つまり社内でフィールドワークを行っていたのである。

(4) 合併前にいずれかの銀行に入社し社風に染まりきれば、自社の社風を客観的に観察することは困難となる。

(5) しかし、合併後に入社し、いずれか一方の企業文化や成り立ちに興味を抱いた場合は、一つの企業内に存在する2つの異なる社風を比較することで、双方の特徴をより明確に認識することが可能となる。

(6) 小職が興味を抱いた銀行家は第一国立銀行を創設した渋沢栄一であり、比較対象となったのが日本勧業銀行の創設に関わった松方正義であった。

(7) 渋沢と松方はともに大蔵省出身で、渋沢は松方の徳義の高さと財政手腕に敬意を抱いていた。

【渋沢栄一と松方正義】

(1) 渋沢は野に下って「日本資本主義の父」と称されるほどの業績を遺した財界の雄であり、松方は「松方財政」という言葉が後世に残るほど財政手腕を発揮し、総理大臣にまで上り詰めた政官界の巨人であった。

(2) この両者が創設に関わった銀行が、日本初の民間銀行である第一国立銀行と政府系の日本勧業銀行であった。

(3) このような背景事情を念頭に筆者の入社当時の立ち位置を振り返ると、渋沢に学問的興味を抱いた後、無意識に行っていた社内フィールドワークが渋沢の内面に立ち入って研究するきっかけになっていたことを実感する。

(4) 渋沢の内面に切り込もうと筆者が決心したのは、先輩たちが漂わせていた渋沢思想の残り香に何らかの意味づけをしようと考えたからかもしれない。

(5) 渋沢栄一の精神構造が、ぼんやりとした写し絵となって先輩たちの体内に宿り、それが残り香を発していたとすれば、嗅覚でしか感知できない残り香を辿って写し絵を視覚化し、不明瞭な画像を論理的に解釈して意味づけをすれば、渋沢の精神構造の一角が解明できるのではないかと考えた。

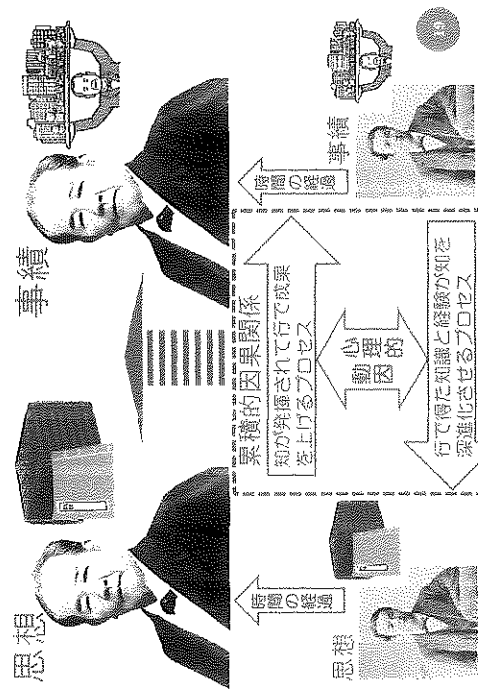
【アブローチ】渋沢研究における基本的前提

- (1) 渋沢が生涯を通して実践した「知行合一」のメカニズムを探るため、渋沢の内面における「思想と業績の累積的因果関係」の存在を指定する。
- (2) 渋沢は生涯を通して以下に示す2つのプロセスを順次繰り返し返して累積させることにより、渋沢思想は深みを増し、かつ経済活動や社会事業活動などの実践活動が社会に付加価値を与え続けるという関係が成立した。
- (3) 小職はこれを「思想と業績の累積的因果関係」と命名し、その存在を指定する。生涯を通してこの「累積的関係」を倦まず駆動させる役割を果たしたのが、渋沢の精神構造に固有の「心理的動因」である。

【累積的な因果関係を形成する2つのプロセス】

- (1) 「知」に相当する思想(倫理思想・政治思想)が実践的活動で発揮され成果をあげるプロセス。
- (2) 「行」に相当する実践的活動を通して得た経験と知識が思想を深化させるプロセス。

図表1 思想と業績の累積的因果関係



【内容説明】

- (1) 陽明学に影響を受けて「知行合一」を実践した渋沢は、「知」は「行」がなければ意味がなく、「行」なうことにより「知」はさらに深みを増して身につくと考えていた。
- (2) 「知」を思想、「行」を経済活動や社会事業活動などの実践活動を累積すれば、渋沢は「知と行」を絶え間なく繰り返してその累積的因果関係は与えられた寿命によって中断された。
- (3) しかし、知と行を「合一」させるためにはエネルギーが必要である。それが渋沢の内面に存在する心理的動因あるいは精神的駆動因であるとすれば、そのメカニズムを解明する手がかりは心理学的知見にあると考えられる。

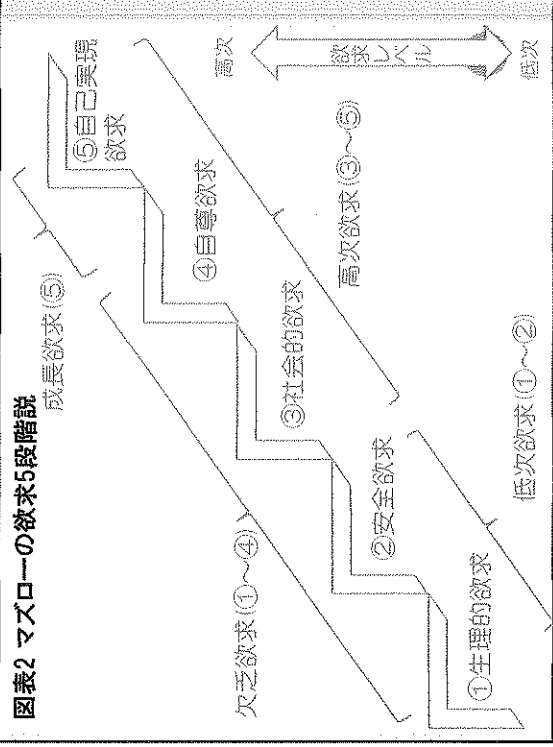
- (4) 渋沢が逝去する数か月前まで公職を引受けたいという事実を勘案すると、そのエネルギーは「知」と「行」を絶え間なく高め合う一種の永久運動の源泉と言えないかと考えられる。
- (5) 生涯を通して知行合一を実践した渋沢の行動は、自己実現者の行動特性と似通っている。
- (7) 渋沢の生涯にわたって繰り返行われた「知と行の累積的因果関係」を支えたのが、渋沢の精神構造に固有の「心理的動因」であると考えれば、渋沢の心理的動因を説明するための心理学的知見が必要となる。
- (8) 小職はこの知見をマズローの自己実現論に求めた。

【自己実現論を渋沢の心理的動因の説明根拠とした理由】

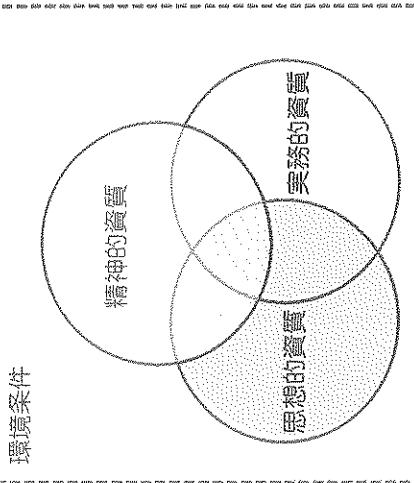
- (1) 人間の精神構造を分析しようとするれば、複数の学派から構成される正統的な心理学のなかでも、人間の本能に深く切り込んだフロイトの精神分析学や、限定的な条件下で実験的かつ機作的に人間行動を分析する行動主義心理学などが規範とすべき候補として浮上する。
- (2) しかし、フロイトの学説は精神的欠陥を抱える患者から得た知見をもとに健常者の心理構造を分析する点に特徴があり、行動主義心理学は限定的な条件下で行われる実験科学としては厳密であるが、人間の精神構造を社会との関わりから考察するには応用可能性の面で不十分と考えられた。

- (3) その点、人間性心理学の系譜に連なる自己実現論は、主として健常者を分析対象としており、学際的研究の系譜からも経営学との親和性が認められ、かつ多くの先行研究も存在する。
- (4) 係る経緯から、小職はマズローの自己実現論を渋沢の精神構造を分析するうえでのツールとして採用した。
- (5) 自己実現論をツールとするのは、マズローの学説を絶対的な真とするのではなく、渋沢の精神構造を分析するうえで欠けている心理学的な分析視角を補完するものとして活用する。
- (6) 渋沢の内面を理解するためには、渋沢が身を置いた環境条件を前提として、「思想的資質」、「精神的資質」、「実務的資質」の3方向から分析することが不可欠と考えられる。

図表2 マズローの欲求5段階説

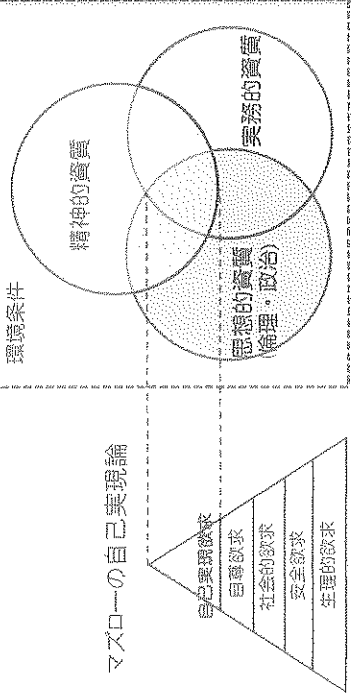


図表3 渋沢栄一の三資質



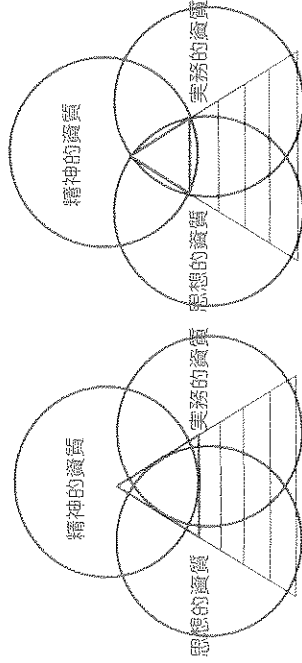
注記：
 (1)本図表は渋沢の三資質を集合論の概念によって示したものである。
 (2)三資質が重なった種集合が渋沢の業績を支えた中核部分である。

図表4 自己実現論と渋沢の三資質(イメージ図)



注記：
 (1)本図表の左側は、マズローの欲求五段階説と自己実現欲求の位置づけである。右側は渋沢の業績を支える3つの資質と自己実現欲求の関係性である。
 (2)平行する2本の点線は自己実現欲求を有する自己実現者と渋沢の3つの資質の種集合部分の相似性を検証の対象としていることを示す。
 (3)点線で囲まれた四角形は渋沢を取り巻く環境条件を示している。

図表5 渋沢と自己実現論の関係性(1)



注記：
 図表5は渋沢の資質が自己実現者の特質として示されたものすべてあてはまる場合であり、図表6は渋沢の資質が、自己実現者の特質として示された範囲に収まらない場合を象徴的に表現したものである。

渋沢が自己実現者の資質を有することを検証するための4仮説

- 【仮説1】(銀行家、企業家としての自己実現者適性の検証)
 「渋沢は滞仏経験で得た至高体験を契機に、その後の経歴を通じて自己実現者適性を高めていった。」
- 【仮説2】(社会事業家としての自己実現者適性の検証)
 「渋沢は社会福祉事業を本質的価値と位置づけ自己実現者として推進した。」
- 至高体験 : 自己実現的人間の特徴の一つ。恍惚や歓喜という人間にとって最高の喜び。
 本質的価値: マズローのB価値と同義。人間がその探索に人生を捧げることができると感じると感じる究極の内的価値。

【仮説3】(義利合一説が確立された時期)についての検証)

「渋沢の倫理思想の中核をなす義利合一説は滞仏経験を契機に、その後の経歴を通して確立された。」

【仮説4】(自己実現論に新たな知見を付加する可能性の検証)

『思想と事績の累積的因果関係』は渋沢の内面で継続的に機能し、渋沢に本質的価値を追い求めさせた。」

【図表6】における「思想と事績の累積的因果関係」の位置づけ)

- (1) 渋沢の三資質が自己実現者を示す二等辺三角形を上回る3つの三日月部分の内容を明らかにできれば、自己実現論に新たな知見を加えられる可能性がある。
- (2) この三日月部分に渋沢に固有の「思想と事績の累積的因果関係」の存在が実証できれば、「一部の自己実現者の心理的動因には『思想と事績の累積的因果関係』の存在が認められ、それが自己実現者の目的を達成するための重要な要素となっている」という新たな知見を析出することが可能となる。
- (3) マズローが発見し得なかった自己実現者の特質を渋沢の内面を研究することによって見いだし得るのではないかと考えられている。つまり、自己実現論に新たな知見を加えることが可能となるのではないかと期待が生じる。

IV 渋沢研究の現状

『渋沢栄一 の精神構造』では、上述の4仮説を渋沢の生涯を時系列的にたどって選択した10件の事績に基づいて検証した。

1. 一橋家仕官
2. 滞仏経歴
3. 静岡商法会所の設立
4. 富岡製糸場の設立
- 5 『立会略則』の刊行
- 6 『国立銀行条例』の作成
7. 第一国立銀行の設立運営(みずほ銀行)
8. 抄紙会社の設立運営(王子製紙)
9. 共同運輸の設立運営(日本郵船)
10. 東京市養育院の運営(東京都健康長寿医療センター)

【検証結果】

- (1) 利他心を超越して一つの目的に向かって倦まず邁進する性質は自己実現者の特質の一つである。
- (2) さらに渋沢財閥を形成することがなかったという事実と、社会事業への貢献は少なくとも利己心を全面に出した実践活動として理解することは不可能である。
- (3) 仮説4については、渋沢の事績に「思想と事績の累積的因果関係」の存在は確認できたものの、それを自己実現者が共通に有する特質であることを実証して、自己実現論に新たな知見を付加することはできなかった。
- (4) マズローが多くの臨床事例を分析して確立した自己実現論に對して、渋沢の事例だけをもって新たな知見を付加しようと考えること自体が無理筋であった。

(5)したがって、仮説4に関する分析結果は、渋沢研究者やマズロー研究者にとつて参考程度にとどまるものとなった。つまり、仮説1から仮説3は本研究をもって実証できたが、仮説4に対する十分な実証は不可能であった。

(6)この検証結果から、「渋沢は自己表現者適性を備えた人物であり、三養賢(思想的資質、精神的資質、実務的資質)に支えられた渋沢の自己表現者の特質は、浩瀚な思想と膨大な事績を後世に遺すうえで不可欠な役割を果たした」と結論づけられる。

【渋沢の思想的資質】

渋沢がその思想的資質によって確立した倫理思想と、その他の思想についての考え方は以下の通りである。

渋沢栄一の倫理思想

(1)渋沢思想についての小職の見解は、渋沢の論語解釈から推察できる範囲に限定される。その内容は渋沢の倫理思想を検討対象とした研究である『義利合一説の思想的基盤』の記述が中心となる。

(2)渋沢の倫理思想は論語に多く基盤を置いており、渋沢は論語500章全てに注釈を加えている。注釈の特徴は以下の通り。

- 1)従来の諸学統とは一線を画する独自性が際立っていること。
- 2)渋沢の人間観、国家観、歴史観、宗教観などに実務経験を加えた幅広い思想が盛り込まれていること。

(3)これは、聴衆を前にその場の雰囲気も踏まえて興に乗って講述したことを書籍にしたという事情も関係している。渋沢の講述書である『論語講義』には、論語解釈を通じた思想全般に関する情報が多く含まれている。本書からは倫理思想を含む渋沢思想全体の片鱗が伺われる。

(4)しかし、人間観、国家観、歴史観、宗教観などに基づく政治思想など、倫理思想以外の思想内容についてはその淵源のすべてを『論語講義』のみから把握することは困難である。

(5)したがって、渋沢思想全体を理解するためには以下を検討することが不可欠となる。

- 1)渋沢が青年期までに多くの影響を受けた水戸学派の諸著作。
- 2)『日本外史』、『日本政記』、『十八史略』、『国史略』などの愛読書から受けた影響。
- 3)徳川慶喜をはじめ渋沢が直接に接した人々からの影響。

【『義利合一説の思想的基盤』で析出した渋沢思想の特質】

(1)同書は以下の各編から構成されている。

- 第I編 渋沢栄一と仁の思想
 - 第II編 渋沢栄一の国臣意識
 - 第III編 義利合一説の基本理念
 - 第IV編 渋沢思想の諸側面
- 終章 まとめと展望

(2) 同書当初の目的は、企業者としての渋沢の中核的な理念である「義利合一説」(『道徳経済合一説』)の倫理的基盤を、渋沢の論語解釈の特質から探ることであった。

(3) 換言すると、商業活動の目的である「利」を得ることと、道徳倫理の徳目である「義」という相反する概念が渋沢の内面でのように「合一」されたのかを探ることが目的であった。

(4) しかし、上述のように渋沢の論語解釈には渋沢の考え方が多く盛り込まれていることから、義利合一説の解明から以下の項目へと論考が広がることとなった。

1) 論語で語られている徳目

2) 渋沢の国臣意識

3) 渋沢思想の諸側面

(5) 同書の内容を渋沢の「人間観」と「国家観」に絞って要約する。

【人間観】(渋沢の人間観に義利合一説の根拠を探る)

(1) 渋沢の人間観を一言で表現すると、それは「性善説」である。渋沢が性善説に基づいた人間観を有していることはその書説から伺われる。

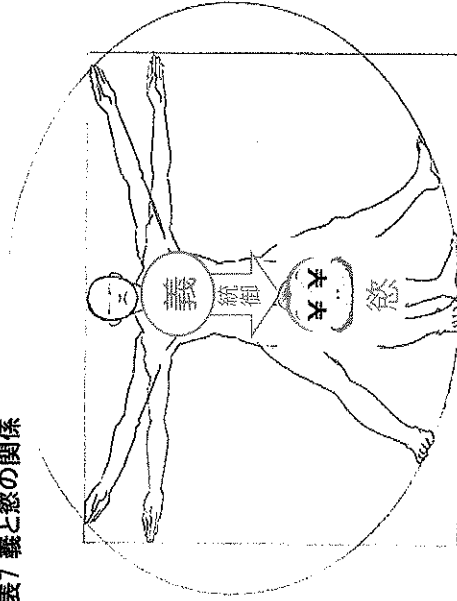
(2) 義しきは善なるものであるとすれば、善と同義性を有する「義」も同じく人の内面に存すると考えられる。

(3) 利を求めめる心が人の内にある七情(喜、怒、哀、懼、愛、惡、慾)の一角である「慾」に発するとすれば、「義」、「慾」ともに人の内にあることになる。

(4) したがって、義利合一説は、ともに人の内にある義と慾の関係性において論じることが可能となる。

(5) 義を「規矩準繩」、慾を「七情の一角」とすれば、両者の関係は人体内部で格闘する悪玉菌と善玉菌の関係に例えることができる。

図表7 義と慾の関係



(6) ちなみに「慾」と「欲」を漢字の語源に溯って解釈すると以下の通りとなる。「白川新訂字統」(平凡社、2007年)。」

慾: 孔子は論語の公冶長第五で勇は無慾で、計算をしないことから生まれるとす。慾とは人間の慾望をいう。

欲: もとは坤靈に接したいという宗教的願望を意味した。

(7) 利を求めめる「慾」に相当する悪玉菌が暴走すると人体を生活習慣病へと陥れる。しかし、「義」に相当する善玉菌は規矩準繩に照らして、悪玉菌を正常値に落ち着かせる働きをする。

(8) 渋沢の人間観の中核にある「性善説」は、義と利が居所を異にして互いに背馳するものと捉えるのではなく、ともに人の内面にあってその役目柄、両者はそれぞれ「統御するもの」と「統御されるもの」の関係にあるという理論的根拠を提供する。

(9) 義利合一説は、性善説を基盤とすることによって単に現実性をもつだけでなく、人間の内面構造に根拠を置き経験を超越して成立する普遍妥当性を有するものとして認識することが可能となる。

【考察】

- (1) マズローは人間の内面に存在する七情の一角である「慾」を五段階に分けて分析した。
- (2) 義利合一説を主唱する洪沢の慾が自己実現欲求のレベルに達していたとすれば、我慾を超越した洪沢の慾が向かうのは自分以外のなものか、つまり「利己」ではなく「利他」である。
- (3) これを人体における悪玉菌(慾)と善玉菌(義)に置き換えると、義利合一説を唱える洪沢の体内にある悪玉菌は本当に悪だったのかという疑問が生じる。

(4) 悪玉菌とみなした慾のレベルが、洪沢の内面でマズローの唱える成長欲求である自己実現欲求のレベルに達していたとすれば、「義」である善玉菌がDNAの命ずるところにいたがって「慾」である悪玉菌を壊滅させようとするのと同じく、そこには何らの躊躇もないはずである。

(5) むしろ、「慾」(悪玉菌)と「義」(善玉菌)が互いに背馳しているという状況すらも存在しないかもしれない。つまり、「背馳」するのではなく「合一」するという関係である。

(6) しかし、内面の「慾」が自己実現欲求のレベルに達していない多くの人は、善玉菌たる「義」が悪玉菌たる「慾」を壊滅させようとする行動に躊躇が存在する。

(7) 表現をかえると、洪沢にとっての義利合一説はいわば「Sein:ザイン」(「存在」)。当然にして存在する状態であるのに対して、一般の多くの人にとってそれは「Sollen:ゾレン」(「当為」)。なすべきこと)である。

(8) 義利合一説を完成させた晩年の洪沢が自己実現者適性を備えていたとすれば、その心境はまさに孔子の言葉である「七十にして心の敬するところに従えども矩を踰えず」であったと考えられる。

(9) つまり、自己実現者の欲求が我慾以外の慾であったとすれば、利他を求めるその慾にしがたがって心の欲するままに行動しても矩を踰えることはあり得ないということになる。

(10) では、「洪沢を理想化された偉人として祭り上げるのではなく、現代人がアリティをもつて真似ることのできる一規範生としての地位に引き下ろすことこそが、洪沢の本意」であると考えた筆者にとって、このギャップをどのようにして埋めれば良いのかという厄介な問題とが生じる。

(11) そこで凡人代表としての小職と洪沢の仮想対談を試みる。この対談でのやり取りが現時点の段階で洪沢から引き出させた義利合一説の現実への適用可能性に関する内容である。

【谷中にある洪沢の墓所での仮想対談】

大江: 洪沢先生、義利合一説は「言はば易く行はば難し」です。小学生をはじめ70歳に達した多くの者は先生のような心境に達していませんので、義利合一説を実践するには多くの困難をともないます。

洪沢: フムム。それは困ったね。ところで君はなぜそのような事態に陥ったかわかるかね。

大江: わかりません。

洪沢: 私は孔子が70歳で得た心境に自分も達したいと考え日々努力を重ねて来たんだ。それは至極単純なことだけど重要な日課なんだ。それはね、一日の終わりに日記をつけて自分を客観的に振り返り、倫理道徳に反することをしなかつたかどうかを反省することだよ。もし思いあたることがあれば、その行いを改めて次の日以降に反省を生かして生活するんだ。

【義利合一説の経営学的考察】

- (1)「義」と「利」を合一させる企業家としての渋沢の行動は、経営学的にどのような理解すれば良いのかを考察する。
- (2)社会的責任を負う企業が担う企業倫理には大きく以下の2つの定義がある。
 - 「倫理的責任」：自己の信じる「倫理」にしたがって行い、その限りで「責任」を負うこと。
 - 「責任倫理」：社会的に正当な「目的」を立てて行い、行為の初めから結果に至るまで責任を負うこと。
- (3)倫理的責任を「狭義の定義」、責任倫理を「広義の定義」とすると、前者は「企業の『営利原則』や『市場倫理(競争倫理)』を遵守すること」である。
- (4)一方、後者は「倫理基準を社会の常識に置き、社会にとって正当な目的を遂行すべく行為し、責任をとる」ことを意味する。広くステークホルダーの利害を勘案して行動することである。

大江：それで先生は「七十にして心の欲するところに従えども矩を踰えず」の心境に達せられたんですね。

渋沢：そうだ。君はそのような努力をしているかね。

大江：していません。でも、私も先生にならってこれから実践したいと思いますが、今からでも間に合うでしょうか。

渋沢：フムム。まあ無理だろうな。だって君はすでに70歳だろう。

大江：はい。では私はどうすれば良いのですか。

渋沢：私の生き方が参考になると思うのなら、若い人にそれを勧めることが良いと思うよ。そう教育だね。

大江：では小生自身はどうすれば良いのですか。

渋沢：仕方がないので、私に関する研究成果を論文にまとめて発表することだね。大学のFD活動でも発表しなさい。

大江：よくわかりました。お教えいただいたことをこれからも実践いたします。お休みのところお邪魔しました。

【王子製紙の前身である抄紙会社設立時の事例】

- (1)渋沢が抄紙会社の設立を計画したのは1872(明治5)年6月(渋沢33歳)。大蔵省を辞する1年前であった。
- (2)渋沢は抄紙会社の設立候補地として水利に恵まれた王子村を選択した後、開業するまでのプロセスにおいて原材料の仕入れ先、洋紙の販売先などに加えて、近隣の他企業、下流住民というステークホルダーに対して細かく配慮した。
- (3)製紙業を営む会社の起業が日本にとって初めての国家的事業であり、紙幣のための洋紙製造という錦の御旗を掲げれば、多少無理筋な動きが許されてしかるべきと考えがちである。しかし、渋沢は全ての利害関係者に配慮した行動をとった。

- (5)狭義の「倫理的責任」のみを果たしている企業は、倫理基準が自己に存在するので、往々にして社会の「常識」との乖離に起因して問題が発生する。
- (6)「義利合一説」の一般的な理解は、「利を得るに於たつて貪ることなく、義という道徳倫理の縛りをもつてなすべし」というものであり、これは狭義の企業倫理の定義に相当する。渋沢はまず「はじめの一歩」として当時の商人にこの倫理基準を遵守するよう指導した。
- (7)一方、渋沢自身はごく自然に広義の企業倫理を実践していた。

- (4) 渋沢が目指す本質的価値は紙幣製造ではなく洋紙製造による文運隆盛、知識と情報の入手を容易にすることであった。
- (5) 国民に知識や情報を正確かつ迅速に伝えるためのインフラ構築という国家的使命を帯びた企業を設立するにあたり、渋沢は抄紙会社を社会における一企業市民と位置づけ、「責任倫理」を全うすべくすべてのステークホルダーに配慮した。
- (6) 渋沢は文運隆盛という国家の優先課題を推進するとともに、責任倫理を確実に全うして抄紙会社を設立した。
- (7) この点を動案すると、渋沢は抄紙会社を取り巻くステークホルダーである「国家」、「原材料提供者」、「販売先」、「周辺住民」、「近隣他企業」などすべての利害関係者の利益を考慮して起業したということになる。
- (8) このように、利己ではなく利他を優先して行動する渋沢の自己実現者適性が、抄紙会社の設立経緯から看取される。

【社会事業家としての渋沢の行動】

- (1) 渋沢は1874(明治7)年から、逝去する1931(昭和6)年まで、半世紀以上にわたって東京市養育院に関わり続けたことから、渋沢が携わった600件余りの社会事業の中でも東京市養育院は中核的な事例と位置づけられる。
- (2) 東京市養育院によって保護された人々は様々な困難を抱えており、渋沢はこれらの人々の救済において、教育、更生、医療、職業訓練、保護などほほ考えられる手段をすべて講じており、渋沢の社会事業に対する考え方と行動内容を分析するうえで同養育院は最善の事例と考えられる。
- (3) 渋沢が社会福祉事業を実践するにあたって、渋沢思想の基盤に存在するのは西欧流のnoblesse oblige(ノブレス・オブリージュ)に近似する考え方である。

- (4) 社会的地位と富に恵まれた者には社会貢献の義務と責任がある。明治期においてそれに相当するのは、公にあっては政治家や官吏、野にあっては企業者である。
- (5) 渋沢の考え方は、当然の義務として果たすべき社会貢献は武士道に淵源を有する「陰徳」によってなされるべきというものである。つまり、自らを誇ることや社会的名声などの反刃給付を求めてはならないという考え方である。
- (6) 地位や富に恵まれた社会的強者が当然の義務を果たすがごとく、社会に貢献しなければならぬと考える基盤には、「社会」があってこそ個人や企業で構成される「個」が存在基盤を与えられ、「個」があってこそ「社会」が成立するという「社会と個の相互依存関係」の存在を前提にする考え方がある。

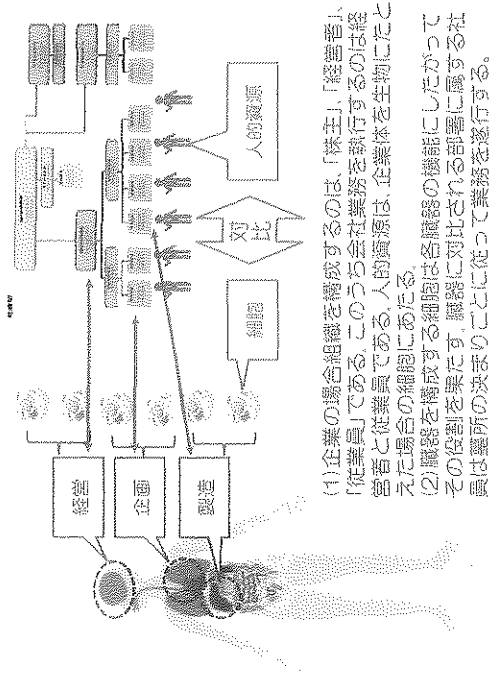
- (7) この考え方は、企業が「倫理的責任」を果たすことを求める「義利合一説」や、社会的に正当な目的を立てて行爲し、行爲の初めから結果に至るまで責任を負うことを企業に求める「責任倫理」の考え方のさらに上位にある思想である。
- (8) なぜなら、倫理的責任は營利原則とマナー・ルールの遵守を求めたものであり、責任倫理は利害関係者を広くとらえて社会との関係性を広範に解釈するのに対して、渋沢の社会福祉事業の基盤を形成するのは、「個」に対して「社会全体」を対峙させる考え方だからである。

【国家観】(渋沢が目指す国家の利益)

人体に例えた国家

- (1) 渋沢の国家観は「尊皇思想」に基づくものである。渋沢は天皇を頂点において国家を論じる一方、国家を構成する諸単位に眼を向ける。
- (2) 渋沢の国家観は国家から一家まで、いずれも人の集まりであるということについては同質性を認めながら、人と人との関係性を規定する徳目については、集まりごとに重視すべき徳目に傾斜をかけて認識する。
- (3) 渋沢の国家観に基づく国家を人体になぞらえてイメージ化すると、人体を形作る臓器や部位が国内に存在する各種組織体に相当する。
- (4) 人体を形成する細胞を国民とすれば、各細胞が機能するに当たって従うべき準則は臓器ごとや部位ごとに異なる。

図表8 人体の臓器と組織の部署



- (5) 細胞たる国民は自らが所屬する臓器や部位の機能を覚知し、各々の分に応じて使命を果たすことが求められる。
- (6) 心臓にあって心筋を動かす使命を帯びた細胞が従うべきルールは、腎臓にあって老廃物を濾過する役割を担う細胞が従うべきルールとは異なる。
- (7) 「一家」を心臓に対比させると、一家にあって孝に基づくことが、心臓において心筋を正常に動かすためのルールに従うことに相当する。
- (8) 一国を構成する「組織」の一つを腎臓に対比させると、組織にあって忠に基づくことが、腎臓の濾過機能を果たすためのルールに従うことに相当することになる。
- (9) 国家、人体ともに、それぞれを構成する最小単位である国民や細胞が、自身の所屬する組織や臓器の目的を覚知し、各自が分に応じて使命を果たすことが、国家や人体を全体最適に導くことになるというのが、渋沢の国家観に基づく、「国家」、「組織」、「国民」の役割についての考え方である。

国家における富の均霑

- (1) 社会インフラが整備され経済が活性化された国家を、栄養が行き届いて体躯が大きくなった人体に例えると、栄養が人体の一部の臓器に偏在することなく健全で均整のとれた体躯が成長するのと同じく、富の蓄積が国内で適切に平準化され、均整のとれた近代国家として国力が増大することが渋沢の理想である。
- (2) 日本が立憲君主制を基盤とする近代国家として生まれ変わった時点で、静態的な環境下で教条主義的な国家観を論じるのではなく、動態的な時代変化を背景として、渋沢が自身の国家観をめぐって重視した価値は何かを探ることが、渋沢の国家観の本質を探る上で重要となる。

(3) 維新後、明治天皇は「万機公論に決すべし」として、政に関する「君」の権限の一部を正式に「民」に委譲した。前近代においては君たる徳川幕府に属していた政に関わる権限が、立憲君主制下においては、万機にわたり「民の公論の結果」に付託された。

(4) また、経済面においては欧米先進国からの先進技術や知識の流入により、工業化の兆しが顕著となるとともに、企業が独立し資本主義経済下における経済活動の重要性が高まりつつあった。

(5) 政治、経済の両面において国家をめぐる内的および外的環境が著しく変化しつつあったのが、維新後の日本の状況であった。

渋沢の国臣意識

(1) 尊皇思想に基づき政を主催する天皇を君とし、自身を臣と自認していた渋沢にとって国の形が変容を遂げた時点で君と仰ぐべきものが、「天皇」から「天皇を頂点とする政を委譲された国家」というように変化せざるを得なくなった。

(2) つまり、国を「君」、自らを「臣」とすれば、国の臣である渋沢は自身を「国臣」と位置づけること、つまり「国臣意識」を有することが必然的な流れとなった。

(3) 君としての国には多くの機能が存在する。立法、司法、行政だけでなく国にはその財政基盤を支える経済活動を担う企業が存在する。

(4) 国の多くの機能のうち、維新後その重要性を著しく増してきたのが経済を支える企業活動であり、その中核を担うのが企業者である。

(5) 国益を視野におき、国臣としての企業者を自認する渋沢にとって重視すべき行動規範は何であろうかと考えると、それは義に基づいて利を得て、義によって利を用いる「義利合一説」ということになる。

(6) これにより、渋沢の人間観と国家観が整合的に説明される。

V 渋沢研究の方向性

(1) これまでの説明は自己完結的であるように思えるが、まだ検討すべき点が多く残っている。

(2) なぜなら、論語解釈の内容に基づいた渋沢思想の一面は検討したものの、『論語講義』に含まれる思想は渋沢晩年のいわば完成形であり、思想形成の淵源である青年期における思想の形成過程や、壮年期における発展過程が十分に解明されていないからである。

(3) 今後は渋沢思想の淵源を探るべくその成立基盤を探る研究に注力する。

『渋沢栄一の精神構造』 ⇒ 精神構造の特質
『義利合一説の思想的基盤』 ⇒ 倫理思想の特質
『渋沢思想の成立基盤』(仮題) ⇒ 渋沢思想の淵源(今後の研究)

(4) 渋沢の内面にアプローチする研究が一段落すれば、「日本資本主義の精神」の中核を担ってきた渋沢思想が今後どのような発展を遂げるのかが研究課題となる。

(5) つまり、「義利合一説」の底流にある思想と現代の社会的組織論が近似性を有するという点を勘案すると、日本資本主義を取り巻く環境変化としての第四次産業革命(IT革命)下で、日本の企業家が渋沢思想をどのように発展進化させていくべきかを研究することが今後の課題となる。

VI FD活動の展開

以下はFD活動に対する地に足のついた現実的な提言ではなく、むしろ小職の希望に近いものであるが、今後の活動を考える上で何らかのきっかけになればと考える。

- (1) 大学教育において郷土色を打ち出すにあたっては、経済経営学部に限らず人間学部の学生でも履修可能な教養科目として、「渋沢の思想と事業」に特化した講座]があっても良いのではないか。
- (2) 第2、第3の渋沢を誕生させることは困難であるにしても、少なくとも他大学の学生よりは渋沢の思想と事業を深く理解し、それを一つの手本として社会で活躍できる学生を育成すること。
- (3) 渋沢研究を雛型として人間学部と経済経営学部の連携を強化すること。

令和4年6月28日

教員 各位

埼玉学園大学
FD委員長 西山 智則

令和4年度春期 学生による授業アンケートの実施について

令和4年度FD活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に春期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

1. 実施期間

令和4年7月4日（月）～7月15日（金）

2. 実施・回収

- (1) 「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはQRコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。
※メール等で事前に教務課より周知致します。
※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）
- (2) アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

3. 注意点

- (1) 原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が10名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。
- (2) 実際の出席者が1名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

4. 授業改善書の執筆

授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：7月4日（月）～7月15日（金）

利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ホームページを検索する方法

- ① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。



- ② 「ニュース&トピックス」内にある『令和4年度春期授業アンケートの実施について』にアクセスする。



- ③ 「アンケートはこちら」をクリック



・QRコードを用いた方法

- ① 以下のQRコードまたはURLからアクセスする。



<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHidbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NURjREWTdQVTM1NFBQN1hNTpVV0FPNVJUMC4u>



アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。

※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。

※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実施日	令和4年 月 日 (曜日 時限)
科目名	
授業担当者	
出席者数	
用紙で回答した人数	
備考	

以上

令和4年度春期 授業についてのアンケート

月 日(曜日) 時限実施

科目名 _____

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

	よく した	やや した	ど ち ら も 言 え な い	し あ ま り な か つ た	し ま つ な か つ た
☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の○を黒く塗りつぶして下さい。 例) ある項目内容について「ややした」と思う場合.....	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。

1. 出席や課題提出等はしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 質問や発言をしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. ノートやメモ等を取りましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇この授業について評価して下さい

	強 く そ う 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら も 言 え な い	そ う 思 わ な い	ま つ た く 思 わ な い
I に 授 業 内 容 に 関 する こ と を 選 び 取 り 出 し て お し や す く し て く だ さ い					
1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. シラバスに提示されていた内容、進捗と一致していましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. テキストなどの資料は適切でしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

II 授 業 方 法 に 関 する こ と を 選 び 取 り 出 し て お し や す く し て く だ さ い					
1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

III 授 業 満 意 度 に 関 する こ と を 選 び 取 り 出 し て お し や す く し て く だ さ い					
1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇上記の回答以外に、この授業について意見(よい点・改善すべき点・得たもの)があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

.....

.....

.....

.....

.....

令和4年12月2日

教員 各位

埼玉学園大学
FD委員長 西山 智則

令和4年度秋期 学生による授業アンケートの実施について

令和4年度FD活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に春期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

1. 実施期間

令和4年12月5日（月）～12月16日（金）

2. 実施・回収

(1) 「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはQRコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。

※メール等で事前に教務課より周知致します。

※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）

(2) アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

3. 注意点

(1) 原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。

ただし、演習科目及び実際の出席者が10名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。

(2) 実際の出席者が1名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

4. 授業改善書の執筆

授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

令和4年12月2日

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：12月5日（月）～12月16日（金）

利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ ホームページを検索する方法

- ① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。



- ② 「在学生専用ページ」内にある『令和4年度秋期授業アンケートの実施について』にアクセスする。



- ③ 「アンケートはこちら」をクリック



・ QRコードを用いた方法

- ① 以下のQRコードまたはURLからアクセスする。



<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHiDbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NUM0pLRkhVQkdHRFhVSVZJMjExNk5HVzhBmi4u>



アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。

※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。

※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長 富沢雄太

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実施日	令和4年 月 日 (曜日 時限)
科目名	
授業担当者	
出席者数	
用紙で回答した人数	
備考	

以上

令和4年度秋期 授業についてのアンケート

月 日(曜日) 時限実施

科目名 _____

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

	よく した	やや した	ど ち ら も 言 え な い	し あ ま り な か っ た	し ま つ な か っ た
☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の○を黒く塗りつぶして下さい。 例) ある項目内容について「ややした」と思う場合.....	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。

1. 出席や課題提出等はしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 質問や発言をしましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. ノートやメモ等を取りましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇この授業について評価して下さい

	強 く そ う 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら も 言 え な い	そ う 思 わ な い	ま つ た く 思 わ な い
I に 授 業 内 容 に 関 心 を 持 ち ま し た か	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. テキストなどの資料は適切でしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

II 授 業 方 法 に 関 し て	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

III 授 業 満 意 度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

◇上記の回答以外に、この授業について意見(よい点・改善すべき点・得たもの)があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

.....

.....

.....

.....

.....

令和5年度活動計画

(1) 教員の講習会・研修会及び研究発表会

① F Dに関する講習会

実施日	対 象	内 容
令和5年 4月19日(水)	専任教員	専任教員を対象に、本学F D活動の内容等を説明する。
令和5年 4月20日(木) ～ 4月26日(水)	非常勤講師	非常勤講師を対象に、今年度F D活動の方針等を説明する。

① 授業に関する研修会

実施日	対 象	内 容
10月及び2月の2回予定	専任教員	授業方法の改善について、教員同士の意見交換を行う。

② 研究発表会

実施日	対 象	内 容
令和5年10月11日(水)	教員・学生	学内の共同研究費を得た教員が、研究成果を発表する。

(2) ピアレビュー及び授業公開

実施期間	対 象	内 容
令和5年 6月26日(月) ～ 6月30日(金)	専任教員 非常勤講師	教員が相互に授業を参観し、授業の改善につなげるようにする。また、保証人に対して授業を公開し、本学の教育に対する関心と理解を深める。
令和5年11月27日(月) ～12月 1日(金)		

(3) 学生による授業アンケート

	実施期間
春期	令和5年 7月 3日(月)～ 7月14日(金)
秋期	令和5年12月 4日(月)～ 12月15日(金)